

人権問題に関する三重県民意識調査報告書

令和2年3月

三 重 県

目 次

第1部 基礎データ編

第1章 調査の概要

1	調査の概要	1
2	回収状況	2
3	回答者の属性	4

第2章 調査結果

1 人権意識全般について

問1	人権に関する知識	9
問2	三重県の人権	17
問3	人権や差別についての考え方	18
問4	差別や人権問題についての話し合い状況	22
問5	人権問題についての意見	23
問6	人権問題についての現状認識となくなる見通し	31

2 結婚・交際時に表れる人権問題

問7	結婚(縁談)相手の調査	39
問8	結婚に対する意識	43

3 不動産の建設や取引時に表れる人権問題

問9	施設建設についての意識	46
問10	入居拒否に対する意識	49
問11	住居購入に対する意向	52

4 個別の人権問題、今日的な人権問題

問12	同和地区出身者と判断する基準	55
問13	同和問題についての偏見の流布と受容	57
問14	インターネット上の人権侵害	64
問15	性的指向・性自認に関する人権問題	69
問16	ヘイトスピーチに対する意識	71

5 人権啓発、人権教育の状況

問17	人権問題の解決に熱心な人との出会い	72
問18	人権問題についての学習経験	74
問19	講演会や研修会への参加経験	78

6 人権侵害の経験と対応

問20	人権相談機関の認知	81
問21	人権の侵害を受けた経験と対応	83

7	問22 属性	87
---	--------	----

第2部 研究編

1. 新たな時代の人権行政・教育啓発活動の創造をめざして・・・・・・・・・・ 88
－2019年人権問題に関する三重県民意識調査分析－
近畿大学人権問題研究所特任教授 奥田 均
2. 同和地区・同和地区出身者に対する忌避的態度の分析・・・・・・・・・・ 115
関西大学社会学部教授 内田 龍史
3. 人権を尊重する態度や行動につなげる人権啓発・教育を求めて・・・・・・・・ 142
公益財団法人反差別・人権研究所みえ 調査・研究員 原田 朋記
4. 調査結果及び分析のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223

第3部 資料編

- 属性別集計・・ 224
- アンケート調査用紙(結果数値含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 330

第 1 部 基礎データ編

第 1 章

調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、同和問題をはじめとする人権問題に関する県民の意識を調査し、今後の人権行政を推進していくための基礎資料を得ることを目的として実施した。

また、過去に実施した県民意識調査結果との比較検討を実施し、意識の変化を把握した。

(2) 調査の内容

調査の目的に合わせて、三重県人権施策基本方針の各分野をはじめ、新しい人権の分野についても対応できるよう、県民の意識を確認するための質問項目を設定した。

また、県民意識の経年変化を把握するため、必要な調査項目については、できるかぎり、前回調査項目と同一項目で実施した。

(3) 調査の設計

①調査地域 : 三重県全体

②調査対象者 : 県内居住の20歳以上の男女(外国籍住民を含む)

③標本数 : 3,000人

④抽出方法 : 無作為抽出法

県内29市町の住民基本台帳から必要な標本数を無作為抽出した。

⑤調査期間 : 令和元年9月1日～令和元年9月15日

⑥調査方法 : 郵送による配布、回収(調査票による本人記入形式)

外国人対象者に対しては、5ヶ国語の翻訳調査票(ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、タガログ語)を送付

表1 市町別人口と調査票発送数

居住地域	市町	人口	発送数	居住地域	市町	人口	発送数
北勢地域	桑名市	139,587	227	伊勢志摩地域	伊勢市	123,783	201
	いなべ市	45,454	74		鳥羽市	17,907	29
	木曽岬町	6,127	10		志摩市	46,937	76
	東員町	25,533	41		玉城町	15,196	25
	四日市市	310,145	503		度会町	7,925	13
	菰野町	40,487	66		大紀町	8,016	13
	朝日町	10,941	18		南伊勢町	11,386	18
	川越町	14,999	24		伊賀地域	名張市	76,726
	鈴鹿市	195,762	318	伊賀市		87,364	142
	亀山市	50,029	81	東紀州地域	尾鷲市	16,526	54
中南勢地域	津市	275,371	447		紀北町	14,973	49
	松阪市	160,080	260		熊野市	16,140	52
	多気町	14,302	23		御浜町	8,173	27
	明和町	22,562	37		紀宝町	10,580	34
	大台町	8,937	14	合計	1,781,948	3,000	

※人口は令和元年6月1日現在

(4) 報告書の見方

- 比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答の設問における比率の合計は、通常100%を超える。
- 図表の見出しや回答の選択肢の表記は、スペース等の都合上、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合がある。
- 属性(問22)の無回答の方があったため、回答の総数と属性別の合計が一致しない場合がある。

2 回収状況

表2 回収状況

	サンプル数	比率
総数	3,000	-
返送票	1,150	40.0%
有効回答	1,146	38.2%
白票	4	0.1%

表3 調査地域区分と地域別標本数

居住地域	市町	標本数	有効回答数	有効回答率	構成比
北勢地域	桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町、四日市市、菰野町、朝日町、川越町、鈴鹿市、亀山市	1,362	510	37.4%	44.5%
中南勢地域	津市、松阪市、多気町、明和町、大台町	781	306	39.2%	26.7%
伊勢志摩地域	伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町	375	121	32.2%	12.4%
伊賀地域	名張市、伊賀市	266	95	35.7%	8.3%
東紀州地域	尾鷲市、紀北町、熊野市、御浜町、紀宝町	216	64	29.6%	5.6%
	無回答	-	50	-	4.4%
	合計	3,000	1,146	38.2%	100.0%

表4 市町別回収状況

居住市町	合計	居住市町	合計
津市	176	東員町	15
四日市市	186	菰野町	17
伊勢市	69	朝日町	7
松阪市	98	川越町	10
桑名市	93	多気町	9
鈴鹿市	109	明和町	16
名張市	41	大台町	7
尾鷲市	12	玉城町	6
亀山市	36	度会町	2
鳥羽市	7	大紀町	4
熊野市	16	南伊勢町	5
いなべ市	35	紀北町	18
志摩市	28	御浜町	8
伊賀市	54	紀宝町	10
木曾岬町	2	無回答	50
		合計	1,146

3 回答者の属性

表5 性別構成

		性別				合計
		男性	女性	その他	無回答	
総数		511	628	0	7	1146
(%)		44.6	54.8	0.0	0.6	100.0
年齢	20歳代	36	54	0	0	90
	(%)	40.0	60.0	0.0	0.0	100.0
	30歳代	54	75	0	0	129
	(%)	41.9	58.1	0.0	0.0	100.0
	40歳代	68	115	0	0	183
	(%)	37.2	62.8	0.0	0.0	100.0
	50歳代	76	96	0	0	172
	(%)	44.2	55.8	0.0	0.0	100.0
	60歳代	107	114	0	0	221
	(%)	48.4	51.6	0.0	0.0	100.0
70歳代	113	129	0	0	242	
(%)	46.7	53.3	0.0	0.0	100.0	
80歳代以上	56	45	0	0	101	
(%)	55.4	44.6	0.0	0.0	100.0	
無回答	1	0	0	7	8	
(%)	12.5	0.0	0.0	87.5	100.0	
国籍	日本	508	617	0	3	1128
	(%)	45.0	54.7	0.0	0.3	100.0
	その他	3	9	0	0	12
	(%)	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0
無回答	0	2	0	4	6	
(%)	0.0	33.3	0.0	66.7	100.0	
居住地域	北勢地域	231	279	0	0	510
	(%)	45.3	54.7	0.0	0.0	100.0
	中南勢地域	140	165	0	1	306
	(%)	45.8	53.9	0.0	0.3	100.0
	伊勢志摩地域	57	64	0	0	121
	(%)	47.1	52.9	0.0	0.0	100.0
	伊賀地域	33	62	0	0	95
(%)	34.7	65.3	0.0	0.0	100.0	
東紀州地域	27	37	0	0	64	
(%)	42.2	57.8	0.0	0.0	100.0	
無回答	23	21	0	6	50	
(%)	46.0	42.0	0.0	12.0	100.0	
生育歴	三重県内	406	502	0	2	910
	(%)	44.6	55.2	0.0	0.2	100.0
	三重県外	104	126	0	1	231
	(%)	45.0	54.5	0.0	0.4	100.0
無回答	1	0	0	4	5	
(%)	20.0	0.0	0.0	80.0	100.0	

表6 年齢構成

		年齢							無回答	合計
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上		
総数		90	129	183	172	221	242	101	8	1146
(%)		7.9	11.3	16.0	15.0	19.3	21.1	8.8	0.7	100.0
性別	男性	36	54	68	76	107	113	56	1	511
	(%)	7.0	10.6	13.3	14.9	20.9	22.1	11.0	0.2	100.0
	女性	54	75	115	96	114	129	45	0	628
	(%)	8.6	11.9	18.3	15.3	18.2	20.5	7.2	0.0	100.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	7	7
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
国籍	日本	90	124	181	168	220	241	100	4	1128
	(%)	8.0	11.0	16.0	14.9	19.5	21.4	8.9	0.4	100.0
	その他	0	5	2	4	1	0	0	0	12
(%)	0.0	41.7	16.7	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0	
	無回答	0	0	0	0	0	1	1	4	6
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	66.7	100.0	
居住地	北勢地域	49	73	102	75	87	92	31	1	510
	(%)	9.6	14.3	20.0	14.7	17.1	18.0	6.1	0.2	100.0
	中南勢地域	20	35	47	51	51	69	32	1	306
	(%)	6.5	11.4	15.4	16.7	16.7	22.5	10.5	0.3	100.0
	伊勢志摩地域	12	6	9	28	41	20	5	0	121
	(%)	9.9	5.0	7.4	23.1	33.9	16.5	4.1	0.0	100.0
	伊賀地域	4	7	13	11	16	33	11	0	95
(%)	4.2	7.4	13.7	11.6	16.8	34.7	11.6	0.0	100.0	
東紀州地域	1	5	10	6	17	18	7	0	64	
(%)	1.6	7.8	15.6	9.4	26.6	28.1	10.9	0.0	100.0	
	無回答	4	3	2	1	9	10	15	6	50
(%)	8.0	6.0	4.0	2.0	18.0	20.0	30.0	12.0	100.0	
生育歴	三重県内	84	95	141	140	169	198	80	3	910
	(%)	9.2	10.4	15.5	15.4	18.6	21.8	8.8	0.3	100.0
	三重県外	6	34	42	32	51	44	21	1	231
(%)	2.6	14.7	18.2	13.9	22.1	19.0	9.1	0.4	100.0	
	無回答	0	0	0	0	1	0	0	4	5
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	100.0	

表7 国籍構成

		国籍			合計
		日本	その他	無回答	
総数		1128	12	6	1146
(%)		98.4	1.0	0.5	100.0
性別	男性	508	3	0	511
	(%)	99.4	0.6	0.0	100.0
	女性	617	9	2	628
	(%)	98.2	1.4	0.3	100.0
	その他	0	0	0	0
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無回答	3	0	4	7
(%)	42.9	0.0	57.1	100.0	
年齢	20歳代	90	0	0	90
	(%)	100.0	0.0	0.0	100.0
	30歳代	124	5	0	129
	(%)	96.1	3.9	0.0	100.0
	40歳代	181	2	0	183
	(%)	98.9	1.1	0.0	100.0
	50歳代	168	4	0	172
	(%)	97.7	2.3	0.0	100.0
	60歳代	220	1	0	221
(%)	99.5	0.5	0.0	100.0	
	70歳代	241	0	1	242
(%)	99.6	0.0	0.4	100.0	
	80歳代以上	100	0	1	101
(%)	99.0	0.0	1.0	100.0	
	無回答	4	0	4	8
(%)	50.0	0.0	50.0	100.0	
居住地	北勢地域	506	4	0	510
	(%)	99.2	0.8	0.0	100.0
	中南勢地域	303	2	1	306
	(%)	99.0	0.7	0.3	100.0
	伊勢志摩地域	121	0	0	121
	(%)	100.0	0.0	0.0	100.0
	伊賀地域	94	1	0	95
(%)	98.9	1.1	0.0	100.0	
	東紀州地域	60	4	0	64
(%)	93.8	6.3	0.0	100.0	
	無回答	44	1	5	50
(%)	88.0	2.0	10.0	100.0	
生育歴	三重県内	903	5	2	910
	(%)	99.2	0.5	0.2	100.0
	三重県外	225	6	0	231
	(%)	97.4	2.6	0.0	100.0
	無回答	0	1	4	5
(%)	0.0	20.0	80.0	100.0	

表8 居住地域構成

		居住地域						合計
		北勢地域	中南勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域	無回答	
総数		510	306	121	95	64	50	1146
(%)		44.5	26.7	10.6	8.3	5.6	4.4	100.0
性別	男性	231	140	57	33	27	23	511
	(%)	45.2	27.4	11.2	6.5	5.3	4.5	100.0
	女性	279	165	64	62	37	21	628
	(%)	44.4	26.3	10.2	9.9	5.9	3.3	100.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無回答	0	1	0	0	0	6	7
(%)	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	100.0
年齢別	20歳代	49	20	12	4	1	4	90
	(%)	54.4	22.2	13.3	4.4	1.1	4.4	100.0
	30歳代	73	35	6	7	5	3	129
	(%)	56.6	27.1	4.7	5.4	3.9	2.3	100.0
	40歳代	102	47	9	13	10	2	183
	(%)	55.7	25.7	4.9	7.1	5.5	1.1	100.0
	50歳代	75	51	28	11	6	1	172
	(%)	43.6	29.7	16.3	6.4	3.5	0.6	100.0
	60歳代	87	51	41	16	17	9	221
(%)	39.4	23.1	18.6	7.2	7.7	4.1	100.0	
	70歳代	92	69	20	33	18	10	242
(%)	38.0	28.5	8.3	13.6	7.4	4.1	100.0	
	80歳代以上	31	32	5	11	7	15	101
(%)	30.7	31.7	5.0	10.9	6.9	14.9	100.0	
	無回答	1	1	0	0	0	6	8
(%)	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	75.0	100.0	
国籍	日本	506	303	121	94	60	44	1128
	(%)	44.9	26.9	10.7	8.3	5.3	3.9	100.0
	その他	4	2	0	1	4	1	12
(%)	33.3	16.7	0.0	8.3	33.3	8.3	100.0	
	無回答	0	1	0	0	0	5	6
(%)	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	83.3	100.0	
生育歴	三重県内	387	256	112	65	54	36	910
	(%)	42.5	28.1	12.3	7.1	5.9	4.0	100.0
	三重県外	123	49	9	30	10	10	231
(%)	53.2	21.2	3.9	13.0	4.3	4.3	100.0	
	無回答	0	1	0	0	0	4	5
(%)	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	100.0	

表9 生育歴構成

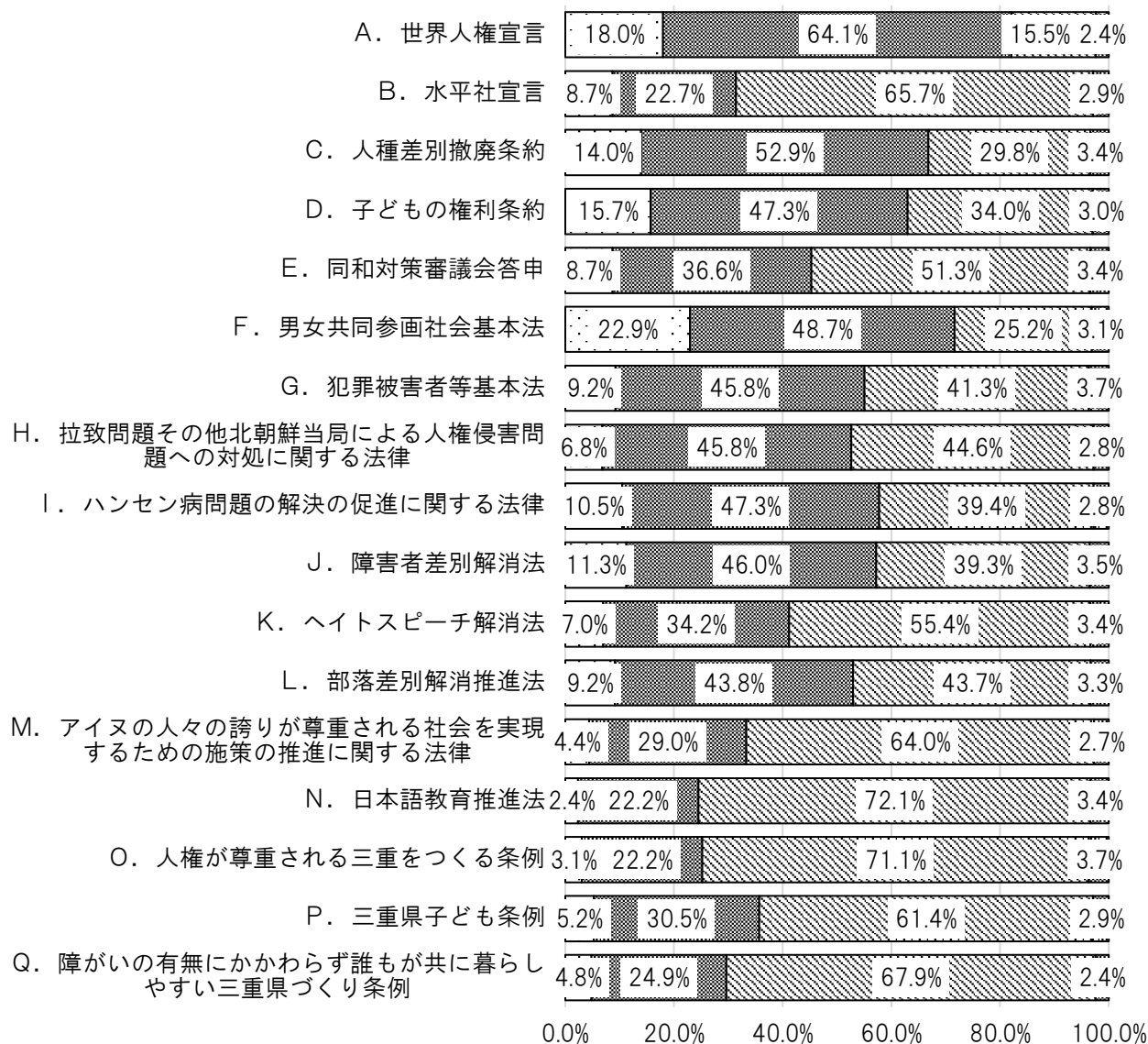
		生育歴			合計
		三重県内	三重県外	無回答	
総数		910	231	5	1146
(%)		79.4	20.2	0.4	100.0
性別	男性	406	104	1	511
	(%)	79.5	20.4	0.2	100.0
	女性	502	126	0	628
	(%)	79.9	20.1	0.0	100.0
	その他	0	0	0	0
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無回答	2	1	4	7
(%)	28.6	14.3	57.1	100.0	
年齢	20歳代	84	6	0	90
	(%)	93.3	6.7	0.0	100.0
	30歳代	95	34	0	129
	(%)	73.6	26.4	0.0	100.0
	40歳代	141	42	0	183
	(%)	77.0	23.0	0.0	100.0
	50歳代	140	32	0	172
	(%)	81.4	18.6	0.0	100.0
	60歳代	169	51	1	221
(%)	76.5	23.1	0.5	100.0	
	70歳代	198	44	0	242
(%)	81.8	18.2	0.0	100.0	
	80歳代以上	80	21	0	101
(%)	79.2	20.8	0.0	100.0	
	無回答	3	1	4	8
(%)	37.5	12.5	50.0	100.0	
国籍	日本	903	225	0	1128
	(%)	80.1	19.9	0.0	100.0
	その他	5	6	1	12
	(%)	41.7	50.0	8.3	100.0
	無回答	2	0	4	6
(%)	33.3	0.0	66.7	100.0	
居住地	北勢地域	387	123	0	510
	(%)	75.9	24.1	0.0	100.0
	中南勢地域	256	49	1	306
	(%)	83.7	16.0	0.3	100.0
	伊勢志摩地域	112	9	0	121
	(%)	92.6	7.4	0.0	100.0
	伊賀地域	65	30	0	95
(%)	68.4	31.6	0.0	100.0	
	東紀州地域	54	10	0	64
(%)	84.4	15.6	0.0	100.0	
	無回答	36	10	4	50
(%)	72.0	20.0	8.0	100.0	

第2章

調査結果

1 人権に関する知識

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。



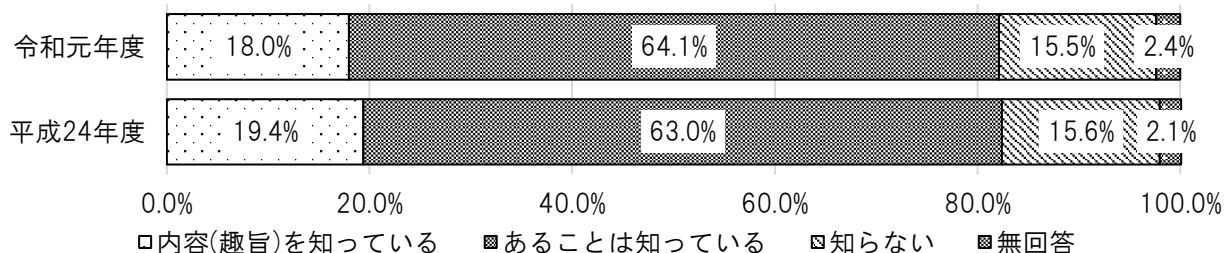
□内容(趣旨)を知っている ■あることは知っている ▨知らない ■無回答

人権宣言や条約・法律・条例の認知度について、「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合で、最も高かったのは「A. 世界人権宣言」82.1%、二番目に高かったのは「F. 男女共同参画社会基本法」71.6%、次いで「C. 人種差別撤廃条約」66.9%となっている。

また、2016(平成28)年に施行された差別解消三法で、最も高かったのは「J. 障害者差別解消法」57.3%、二番目に高かったのは「L. 部落差別解消推進法」53.0%、次いで「K. ヘイトスピーチ解消法」41.2%となっている。

三重県の条例については、「O. 人権が尊重される三重をつくる条例」25.3%、「P. 三重県子ども条例」35.7%、「Q. 障がいの有無にかかわらず誰もが暮らしやすい三重県づくり条例」29.7%となっている。

A. 世界人権宣言

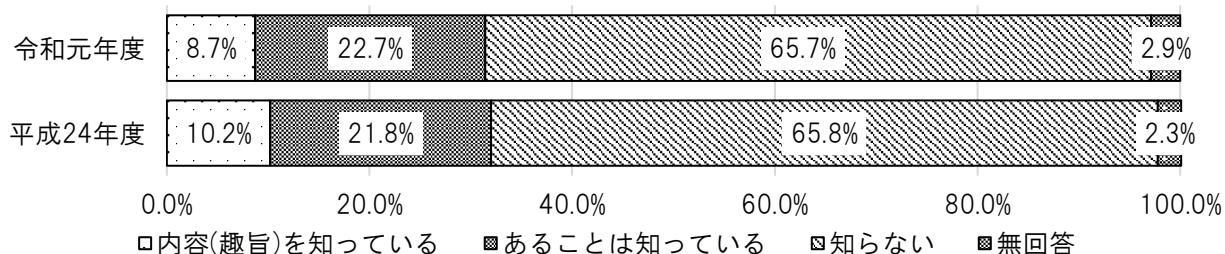


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 82.1%で、前回調査の 82.4%に対して 0.3 ポイント低くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 69.3%と 7 割を切っており、総数よりも 12.8 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 76.6%と総数よりも 5.5 ポイント低くなっている。

B. 水平社宣言

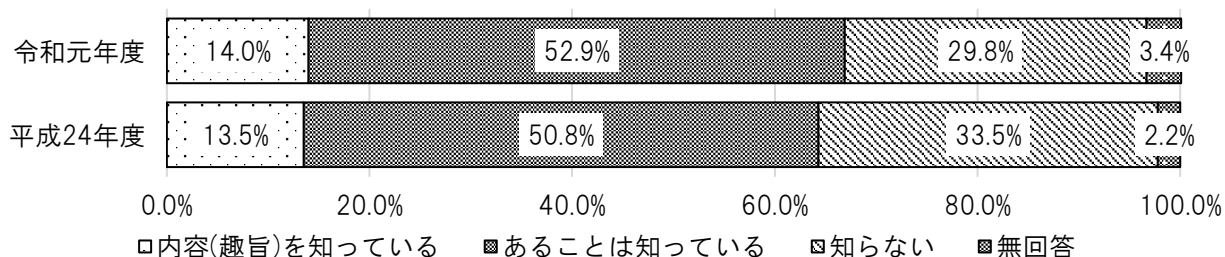


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 31.4%で、前回調査の 32.0%に対して 0.6 ポイント低くなっている。

年齢では、20 歳代は 54.4%と半数を超えており、総数よりも 23.0 ポイント高くなっている。70 歳代は 26.4%と総数よりも 5.0 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は 41.1%と総数よりも 9.7 ポイント高くなっている。

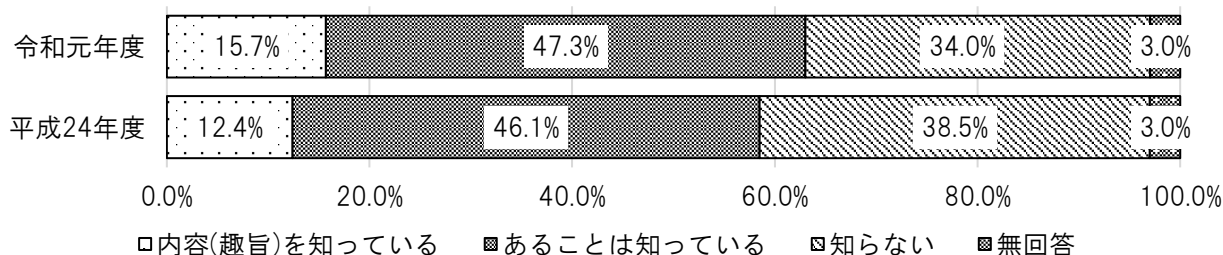
C. 人種差別撤廃条約



「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 66.9%で、前回調査の 64.3%に対して 2.6 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 73.3%と総数よりも 6.4 ポイント高く、30 歳代は 72.1%と 5.2 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 57.4%と総数よりも 9.5 ポイント低くなっている。

D. 子どもの権利条約



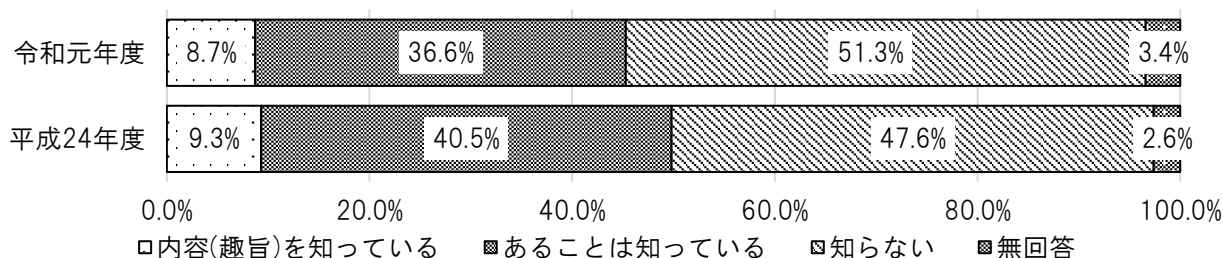
「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 63.0%で、前回調査の 58.5%に対して 4.5 ポイント高くなっている。

性別では、男性は 57.3%と女性の 67.8%よりも 10.5 ポイント低くなっている。

年齢では、20 歳代は 73.3%と総数よりも 10.3 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 50.5%と総数よりも 12.5 ポイント低くなっている。

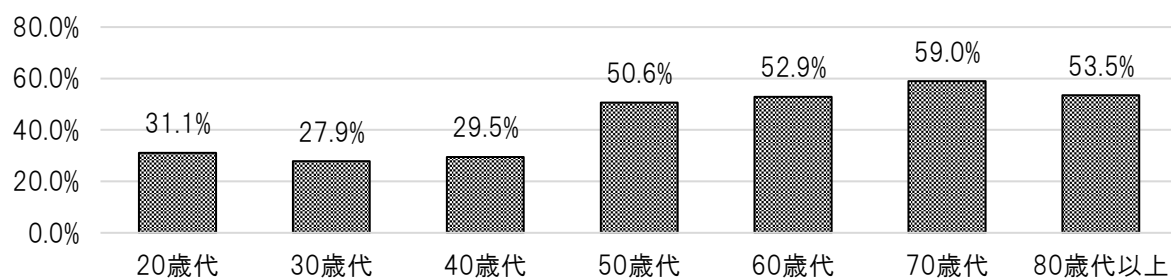
居住地域では、東紀州地域は 54.7%と総数よりも 8.3 ポイント低くなっている。

E. 同和対策審議会答申



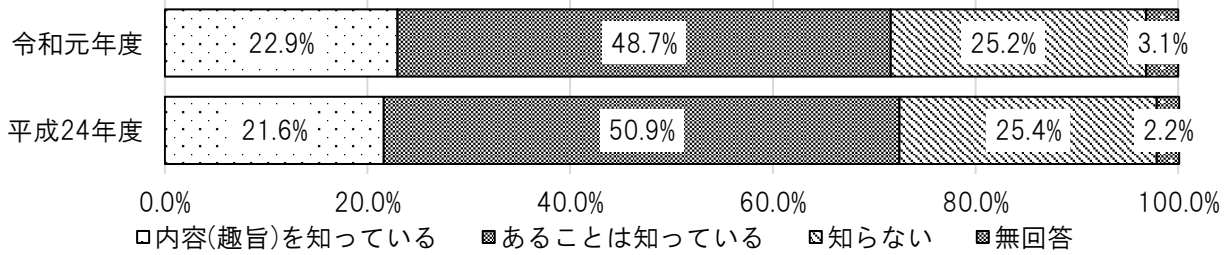
「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 45.3%で、前回調査の 49.8%に対して 4.5 ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、50 歳代～80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっており、70 歳代は 59.0%と 13.7 ポイント高くなっている。20 歳代～40 歳代は総数よりも 10.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は 55.8%と総数よりも 10.5 ポイント高くなっている。

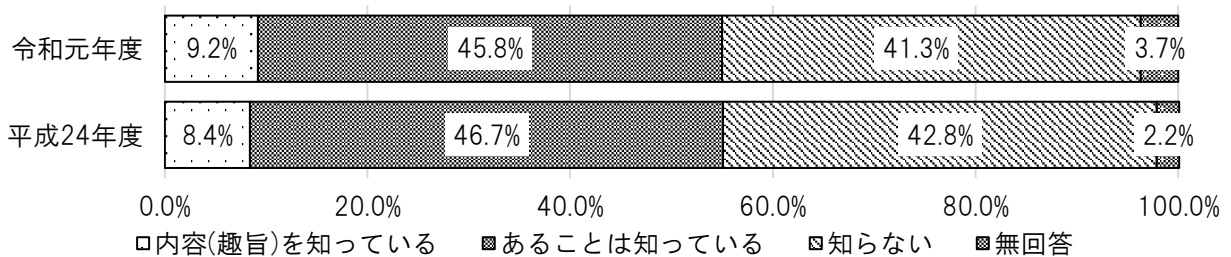
F. 男女共同参画社会基本法



「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 71.6%で、前回調査の 72.5%に対して 0.9 ポイント低くなっている。

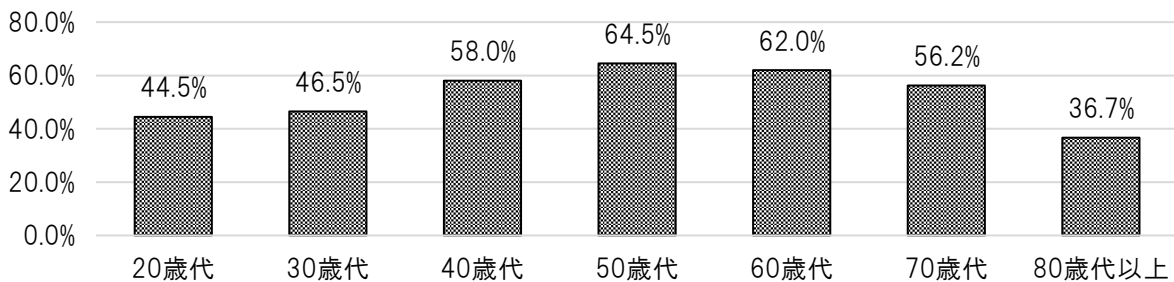
年齢では、20 歳代は 91.1%と 9 割を超えており、総数よりも 19.5 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 58.5%と総数よりも 13.1 ポイント低くなっている。

G. 犯罪被害者等基本法

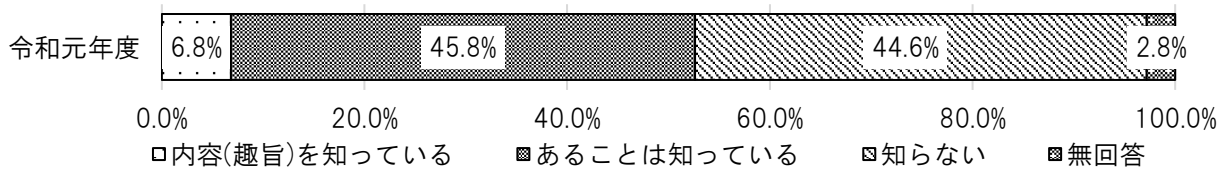


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 55.0%で、前回調査の 55.1%に対して 0.1 ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、50 歳代・60 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっている。80 歳代以上は 36.7%と総数よりも 19.3 ポイント低く、20 歳代は 44.5%と 11.5 ポイント低く、30 歳代は 46.5%と 9.5 ポイント低くなっている。



H. 拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律

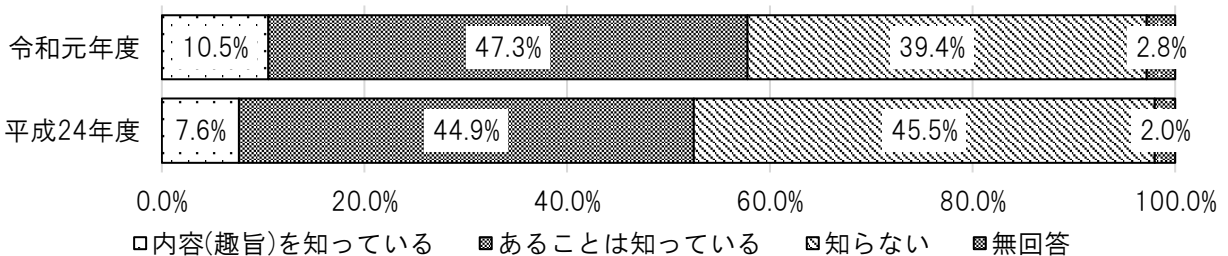


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 52.6%となっている。

年齢では、50 歳代は 61.1%と総数よりも 8.5 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 39.7%と総数よりも 12.9 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は 60.0%と総数よりも 7.4 ポイント高くなっている。

I. ハンセン病問題の解決の促進に関する法律

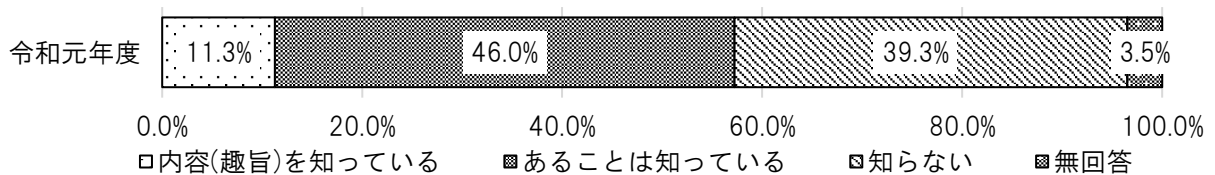


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 57.8%で、前回調査の 52.5%に対して 5.3 ポイント高くなっている。

年齢では、50 歳代は 67.5%と総数よりも 9.7 ポイント高くなっている。20 歳代は 41.1%と総数よりも 16.7 ポイント低く、30 歳代は 46.5%と 11.3 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 62.8%と総数よりも 5.0 ポイント高くなっている。

J. 障害者差別解消法

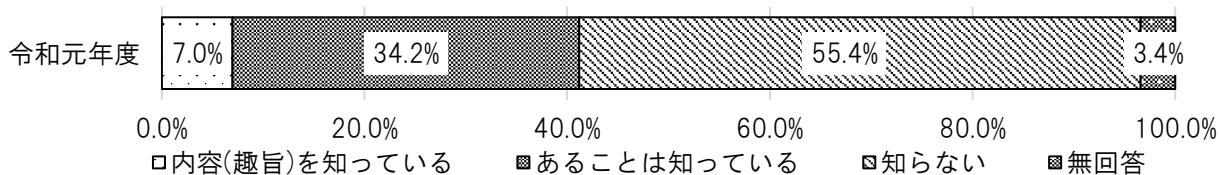


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 57.3%となっている。

年齢では、40 歳代は 51.9%と総数よりも 5.4 ポイント低くなっている。

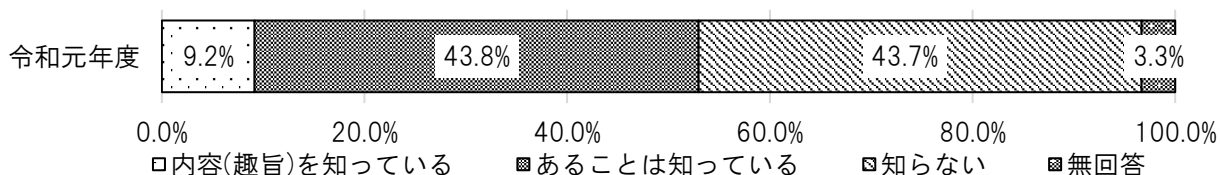
居住地域では、伊賀地域は 63.2%と総数よりも 5.9 ポイント高くなっている。

K. ヘイトスピーチ解消法



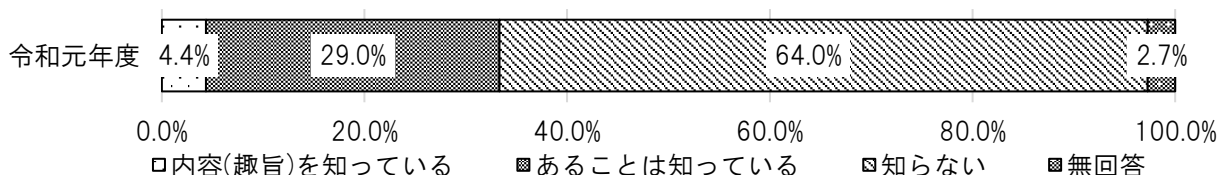
「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 41.2%となっている。2016(平成 28)年に施行された「差別解消三法」の中では、一番認知度が低い。性別では、男性は 49.1%と女性の 34.9%よりも 14.2 ポイント高くなっている。年齢では、50 歳代は 50.6%と総数よりも 9.4 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 25.8%と総数よりも 15.4 ポイント低くなっている。

L. 部落差別解消推進法



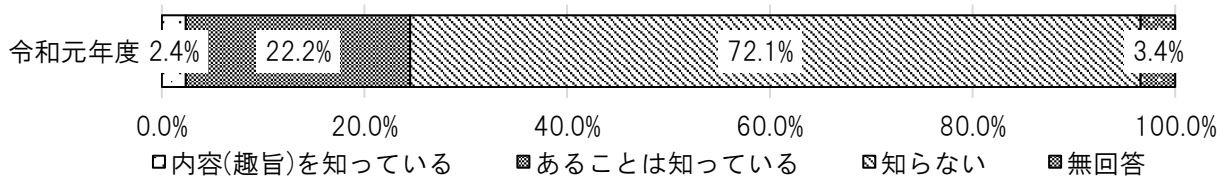
「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 53.0%となっている。居住地域では、伊賀地域は 66.3%と総数よりも 13.3 ポイント高くなっている。小中学生のときに県外で長く過ごした人は 47.7%と、県内で長く過ごした人の 54.6%よりも 6.9 ポイント低くなっている。

M. アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律



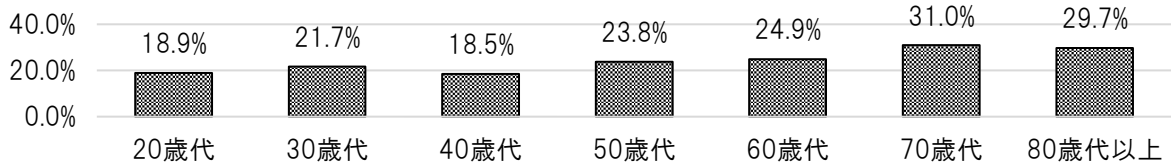
「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 33.4%となっている。年齢では、50 歳代は 43.6%と総数よりも 10.2 ポイント高くなっている。40 歳代は 26.2%と 7.2 ポイント低くなっている。居住地域では、東紀州地域は 39.1%と総数よりも 5.7 ポイント高くなっている。

N. 日本語教育推進法



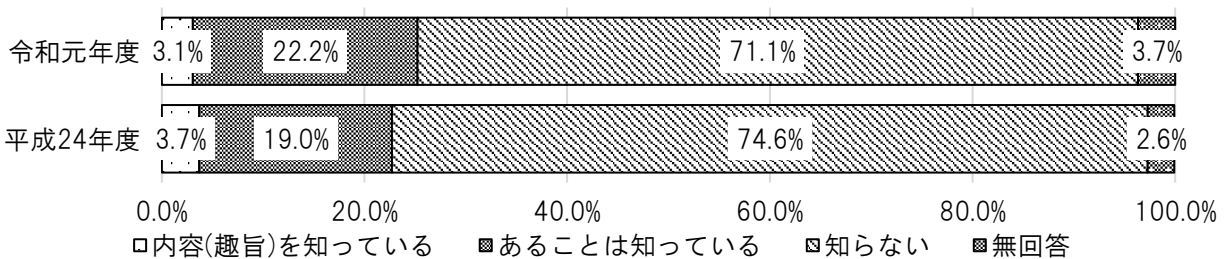
「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 24.6%となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっている。20 歳代と 40 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は 31.6%と総数よりも 7.0 ポイント高くなっている。

O. 人権が尊重される三重をつくる条例

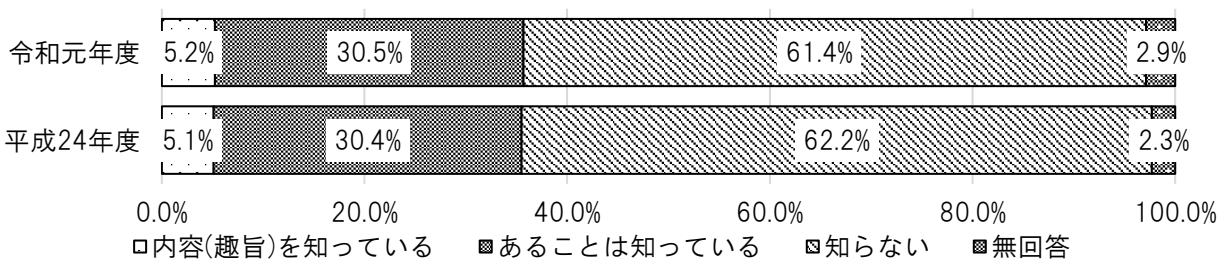


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 25.3%で、前回調査の 22.7%に対して 2.6 ポイント高くなっている。

年齢では、70 歳代は 30.6%と総数よりも 5.3 ポイント以上高くなっている。20 歳代は 16.6%と総数よりも 8.7 ポイント低く、40 歳代は 19.1%と 6.2 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 19.5%と、県内で長く過ごした人の 26.7%よりも 7.2 ポイント低くなっている。

P. 三重県子ども条例

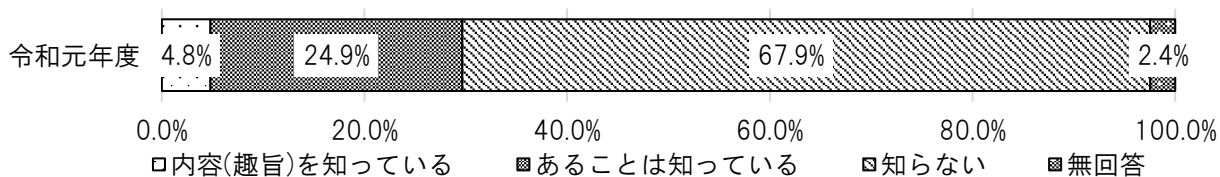


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 35.7%で、前回調査の 35.5%に対して 0.2 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 24.5%と総数よりも 11.2 ポイント低くなっている。

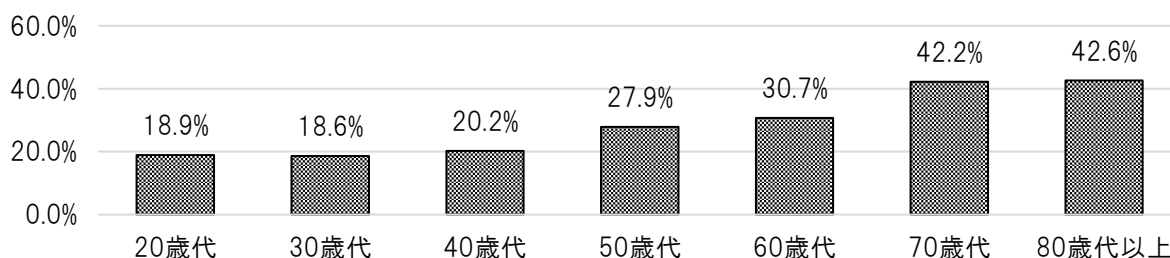
居住地域では、伊賀地域は 41.0%と総数よりも 5.3 ポイント高くなっている。

Q. 障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例

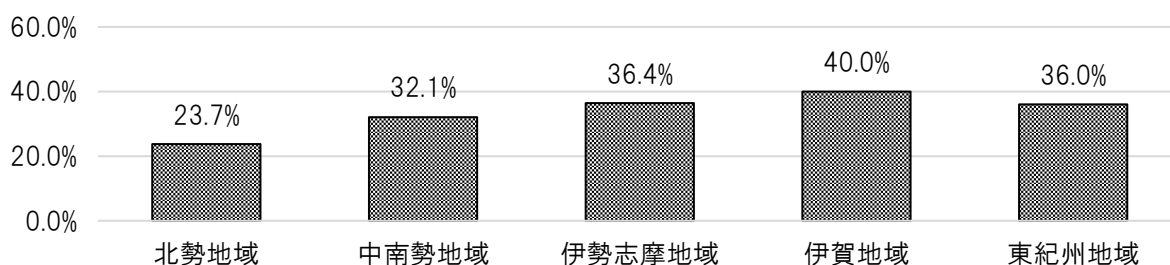


「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は 29.7%となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 10.0 ポイント以上高くなっている。20 歳代・30 歳代は総数よりも 10.0 ポイント以上、40 歳代は 20.2%と 9.5 ポイント低くなっている。



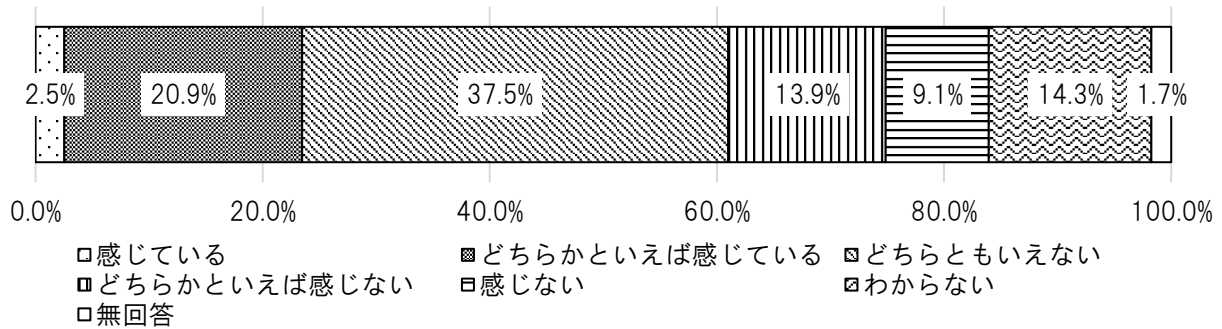
居住地域では、以下のグラフのとおり、伊賀地域は 40.0%と総数よりも 10.3 ポイント、伊勢志摩地域と東紀州地域は 5.0 ポイント以上高くなっている。北勢地域は 23.7%と総数よりも 6.0 ポイント低くなっている。



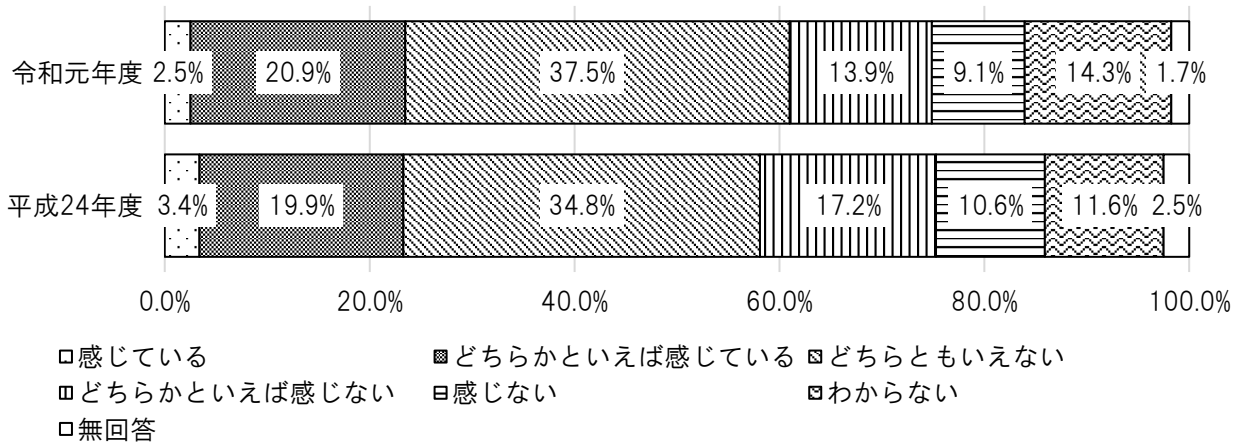
小中学生のときに県外で長く過ごした人は 22.9%と、県内で長く過ごした人の 31.4%よりも 8.5 ポイント低くなっている。

2 三重県の人権

問2 三重県では、「性別、出身地、障がいの有無などによる差別がなく、一人ひとりの人権が尊重され、個性や能力を発揮できる機会が誰にでも与えられる社会」の実現をめざしています。あなたは、「三重県は人権が尊重されている社会になっている」と感じますか。



三重県が人権尊重社会になっていると感じているかどうかについて、「感じている」「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は23.4%と、「感じない」「どちらかといえば感じない」を合わせた割合23.0%が、ほぼ同じ割合となっている。



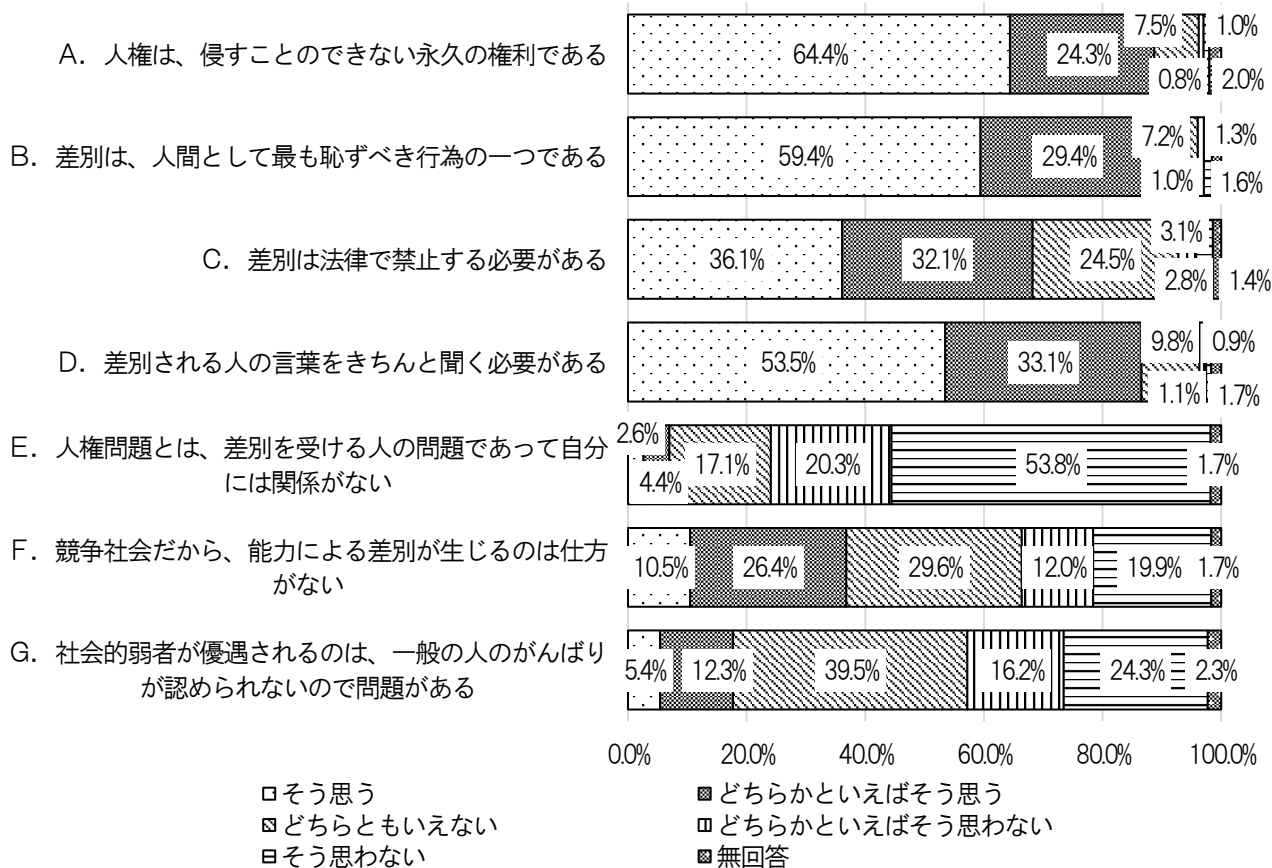
「感じている」「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は23.4%で、前回調査の23.3%よりも0.1ポイント高くなっている。

年齢では、70歳代は31.4%と総数よりも8.0ポイント高く、80歳代以上は28.7%と5.3ポイント高くなっている。40歳代・50歳代は、それぞれ18.0%と総数よりも5.4ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は31.3%と総数よりも7.9ポイント高く、伊賀地域は28.4%と5.0ポイント高くなっている。

3 人権や差別についての考え方

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。

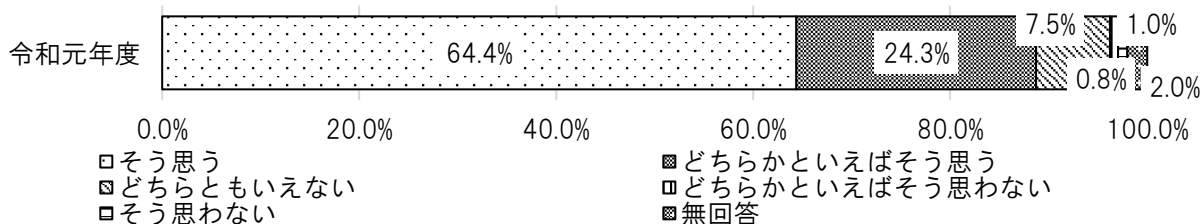


A、B、C、Dの考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は次のとおりである。「A. 人権は、侵すことのできない永久の権利である」88.7%、「B. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」88.8%、「D. 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある」86.6%と、A、B、Dについては8割を超えており、「C. 差別は法律で禁止する必要がある」については、68.2%となっている。

E、F、Gの考え方について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は次のとおりである。「E. 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」74.1%と7割を超えている。しかし、「F. 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」31.9%、「G. 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」40.5%と、F、Gについては半数を切っている。

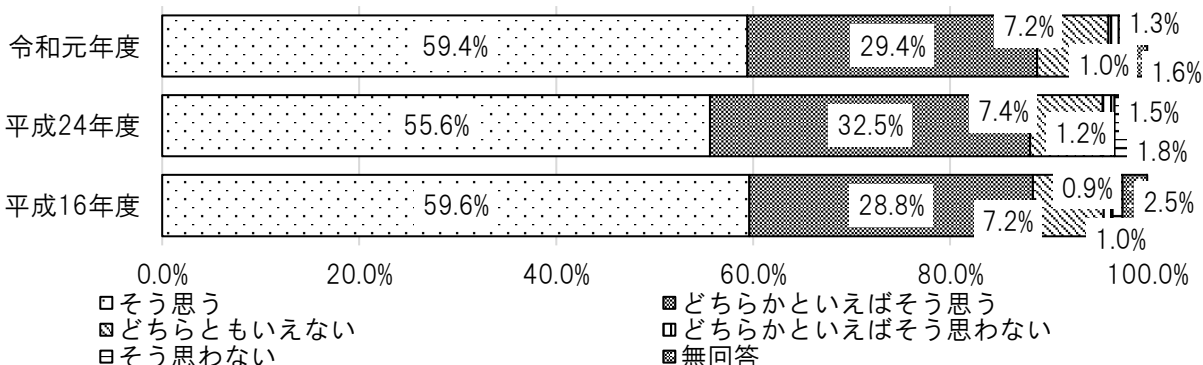
この結果から、人権は侵すことのできない永久の権利であり、差別は人間として最も恥ずべき行為であると考えている県民が多いことがわかる。また、差別された人の声をきちんと聞く必要性を理解している県民が多い。

A. 人権は、侵すことのできない永久の権利である



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 88.7%となっている。
年齢では、80 歳代以上は 80.2%と総数よりも 8.5 ポイント低くなっている。

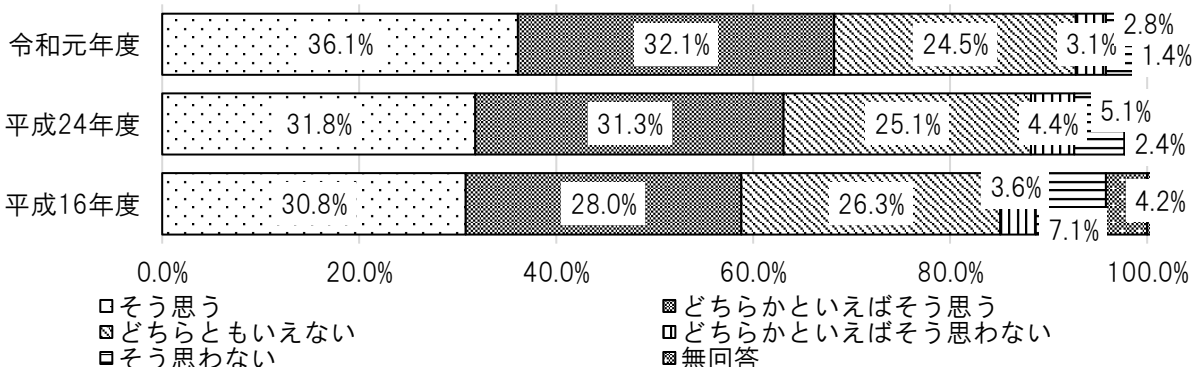
B. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 88.8%で、前回調査の 88.1%
に対して 0.7 ポイント高く、平成 16 年度調査の 88.4%からは 0.4 ポイント高くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 83.2%と総数よりも 5.6 ポイント低くなっている。

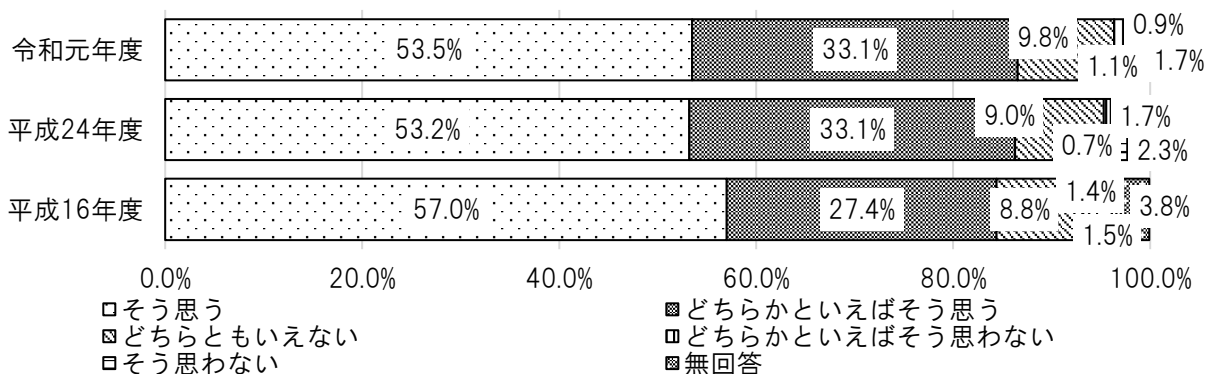
C. 差別は法律で禁止する必要がある



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 68.2%で、前回調査 63.1%
に対して 5.1 ポイント高く、平成 16 年度調査の 58.8%からは 9.4 ポイント高くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 73.4%と総数よりも 5.2 ポイント高くなっている。

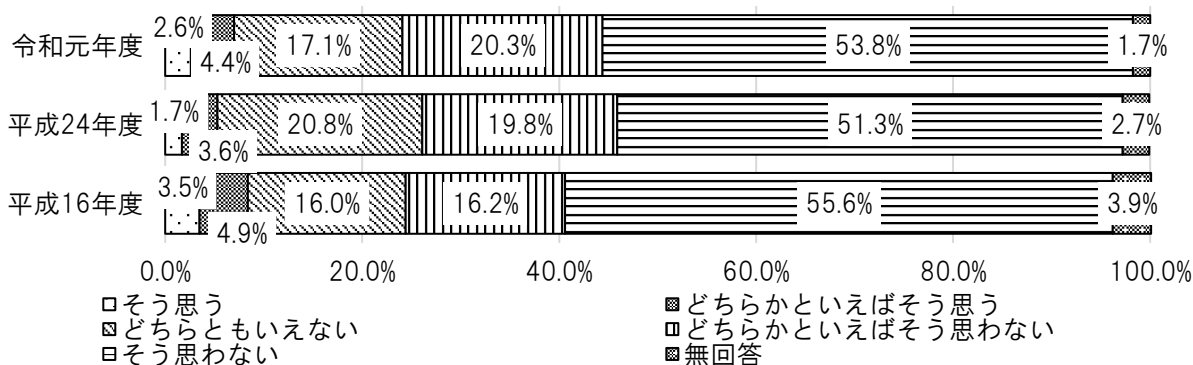
D. 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 86.6%で、前回調査 86.3%に対して 0.3 ポイント高く、平成 16 年度調査の 84.4%からは 2.2 ポイント高くなっている。

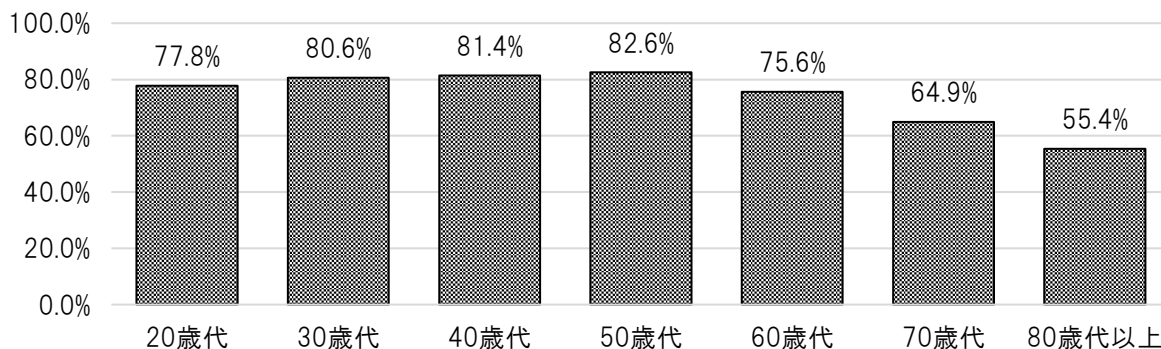
年齢では、20 歳代は 93.3%と総数よりも 6.7 ポイント高くなっている。70 歳代は 81.4%と総数よりも 5.2 ポイント低くなっている。

E. 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない



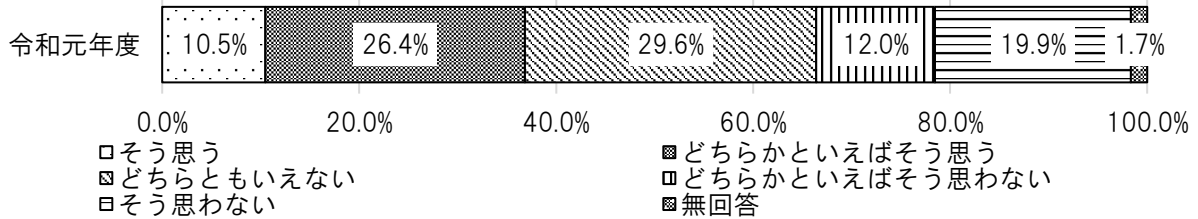
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 74.1%で、前回調査 71.1%に対して 3.0 ポイント高く、平成 16 年度調査の 71.8%からは 2.3 ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、30 歳代～50 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっている。80 歳代以上は 55.4%と総数よりも 18.7 ポイントと 2 割近く低く、70 歳代は 64.9%と 9.2 ポイント低くなっている。



居住地では、伊賀地域は 68.4%と総数よりも 5.7 ポイント低くなっている。

F. 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない



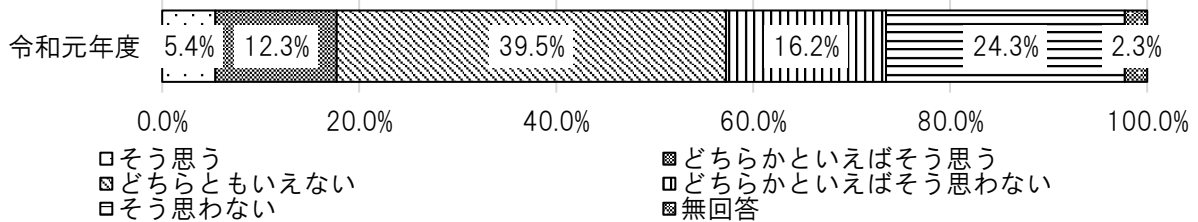
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 31.9%となっている。

性別では、男性は 25.9%と女性の 37.1%よりも 11.2 ポイント低くなっている。

年齢では、50 歳代は 39.0%と総数よりも 7.1 ポイント高く、60 歳代は 37.1%と 5.2 ポイント高くなっている。20 歳代は 25.6%と総数よりも 6.3 ポイント低く、80 歳代以上は 26.7%と 5.2 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 37.5%と総数よりも 5.6 ポイント高くなっている。伊勢志摩地域は 25.6%と総数よりも 6.3 ポイント低くなっている。

G. 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある

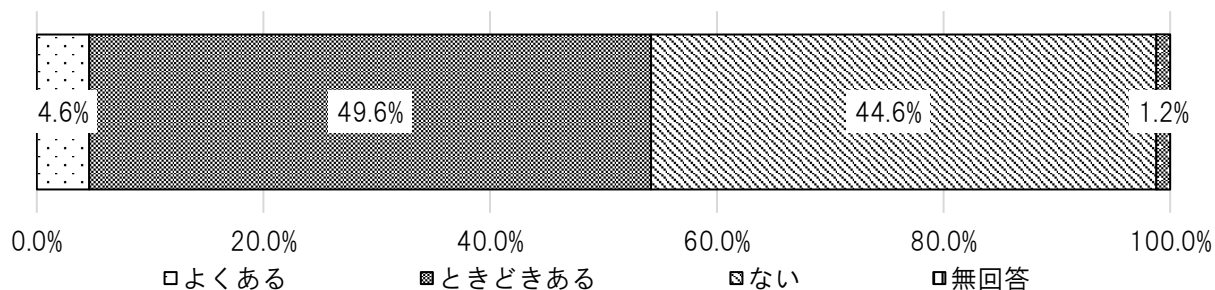


「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 40.5%となっている。

年齢では、50 歳代は 50.0%と総数よりも 9.5 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 28.7%と総数よりも 11.8 ポイント低くなっている。

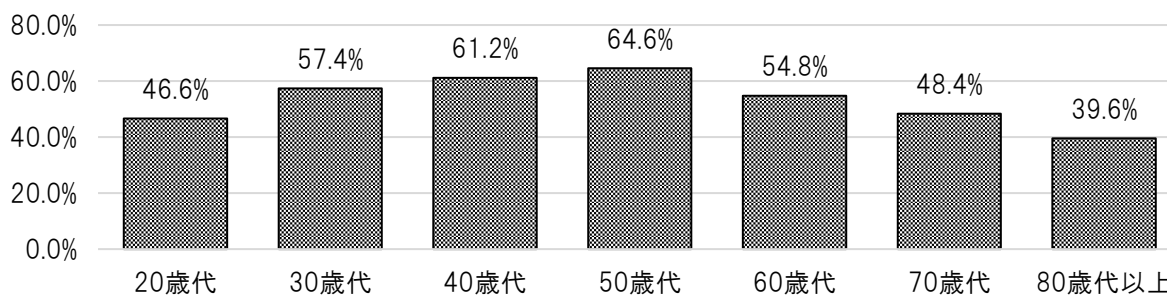
4 差別や人権問題についての話し合い状況

問4 あなたは、差別や人権問題について、家族や友人と話すことがありますか。



差別や人権問題について、家族や友人と話すことがあるかどうかについて、「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は54.2%と半数を超えている。

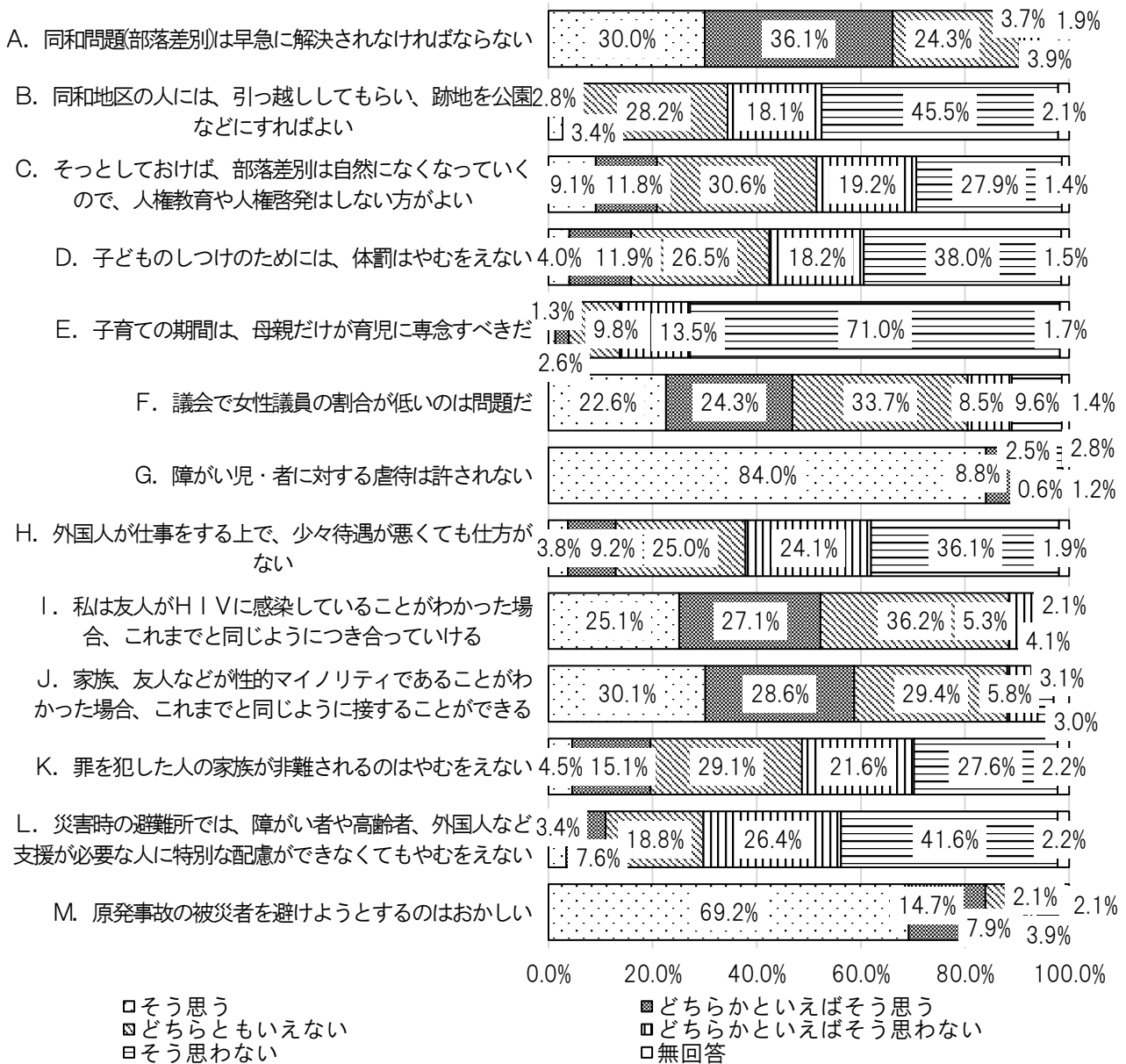
年齢では、以下のグラフのとおり、50歳代は64.6%と総数よりも10.4ポイント高く、40歳代は61.2%と7.0ポイント高くなっており、6割を超えている。20歳代、70歳代・80歳代以上は、総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は65.3%と総数よりも11.1ポイント高く、東紀州地域は61.0%と6.8ポイント高くなっている。伊勢志摩地域は48.7%と総数よりも5.5ポイント低くなっている。

5 人権問題についての意見

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見があります。あなたは、どのように思いますか。



A、B、Cの同和問題(部落差別)に関する項目で、「A. 同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると66.1%となっている。また、「B. 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「C. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると、それぞれ63.6%、47.1%となっている。6割以上の県民が、同和問題は早急に解決されなければならない問題と認識し、当事者責任論を否定している。しかし、寝た子を起すな論を否定できている県民は半数に達しておらず、3割は「どちらともいえない」と捉えている。

「D. 子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 56.2%で 6 割を切っている。

E、F の女性の人権に関する項目で、「E. 子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ」は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 84.5%で、「F. 議会で女性議員の割合が低いのは問題だ」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 46.9%となっている。育児に関しては、8 割を超える県民が母親だけが専念すべきではないと捉えているが、女性議員の割合が低いことに関して問題意識を持っている県民が半数を切っている。

「G. 障がい児・者に対する虐待は許されない」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 92.8%と 9 割を超えている。

「H. 外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 60.2%と約 6 割となっている。

「I. 私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 52.2%と約半数となっている。

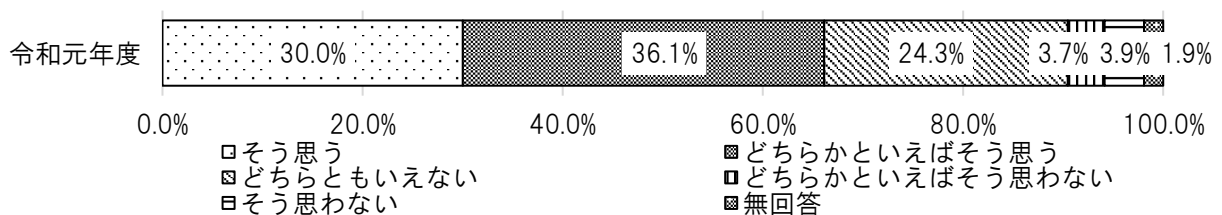
「J. 家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 58.7%と約 6 割となっている。

「K. 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない」は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 49.2%と半数を切っている。

「L. 災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない」は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせると 68.0%と 7 割近くを占めている。

「M. 原発事故の被災者を避けようとするのはおかしい」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 83.9%と 8 割を超えている。

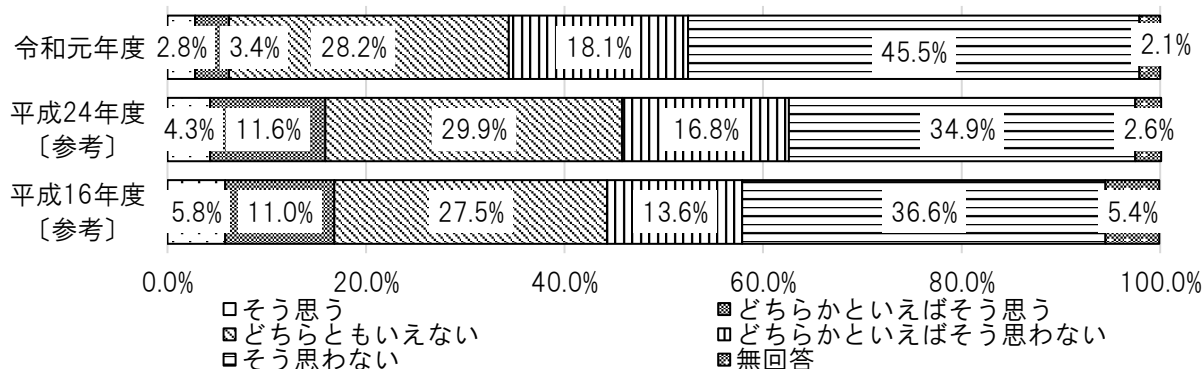
A. 同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 66.1%となっている。年齢では、20 歳代は 71.1%と総数よりも 5.0 ポイント高くなっている。

B. 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい

〔参考：平成16・24年度〕同和地区の人には、差別されるだけの理由がある



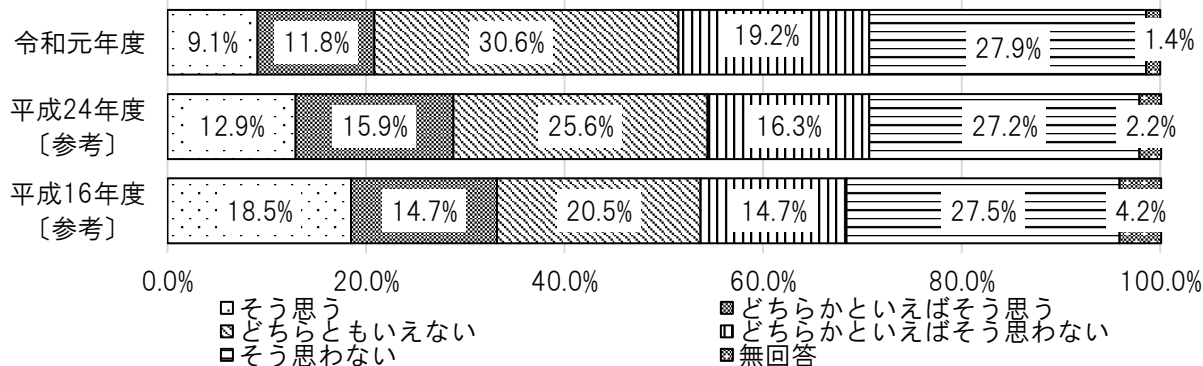
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 63.6%で、前回調査や平成16年度調査と設問内容は違うものの、前回調査 51.7%に対して 11.9 ポイント高く、平成16年度調査の 50.2%からは 13.4 ポイント高くなっている。

年齢では、40歳代は 50.8%と総数よりも 12.8 ポイント低く、30歳代は 55.9%と 7.7 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 71.9%と総数よりも 8.3 ポイント高くなっている。

C. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい

〔参考：平成16・24年度〕そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく

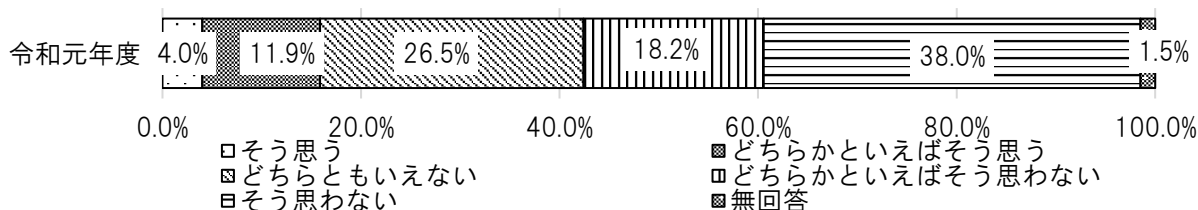


「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 47.1%で、前回調査や平成16年度調査と設問内容は違うものの、前回調査 43.5%に対して 3.6 ポイント高く、平成16年度調査の 42.2%から 4.9 ポイント高くなっている。

年齢では、20歳代は 57.8%と総数よりも 10.7 ポイント高くなっている。80歳代以上は 34.7%と総数よりも 12.4 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 37.5%と総数よりも 9.6 ポイント低く、伊勢志摩地域は 41.4%と 5.7 ポイント低くなっている。

D. 子どものしつけのためには、体罰はやむをえない



「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 56.2%となっている。

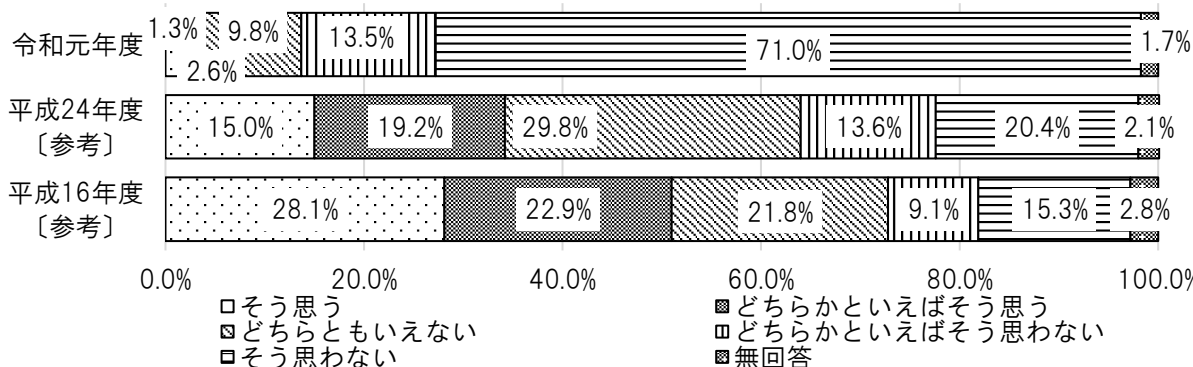
性別では、男性は 45.8%と女性の 64.9%よりも 19.1 ポイント低くなっている。

年齢では、20 歳代は 71.1%と 7 割を超えており、総数よりも 14.9 ポイント高く、50 歳代は 61.7%と 5.5 ポイント高くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 50.4%と総数よりも 5.8 ポイント低くなっている。

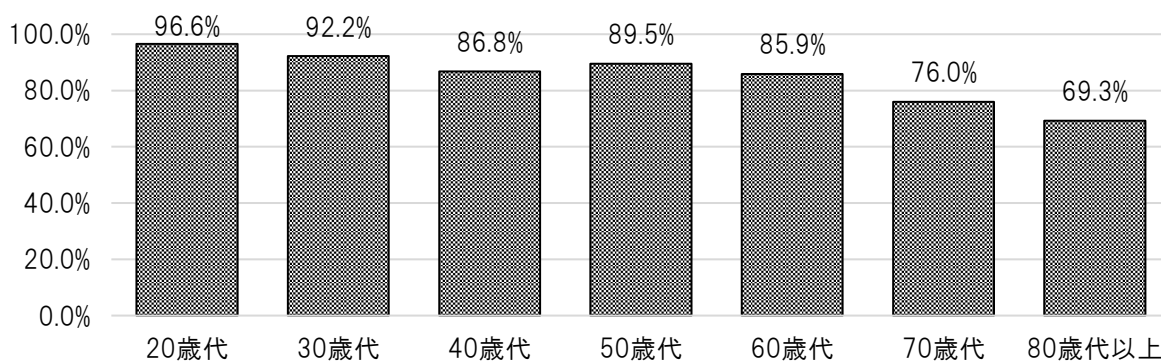
E. 子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ

〔参考：平成 16・24 年〕子育ての間は、母親は育児に専念すべきだ



「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 84.5%で、前回調査や平成 16 年度調査と設問内容は違うものの、前回調査 34.0%に対して 50.5 ポイント高く、平成 16 年度調査の 24.4%から 60.1 ポイント高くなっている。

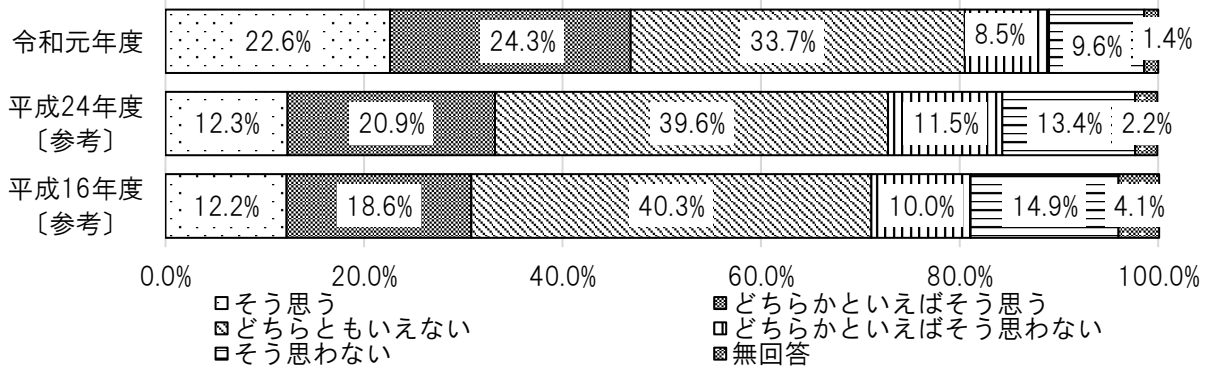
年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代・30 歳代・50 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上低く、80 歳代以上は 15.2 ポイント低くなっている。



居住地域では、伊勢志摩地域は 78.5%と総数よりも 6.0 ポイント低くなっている。

F. 議会で女性議員の割合が低いのは問題だ

〔参考：平成 16・24 年度〕 国会で女性議員の割合が低いのは問題だ

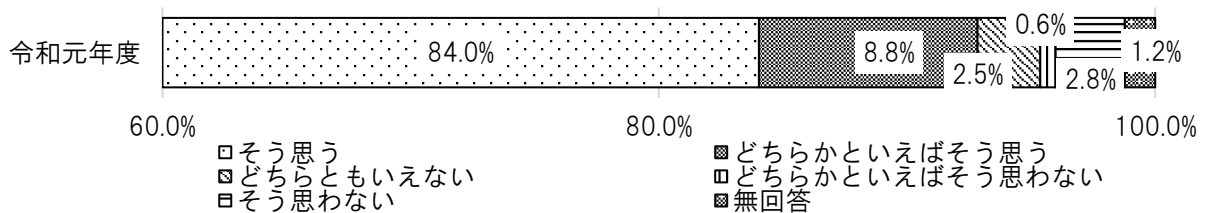


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 46.9%で、前回調査や平成 16 年度調査と設問内容は違うものの、前回調査 33.2%に対して 13.7 ポイント高く、平成 16 年度調査の 30.8%から 16.1 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 37.8%と総数よりも 9.1 ポイント低く、80 歳代以上は 38.6%と 8.3 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 34.3%と 12.6 ポイント低くなっている。

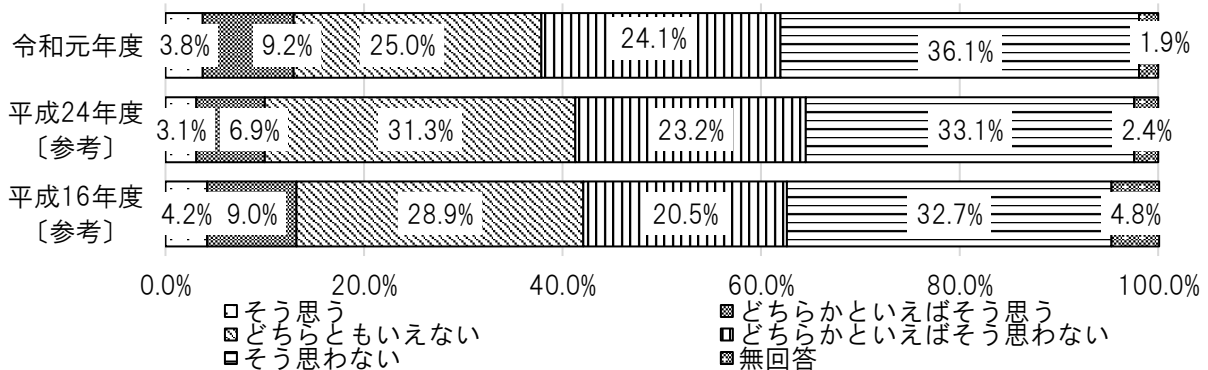
G. 障がい児・者に対する虐待は許されない



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 92.8%となっている。年齢では、80 歳代以上は 83.1%と総数よりも 9.7 ポイント低くなっている。

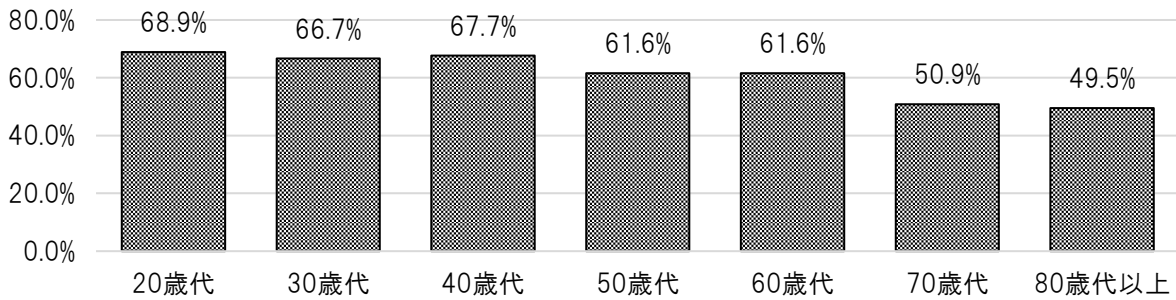
H. 外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない

〔参考：平成 16・24 年度〕 外国人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない



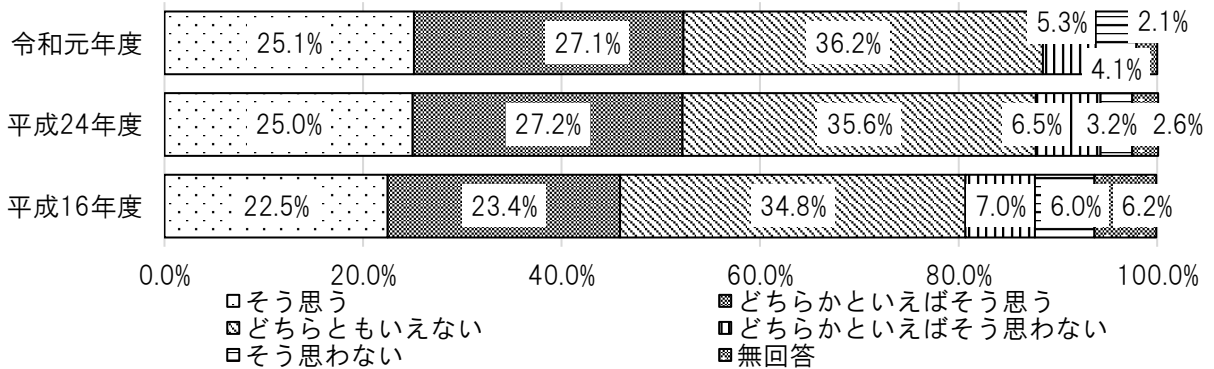
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 60.2%で、前回調査や平成 16 年度調査と設問内容は違うものの、前回調査 56.3%に対して 3.9 ポイント高く、平成 16 年度調査の 53.2%から 7.0 ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～40歳代は総数よりも5.0ポイント以上高くなっている。70歳代・80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低く、80歳代以上は49.5%と10.7ポイント低くなっている。



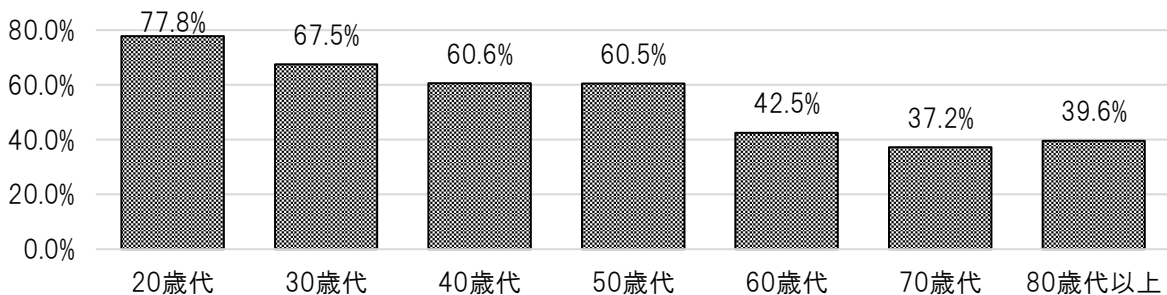
居住地では、伊勢志摩地域は53.7%と6.5ポイント低くなっている。

1. 私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じように接することができる



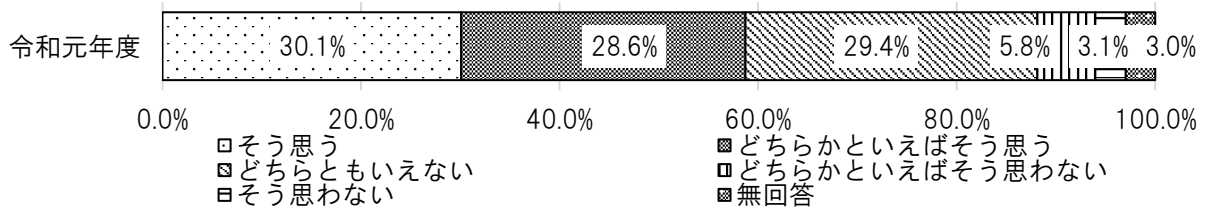
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は52.2%で、前回調査とは変わらず、平成16年度調査の45.9%から6.3ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～50歳代は総数よりも5.0ポイント以上高く、20歳代は77.8%と25.6ポイント高くなっており、8割近くを占めている。60歳代～80歳代以上は5.0ポイント以上低く、80歳代は39.6%と15.0ポイント低くなっている。



居住地では、伊賀地域は42.1%と総数よりも10.1ポイント低くなっている。

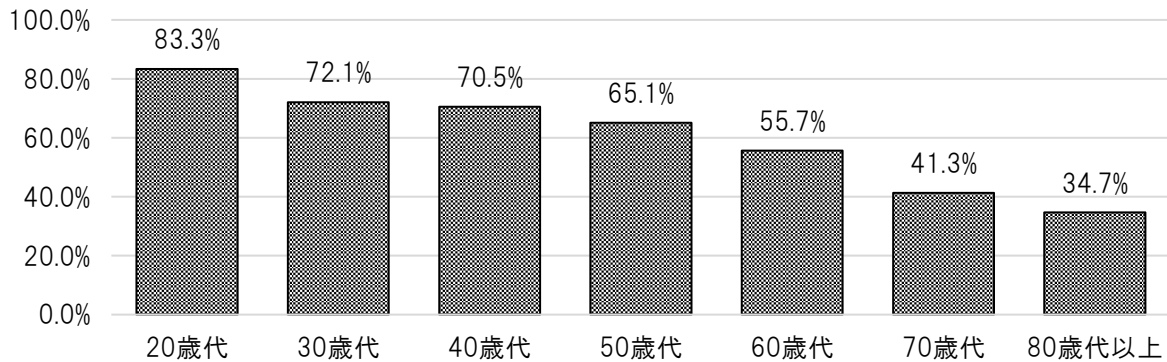
J. 家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 58.7%となっている。

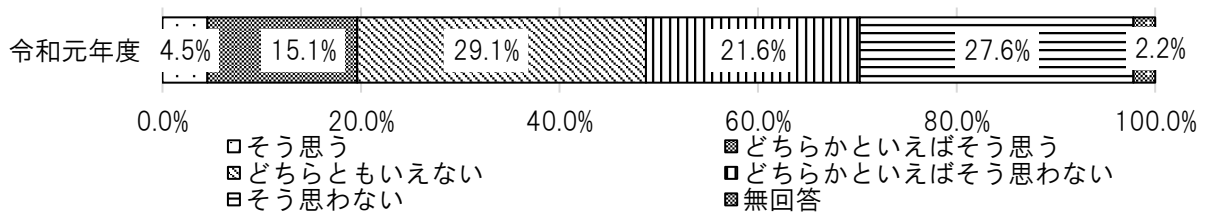
性別では、男性は 52.6%と女性の 63.5%よりも 10.9 ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～50 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、20 歳代は 83.3%と 24.5 ポイント高くなっており、8 割を超えている。70 歳代・80 歳代以上は 15.0 ポイント以上低く、80 歳代以上は 34.7%と 24.0 ポイント低くなっている。



居住地では、伊賀地域は 47.4%と総数よりも 11.3 ポイント低くなっている。

K. 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない

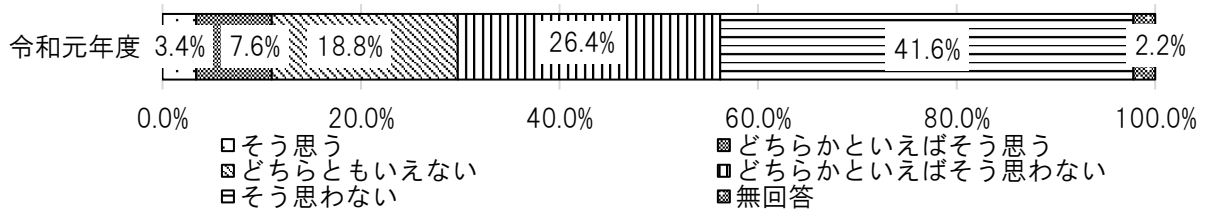


「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 49.2%となっている。

年齢では、60 歳代は 57.0%と総数よりも 7.8 ポイント高くなっている。50 歳代は 43.1%と総数よりも 6.1 ポイント低く、40 歳代は 6.0 ポイント低くなっている。

居住地では、東紀州地域は 59.4%と総数よりも 10.2 ポイント低くなっている。

L. 災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない

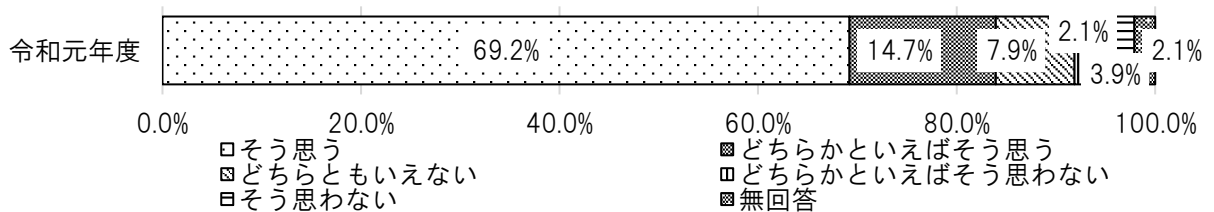


「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 68.0%となっている。

年齢では、50 歳代は 76.2%と総数よりも 8.2 ポイント高く、60 歳代は 74.7%と 6.7 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 57.4%と総数よりも 10.6 ポイント低く、20 歳代は 61.1%と 6.9 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 62.5%と総数よりも 5.5 ポイント低くなっている。

M. 原発事故の被災者を避けようとするのはおかしい



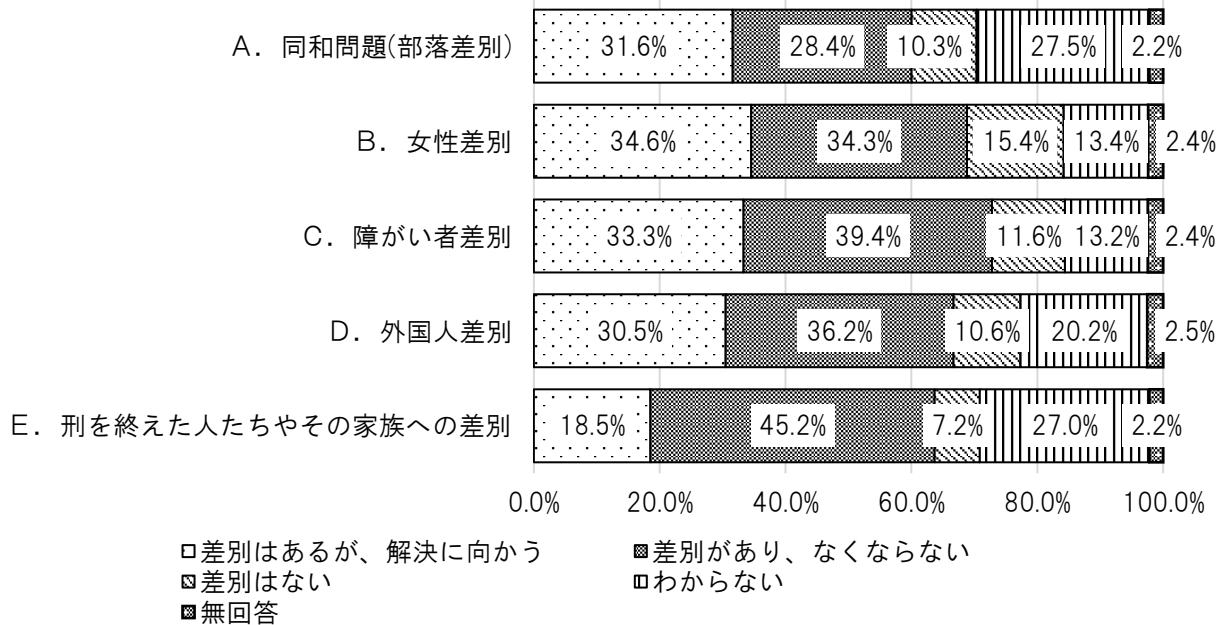
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 83.9%となっている。

年齢では、40 歳代は 92.4%と総数よりも 8.5 ポイント高く、30 歳代は 92.2%と 8.3 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 70.3%と総数よりも 13.6 ポイント低く、70 歳代は 77.2%と 6.7 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は 78.9%と総数よりも 5.0 ポイント低くなっている。

6 人権問題についての現状認識となくなる見通し

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。

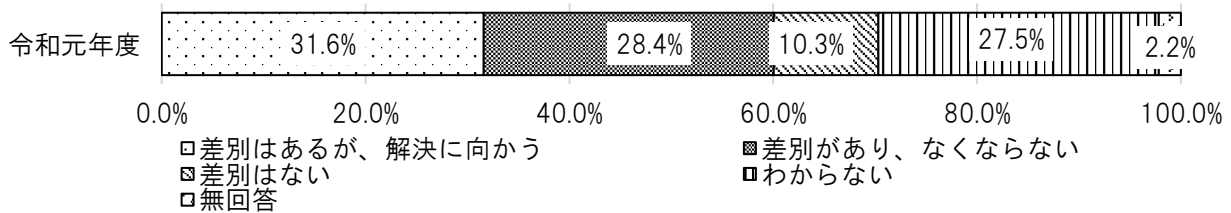


差別の現状認識について、「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくならない」を合わせた割合で、最も高かったのは「C. 障がい者差別」72.7%、二番目に高かったのは「B. 女性差別」68.9%、次いで「D. 外国人差別」66.7%となっている。

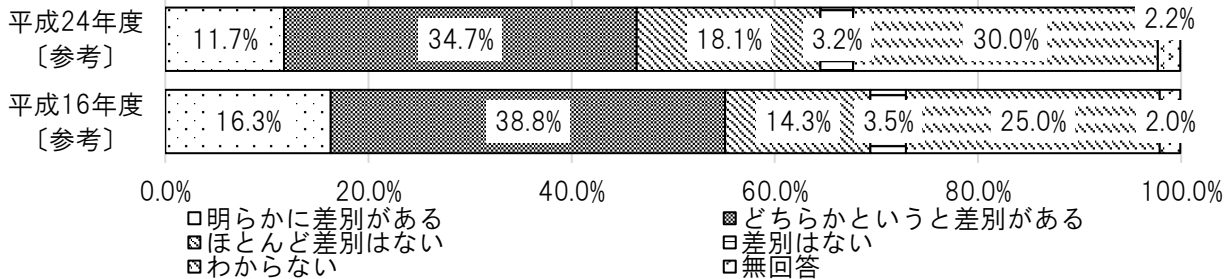
差別解消への展望についての「差別はあるが、解決に向かう」で、最も高かったのは「B. 女性差別」34.6%、二番目に高かったのは「C. 障がい者差別」33.3%、次いで「A. 同和問題(部落差別)」31.6%となっている。

差別の現状認識については、A～Eそれぞれ6割以上の県民が現状を認識している。しかし、「解決に向かう」と解消への展望を持っている県民は「A. 同和問題(部落差別)」「B. 女性差別」「C. 障がい者差別」「D. 外国人差別」は3割を超えている一方で、「E. 刑を終えた人たちやその家族への差別」は2割を切っている。また、現状は認識できていても、解消への展望を持っていない県民も多く、「差別はない」と認識している県民も一定数存在している。「わからない」と認識している県民の割合をみると「A. 同和問題(部落差別)」が最も高くなっている。

A. 同和問題(部落差別)

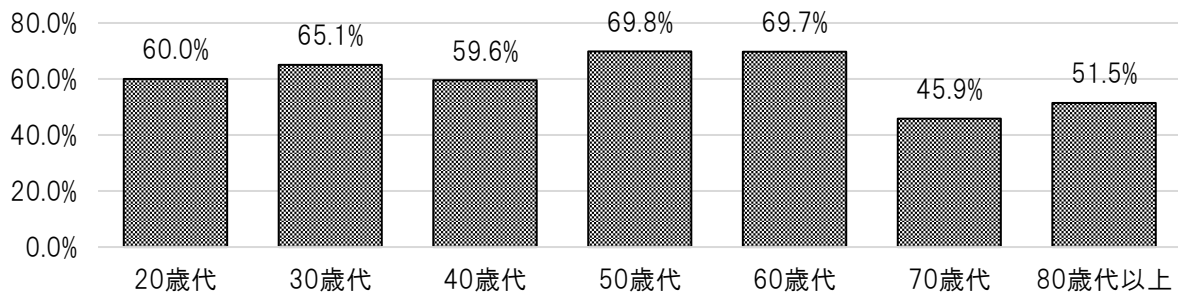


〔参考：平成16・24年度〕同和地区出身者を対象とする結婚差別の現状について



「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなる」を合わせた割合は60.0%で、前回調査や平成16年度調査と設問内容は違うものの、同和問題(部落差別)の現状を認識できている割合は、前回調査46.4%に対して13.6ポイント高く、平成16年度調査の55.1%から4.9ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、30歳代・50歳代・60歳代は総数よりも5.0ポイント以上高くなっている。70歳代・80歳代以上は5.0ポイント以上低くなっており、70歳代は45.9%と14.1ポイント低くなっている。



居住地では、伊勢志摩地域は67.8%と7.8ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は55.4%と、県内で長く過ごした人の61.4%よりも6.0ポイント低くなっている。

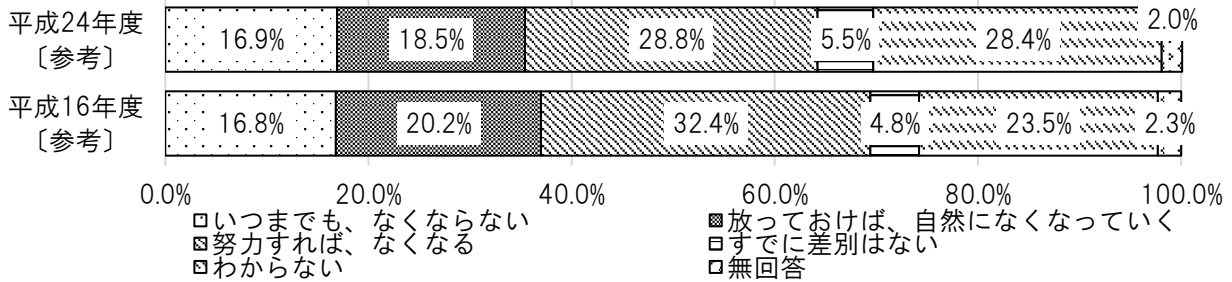
「わからない」は27.5%で、前回調査の30.0%に対して2.5ポイント低く、平成16年度調査の25.0%から2.5ポイント高くなっている。

年齢では、20歳代は34.4%と総数よりも6.9ポイント高くなっている。

居住地では、伊勢志摩地域は21.5%と総数よりも6.0ポイント低く、東紀州地域は21.9%と5.6ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は33.3%と、県内で長く過ごした人の25.9%よりも7.4ポイント高くなっている。

〔参考：平成16・24年度〕結婚差別がなくなる見通しについて



令和元年度調査の「差別はあるが、解決に向かう」は31.6%で、前回調査や平成16年度調査と設問内容は違うものの、解消への展望「努力すれば、なくなる」は、前回調査28.8%に対して2.8ポイント高く、平成16年度調査の32.4%から0.8ポイント低くなっている。

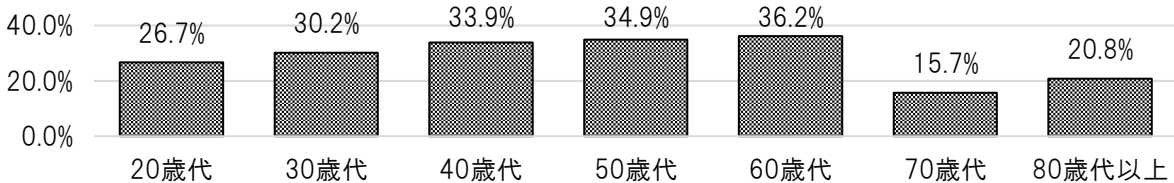
年齢では、40歳代は25.7%と総数よりも5.9ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は40.6%と総数よりも9.0ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は24.7%と、県内で長く過ごした人の33.5%よりも8.8ポイント低くなっている。

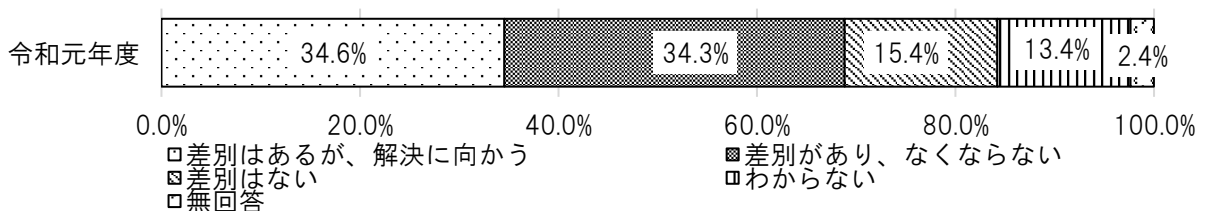
「差別があり、なくなる」は28.4%で、前回調査や平成16年度調査と設問内容は違うものの、解消への展望「いつまでも、なくなる」は、前回調査16.9%に対して11.5ポイント高く、平成16年度調査の16.8%から11.6ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、40歳代～60歳代は総数よりも5.0ポイント以上高くなっている。70歳代・80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊勢志摩地域は33.9%と総数よりも5.5ポイント高くなっている。東紀州地域は17.2%と総数よりも11.2ポイント低くなっている。

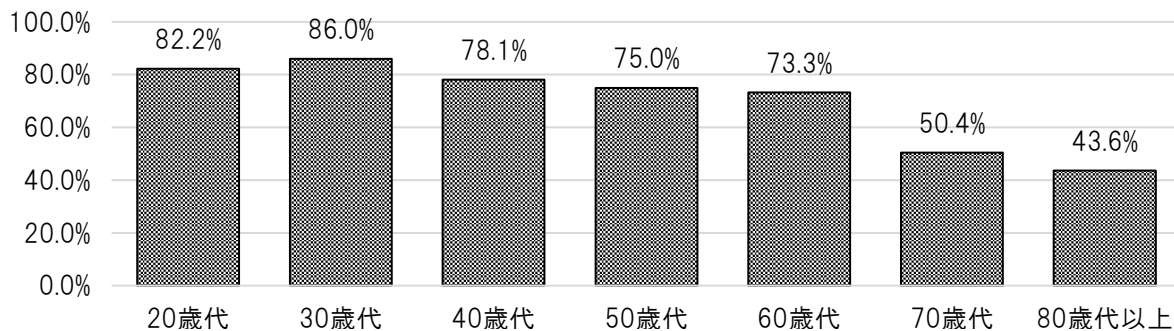
B. 女性差別



「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなる」を合わせた割合は68.9%となっている。

性別では、男性は62.2%と女性の74.4%よりも12.2ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～50歳代は総数よりも5.0ポイント以上高く、20歳代・30歳代は10.0ポイント以上高くなっており、8割を超えている。70歳代・80歳代以上は総数よりも15.0ポイント以上低く、80歳代以上は43.6%と25.3ポイント低くなっている。



居住地では、東紀州地域は59.4%と総数よりも9.5ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は74.5%と、県内で長く過ごした人の67.5%よりも7.0ポイント高くなっている。

「差別はあるが、解決に向かう」は34.6%となっている。

性別では、男性は38.7%と女性の31.4%よりも7.3ポイント高くなっている。

年齢では、20歳代は43.3%と総数よりも8.7ポイント高くなっている。40歳代は29.5%と総数よりも5.1ポイント低くなっている。

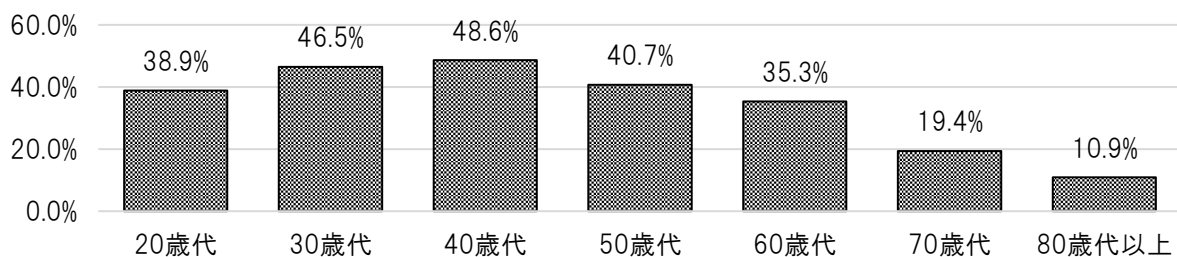
居住地では、中南勢地域は41.2%と総数よりも6.6ポイント高くなっている。伊賀地域は29.5%と総数よりも5.1ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は40.3%と、県内で長く過ごした人の33.2%よりも7.1ポイント高くなっている。

「差別があり、なくなる」は34.3%となっている。

性別では、男性は23.5%と女性の43.0%よりも19.5ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、30歳代～50歳代は総数よりも5.0ポイント以上高く、40歳代は48.6%と14.3ポイント高く、30歳代は46.5%と12.2ポイント高くなっている。70歳代・80歳代以上は総数よりも10.0ポイント以上低く、2割を切っている。

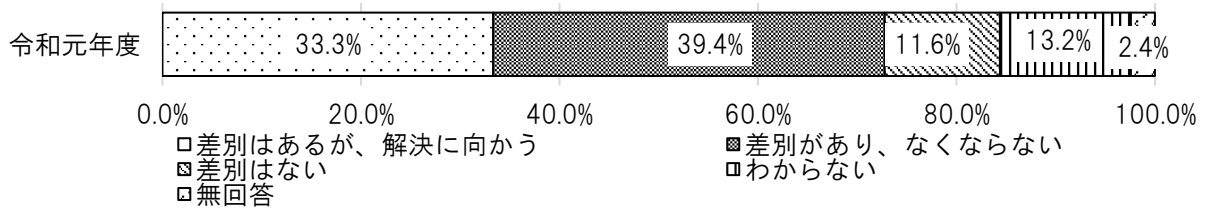


居住地では、東紀州地域は25.0%と総数よりも9.3ポイント低く、中南勢地域は28.8%と5.5ポイント低くなっている。

「わからない」は13.4%となっている。

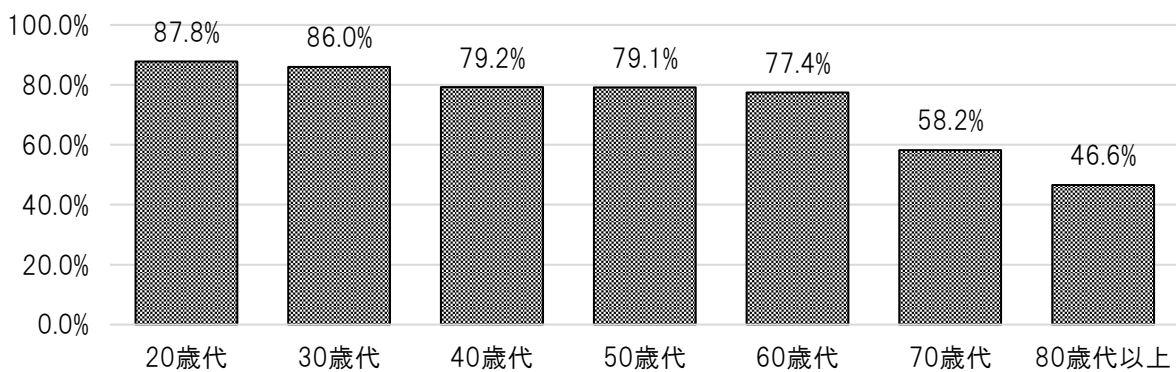
年齢では、80歳代以上は22.8%と総数よりも9.4ポイント高くなっている。

C. 障がい者差別



「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなる」を合わせた割合は 72.7% となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～50 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、20 歳代・30 歳代は 10.0 ポイント以上高くなっており、8 割を超えている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 10.0 ポイント以上低く、80 歳代以上は 46.6% と 26.1 ポイント低くなっている。



居住地では、東紀州地域は 57.8% と総数よりも 14.9 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 77.1% と、県内で長く過ごした人の 71.8% よりも 5.3 ポイント高くなっている。

「差別はあるが、解決に向かう」は 33.3% となっている。

性別では、男性は 38.7% と女性の 29.1% よりも 9.6 ポイント高くなっている。

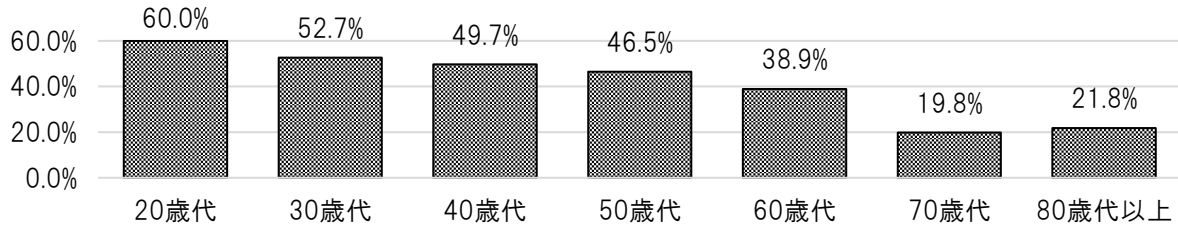
年齢では、60 歳代は 38.5% と総数よりも 5.2 ポイント高く、70 歳代は 38.4% と 5.1 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 24.8% と総数よりも 8.5 ポイント低く、20 歳代は 27.8% と 5.5 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 39.4% と、県内で長く過ごした人の 31.9% よりも 7.5 ポイント高くなっている。

「差別があり、なくなる」は 39.4% となっている。

性別では、男性は 31.7% と女性の 45.7% よりも 14.0 ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～50 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、20 歳代は 60.0% と 20.6 ポイント高くなっており、6 割を占めている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 15.0 ポイント以上低く、約 2 割となっている。70 歳代は 19.8% と 19.6 ポイント低く、80 歳代以上は 21.8% と 17.6 ポイント低くなっている。

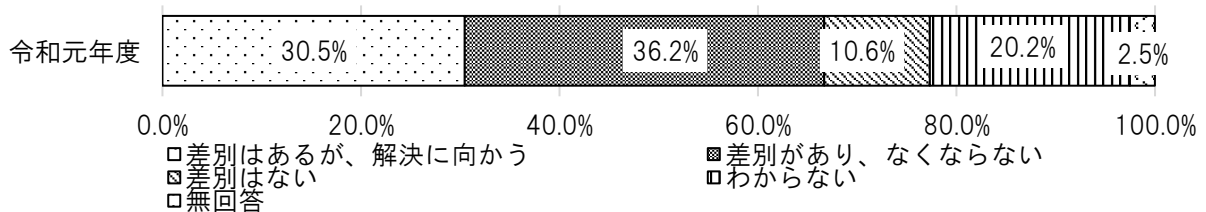


居住地では、伊勢志摩地域は 45.5% と総数よりも 6.1 ポイント高くなっている。東紀州地域は 21.9% と総数よりも 17.5 ポイント低く、伊賀地域は 33.7% と 5.7 ポイント低くなっている。

「わからない」は 13.2% となっている。

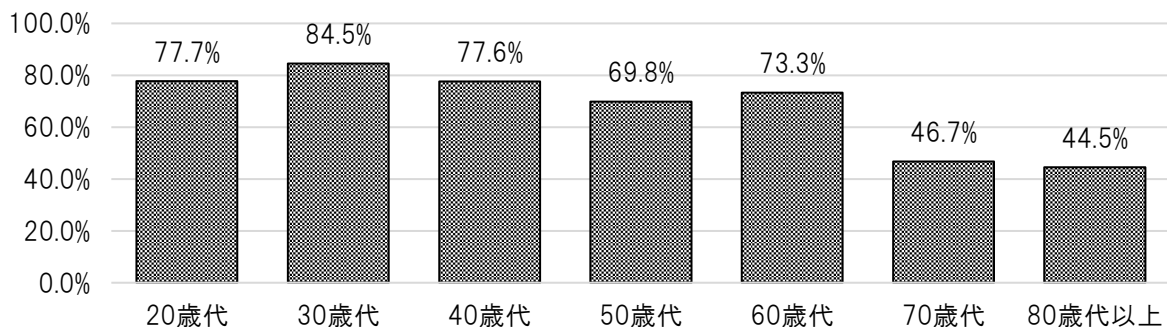
居住地では、東紀州地域は 18.8% と総数よりも 5.6 ポイント高くなっている。

D. 外国人差別



「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなる」を合わせた割合は 66.7% となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～40 歳代・60 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、30 歳代は 84.5% と 17.8 ポイント高くなっており、8 割を超えている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 20.0 ポイント以上低く、半数を切っている。80 歳代以上は 44.5% と 22.2 ポイント低く、70 歳代は 46.7% と 20.0 ポイント低くなっている。



居住地では、北勢地域は 72.2% と総数よりも 5.5 ポイント高くなっている。東紀州地域は 50.0% と総数よりも 16.7 ポイント低く、伊勢志摩地域は 61.2% と 5.5 ポイント低くなっている。

「差別はあるが、解決に向かう」は 30.5%となっている。

性別では、男性は 34.6%と女性の 27.4%よりも 7.2 ポイント高くなっている。

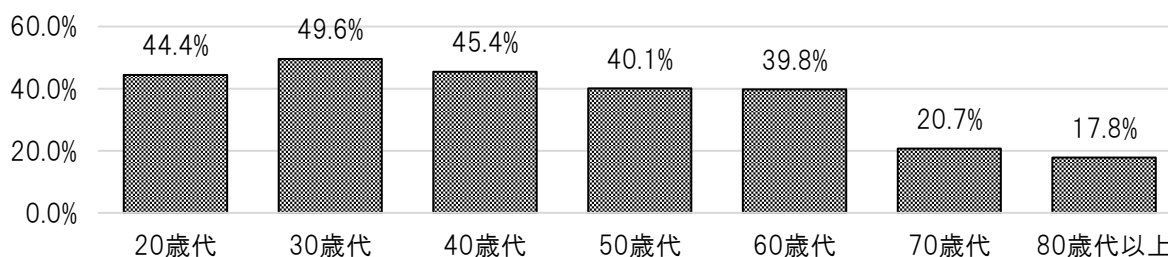
居住地域では、伊勢志摩地域は 24.0%と総数よりも 6.5 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 35.5%と、県内で長く過ごした人の 29.2%よりも 6.3 ポイント高くなっている。

「差別があり、なくなる」は 36.2%となっている。

性別では、男性は 32.3%と女性の 39.3%よりも 7.0 ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～40 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、30 歳代は 49.6%と 13.4 ポイント高くなっており、約半数を占めている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 15.0 ポイント以上低く、約 2 割となっている。80 歳以上は 17.8%と 18.4 ポイント低く、70 歳代は 20.7%と 15.5 ポイント低くなっている。



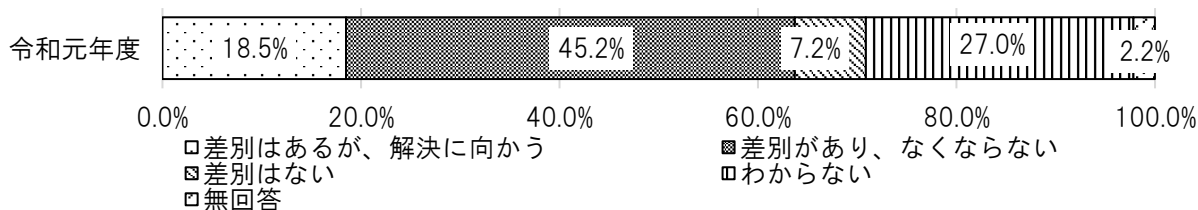
居住地域では、北勢地域は 41.2%と総数よりも 5.0 ポイント高くなっている。東紀州地域は 21.9%と総数よりも 14.3 ポイント低く、伊賀地域は 29.5%と 6.7 ポイント低くなっている。

「わからない」は 20.2%となっている。

年齢では、30 歳代は 11.6%と総数よりも 8.6 ポイント低くなっている。80 歳代以上は 30.7%と総数よりも 10.5 ポイント高く、70 歳代は 27.7%と 7.5 ポイント高くなっている。

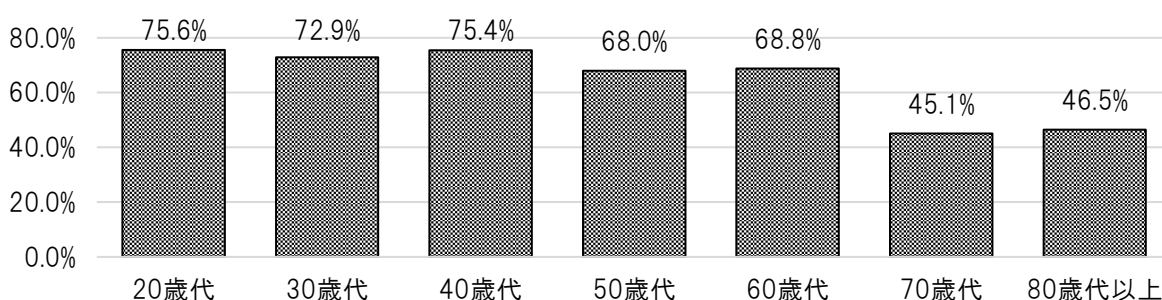
居住地域では、伊勢志摩地域は 25.6%と総数よりも 5.4 ポイント高くなっている。

E. 刑を終えた人たちやその家族への差別



「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなる」を合わせた割合は 63.7% となっている。

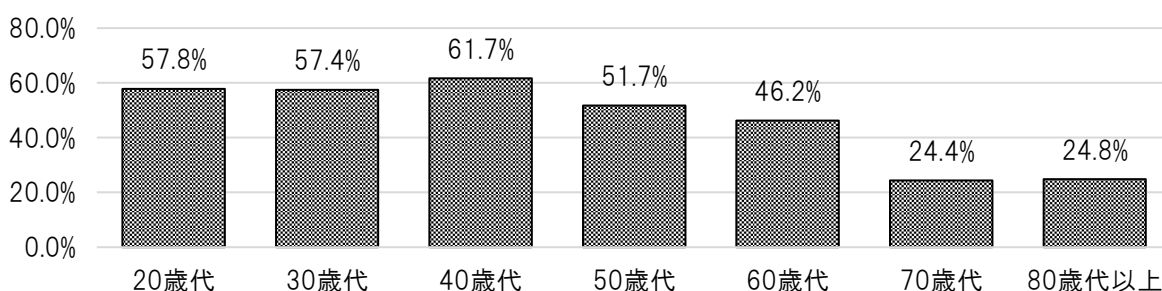
年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～40 歳代・60 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、40 歳代は 75.4% と 11.7 ポイント高くなっている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 15.0 ポイント以上低く、半数を切っている。70 歳代は 45.1% と 18.6 ポイント低く、80 歳代以上は 46.5% と 17.2 ポイント低くなっている。



居住地では、伊勢志摩地域は 70.2% と総数よりも 6.5 ポイント高くなっている。東紀州地域は 48.5% と総数よりも 15.2 ポイント低くなっている。

「差別があり、なくなる」は 45.2% となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～50 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、40 歳代は 61.7% と 16.5 ポイント高くなっており、6 割を超えている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 20.0 ポイント以上低く、3 割を切っている。70 歳代は 24.4% と 20.8 ポイント低く、80 歳代以上は 24.8% と 20.4 ポイント低くなっている。



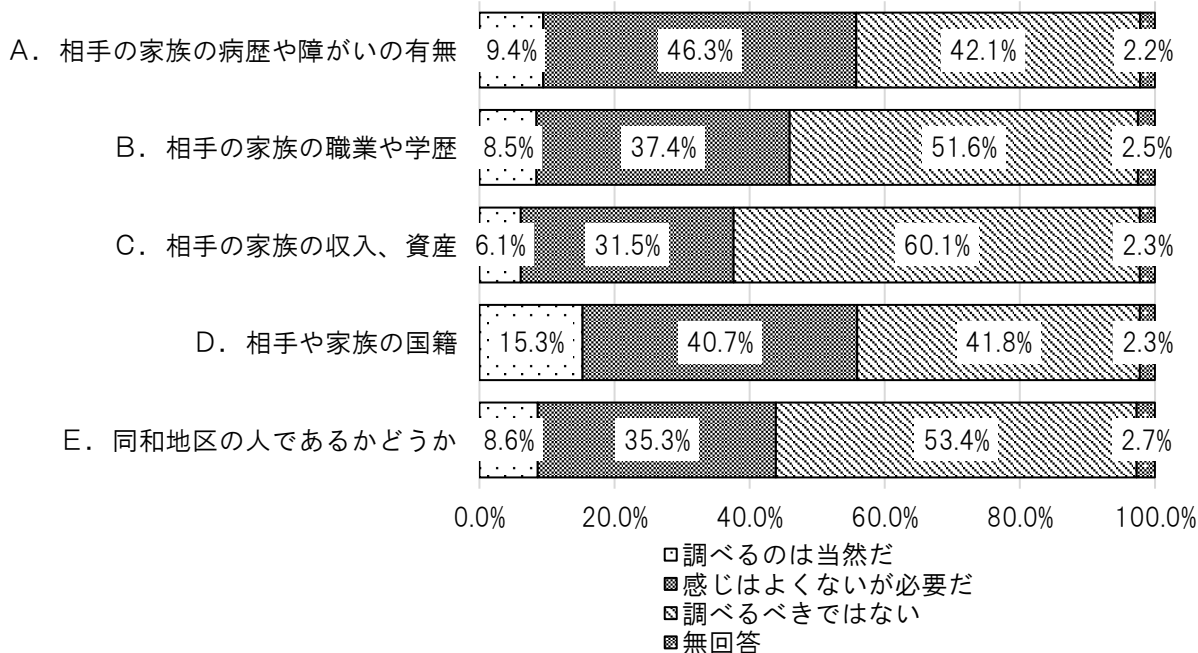
居住地では、東紀州地域は 34.4% と総数よりも 10.8 ポイント低く、伊賀地域は 38.9% と 6.3 ポイント低くなっている。

「わからない」は 27.0% となっている。

年齢では、70 歳代は 35.5% と総数よりも 8.5 ポイント高くなっている。

7 結婚(縁談)相手の調査

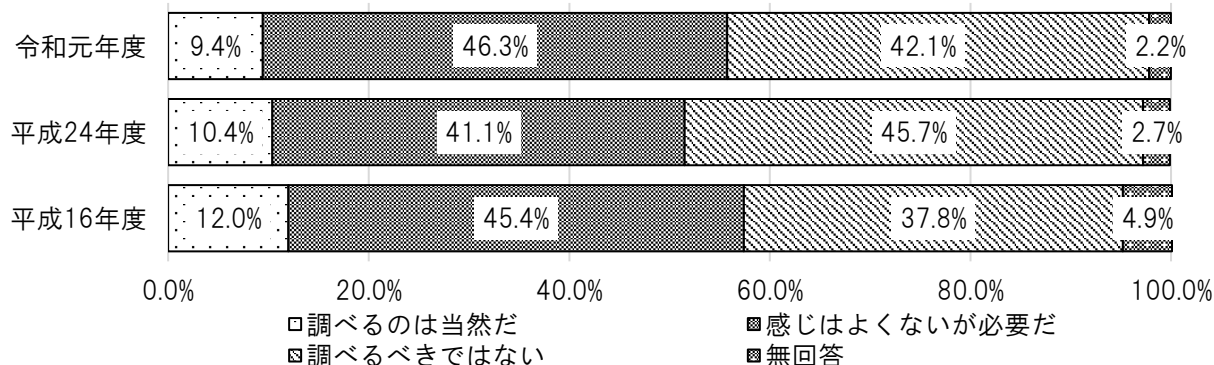
問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。



身内に結婚の話があったときに、家族が相手に気づかれないようにA～Eについて調べようとしたときに、「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」を合わせた割合は、「A. 相手の家族の病歴や障がいの有無」55.7%、「B. 相手の家族の職業や学歴」45.9%、「C. 相手の家族の収入、資産」37.6%、「D. 相手や家族の国籍」56.0%、「E. 同和地区の人であるかどうか」43.9%となっており、相手の家族の国籍が最も高く、相手の病歴や障がいの有無とともに半数を超える県民が身元調査を肯定している。

「調べるべきではない」と身元調査を否定している県民の割合で、最も高かったのは「C. 相手の家族の収入、資産」60.1%、二番目に高かったのは「E. 同和地区の人であるかどうか」53.4%、次いで「B. 相手の家族の職業や学歴」51.6%となっており、いずれも半数を超えている。

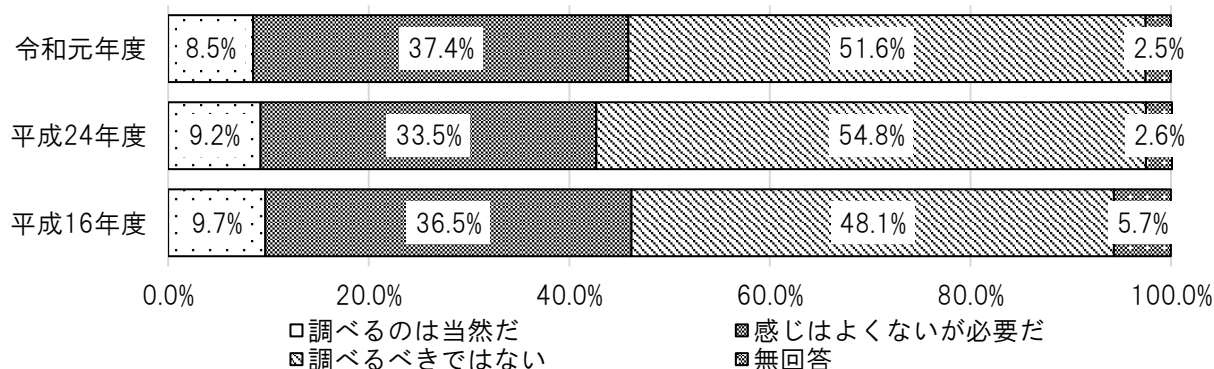
A. 相手の家族の病歴や障がいの有無



「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」を合わせた割合は 55.7%で、前回調査の 51.5%に対して 4.2 ポイント高く、平成 16 年度調査の 57.4%から 1.7 ポイント高くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 66.4%と総数よりも 10.7 ポイント高く、70 歳代は 66.1%と 10.4 ポイント高くなっている。30 歳代は 47.3%と総数よりも 8.4 ポイント低く、50 歳代は 48.8%と 6.9 ポイント低くなっている。

B. 相手の家族の職業や学歴



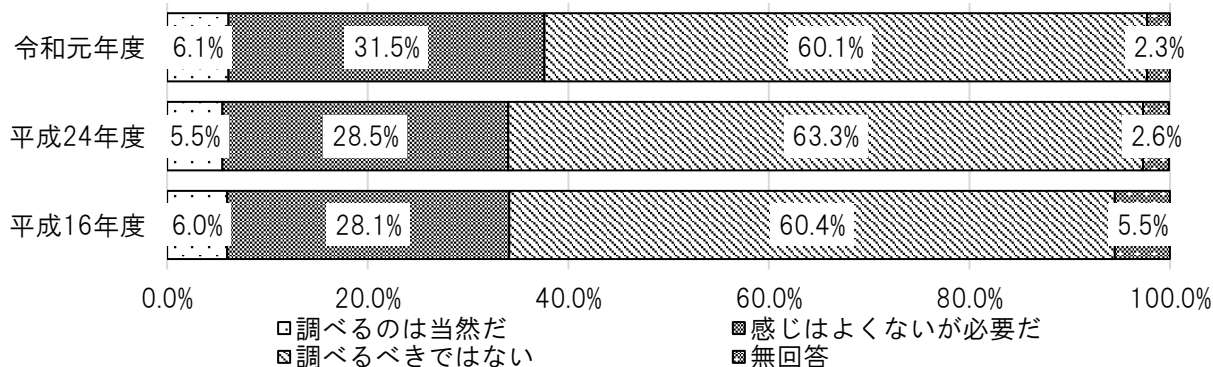
「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」を合わせた割合は 45.9%で、前回調査の 42.7%に対して 3.2 ポイント高く、平成 16 年度調査の 46.2%から 0.3 ポイント低くなっている。

性別では、男性は 49.9%と女性の 42.3%よりも 7.6 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 54.4%と総数よりも 8.5 ポイント高くなっている。60 歳代は 37.1%と総数よりも 8.8 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 51.5%と、県内で長く過ごした人の 44.4%よりも 7.1 ポイント高くなっている。

C. 相手の家族の収入、資産



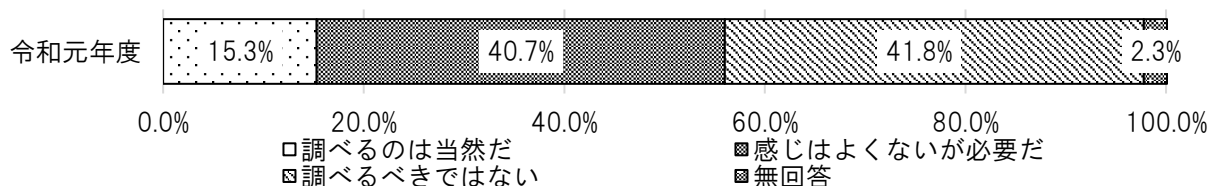
「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」を合わせた割合は 37.6%で、前回調査の 34.0%に対して 3.6 ポイント高く、平成 16 年度調査の 34.1%から 3.5 ポイント高くなっている。

性別では、男性は 40.4%と女性の 35.3%よりも 5.1 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 48.9%と総数よりも 11.3 ポイント高く、30 歳代は 44.9%と 7.3 ポイント高くなっている。60 歳代は 31.2%と総数よりも 6.4 ポイント低く、70 歳代は 32.2%と 5.4 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 43.3%と、県内で長く過ごした人の 36.2%よりも 7.1 ポイント高くなっている。

D. 相手や家族の国籍



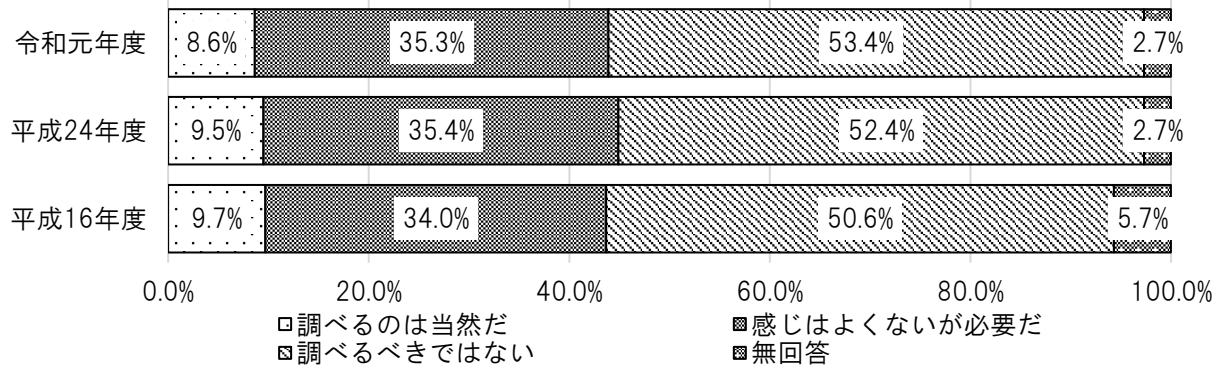
「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」を合わせた割合は 56.0%となっている。

性別では、男性は 58.7%と女性の 53.4%よりも 5.3 ポイント高くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 62.4%と総数よりも 6.4 ポイント高くなっている。20 歳代は 48.9%と総数よりも 7.1 ポイント低く、30 歳代は 49.6%と 6.4 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 49.6%と総数よりも 6.4 ポイント低くなっている。

E. 同和地区の人であるかどうか



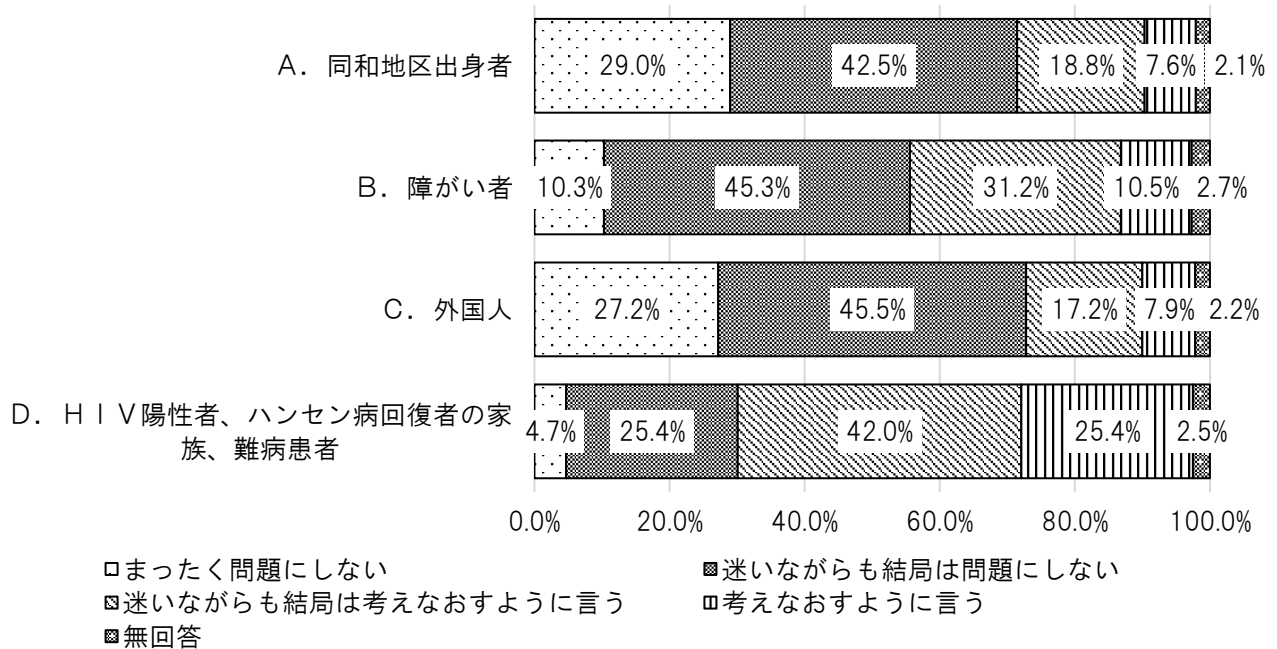
「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」を合わせた割合は 43.9%で、前回調査の 44.9%に対して 1.0 ポイント低く、平成 16 年度調査の 43.7%から 0.2 ポイント高くなっている。

性別では、男性は 47.0%と女性の 41.0%よりも 6.0 ポイント高くなっている。

年齢では、70 歳代は 49.6%と総数よりも 5.7 ポイント高くなっている。20 歳代は 22.2%と総数よりも 21.7 ポイント低く、30 歳代は 30.3%と 13.6 ポイント低くなっている。

8 結婚に対する意識

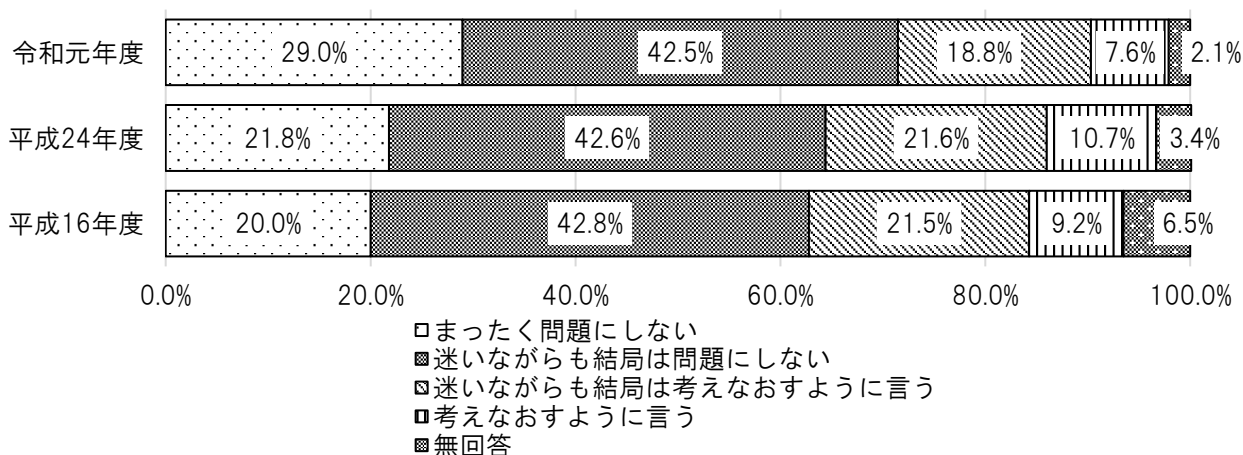
問8 もし仮に、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどのような態度をとると思いますか。



子どもの結婚相手がA～Dの人だった場合、「考えなおすように言う」「迷いながらも結局は考えなおすように言う」を合わせた割合は、「A. 同和地区出身者」26.4%、「B. 障がい者」41.7%、「C. 外国人」25.1%、「D. HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者」67.4%となっている。子どもの結婚相手が、HIV陽性者やハンセン病回復者の家族、難病患者であれば、7割近い県民は反対する態度を示し、A～Dの中で最も高くなっている。

「まったく問題にしない」「迷いながらも結局は問題にしない」を合わせた割合で、最も高かったのは「C. 外国人」72.7%、二番目に高かったのは「A. 同和地区出身者」71.5%となっており、いずれも7割を超えている。

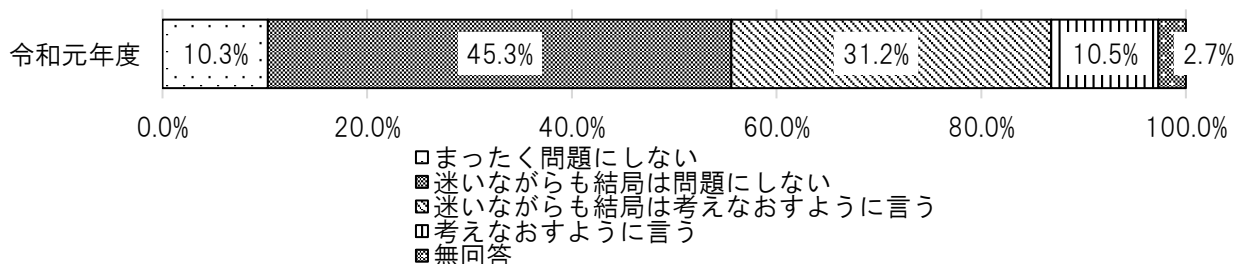
A. 同和地区出身者



「考えなおすように言う」「迷いながらも結局は考えなおすように言う」を合わせた割合は 26.4%で、前回調査の 32.3%に対して 5.9 ポイント低く、平成 16 年度調査の 30.7%より 4.3 ポイント低くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 39.6%と総数よりも 13.2 ポイント高く、60 歳代は 32.6%と 6.2 ポイント高くなっている。20 歳代は 11.1%と総数よりも 15.3 ポイント低く、30 歳代は 15.6%と 10.8 ポイント低くなっている。

B. 障がい者

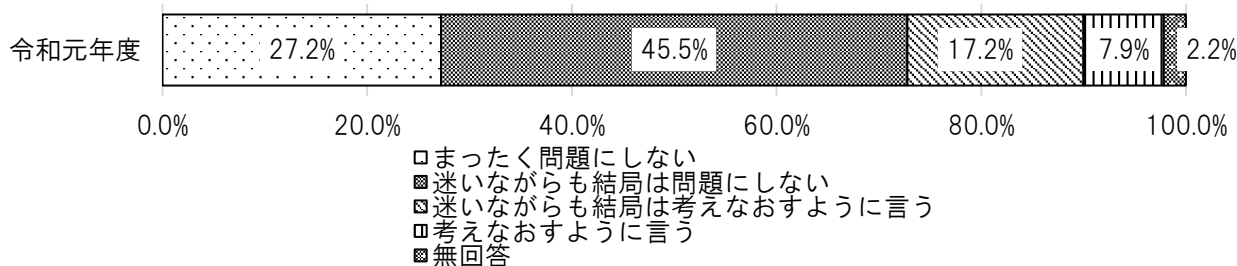


「考えなおすように言う」「迷いながらも結局は考えなおすように言う」を合わせた割合は 41.7%となっている。

年齢では、80 歳代以上は 51.5%と総数よりも 9.8 ポイント高く、70 歳代は 46.7%と 5.0 ポイント高くなっている、30 歳代は 33.3%と総数よりも 8.4 ポイント低く、20 歳代は 36.7%と 5.0 ポイント低くなっている。

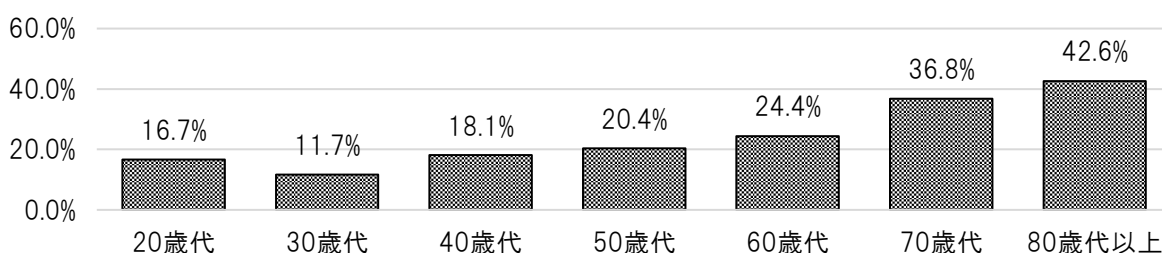
居住地域では、伊賀地域は 50.5%と総数よりも 8.8 ポイント高く、東紀州地域は 50.0%と 8.3 ポイント高くなっている。

C. 外国人



「考えなおすように言う」「迷いながらも結局は考えなおすように言う」を合わせた割合は 25.1%となっている。

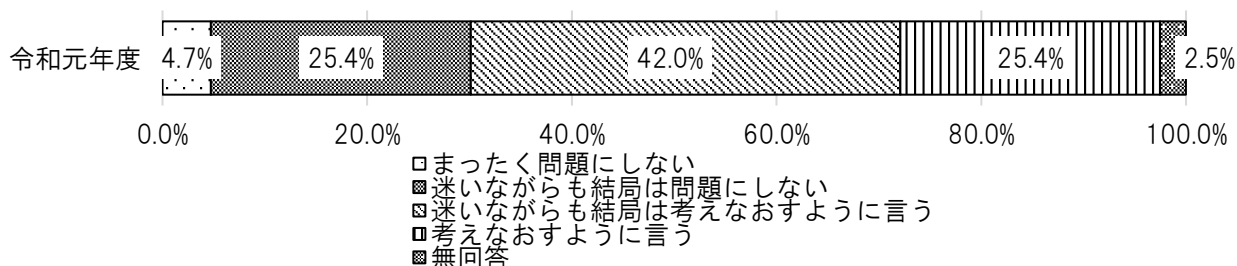
年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～40歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上低く、30歳代は 11.7%と 13.4 ポイント低くなっている。70歳代・80歳代以上は 10.0 ポイント以上高く、80歳代以上は 42.6%と 17.5 ポイント高くなっており、4割を超えている。



居住地では、伊賀地域は 32.6%と総数よりも 7.5 ポイント高く、東紀州地域は 31.2%と 6.1 ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 19.1%と、県内で長く過ごした人の 26.5%よりも 7.4 ポイント低くなっている。

D. HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者



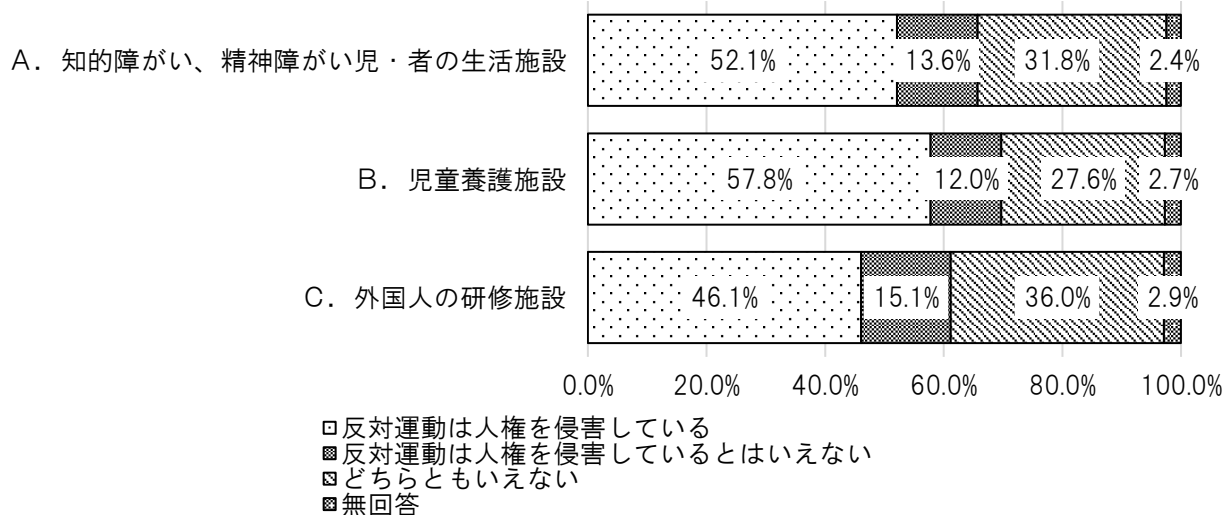
「考えなおすように言う」「迷いながらも結局は考えなおすように言う」を合わせた割合は 67.4%となっている。

年齢では、20歳以上は 51.1%と総数よりも 16.3 ポイント低くなっている。

居住地では、伊賀地域は 80.0%と総数よりも 12.6 ポイント高くなっており、8割を占めている。

9 施設建設についての意識

問9 ある市が、住宅地域の中心にA～Cのような施設の建設を計画したところ、地元の住民から反対運動が起こってきました。こうした住民の態度について、あなたはどのように思いますか。

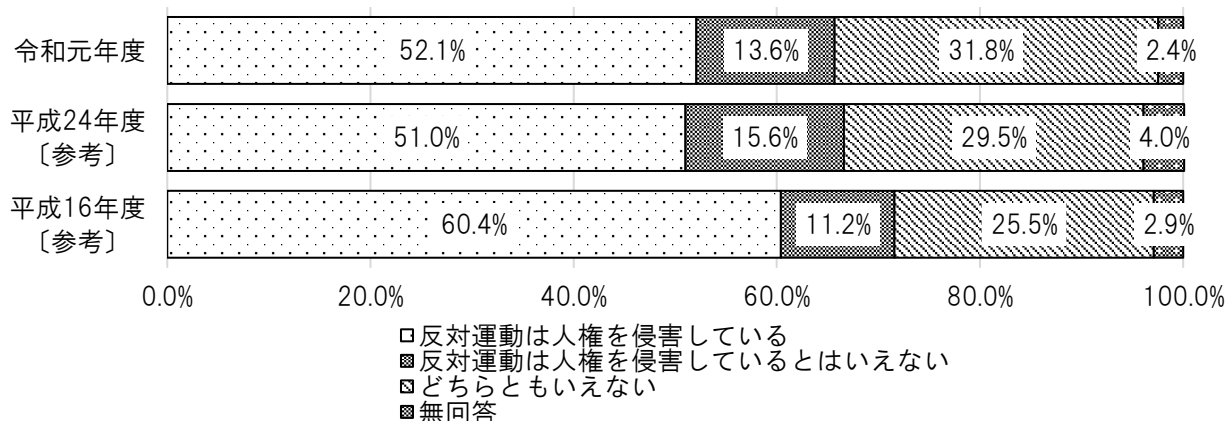


住宅地域の中心にA～Cのような施設の建設計画に対する反対運動について、「反対運動は人権を侵害しているとはいえない」は、「A. 知的障がい、精神障がい児・者の生活施設」13.6%、「B. 児童養護施設」12.0%、「C. 外国人の研修施設」15.1%となっている。反対運動を人権侵害だとはいえないと捉えている県民の割合は、外国人の研修施設が最も高くなっている。

「どちらともいえない」は、外国人の研修施設が36.0%と最も高く、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設とともに3割を超えている。

A. 知的障がい、精神障がい児・者の生活施設

〔参考：平成16・24年度〕知的障がい者のための生活施設



「反対運動は人権を侵害しているとはいえない」は13.6%で、前回調査や平成16年度調査と設問内容は違うものの、前回調査の15.6%に対して2.0ポイント低く、平成16年度調査の11.2%から2.4ポイント高くなっている。

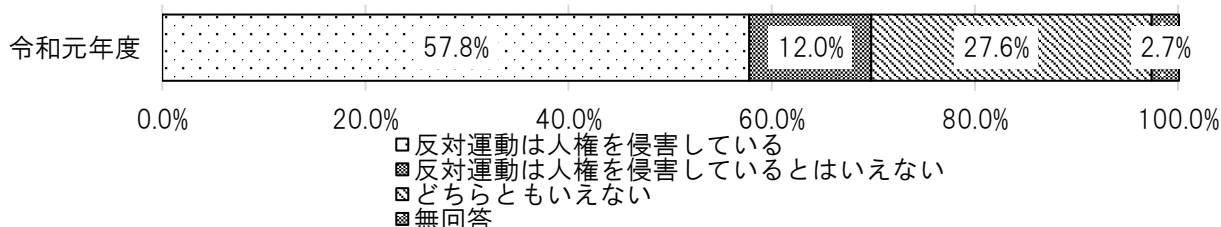
年齢では、80歳代以上は19.8%と総数よりも6.2ポイント高くなっている。

居住地域では、東紀州地域は7.8%と総数よりも5.8ポイント低くなっている。

「どちらともいえない」は31.8%で、前回調査の29.5%に対して2.3ポイント高く、平成16年度調査の25.5%から6.3ポイント高くなっている。

年齢では、70歳代は37.2%と総数よりも5.4ポイント高くなっている。40歳代は26.8%と総数よりも5.0ポイント低くなっている。

B. 児童養護施設



「反対運動は人権を侵害しているとはいえない」は12.0%となっている。

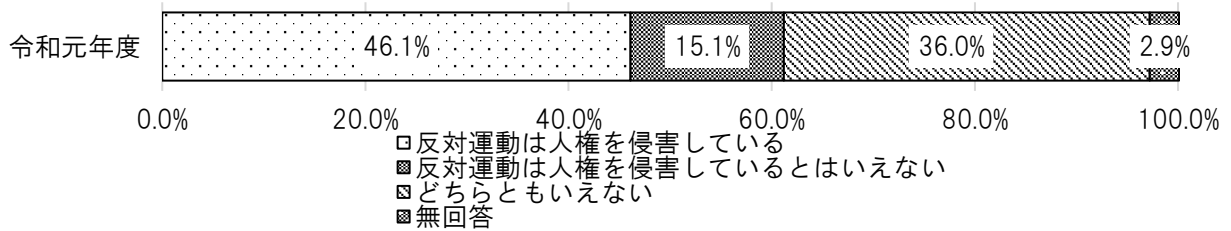
年齢では、80歳代以上は17.8%と総数よりも5.8ポイント高くなっている。

「どちらともいえない」は27.6%となっている。

年齢では、20歳代は22.2%と総数よりも5.4ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は34.4%と総数よりも6.8ポイント高くなっている。

C. 外国人の研修施設



「反対運動は人権を侵害しているとはいえない」は 15.1%となっている。

性別では、男性は 18.6%と女性の 12.1%よりも 6.5 ポイント高くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 23.8%と総数よりも 8.7 ポイント高く、20 歳代は 21.1%と 6.0 ポイント高くなっている。40 歳代は 9.8%と総数よりも 5.3 ポイント低くなっている。

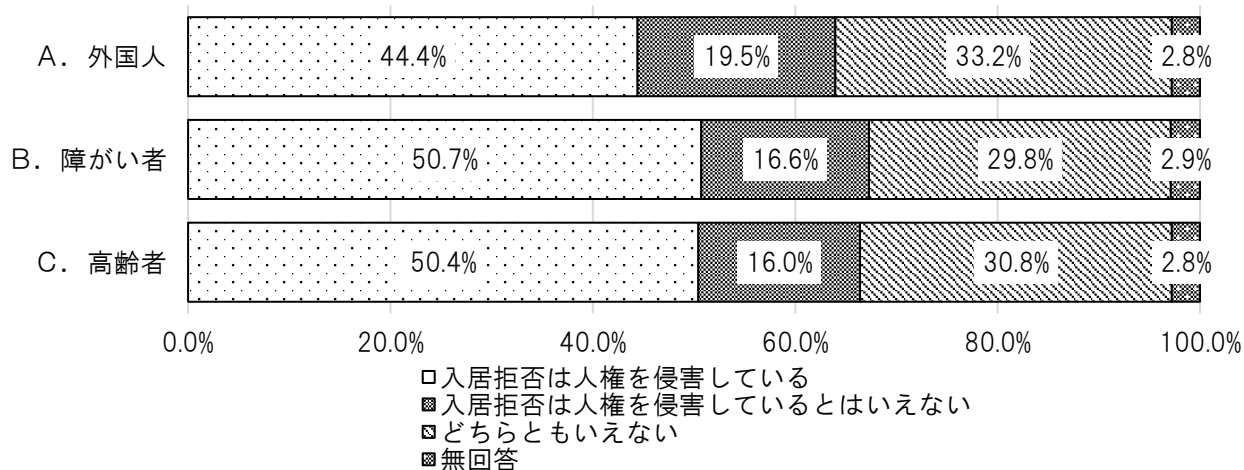
「どちらともいえない」は 36.0%となっている。

性別では、男性は 32.9%と女性の 38.5%よりも 5.6 ポイント低くなっている。

年齢では、70 歳代は 42.1%と総数よりも 6.1 ポイント高くなっている。

10 入居拒否に対する意識

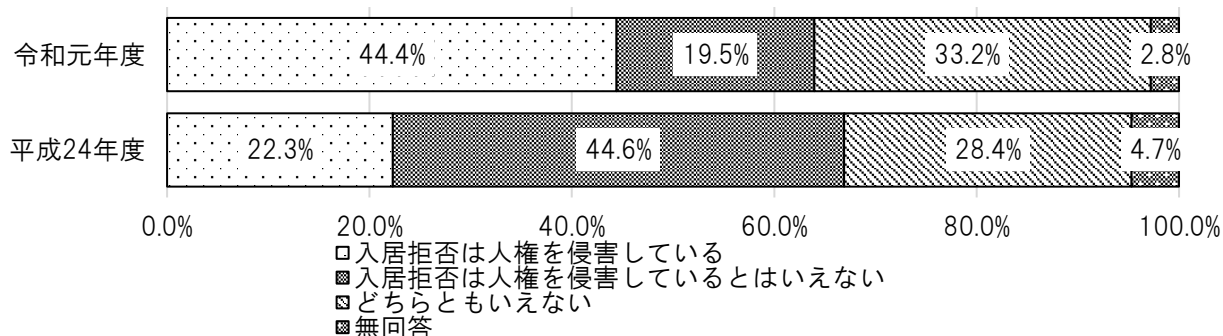
問10 家主が賃貸マンションをA～Cの人であることを理由に貸すことを断ること(入居拒否)について、あなたはどのように思いますか。



家主が賃貸マンションをA～Cの人であることを理由に入居拒否をすることに対して、「入居拒否は人権を侵害しているとはいえない」は、「A. 外国人」19.5%、「B. 障がい者」16.6%、「C. 高齢者」16.0%となっている。入居拒否は人権侵害ではないと捉えている県民の割合は、外国人が最も高くなっている。

「どちらともいえない」は、外国人が33.2%と最も高く、障がい者、高齢者とともに約3割となっている。

A. 外国人



「入居拒否は人権を侵害しているとはいえない」は 19.5%で、前回調査の 44.6%に対して 25.1 ポイント低くなっている。

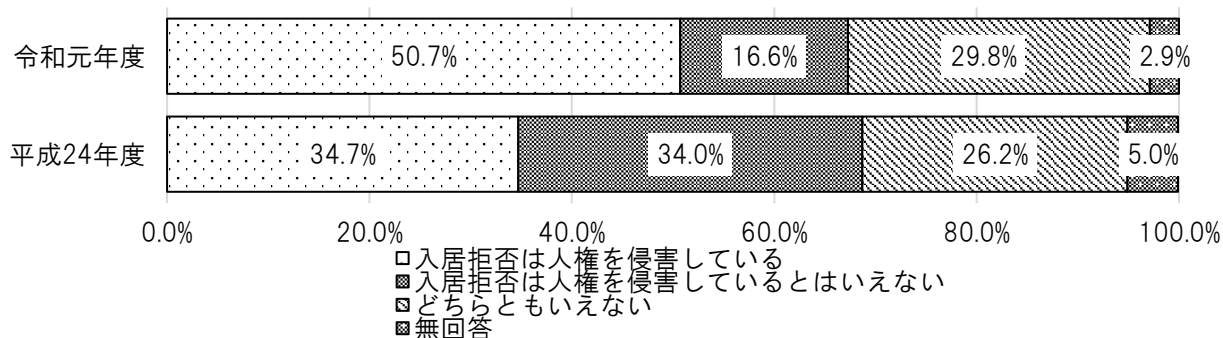
年齢では、20 歳代は 8.9%と総数よりも 10.6 ポイント低くなっている。

「どちらともいえない」は 33.2%で、前回調査の 28.4%に対して 4.8 ポイント高くなっている。

年齢では、70 歳代は 39.7%と総数よりも 6.5 ポイント高くなっている。30 歳代は 24.0%と総数よりも 9.2 ポイント低く、20 歳代は 27.8%と 5.4 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 26.4%と、県内で長く過ごした人の 34.9%よりも 8.5 ポイント低くなっている。

B. 障がい者



「入居拒否は人権を侵害しているとはいえない」は 16.6%で、前回調査の 34.0%に対して 17.4 ポイント低くなっている。

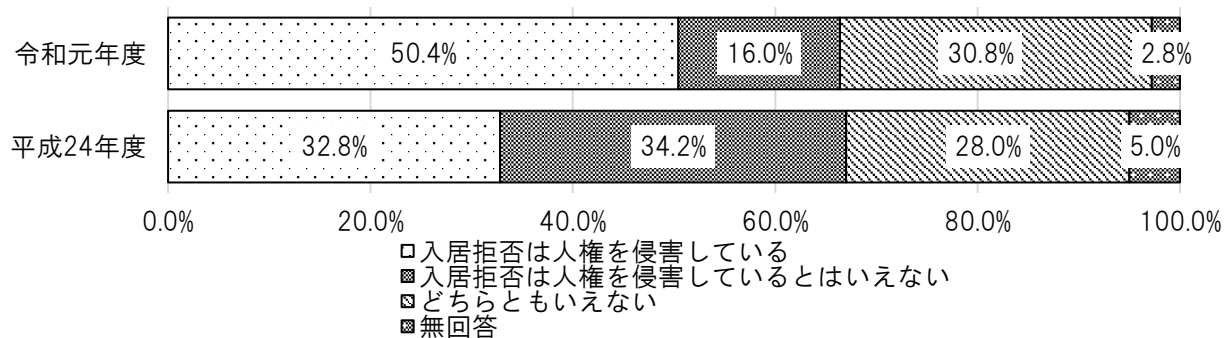
性別では、男性は 19.8%と女性の 13.7%よりも 6.1 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 11.1%と総数よりも 5.5 ポイント低くなっている。

「どちらともいえない」は 29.8%で、前回調査の 26.2%に対して 3.6 ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 22.5%と、県内で長く過ごした人の 31.6%よりも 9.1 ポイント低くなっている。

C. 高齢者



「入居拒否は人権を侵害しているとはいえない」は 16.0%で、前回調査の 34.2%に対して 18.2 ポイント低くなっている。

性別では、男性は 19.6%と女性の 12.7%よりも 6.9 ポイント高くなっている。

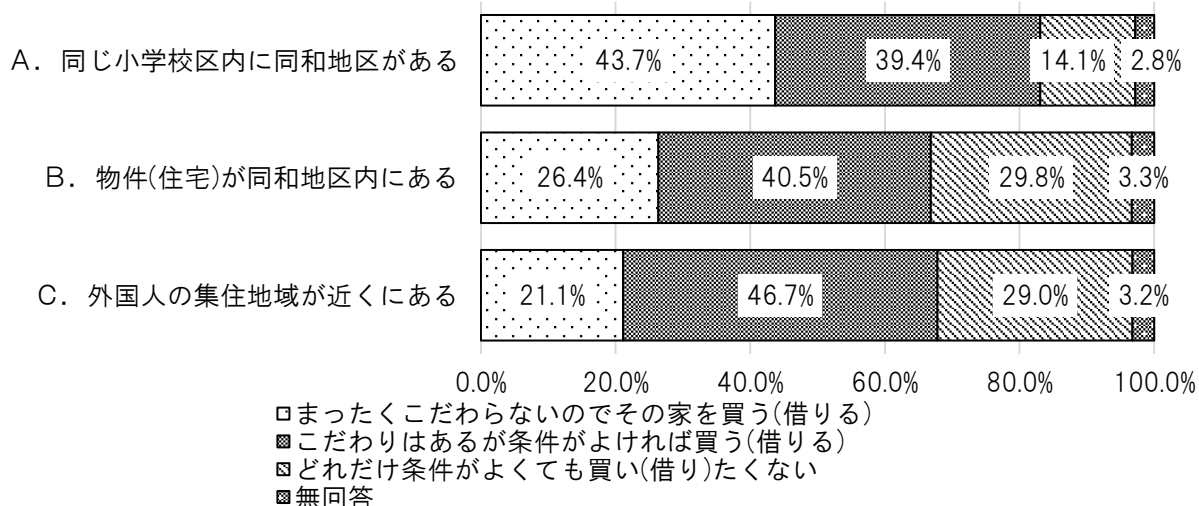
居住地域では、伊勢志摩地域は 9.1%と総数よりも 6.9 ポイント低くなっている。

「どちらともいえない」は 30.8%で、前回調査の 28.0%に対して 2.8 ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 22.5%と、県内で長く過ごした人の 33.0%よりも 10.5 ポイント低くなっている。

1 1 住居購入に対する意向

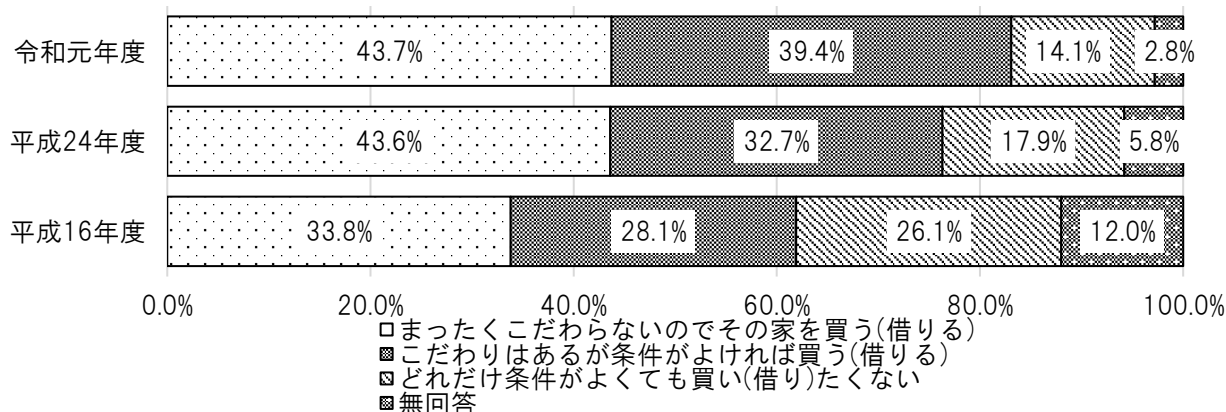
問 1 1 もし仮に、あなたが、住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くに次のような条件があることがわかった場合、あなたはどうしますか。



住宅を探している場合に、気に入った物件がA～Cの条件があることがわかったときに、「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」は、「A. 同じ小学校区内に同和地区がある」14.1%、「B. 物件(住宅)が同和地区内にある」29.8%、「C. 外国人の集住地域が近くにある」29.0%となっている。絶対的な拒絶を示す県民の割合は、同和地区内の物件と外国人の集住地域が近くにある場合で3割近くとなっている。

「こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)」は、外国人の集住地域が近くにある場合は46.7%と最も高く、同じ小学校区内に同和地区がある物件や同和地区内の物件はそれぞれ約4割となっている。

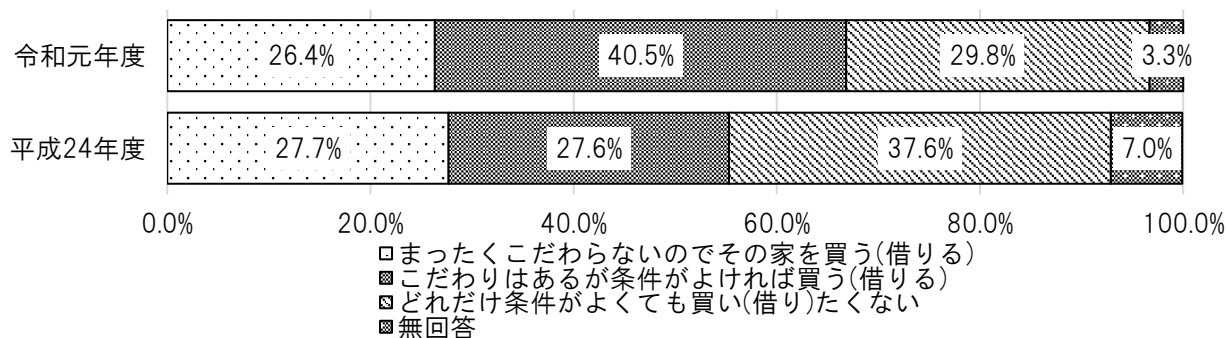
A. 同じ小学校区内に同和地区がある



「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」は 14.1%で、前回調査の 17.9%に対して 3.8 ポイント低く、平成 16 年度調査の 26.1%から 12.0 ポイント低くなっている。年齢では、20 歳代は 6.7%と総数よりも 7.4 ポイント低くなっている。

「こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)」は 39.4%で、前回調査の 32.7%に対して 6.7 ポイント高く、平成 16 年度調査の 28.1%から 11.3 ポイント高くなっている。

B. 物件(住宅)が同和地区内にある



「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」は 29.8%で、前回調査の 37.6%に対して 7.8 ポイント低くなっている。

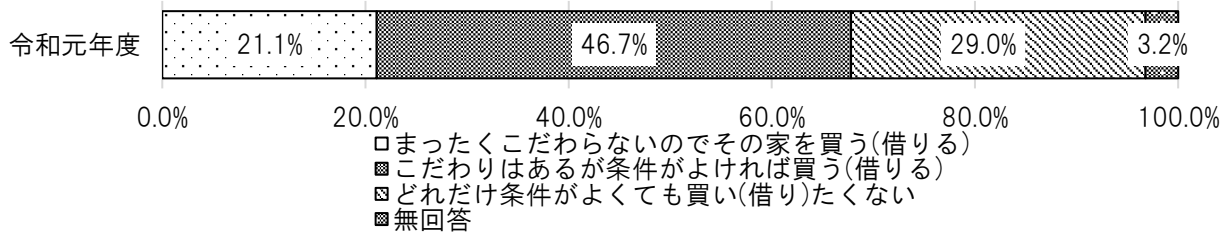
年齢では、50 歳代は 34.9%と総数よりも 5.1 ポイント高くなっている。20 歳代は 14.4%と総数よりも 15.4 ポイント低く、30 歳代は 24.8%と 5.0 ポイント低くなっている。

「こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)」は 40.5%で、前回調査の 27.6%に対して 12.9 ポイント高くなっている。

年齢では、80 歳代以上は 46.5%と総数よりも 6.0 ポイント高くなっている。50 歳代は 33.7%と総数よりも 6.8 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 48.8%と総数よりも 8.3 ポイント高くなっている。

C. 外国人の集住地域が近くにある



「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」は 29.0%となっている。

年齢では、40 歳代は 35.0%と総数よりも 6.0 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 23.8%と総数よりも 5.2 ポイント低くなっている。

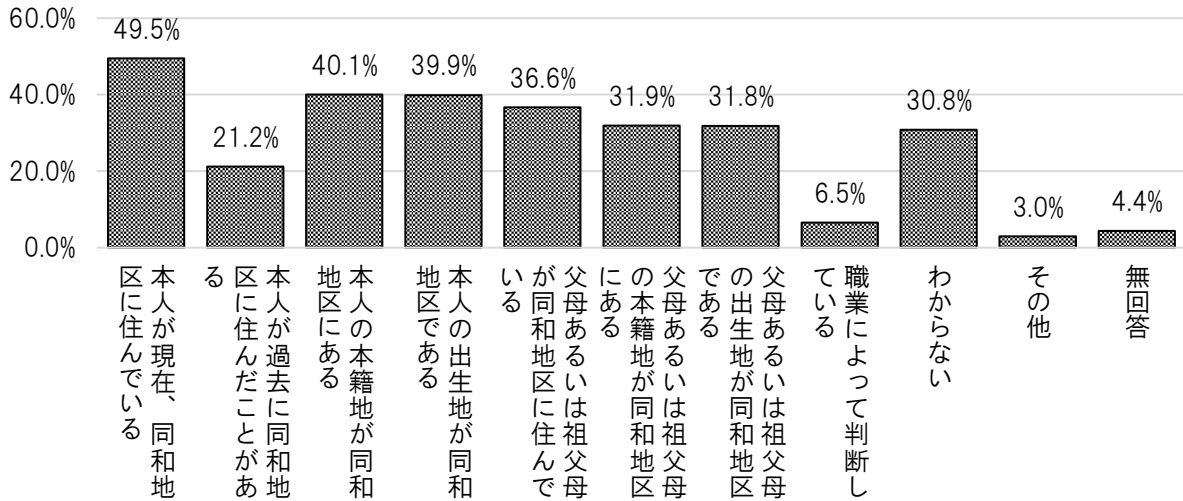
小中学生のときに県外で長く過ごした人は 24.2%と、県内で長く過ごした人の 30.1%よりも 5.9 ポイント低くなっている。

「こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)」は 46.7%となっている。

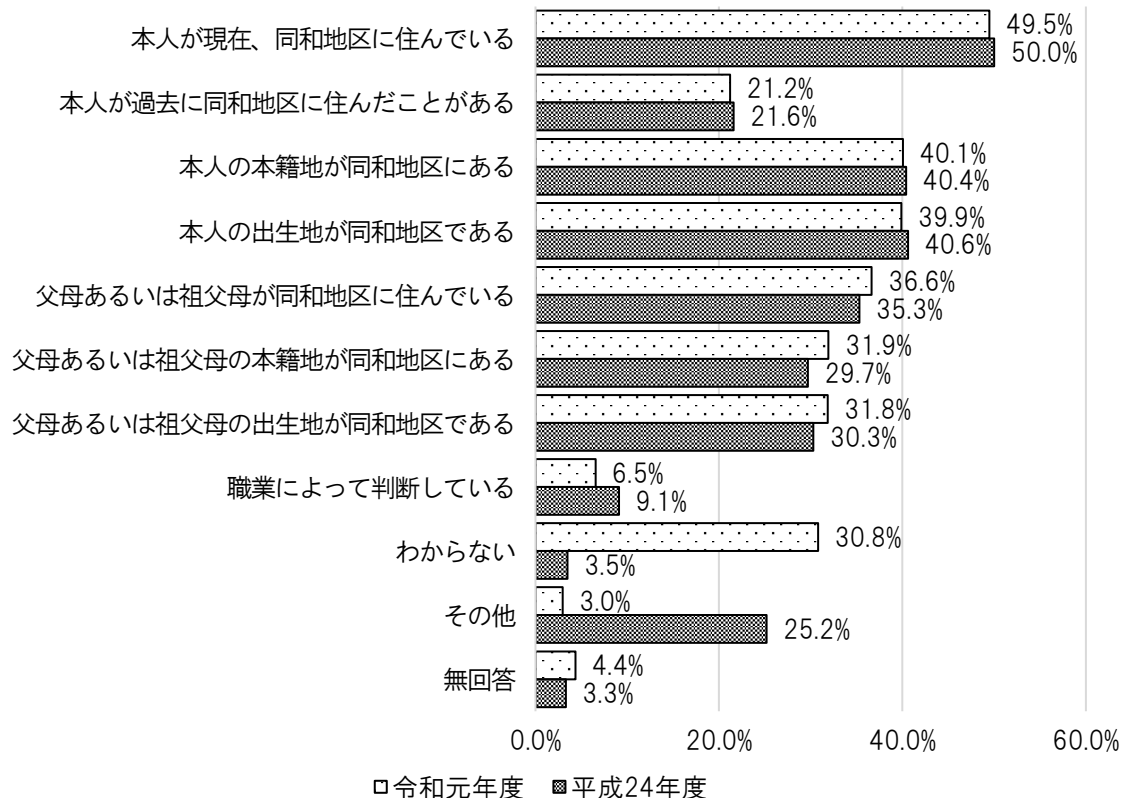
年齢では、50 歳代は 39.5%と総数よりも 7.2 ポイント低くなっている。

1 2 同和地区出身者と判断する基準

問 1 2 世間では、どのようなことで「同和地区出身者」を判断していると思いますか。



同和地区出身者の判断基準について、最も高かったのは「本人が現在、同和地区に住んでいる」49.5%で、二番目に高かったのは「本人の本籍地が同和地区にある」40.1%、次いで「本人の出生地が同和地区である」39.9%となっている。約5割の県民は、本人の居住地で判断し、約4割の県民は本人の本籍地や出生地で判断している。また、父母あるいは祖父母の居住地、本籍地、出生地で判断している県民がそれぞれ約3割を超えている。



「わからない」は30.8%で、前回調査の3.5%に対して27.3ポイント高くなっている。

【本人が現在、同和地区に住んでいる】

性別では、男性は 53.8%と女性の 46.3%よりも 7.5 ポイント高くなっている。

年齢では、50 歳代は 58.1%と総数よりも 8.6 ポイント高く、40 歳代は 55.7%と 6.2 ポイント高くなっている。70 歳代は 40.9%と総数よりも 8.6 ポイント低く、20 歳代は 44.4%と 5.1 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 58.7%と総数よりも 9.2 ポイント高くなっている。東紀州地域は 42.2%と総数よりも 7.3 ポイント低くなっている。

【本人の本籍地が同和地区にある】

性別では、男性は 43.6%と女性の 37.4%よりも 6.2 ポイント高くなっている。

年齢では、50 歳代は 46.5%と総数よりも 6.4 ポイント高く、40 歳代は 46.4%と 6.3 ポイント高く、60 歳代は 45.7%と 5.6 ポイント高くなっている。70 歳代は 31.0%と総数よりも 9.1 ポイント低く、20 歳代は 33.3%と 6.8 ポイント低くなっている。

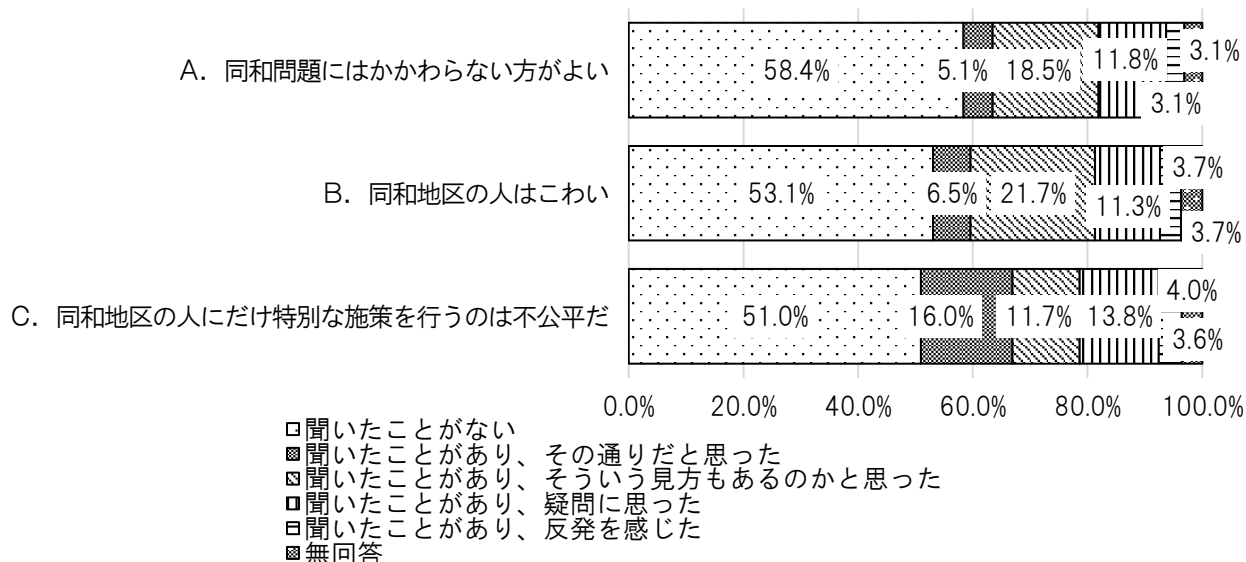
【本人の出生地が同和地区である】

性別では、男性は 42.9%と女性の 37.9%よりも 5.0 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 47.8%と総数よりも 7.9 ポイント高く、50 歳代は 46.5%と 6.6 ポイント高く、60 歳代は 46.2%と 6.3 ポイント高くなっている。70 歳代は 27.7%と総数よりも 12.2 ポイント低く、80 歳代以上は 33.7%と 6.2 ポイント低くなっている。

1 3 同和問題についての偏見の流布と受容

問 1 3 - 1 最近 5 年間で、あなたは同和問題(部落差別)について次のようなことを聞いたことがありますか。

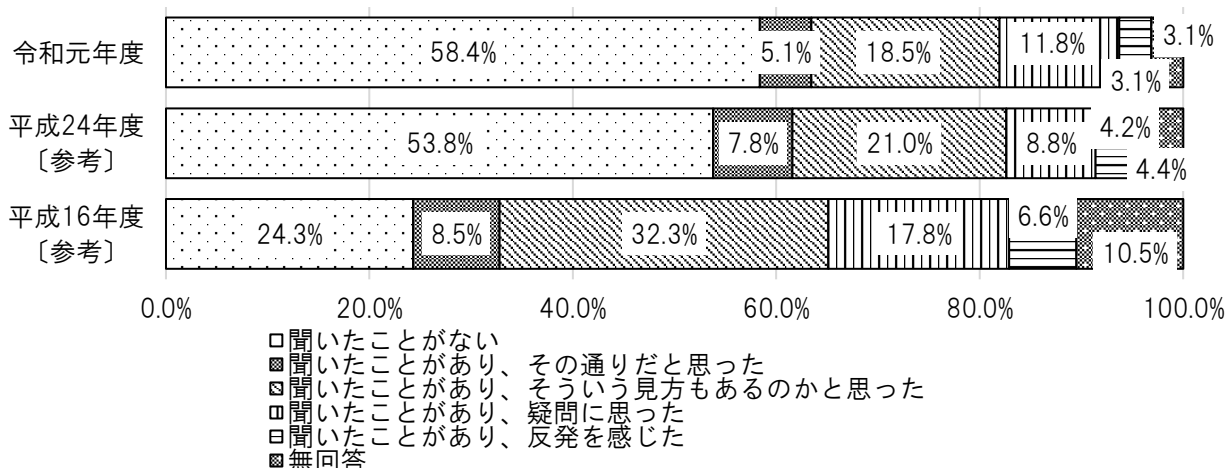


同和問題についての偏見について、「聞いたことがあり、その通りだと思った」「聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った」「聞いたことがあり、疑問に思った」「聞いたことがあり、反発を感じた」を合わせた割合は、「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」38.5%、「B. 同和地区の人はこわい」43.2%、「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」45.5%となっている。最近 5 年間で、同和問題についての偏見を聞いている県民の割合は、「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」が最も高く、「B. 同和地区の人はこわい」とともに 4 割を超えている。

同和問題についての偏見を聞いたときに、「その通りだと思った」「そういう見方もあるのかと思った」を合わせた割合は、「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」23.6%、「B. 同和地区の人はこわい」28.2%、「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」27.7%となっている。「疑問に思った」「反発を感じた」を合わせた割合は、「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」14.9%、「B. 同和地区の人はこわい」15.0%、「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」17.8%となっている。A～Cの偏見を否定している県民の割合よりも、肯定している県民の割合が高くなっている。

A. 同和問題にはかかわらない方がよい

〔参考：平成 16・24 年度〕 選択肢に「聞いたことがあります」という言葉は含んでいない



「聞いたことがあります、その通りだと思った」「聞いたことがあります、そういう見方もあるのかと思った」「聞いたことがあります、疑問に思った」「聞いたことがあります、反発を感じた」を合わせた割合は 38.5%で、前回調査の 41.8%に対して 3.3 ポイント低く、平成 16 年度調査の 65.2%から 26.7 ポイント低くなっている。

性別では、男性は 41.3%と女性の 36.3%よりも 5.0 ポイント高くなっている。

年齢では、70 歳代は 47.5%と総数よりも 9.0 ポイント高くなっている。30 歳代は 26.4%と総数よりも 12.1 ポイント低く、20 歳代は 28.9%と 9.6 ポイント低く、40 歳代は 31.7%と 6.8 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 29.7%と総数よりも 8.8 ポイント低くなっている。

同和問題についての偏見を聞いたときに、「その通りだと思った」「そういう見方もあるのかと思った」を合わせた割合は 23.6%で、前回調査の 28.8%に対して 5.2 ポイント低く、平成 16 年度調査の 40.8%から 17.2 ポイント低くなっている。

性別では、男性は 26.7%と女性の 21.1%よりも 5.6 ポイント高くなっている。

年齢では、20 歳代は 12.2%と総数よりも 11.4 ポイント低く、30 歳代は 17.8%と 5.8 ポイント低くなっている。

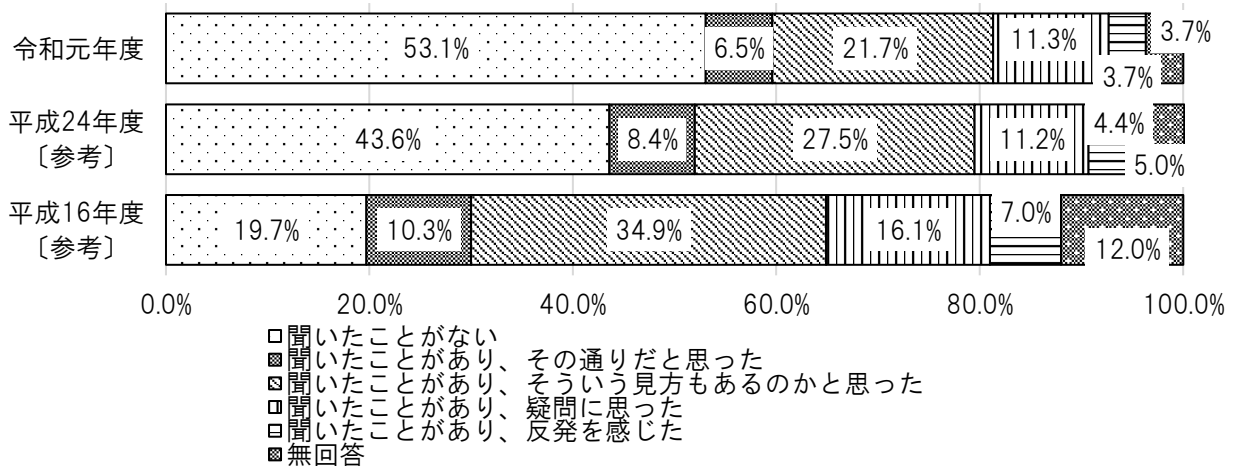
「疑問に思った」「反発を感じた」を合わせた割合は 14.9%で、前回調査の 13.0%に対して 1.9 ポイント高く、平成 16 年度調査の 24.4%から 9.5 ポイント低くなっている。

年齢では、30 歳代は 8.6%と総数よりも 6.3 ポイント低く、40 歳代は 9.8%と 5.1 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は 20.0%と総数よりも 5.1 ポイント高くなっている。東紀州地域は 6.3%と総数よりも 8.6 ポイント低くなっている。

B. 同和地区の人はこわい

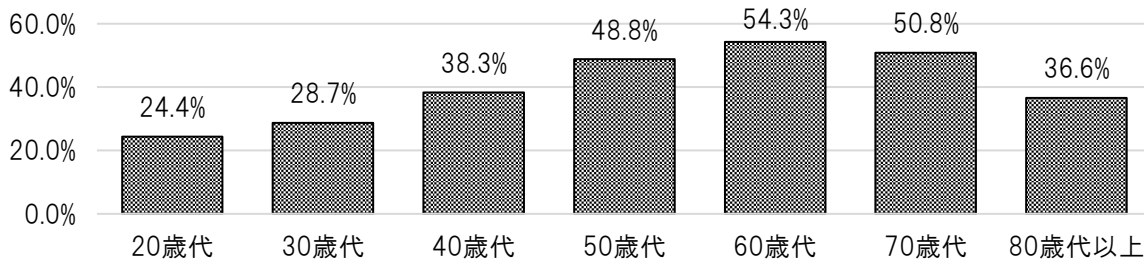
〔参考：平成 16・24 年度〕 選択肢に「聞いたことがあり」という言葉は含んでいない



「聞いたことがあり、その通りだと思った」「聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った」「聞いたことがあり、疑問に思った」「聞いたことがあり、反発を感じた」を合わせた割合は 43.2%で、前回調査の 51.5%に対して 8.2 ポイント低く、平成 16 年度調査の 68.3%から 25.0 ポイント低くなっている。

性別では、男性は 46.8%と女性の 40.6%よりも 6.2 ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、50 歳代～70 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、60 歳代は 54.3%と 11.0 ポイント高くなっており、半数を超えている。20 歳代～40 歳代・80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上低く、20 歳代・30 歳代は 3 割を切っている。20 歳代は 24.4%と 18.9 ポイント低く、30 歳代は 28.7%と 14.6 ポイント低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は 53.7%と総数よりも 10.4 ポイント高く、伊勢志摩地域は 51.2%と 7.9 ポイント高くなっている。東紀州地域は 34.3%と総数よりも 9.0 ポイント低くなっている。

同和问题についての偏見を聞いたときに、「その通りだと思った」「そういう見方もあるのかと思った」を合わせた割合は 28.2%で、前回調査の 35.9%に対して 7.7 ポイント低く、平成 16 年度調査の 45.2%から 17.0 ポイント低くなっている。

年齢では、50 歳代は 33.7%と総数よりも 5.5 ポイント高くなっている。20 歳代は 13.3%と総数よりも 14.9 ポイント低く、30 歳代は 20.9%と 7.3 ポイント低く、80 歳代以上は 22.7%と 5.5 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は 33.7%と総数よりも 5.5 ポイント高くなっている。

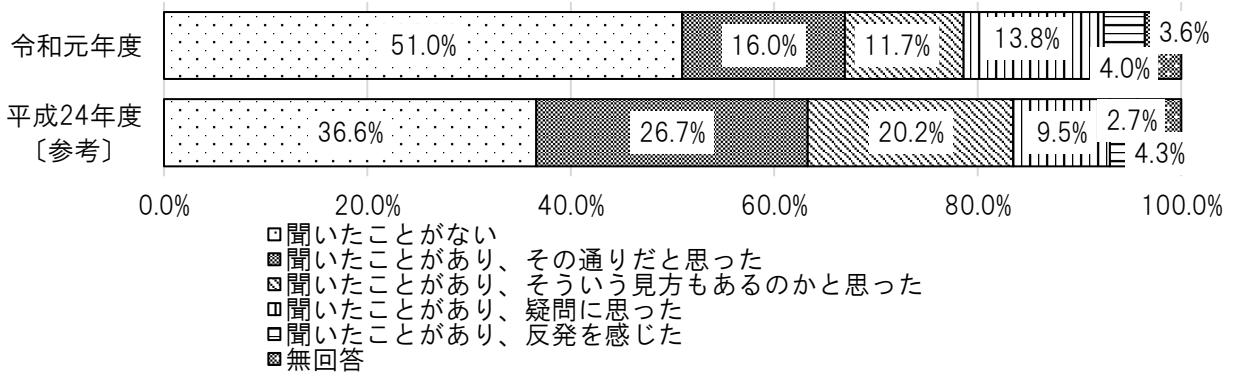
「疑問に思った」「反発を感じた」を合わせた割合は 15.0%で、前回調査の 15.6%に対して 0.6 ポイント低く、平成 16 年度調査の 23.1%から 8.1 ポイント低くなっている。

年齢では、60 歳代は 21.3%と総数よりも 6.3 ポイント高くなっている。30 歳代は 7.8%と総数よりも 7.2 ポイント低く、40 歳代は 8.8%と 6.2 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は 20.0%と総数よりも 5.0 ポイント高くなっている。東紀州地域は 9.4%と総数よりも 5.6 ポイント低くなっている。

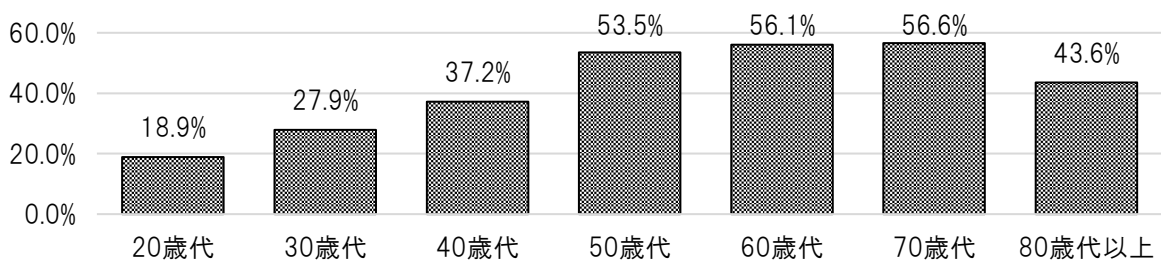
C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

〔参考：平成 24 年度〕 行政が同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ
 選択肢に「聞いたことがあります」という言葉は含んでいない



「聞いたことがあります、その通りだと思った」「聞いたことがあります、そういう見方もあるのかと思った」「聞いたことがあります、疑問に思った」「聞いたことがあります、反発を感じた」を合わせた割合は 45.5%で、前回調査の 59.1%に対して 13.6 ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、50 歳代～70 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、半数を超えている。70 歳代は 56.6%と 11.1 ポイント高く、60 歳代は 56.1%と 10.6 ポイント高くなっている。20 歳代～40 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上低く、20 歳代は 18.9%と 26.6 ポイント低くなっており、2 割を切っている。



居住地域では、伊賀地域は 58.9%と総数よりも 13.4 ポイント高く、伊勢志摩地域は 51.2%と 5.7 ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 41.6%と、県内で長く過ごした人の 46.7%よりも 5.1 ポイント低くなっている。

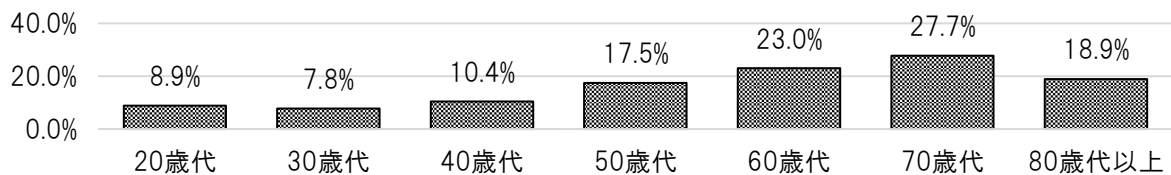
同和問題についての偏見やマイナスの情報を聞いたときに、「その通りだと思った」「そういう見方もあるのかと思った」を合わせた割合は 27.7%で、前回調査の 46.9%に対して 19.2 ポイント低くなっている。

年齢では、50 歳代は 36.0%と総数よりも 8.3 ポイント高く、60 歳代は 33.1%と 5.4 ポイント高くなっている。20 歳代は 10.0%と総数よりも 17.7 ポイント低く、30 歳代は 20.1%と 7.6 ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は 33.9%と総数よりも 6.2 ポイント高くなっている。

「疑問に思った」「反発を感じた」を合わせた割合は 17.8%で、前回調査の 12.2%に対して 5.6 ポイント高くなっている。

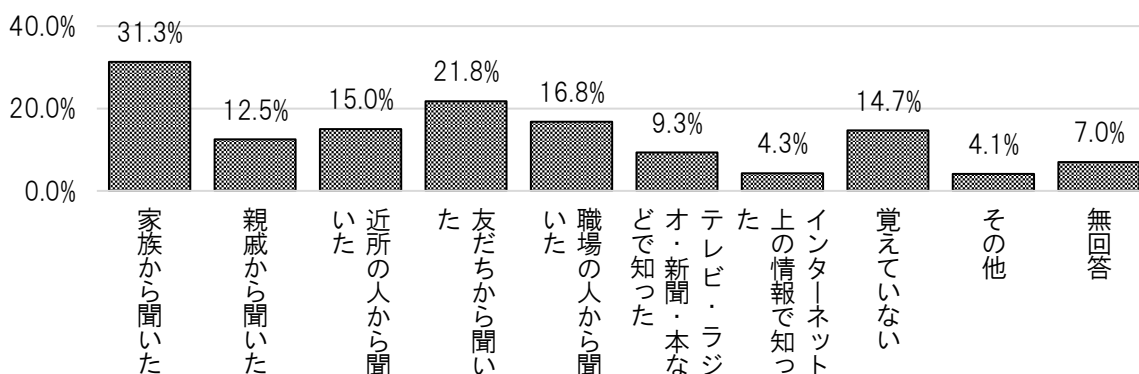
年齢では、以下のグラフのとおり、60 歳代・70 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高く、2 割を超えている。20 歳代～40 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は 28.4%と総数よりも 10.6 ポイント高くなっている。

問13-2 問13-1で2~5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。

A. 同和問題にはかかわらない方がよい

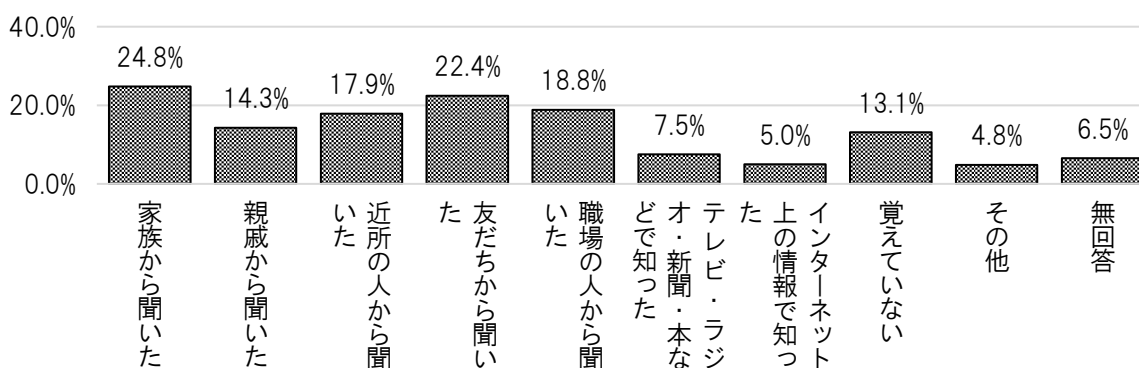


同和問題についての偏見やマイナスの情報を誰から聞いたかの「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」で、最も高かったのは「家族から聞いた」31.3%、二番目に高かったのは「友だちから聞いた」21.8%、次いで「近所の人から聞いた」15.0%となっている。

年齢で見ると、20歳代~70歳代は「家族から聞いた」、80歳代以上は「家族から聞いた」「友だちから聞いた」が最も高くなっている。

二番目に高かったものをみると、20歳代は「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」「インターネット上の情報で知った」、30歳代は「親戚から聞いた」「近所の人から聞いた」「インターネット上の情報で知った」、40歳代は「職場の人から聞いた」、50歳代~70歳代は「友だちから聞いた」、80歳代以上は「親戚から聞いた」となっている。

B. 同和地区の人はこわい

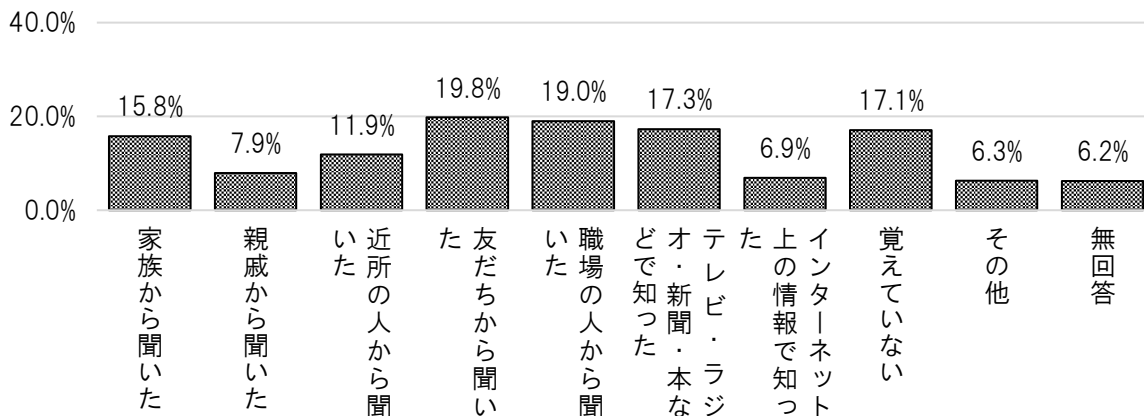


同和問題についての偏見やマイナスの情報を誰から聞いたかの「B. 同和地区の人はこわい」で、最も高かったのは「家族から聞いた」24.8%、二番目に高かったのは「友だちから聞いた」22.4%、次いで「近所の人から聞いた」17.9%となっている。

年齢で見ると、20歳代~40歳代・60歳代は「家族から聞いた」、50歳代は「職場の人から聞いた」、70歳代・80歳代以上は「友だちから聞いた」が最も高くなっている。

二番目に高かったものをみると、20歳代・30歳代は「インターネット上の情報で知った」、40歳代は「友だちから聞いた」「職場の人から聞いた」、60歳代~80歳代以上は「近所の人から聞いた」となっている。

C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ



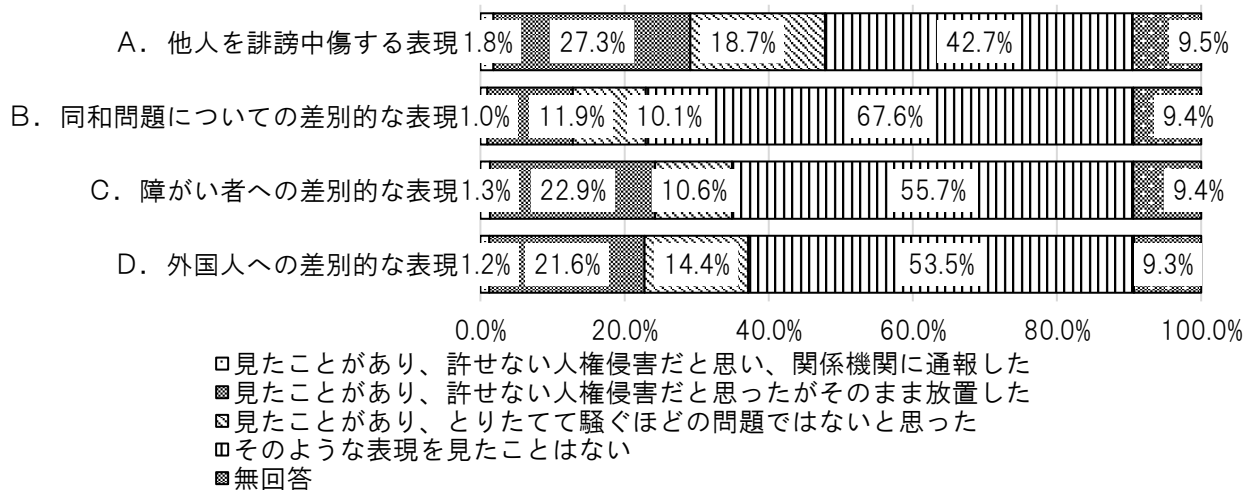
同和問題についての偏見やマイナスの情報を誰から聞いたかの「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」で、最も高かったのは「友だちから聞いた」19.8%、二番目に高かったのは「職場の人から聞いた」19.0%、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」17.3%となっている。

年齢で見ると、20歳代・50歳代は「職場の人から聞いた」、30歳代・40歳代は「家族から聞いた」、60歳代は「職場の人から聞いた」「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」、70歳代は「友だちから聞いた」、80歳代以上は「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」が最も高くなっている。

二番目に高かったものをみると、20歳代・70歳代は「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」、30歳代は「インターネット上の情報で知った」、40歳代は「親戚から聞いた」、50歳代・60歳代は「友だちから聞いた」、80歳代以上は「近所の人から聞いた」「友だちから聞いた」「職場の人から聞いた」となっている。

1 4 インターネット上の人権侵害

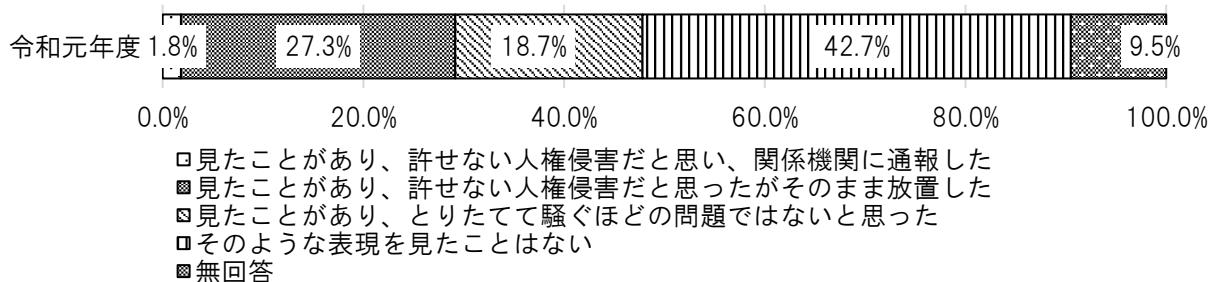
問 1 4 あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか。



インターネット上で、A～Dのような表現を見たことがあるかどうかについて、「見たことあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」「見たことあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った」を合わせた割合は、「A. 他人を誹謗中傷する表現」47.8%、「B. 同和問題についての差別的な表現」22.9%、「C. 障がい者への差別的な表現」34.8%、「D. 外国人への差別的な表現」37.2%となっている。他人を誹謗中傷する表現は半数近くを占めており、A～Dの中で最も高くなっている。障がい者、外国人への差別的な表現は3割を超えている。同和問題についての差別的な表現は約2割となっている。

許せない人権侵害と認識している「見たことあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合で、最も高かったのは「A. 他人を誹謗中傷する表現」29.1%、二番目に高かったのは「C. 障がい者への差別的な表現」24.2%、次いで「D. 外国人への差別的な表現」22.8%となっている。とりたてて騒ぐほどの問題ではないと認識している県民よりも、許せない人権侵害と認識している県民の割合が高くなっているもののA～Dまでそれぞれ1割以上の県民は人権侵害と認識していない。また、関係機関に通報した県民の割合はA～Dの中で最も高いものでも1.8%となっている。

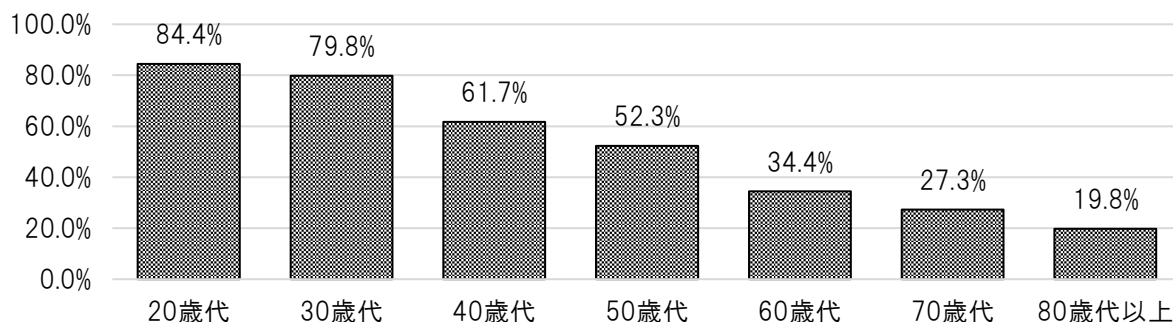
A. 他人を誹謗中傷する表現



「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」「見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った」を合わせた割合は 47.8% となっている。

性別では、男性は 50.9% と女性の 45.2% よりも 5.7 ポイント高くなっている。

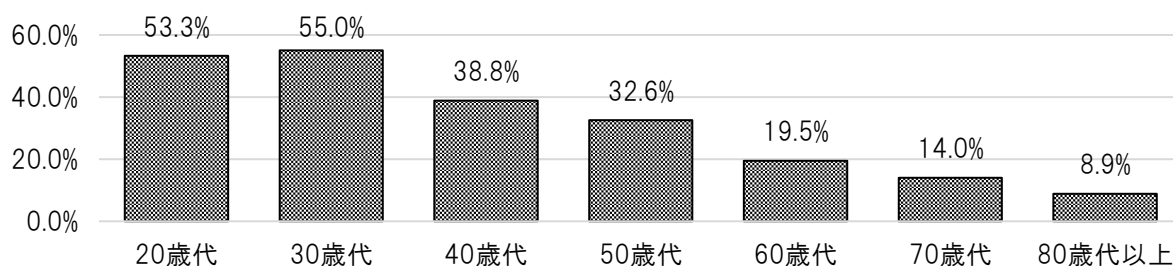
年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～40 歳代は総数よりも 10.0 ポイント以上高く、20 歳代は 84.4% と 36.6 ポイント高く、30 歳代は 79.8% と 32.0 ポイント高くなっており、7 割を超えている。60 歳代～80 歳代以上は総数よりも 10.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、北勢地域は 55.3% と総数よりも 7.5 ポイント高くなっている。東紀州地域は 28.1% と総数よりも 19.7 ポイント低く、中南勢地域は 42.8% と 5.0 ポイント低くなっている。

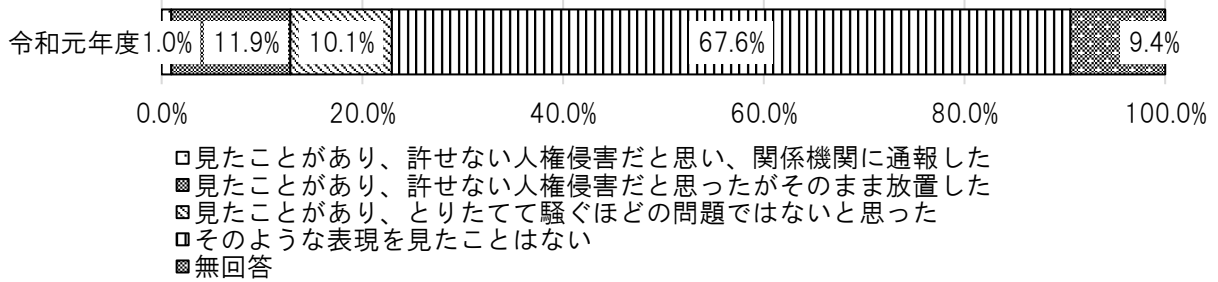
許せない人権侵害と認識している「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合は 29.1% となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代・30 歳代は総数よりも 20.0 ポイント以上高く、30 歳代は 55.0% と 25.9 ポイント高く、20 歳代は 53.3% と 24.2 ポイント高くなっており、半数を超えている。40 歳代は 38.8% と総数よりも 9.7 ポイント高くなっている。60 歳代～80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、東紀州地域は 21.9% と総数よりも 7.2 ポイント低くなっている。

B. 同和問題についての差別的な表現



「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」「見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った」を合わせた割合は 22.9%となっている。

性別では、男性は 30.5%と女性の 17.0%よりも 13.5 ポイント高くなっている。

年齢では、50 歳代は 29.1%と総数よりも 6.2 ポイント高くなっている。80 歳代以上は 13.9%と総数よりも 9.0 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 12.5%と総数よりも 10.4 ポイント低くなっている。

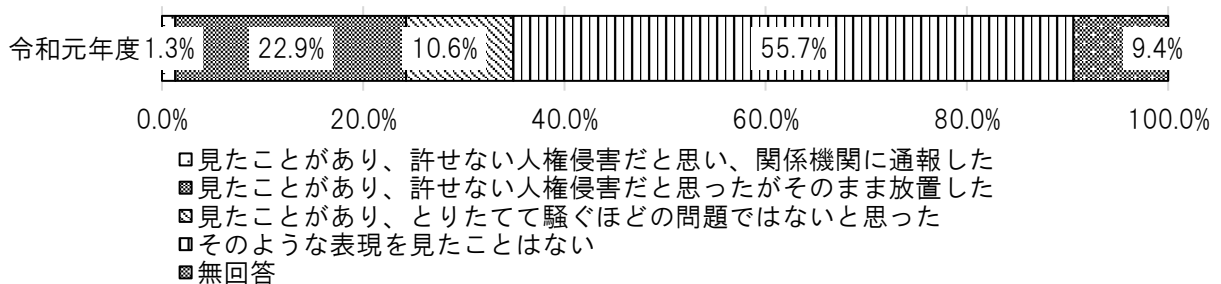
許せない人権侵害と認識している「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合は 12.9%となっている。

性別では、男性は 17.0%と女性の 9.5%よりも 7.5 ポイント高くなっている。

年齢では、30 歳代・50 歳代はともに 18.6%と総数よりも 5.7 ポイント高くなっている。80 歳以上は 5.0%と総数よりも 7.9 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 3.1%と総数よりも 9.8 ポイント低くなっている。

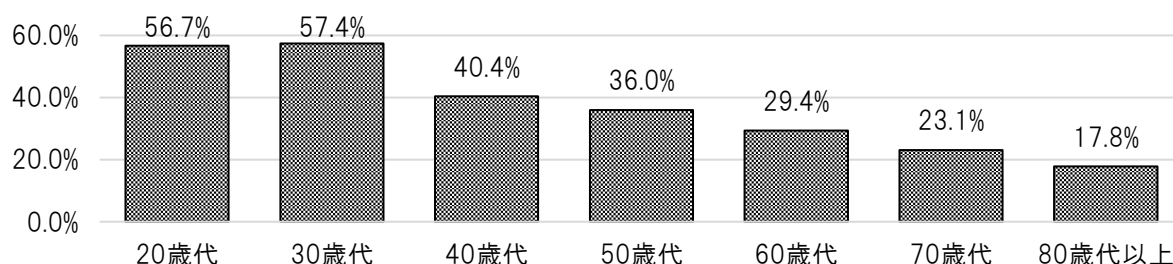
C. 障がい者への差別的な表現



「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」「見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った」を合わせた割合は 34.9%となっている。

性別では、男性は 39.3%と女性の 31.7%よりも 7.6 ポイント高くなっている。

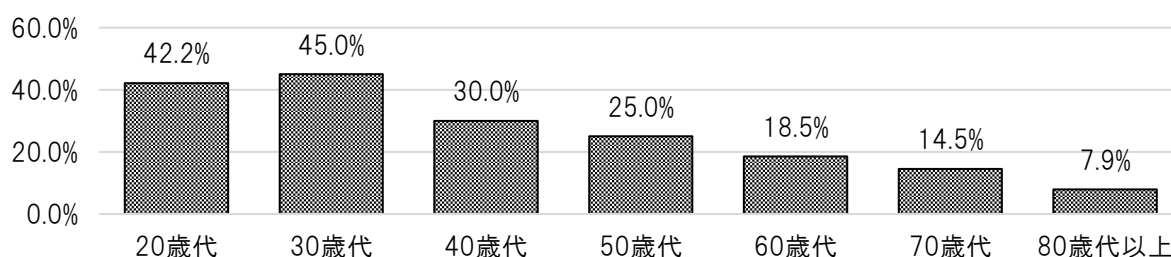
年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代・30歳代は総数よりも20.0ポイント以上高く、30歳代は57.4%と22.5ポイント高く、20歳代は56.7%と21.8ポイント高くなっており、半数を超えている。40歳代は40.4%と総数よりも5.5ポイント高くなっている。60歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地では、東紀州地域は28.1%と総数よりも6.8ポイント低くなっている。

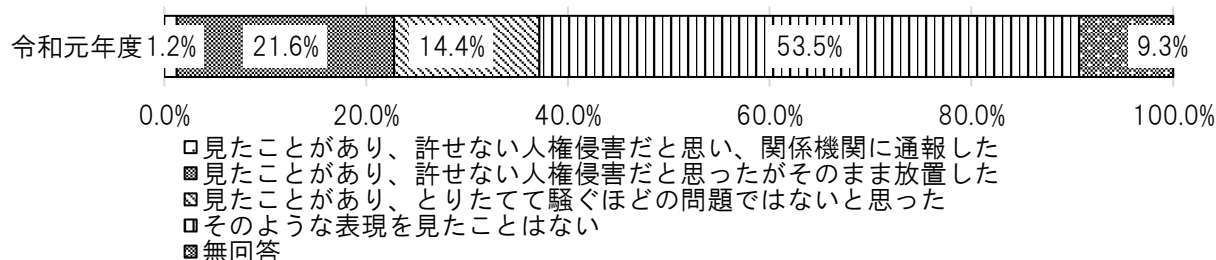
許せない人権侵害と認識している「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合は24.2%となっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代・30歳代は総数よりも15.0ポイント以上高く、30歳代は45.0%と20.8ポイント、20歳代は42.2%と18.0ポイント高くなっており、4割を超えている。40歳代は30.0%と総数よりも5.8ポイント高くなっている。60歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地では、東紀州地域は17.2%と総数よりも7.0ポイント低くなっている。

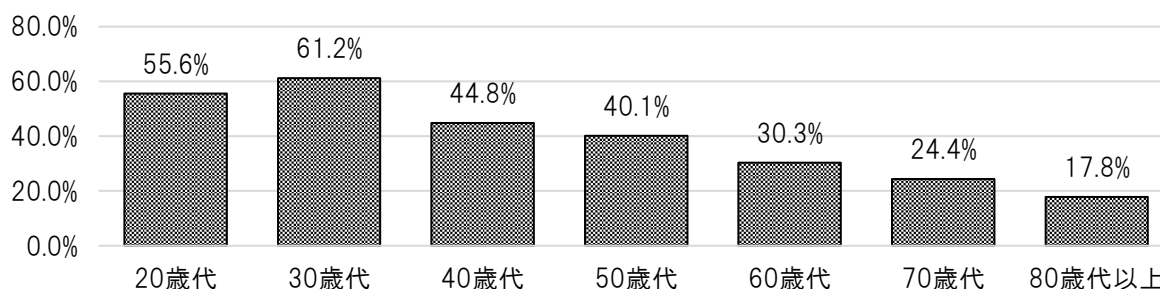
D. 外国人への差別的な表現



「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」「見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った」を合わせた割合は37.2%となっている。

性別では、男性は42.9%と女性の32.6%よりも10.3ポイント高くなっている。

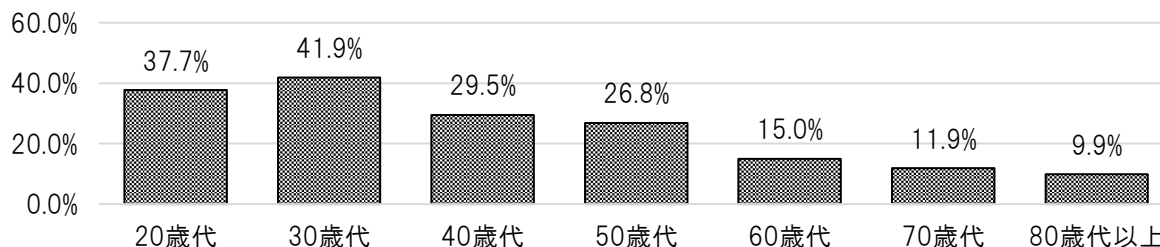
年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代・30歳代は総数よりも15.0ポイント以上高く、30歳代は61.2%と24.0ポイント、20歳代は55.6%と18.4ポイント高くなっており、半数を超えている。40歳代は44.8%と総数よりも7.6ポイント高くなっている。60歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、北勢地域は42.7%と総数よりも5.5ポイント高くなっている。伊賀地域は30.5%と総数よりも6.7ポイント低く、東紀州地域は31.3%と5.9ポイント低くなっている。

許せない人権侵害と認識している「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合は22.8%となっている。

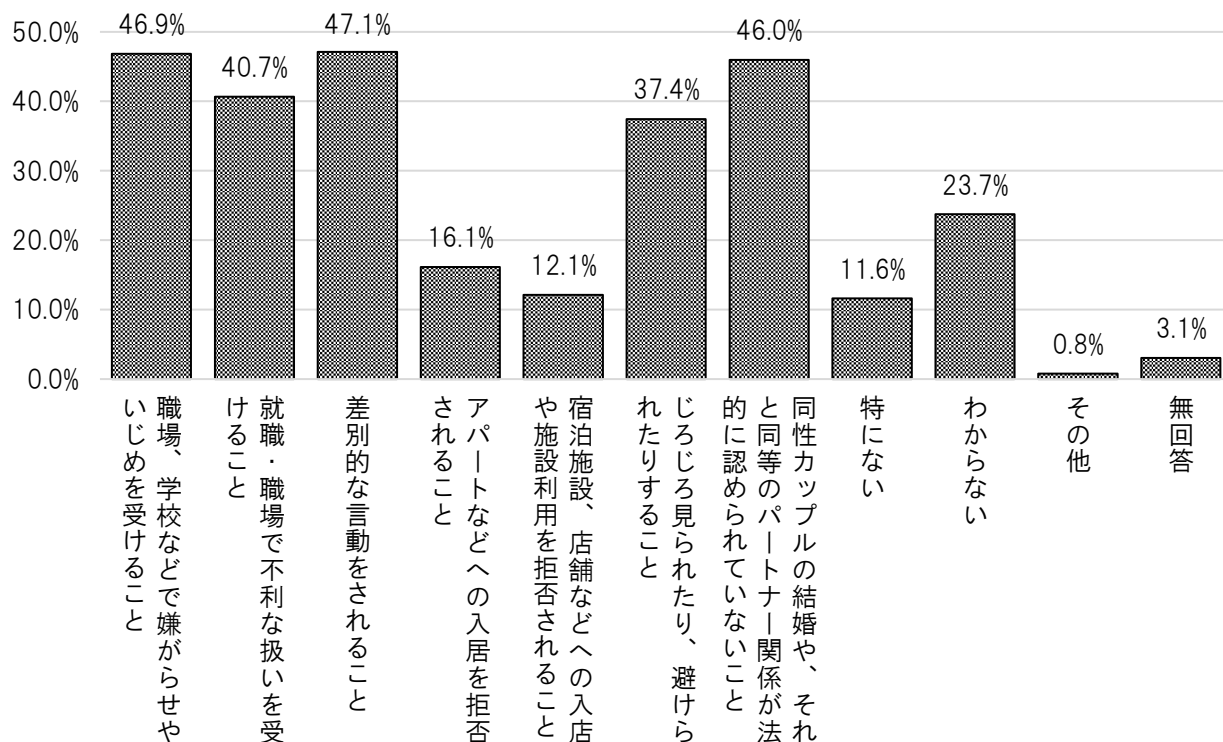
年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代・30歳代は総数よりも10.0ポイント以上高く、30歳代は41.9%と19.1ポイント高く、20歳代は37.7%と14.9ポイント高くなっており、約4割程度となっている。40歳代は29.5%と総数よりも6.7ポイント高くなっている。60歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は16.8%と総数よりも6.0ポイント低く、東紀州地域は17.2%と5.6ポイント低くなっている。

15 性的指向・性自認に関する人権問題

問15 性的指向や性自認に関わるLGBTなどの性的マイノリティの人びとについて、現在、どのような問題が起きていると思いますか。

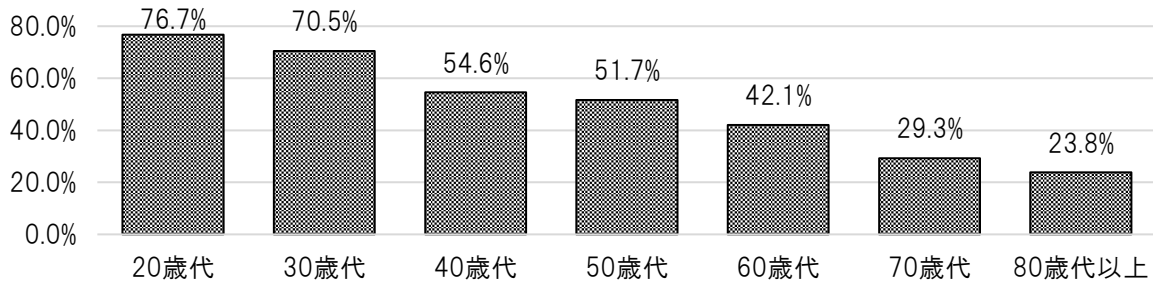


性的指向・性自認に関する人権問題について、最も高かったのは「差別的な言動をされること」47.1%、二番目に高かったのは「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」46.9%、次いで「同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー関係が法的に認められていないこと」46.0%となっている。

一方で、「アパートなどへの入居を拒否されること」「宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること」については、2割を切っている。

【差別的な言動をされること】

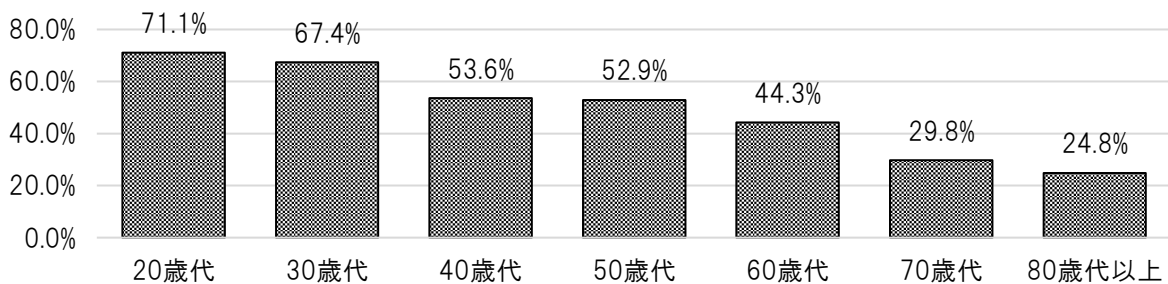
年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～40歳代は総数よりも5.0ポイント以上高くなっており、20歳代は76.7%と29.6ポイント高く、30歳代は70.5%と23.4ポイント高く、7割を超えている。60歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



小学生のときに県外で長く過ごした人は53.2%と、県内で長く過ごした人の45.6%よりも7.6ポイント高くなっている。

【職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること】

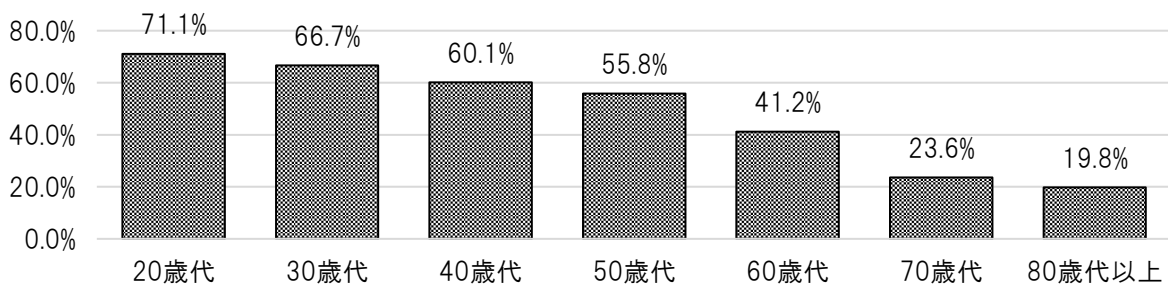
年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～50歳代は総数よりも5.0ポイント以上高くなっており、20歳代は71.1%と24.2ポイント高く、30歳代は67.4%と20.5ポイント高くなっている。70歳代・80歳代以上は総数よりも15.0ポイント以上低くなっている。



【同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー関係が法的に認められていないこと】

性別では、男性は38.9%と女性の51.8%よりも12.9ポイント低くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～50歳代は総数よりも5.0ポイント以上高くなっており、20歳代は71.1%と25.1ポイント高く、30歳代は66.7%と20.7ポイント高くなっている。70歳代・80歳代以上は総数よりも20.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊勢志摩地域は52.1%と総数よりも6.1ポイント高くなっている。東紀州地域は40.6%と総数よりも5.4ポイント低くなっている。

16 ヘイトスピーチに対する意識

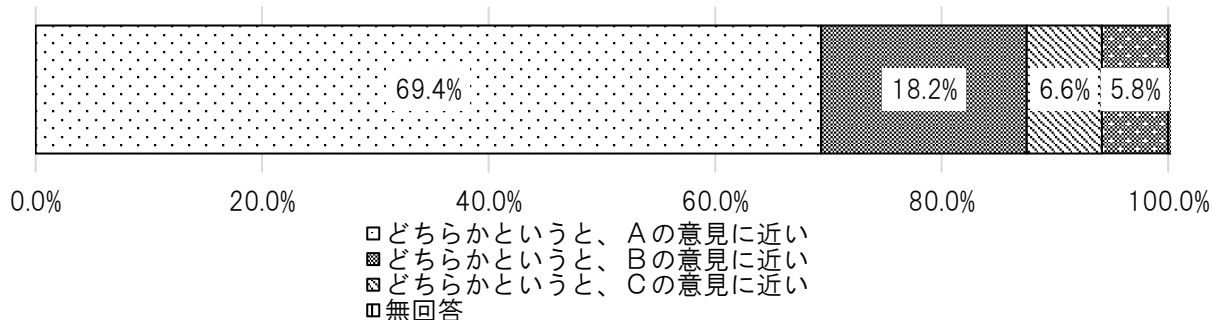
問16 特定の国の出身者であること、または、その子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとしたりするなどの言動（ヘイトスピーチ）について、次のような意見があります。

Aの意見 「人権を侵害しており、許されないことだ。」

Bの意見 「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ。」

Cの意見 「ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ。」

あなたはA～Cのどの意見に近いですか。



ヘイトスピーチについて、Aの意見「人権を侵害しており、許されないことだ。」に近いとする割合は69.4%と、7割近い県民は許されない人権侵害として認識している。

【Aの意見「人権を侵害しており、許されないことだ。」】

性別では、男性は64.2%と女性の74.0%よりも9.8ポイント低くなっている。

年齢では、40歳代は80.3%と総数よりも10.9ポイント高く、50歳代は79.7%と10.3ポイント高くなっている。80歳代は47.5%と総数よりも21.9ポイント低くなっている。

【Bの意見「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ。」】

年齢では、20歳代は26.7%と総数よりも8.5ポイント高く、30歳代は25.6%と7.4ポイント高くなっている。50歳代は12.8%と総数よりも5.4ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は25.0%と総数よりも6.8ポイント高くなっている

【Cの意見「ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ。」】

性別では、男性は9.6%と女性の4.0%よりも5.6ポイント高くなっている。

年齢では、80歳代は12.9%と総数よりも6.3ポイント高くなっている。

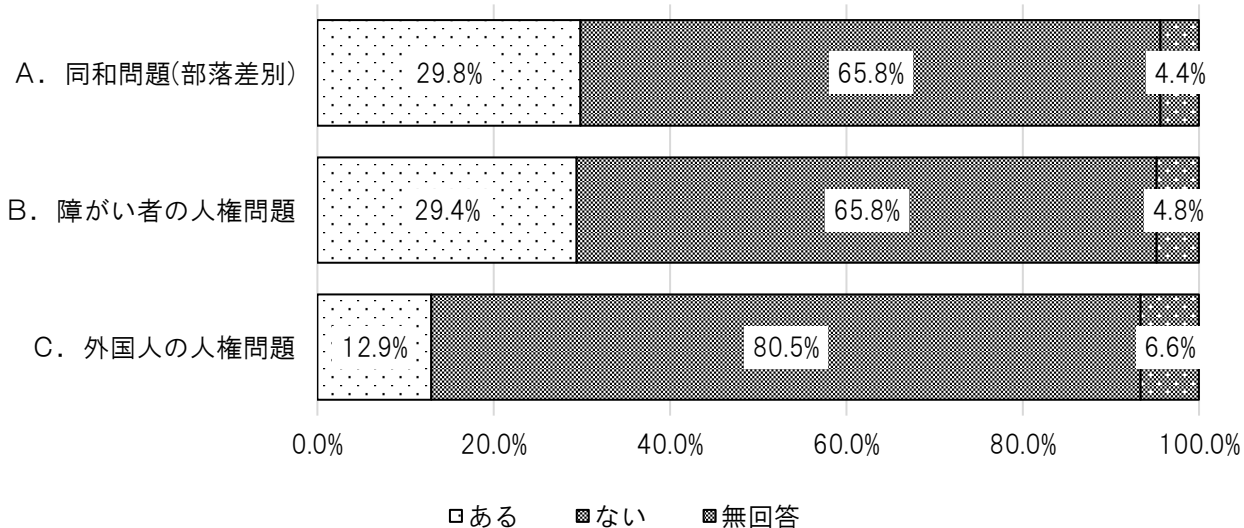
Bの意見「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ。」、Cの意見「ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ。」を合わせた割合は24.8%と約4分の1を占めている。

性別では、男性は29.8%と女性の20.6%よりも9.2ポイント高くなっている。

年齢では、80歳代以上は30.7%と総数よりも5.9ポイント高く、20歳代は30.0%と5.2ポイント高くなっている。50歳代は18.6%と総数よりも6.2ポイント低くなっている。

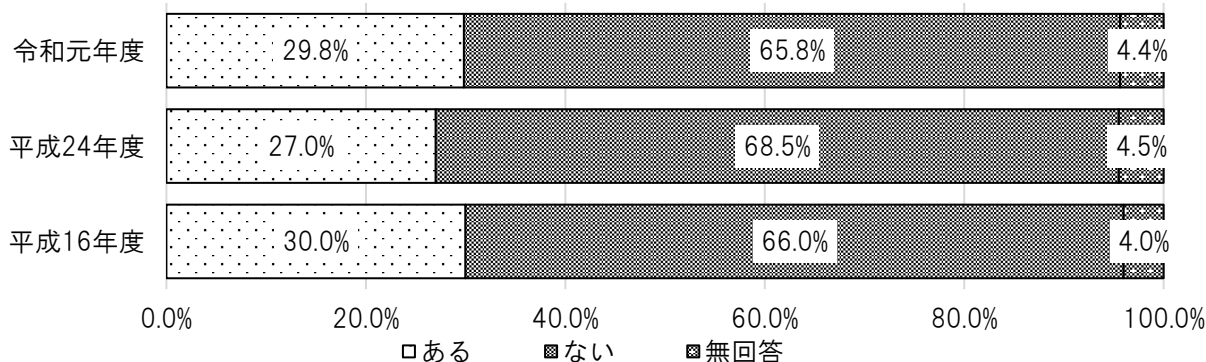
17 人権問題の解決に熱心な人との出会い

問17 これまで、学校、職場、地域などで、次のような人権問題の解決に熱心にとりくんでいる人に出会ったり話を聞いたりしたことがあります。



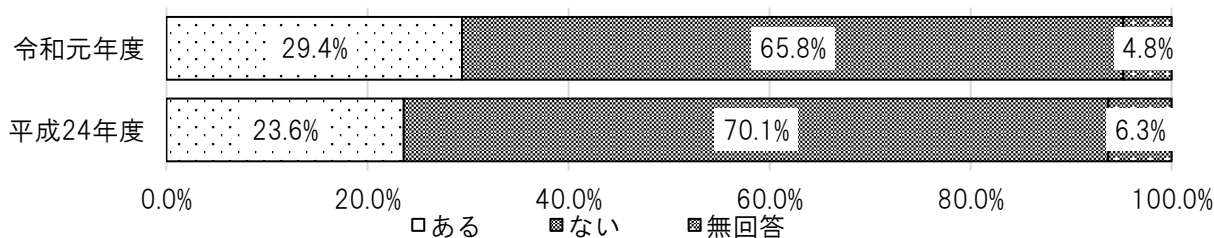
人権問題の解決に熱心な人との出会いが「ある」で、最も高かったのは「A. 同和問題(部落差別)」29.8%、二番目に高かったのは「障がい者の人権問題」29.4%、次いで「C. 外国人の人権問題」12.9%となっている。同和問題と障がい者の人権問題の解決に熱心な人との出会いがある県民の割合は約3割となっている。

A. 同和問題(部落差別)



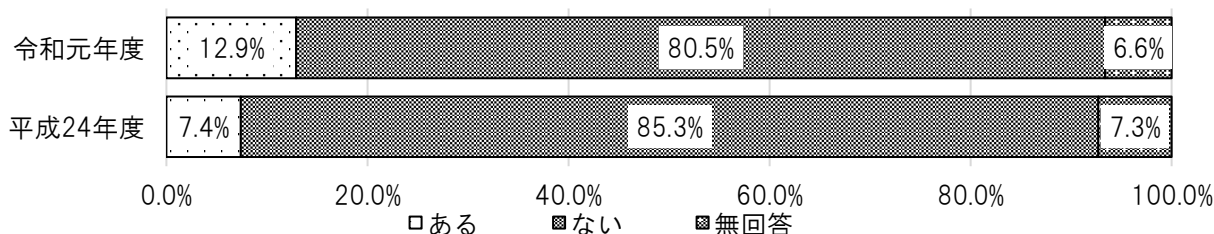
同和問題の解決に熱心な人との出会いが「ある」は 29.8%で、前回調査の 27.0%に対して 2.8 ポイント高く、平成 16 年度調査の 30.0%からは 0.2 ポイント低くなっている。
 年齢では、80 歳代以上は 20.8%と総数よりも 9.0 ポイント低くなっている。
 居住地域では、伊賀地域は 48.4%と総数よりも 18.6 ポイント高くなっている。
 小中学生のときに県外で長く過ごした人は 24.7%と、県内で長く過ごした人の 31.3%よりも 6.6 ポイント低くなっている。

B. 障がい者の人権問題



障がい者の人権問題の解決に熱心な人との出会いが「ある」は 29.4%で、前回調査の 23.6%に対して 5.8 ポイント高くなっている。
 年齢では、20 歳代は 47.8%と総数よりも 18.4 ポイント高く、50 歳代は 36.6%と 7.2 ポイント高くなっている。70 歳代は 21.9%と総数よりも 7.5 ポイント低く、80 歳代以上は 22.8%と 6.6 ポイント低くなっている。
 小中学生のときに県外で長く過ごした人は 25.5%と、県内で長く過ごした人の 30.5%よりも 5.0 ポイント低くなっている。

C. 外国人の人権問題

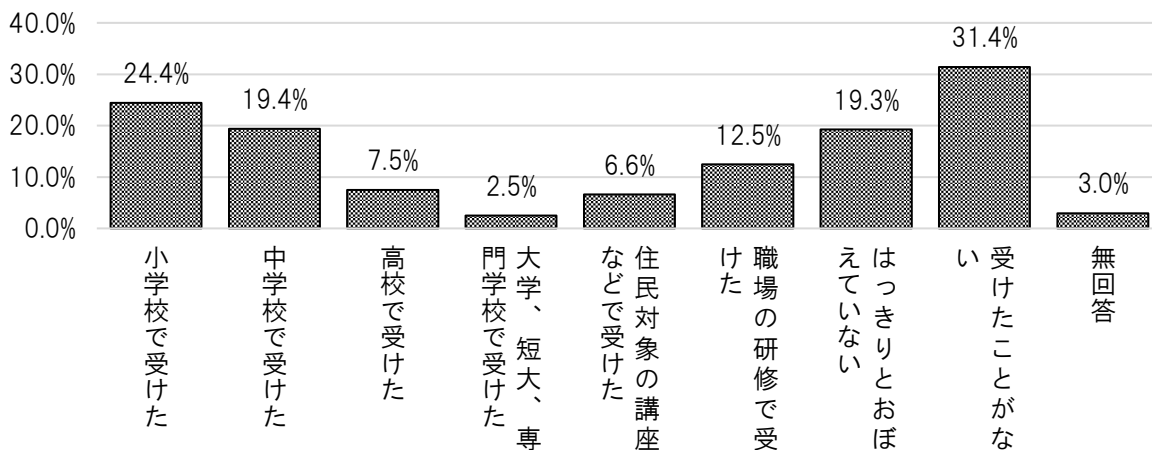


外国人の人権問題の解決に熱心な人との出会いが「ある」は 12.9%で、前回調査の 7.4%に対して 5.5 ポイント高くなっている。
 年齢では、20 歳代は 22.2%と総数よりも 9.3 ポイント高くなっている。
 居住地域では、東紀州地域は 6.3%と総数よりも 6.6 ポイント低くなっている。

18 人権問題についての学習経験

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。

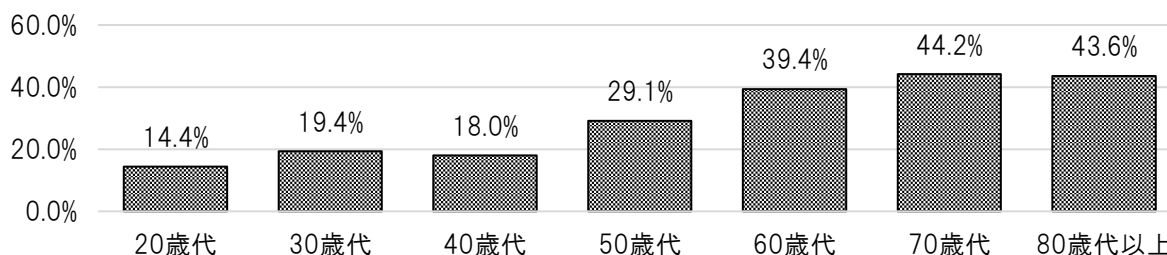
A. 同和問題(部落差別)



同和問題(部落差別)についての学習経験で、最も高かったのは「受けたことがない」31.4%、二番目に高かったのは「小学校で受けた」24.4%、次いで「中学校で受けた」19.4%となっている。

【受けたことがない】

年齢では、以下のグラフのとおり、60歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上高くなっており、70歳代は44.2%と12.8ポイント高く、80歳代以上は43.6%と12.2ポイント高くなっている。20歳代～40歳代は総数よりも10.0ポイント以上低くなっている。



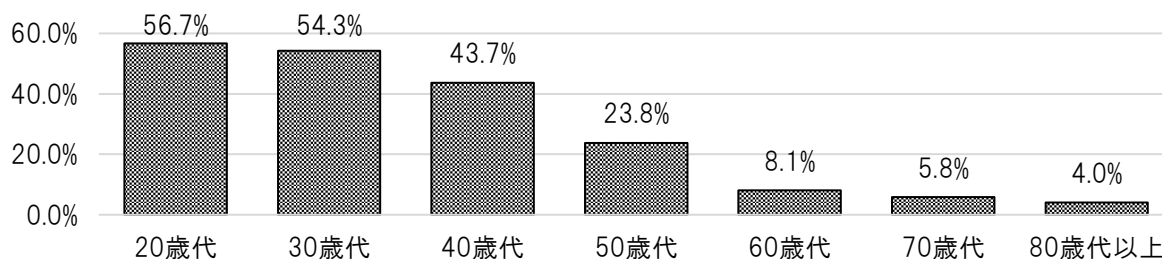
居住地域では、東紀州地域は45.3%と総数よりも13.9ポイント高くなっている。伊賀地域は18.9%と総数よりも12.5ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は36.4%と、県内で長く過ごした人の30.2%よりも6.2ポイント低くなっている。

【小学校で受けた】

性別では、男性は 20.7%と女性の 27.4%よりも 6.7 ポイント低くなっている。

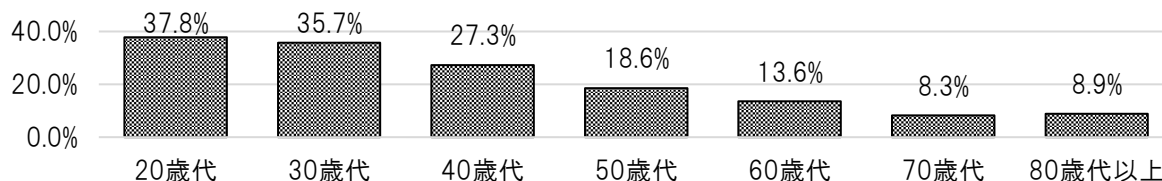
年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～40 歳代は総数よりも 15.0 ポイント以上高くなっており、20 歳代は 56.7%と 32.3 ポイント高く、30 歳代は 54.3%と 29.9 ポイント高くなっている。60 歳代～80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は 30.5%と総数よりも 6.1 ポイント高くなっている。東紀州地域は 14.1%と総数よりも 10.3 ポイント低く、伊勢志摩地域は 15.7%と 8.7 ポイント低くなっている。

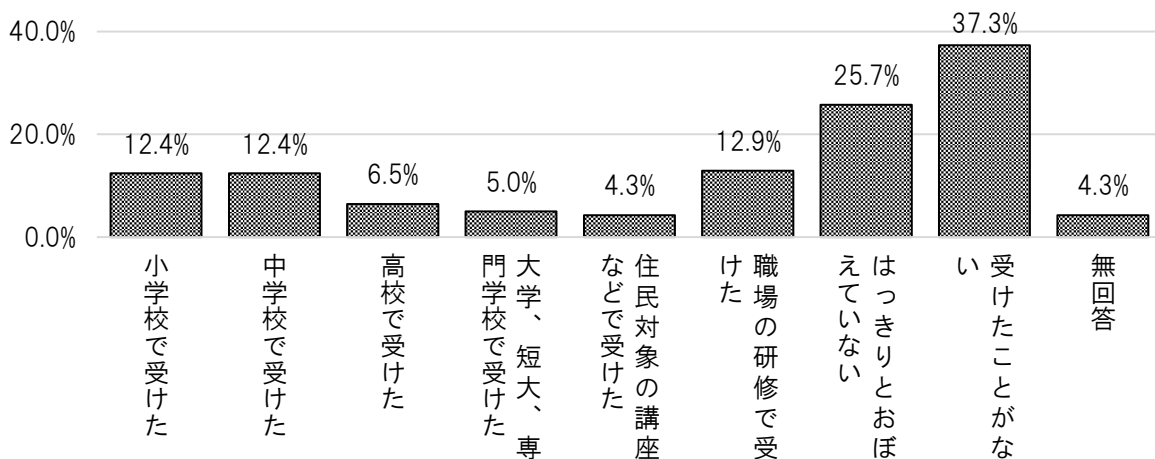
【中学校で受けた】

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代～40 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっており、20 歳代は 37.8%と 18.4 ポイント高く、30 歳代は 35.7%と 16.3 ポイント高くなっている。60 歳代～80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は 28.4%と総数よりも 9.0 ポイント高くなっている。

B. 障がい者の人権

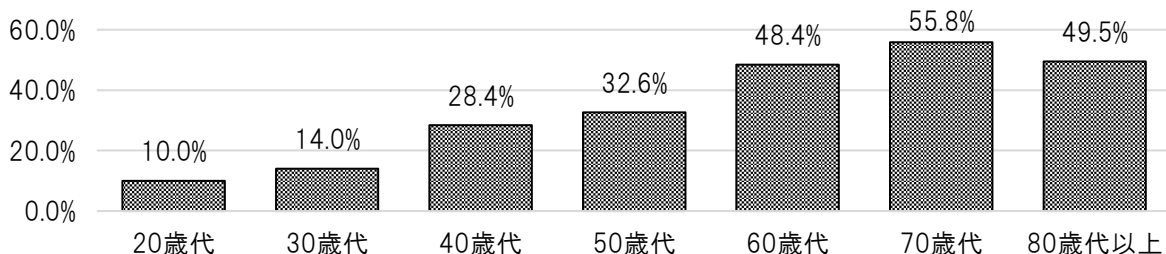


障がい者の人権についての学習経験で、最も高かったのは「受けたことがない」37.3%、二番目に高かったのは「はっきりとおぼえていない」25.7%、次いで「職場の研修で受けた」12.9%となっている。

【受けたことがない】

性別では、男性は40.3%と女性の35.2%よりも5.1ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、60歳代～80歳代以上は総数よりも10.0ポイント以上高くなっており、70歳代は55.8%と18.5ポイント高くなっている。20歳代～40歳代は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、東紀州地域は46.9%と総数よりも9.6ポイント高くなっている。

【はっきりとおぼえていない】

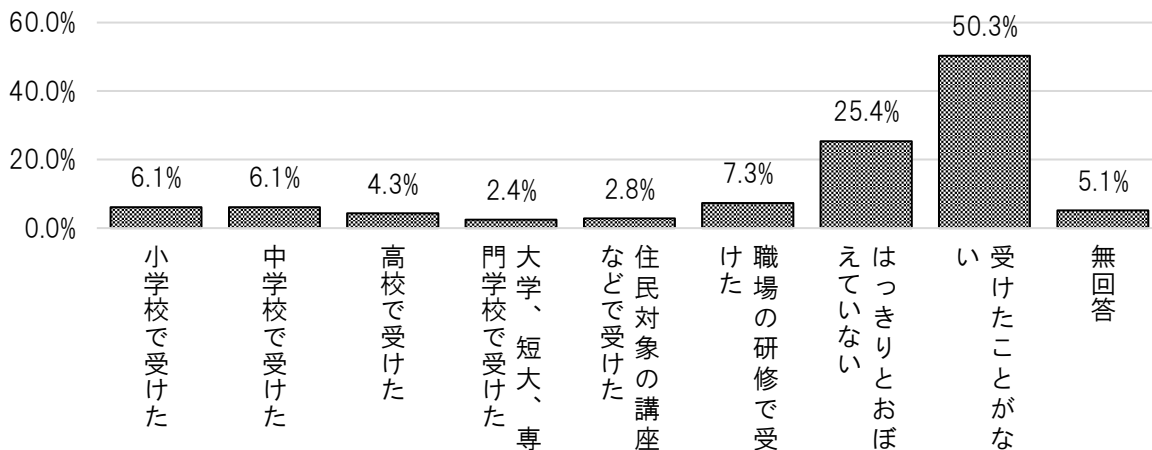
年齢では、40歳代は35.5%と総数よりも9.8ポイント高く、30歳代は31.0%と5.3ポイント高くなっている。70歳代は19.4%と総数よりも6.3ポイント低く、80歳代以上は19.8%と5.9ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は31.4%と総数よりも5.7ポイント高くなっている。

【職場の研修で受けた】

年齢では、50歳代は21.5%と総数よりも8.6ポイント高くなっている。80歳代以上は5.0%と総数よりも7.9ポイント低く、70歳代は6.2%と6.7ポイント低くなっている。

C. 外国人の人権



外国人の人権についての学習経験で、最も高かったのは「受けたことがない」50.3%、二番目に高かったのは「はっきりとおぼえていない」25.4%、次いで「職場の研修で受けた」7.3%となっている。

【受けたことがない】

年齢では、70歳代は66.5%と総数よりも16.2ポイント高く、60歳代は60.6%と10.3ポイント高く、80歳代以上は57.4%と7.1ポイント高くなっている。20歳代は22.2%と総数よりも28.1ポイント低く、30歳代は27.1%と23.2ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は60.0%と総数よりも9.7ポイント高くなっている。

【はっきりとおぼえていない】

性別では、男性は22.3%と女性の27.9%よりも5.6ポイント低くなっている。

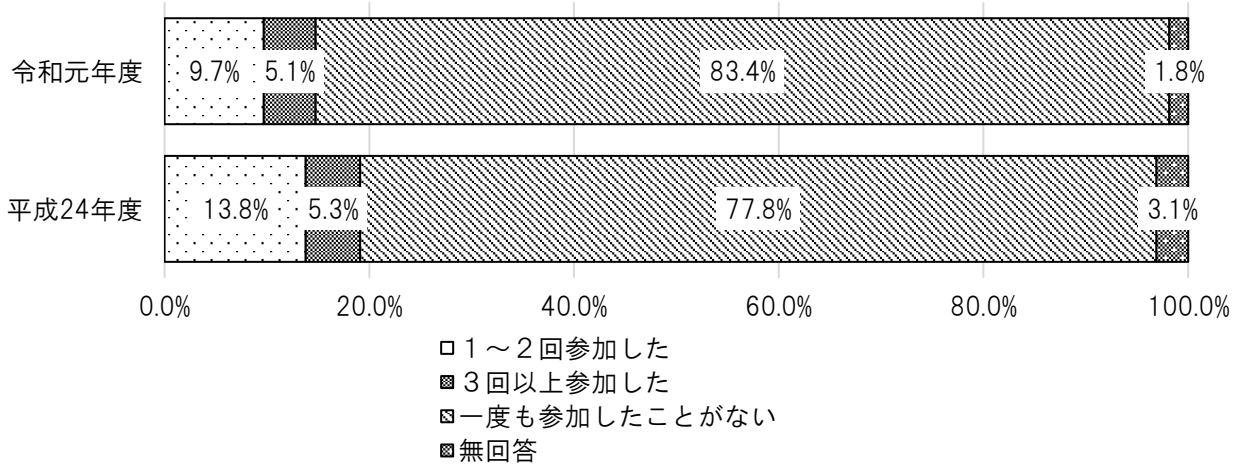
年齢では、40歳代は36.6%と総数よりも11.2ポイント高く、30歳代は32.6%と7.2ポイント高くなっている。80歳代以上は14.9%と総数よりも10.5ポイント低く、70歳代は15.3%と10.1ポイント低くなっている。

【職場の研修で受けた】

年齢では、50歳代は12.8%と総数よりも5.5ポイント高くなっている。

19 講演会や研修会への参加経験

問19-1 あなたは最近5年間で、県や市町などが主催する人権に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。

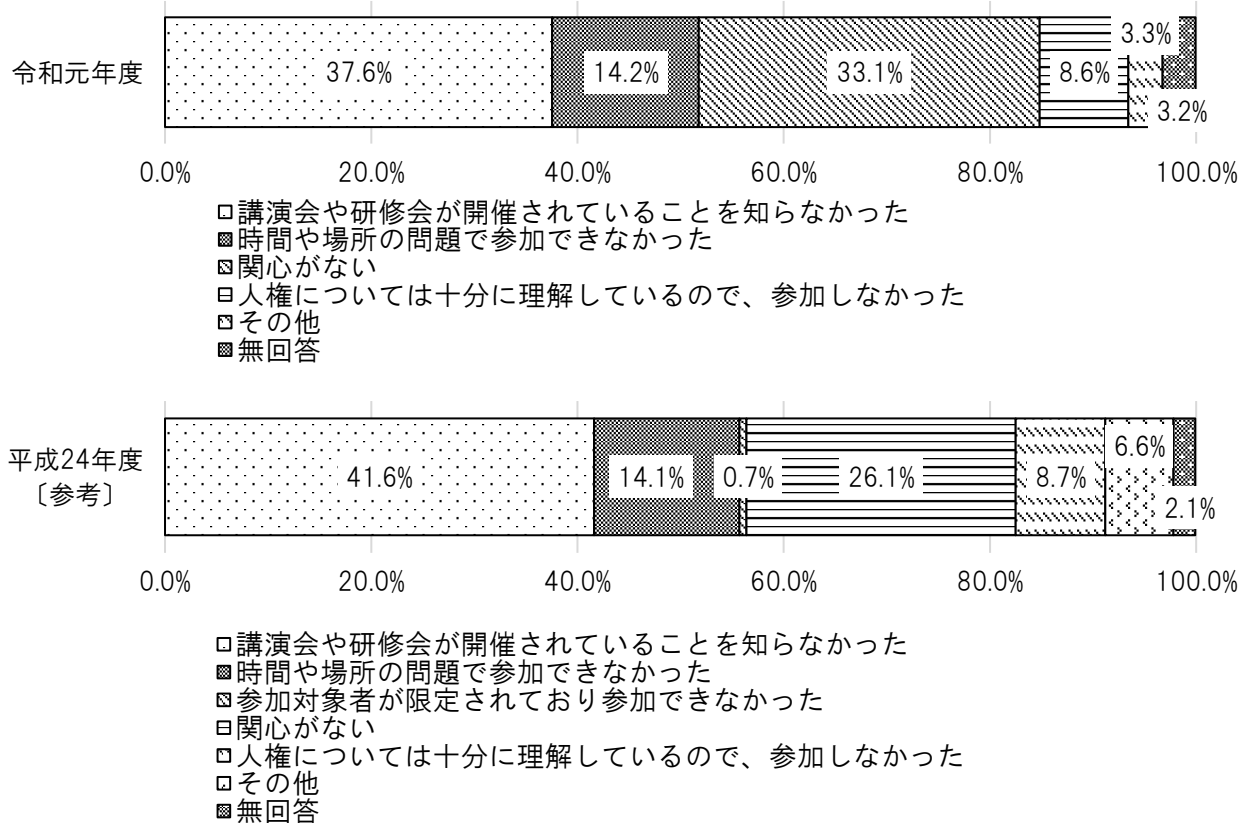


講演会や研修会への参加経験について、「一度も参加したことがない」83.4%と8割を超えており、前回調査の77.8%に対して5.6ポイント高くなっている。「1～2回参加した」「3回以上参加した」を合わせた割合は14.8%と2割を切っている。

年齢では「3回以上参加した」は、50歳代が11.6%と総数よりも6.5ポイント高く、どの年代よりも高くなっている。「一度も参加したことがない」は、20歳代が90.0%と総数よりも6.6ポイント高く、どの年代よりも高くなっている。

居住地域では「1～2回参加した」は、伊賀地域が24.2%と総数よりも14.5ポイント高く、どの地域よりも高くなっている。

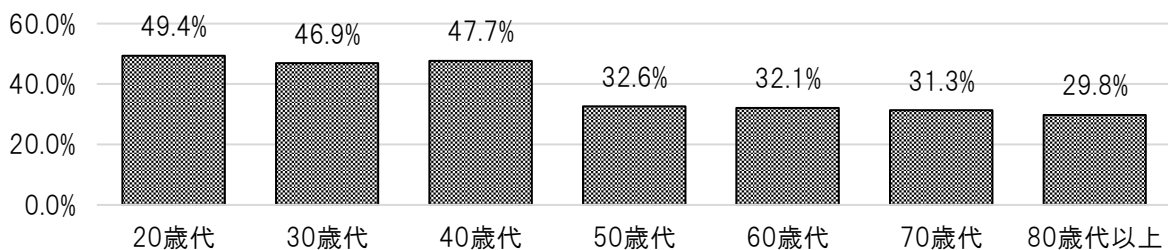
問19-2 問19-1で3の回答を選択した方におたずねします。その理由としてあてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。



講演会や研修会に「一度も参加したことがない」理由について、最も高かったのは「講演会や研修会が開催されていることを知らなかった」37.6%で4割近くを占めており、前回調査の41.6%に対して4.0ポイント低くなっている。二番目に高かったのは「関心がない」33.1%で、前回調査の26.1%に対して7.0ポイント高くなっている。次いで「時間や場所の問題で参加できなかった」14.2%となっており、前回調査の14.1%と変わらない。前回調査と比べて、講演会や研修会が開催されていることを知らない県民の割合は減っているものの、関心がない県民が増えている。

【講演会や研修会が開催されていることを知らなかった】

年齢では、以下のグラフのとおり、20歳代～40歳代は総数よりも5.0ポイント以上高く、20歳代は49.4%と11.8ポイント高く、40歳代は47.7%と10.1ポイント高くなっている。50歳代～80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地では、東紀州地域は49.2%と総数よりも11.6ポイント高くなっている。

【時間や場所の問題で参加できなかった】

年齢では、60歳代は20.9%と総数よりも6.7ポイント高くなっている。30歳代は総数よりも8.0%と6.2ポイント低く、20歳代は8.6%と5.6ポイント低くなっている。

居住地域では、伊勢志摩地域は19.2%と総数よりも5.0ポイント高くなっている。

【関心がない】

年齢では、20歳代は38.3%と総数よりも5.2ポイント高くなっている。

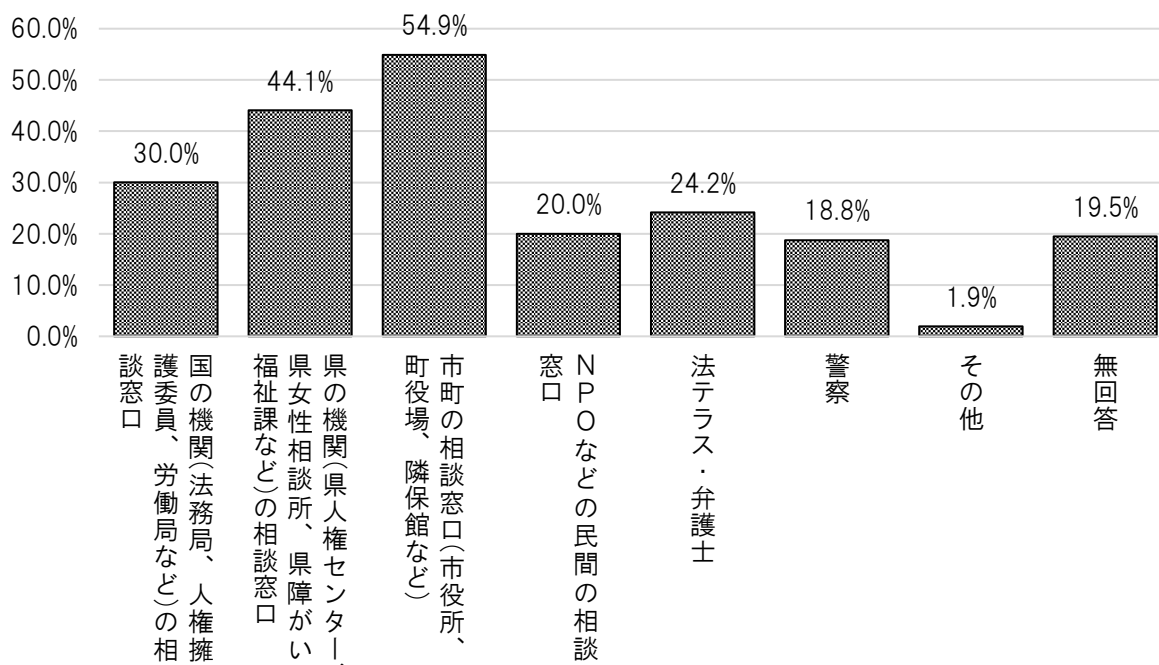
居住地域では、東紀州地域は21.4%と総数よりも11.7ポイント低く、伊賀地域は27.9%と5.2ポイント低くなっている。

【人権については十分に理解しているので、参加しなかった】

年齢では、80歳代以上は20.2%と総数よりも11.6ポイント高くなっている。20歳代は1.2%と総数よりも7.4ポイント低く、40歳代は2.0%と6.6ポイント低くなっている。

20 人権相談機関の認知

問20 人権についての相談を受け付けている以下の機関についてご存知ですか。



人権相談機関の認知について、最も高かったのは「市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)」54.9%、二番目に高かったのは「県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口」44.1%、次いで「国の機関(法務局、人権擁護委員、労働局など)の相談窓口」30.0%となっている。人権相談機関として、半数を超える県民は市町の相談窓口を認知しており、4割を超える県民は県の機関の相談窓口を認知している。

【国の機関(法務局、人権擁護委員、労働局など)の相談窓口】

年齢では、20歳代は23.3%と総数よりも6.7ポイント低く、40歳代は24.0%と6.0ポイント低くなっている。

【県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口】

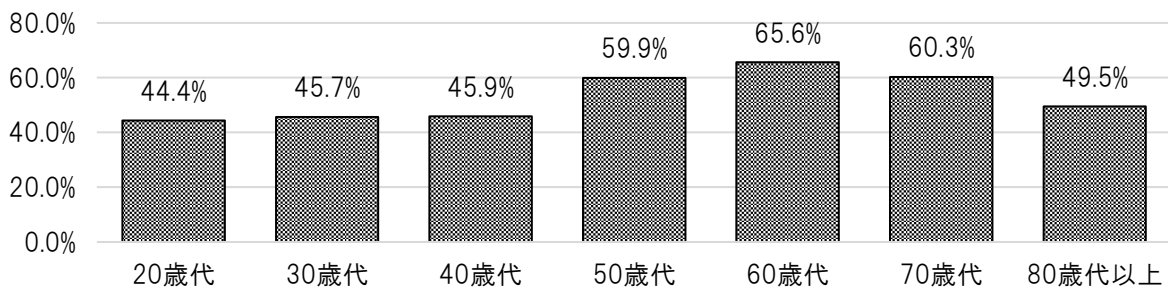
年齢では、30歳代は51.2%と総数よりも7.1ポイント高く、50歳代は50.0%と5.9ポイント高くなっている。80歳代以上は31.7%と総数よりも12.4ポイント低くなっている。

居住地域では、中南勢地域は50.0%と総数よりも5.9ポイント高くなっている。東紀州地域は39.1%と総数よりも5.0ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は39.0%と、県内で長く過ごした人の45.6%よりも6.6ポイント低くなっている。

【市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)】

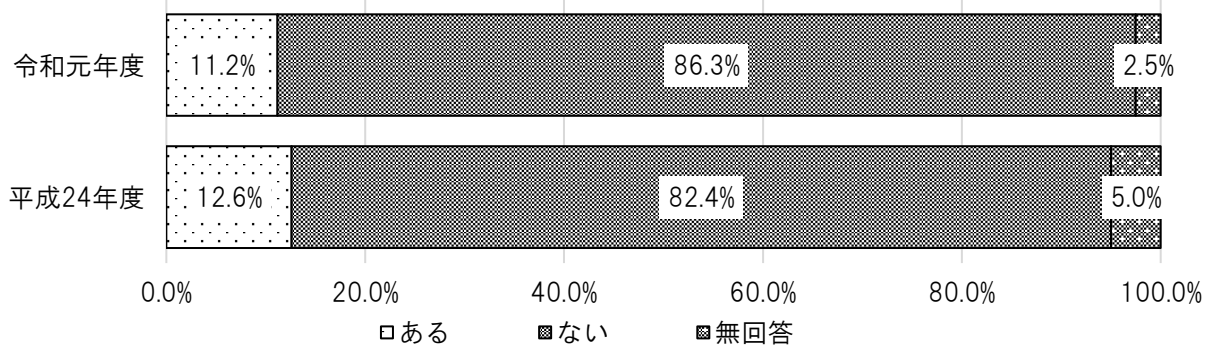
年齢では、以下のグラフのとおり、50歳代～70歳代は総数よりも5.0ポイント以上高く、60歳代は65.6%と10.7ポイント高くなっている。20歳代～40歳代・80歳代以上は総数よりも5.0ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊賀地域は71.6%と総数よりも16.7ポイント高く、伊勢志摩地域は60.3%と5.4ポイント高くなっている。

2 1 人権の侵害を受けた経験と対応

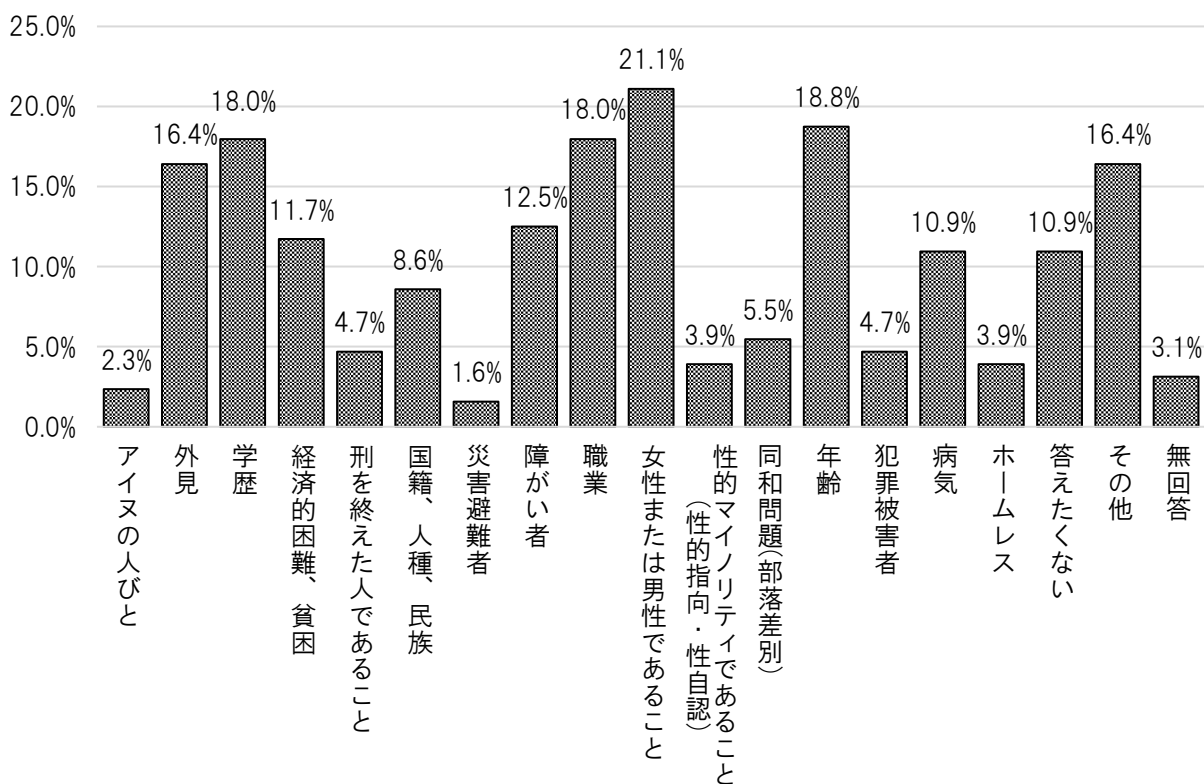
問 2 1 - 1 あなたは、最近 5 年間で自分の人権を侵害されたと感じたことがありますか。



最近 5 年間の人権侵害を受けた経験について、「ある」は 11.2%で、前回調査の 12.6%に対して 1.4 ポイント低くなっている。

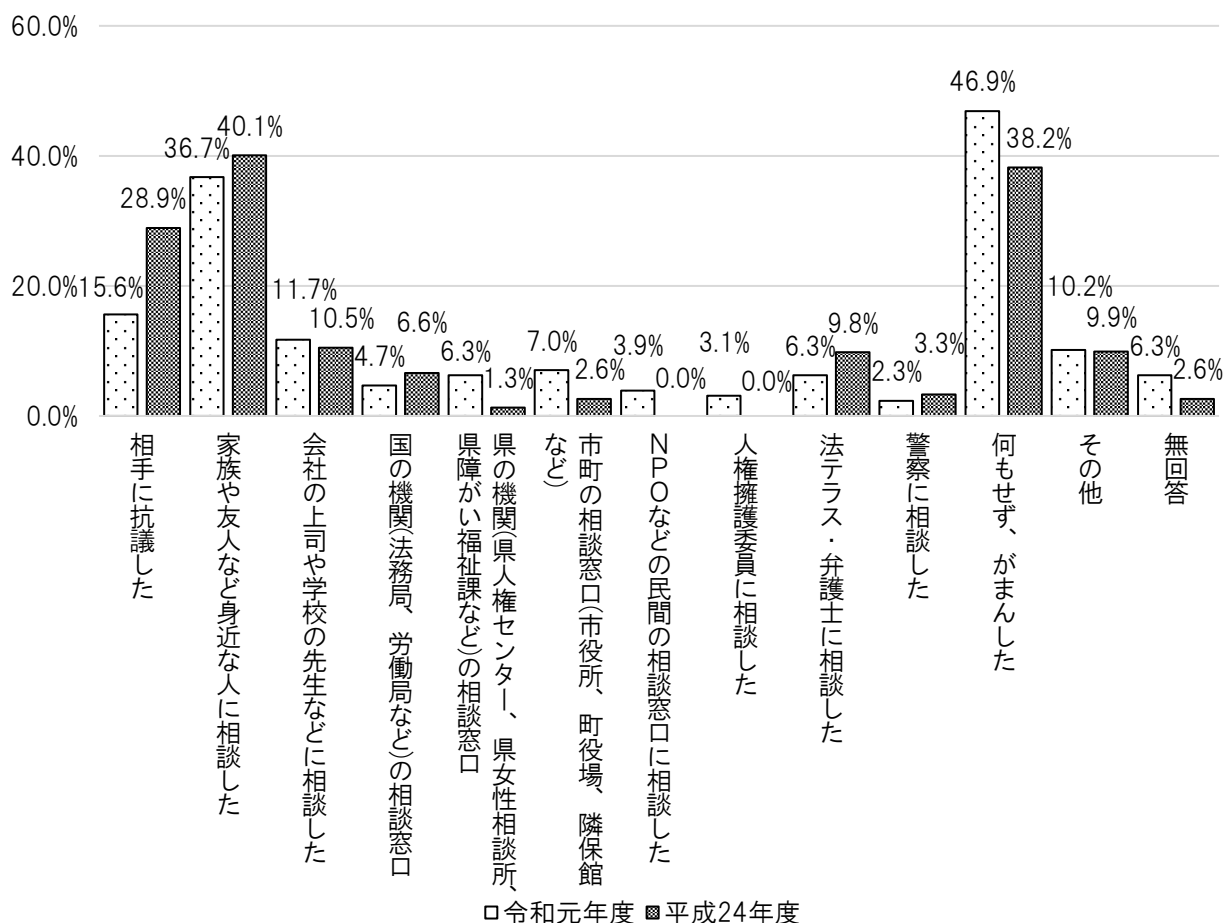
年齢では、70 歳代は 5.8%と総数よりも 5.4 ポイント低くなっている。

問 2 1 - 2 問 2 1 - 1 で 1 の回答を選択した方におたずねします。どのような理由で人権を侵害されたとお考えですか。



どのような理由で人権侵害を受けたかについて、最も高かったのは「女性または男性であること」21.1%、二番目に高かったのは「年齢」18.8%、次いで「学歴」「職業」18.0%となっている。

問 2 1 - 3 問 2 1 - 1 で 1 の回答を選択した方におたずねします。人権侵害を受けたとき、あなたはどのような対応をしましたか。

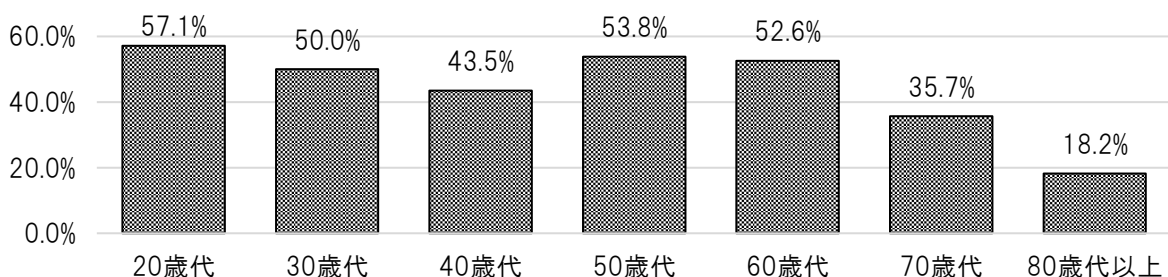


人権侵害を受けたときの対応について、最も高かったのは「何もせず、がまんした」46.9%で、前回調査の 38.2%に対して 8.7 ポイント高くなっている。二番目に高かったのは「家族や友人に相談した」36.7%で、前回調査の 40.1%に対して 3.4 ポイント低くなっている。次いで「相手に抗議した」15.6%で、前回調査の 28.9%に対して 13.3 ポイント低くなっている。人権侵害を受けたときに、相手に抗議したり、家族や友人など身近な人に相談したりした県民の割合は減り、何もせずにながまんした県民の割合が増えている。

【何もせず、がまんした】

性別では、男性は 50.0%と女性の 44.8%よりも 5.2 ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、20 歳代・50 歳代・60 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっており、20 歳代は 57.1%と 10.2 ポイント高くなっている。70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 10.0 ポイント以上低くなっている。



居住地域では、伊勢志摩地域は 60.0%と総数よりも 13.1 ポイント高くなっている。北勢地域は 39.6%と総数よりも 7.3 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 57.1%と、県内で長く過ごした人の 44.9%よりも 12.2 ポイント高くなっている。

【家族や友人など身近な人に相談した】

性別では、男性は 32.5%と女性の 37.9%よりも 5.4 ポイント低くなっている。

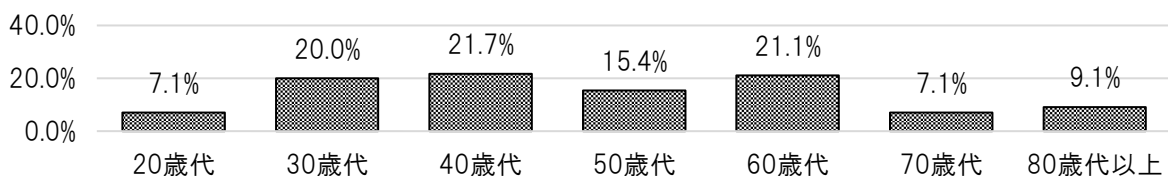
年齢では、80 歳代以上は 45.5%と総数よりも 8.8 ポイント高く、20 歳代は 42.9%と 6.2 ポイント高く、60 歳代は 42.1%と 5.4 ポイント高くなっており、それぞれ 4 割を超えている。70 歳代は 21.4%と総数よりも 15.3 ポイント低く、50 歳代は 30.8%と 5.9 ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 28.6%と総数よりも 8.1 ポイント低くなっている。

【相手に抗議した】

性別では、男性は 20.0%と女性の 13.8%よりも 6.2 ポイント高くなっている。

年齢では、以下のグラフのとおり、40 歳代・60 歳代は総数よりも 5.0 ポイント以上高くなっており、2 割を超えている。20 歳代・70 歳代・80 歳代以上は総数よりも 5.0 ポイント以上低くなっており、1 割を切っている。



居住地域では、伊賀地域は 25.0%と総数よりも 9.4 ポイント高く、北勢地域は 24.5%と 8.9 ポイント高くなっている。伊勢志摩地域と東紀州地域はともに 0.0%で総数よりも 15.6 ポイント低くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 9.5%と、県内で長く過ごした人の 16.8%よりも 7.3 ポイント低くなっている。

なお、人権侵害を受けたときの対応として、国や県、市町の行政機関に相談した県民の割合は以下のとおりである。

【国の機関(法務局、労働局など)の相談窓口】

年齢では、50 歳代は 11.5%と総数よりも 6.8 ポイント高くなっている。

居住地域では、東紀州地域は 14.3%と総数よりも 9.6 ポイント高く、中南勢地域は 10.3%と 5.6 ポイント高くなっている。

小中学生のときに県外で長く過ごした人は 3.7%と、県内で長く過ごした人の 9.5%よりも 5.8 ポイント低くなっている。

【県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口】

性別では、男性は 10.0%と女性の 4.6%よりも 5.4 ポイント高くなっている。

年齢では、80歳代以上は18.2%と総数よりも11.9ポイント高く、50歳代は15.4%と9.1ポイント高くなっている。20歳代～40歳代はそれぞれ0.0%と総数よりも6.3ポイント低くなっている。

居住地域では、東紀州地域は14.3%と総数よりも8.0ポイント高く、中南勢地域は12.8%と6.5ポイント高くなっている。伊勢志摩地域と伊賀地域はともに0.0%と総数よりも6.3ポイント低くなっている。

【市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)】

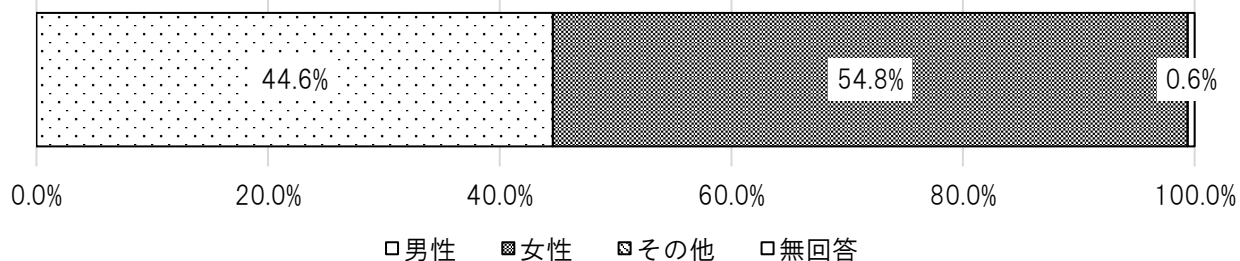
年齢では、50歳代は15.4%と総数よりも8.4ポイント高くなっている。20歳代・30歳代・80歳代以上はそれぞれ0.0%と総数よりも7.0ポイント低くなっている。

居住地域では、伊賀地域は12.5%と総数よりも5.5ポイント高くなっている。伊勢志摩地域と東紀州地域はともに0.0%と総数よりも7.0ポイント低くなっている。

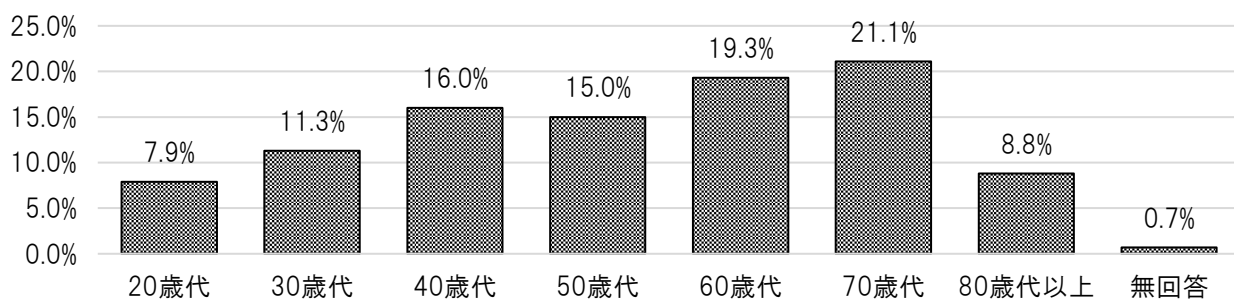
小中学生のときに県外で長く過ごした人は19.0%と、県内で長く過ごした人の4.7%よりも14.3ポイント高くなっている。

2 2 属性

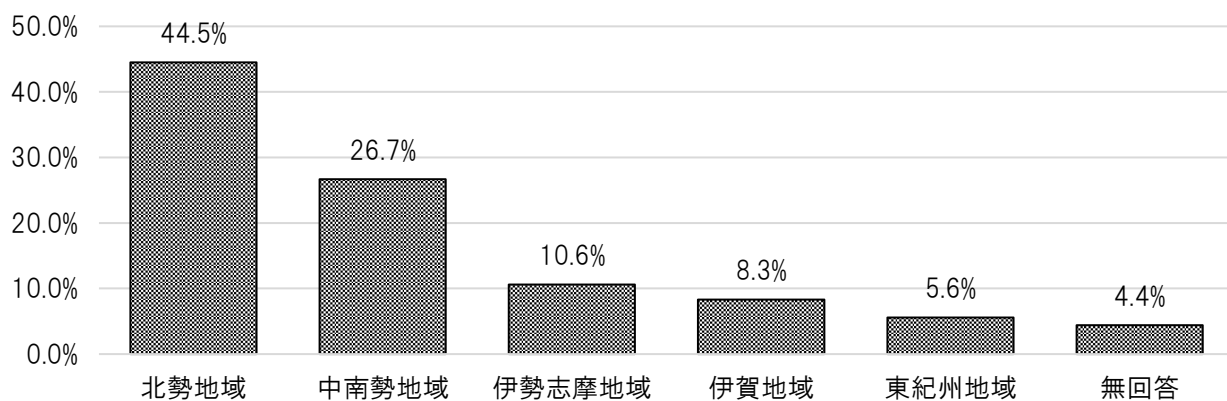
性別



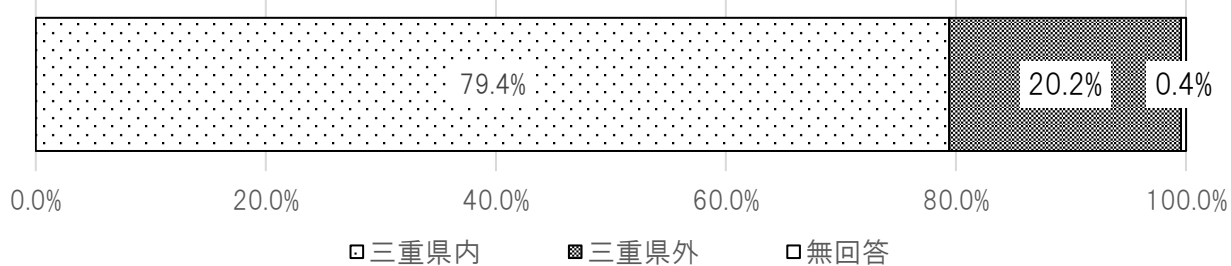
年齢



居住地域



生育歴



第 2 部 研究編

1. 新たな時代の人権行政・教育啓発活動の創造をめざして －2019年人権問題に関する三重県民意識調査分析－

近畿大学人権問題研究所特任教授 奥田 均

<1>分析にあたっての問題意識の所在

2016年に差別解消に関する法律が相次いで施行された。4月の障害者差別解消法、6月のヘイトスピーチ解消法、そして12月の部落差別解消推進法である。

差別問題や人権課題に関するこれまでの取り組みは、基本的に被害者を救済するという「被差別当事者に対する対策」という発想から組み立てられてきた。障害者問題では障害者への各種の福祉施策がそれであり、部落問題では同和対策事業がこれにあたる。北海道庁が実施しているアイヌ民族問題への取り組みなども同様である。こうした取り組みの発想と実践はいずれも大きな成果を築いており、高く評価されなければならない。そして当事者にとっては命綱ともいえる大切な施策であった。

しかし、こうした被差別当事者対策という発想と手法は、差別の実態を「改善」しこそすれ、「解決」にまで導くものではなかった。なぜなら、差別の原因は当事者の側にあるのではなく、区別を差別に転化している社会の在り方にこそ問題があるからである。2016年に施行された先の三法はこの点を踏まえ、社会の在り方を変革することを通じて「差別の改善」からいよいよ「差別の解消」へと人権の取り組みのステップアップを図ろうとするものであった。まさに、差別の結果に対する「補償」の段階から、差別のない社会の「建設」の段階への質的発展である。

それ故に、障害者差別解消法では「社会モデル」と言われる差別のとらえ方に立脚し、「合理的配慮」という社会の変革を求めた。ヘイトスピーチ解消法も、国・地方公共団体及び日本国民に向けられた法律となっている。そして、部落差別解消推進法では、同和対策事業は一切登場せず、「もって部落差別のない社会を実現することを目的とする」と新しい社会の建設を第一条（目的）に記したのである。

この時、社会の構成員たる市民（県民）にはかつてない大きな役割と期待が課せられることとなった。それは、単に「差別しない存在」、「教育や啓発を受ける客体」という人権課題への受動的立場から、むしろ積極的に「差別をなくす存在」、「差別のない社会を建設する主体」という能動的立場への発展的進化である。そして、行政にあつては、新たな時代に応え得る取り組みの新展開が求められている。

こうした時代と社会の変化を踏まえるとき、今後の取り組みの在り方への示唆を得るべく実施された本調査は、これまで実施されてきた人権課題に関する県民意識調査の「単なる6年ぶりの調査」ととどまらない、かつてない意義を有するものである。

以上の問題意識のもとに、筆者がここでの分析テーマとして設定したのは次の5点である。

- ①この新しい時代を象徴する差別解消三法の県民の認知度を確かめること。
- ②取り組みの起点はいつの時代も差別の現実の存在である。ここではそれを部落差別解消推進法で明確に認知した部落問題を取り上げて三重県の状況を検証すること。

- ③人権教育・啓発活動は物的事業の推進などと異なり、その成果や課題が可視化されにくい。調査結果から、取り組みの現状とその効果の測定を試みる。
- ④教育・啓発活動の取り組みに立ちはだかるのは「寝た子を起すな論」である。1965年の「同対審」答申で否定されたこの考え方の現状を把握し、克服の必要性を確認したい。
- ⑤なお、人権擁護の取り組みでは近年相談活動の充実が注目されている。県民の人権侵害の実態と相談機関の実情を明らかにし、今後の課題を発見したい。

最後に、今後の差別問題や人権課題に関する調査についての提案を付言している。調査の「分析」ではないが、県民に対する意識調査だけではなかなかつかみきれない現実があることを、今回の調査分析を行いながら痛感した。本調査の経験を踏まえての提言として受け止めてもらえればありがたい。

なお、本論で取り上げている調査データは、筆者の問題意識にかかわる調査項目に絞ったものに限定されている。調査結果にはこれ以外にも重要な内容が多々示されている。それらについては、調査報告書に全項目のデータが提示されているので是非参照いただきたい。

< 2 > まずは三法の認知状況

新しい時代の象徴である障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法が、これら法律の「対象者・当事者」である県民に周知され理解を得ているのであろうか。「対象者・当事者」が知らないことには、法律は絵に描いた餅になる。

図1は、これら三法の認知状況を質問している問1の調査結果である。問1ではA～Qまで17の宣言、条約、法律、条令について尋ねているが、ここでは最も認知度の高い「世界人権宣言」と差別解消三法、そして「人権が尊重される三重県をつくる条例」を取り上げた。

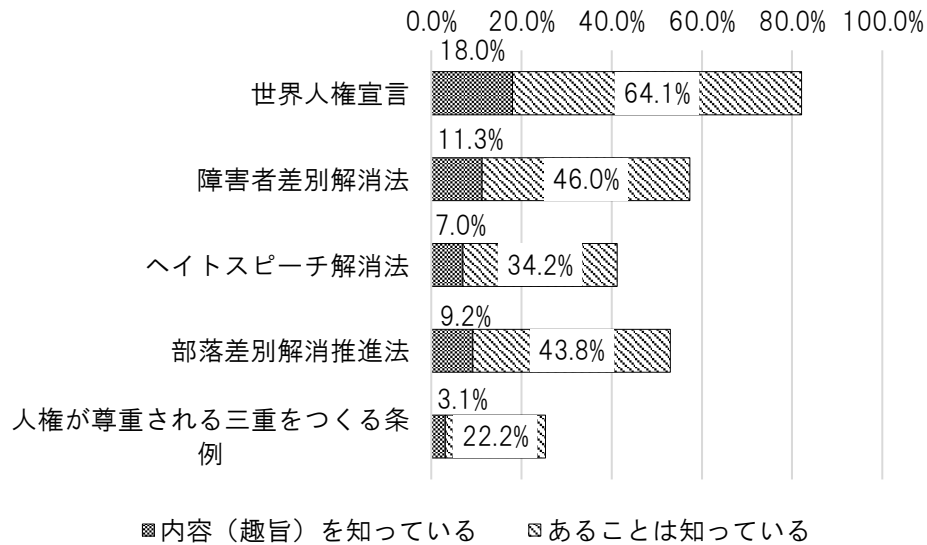
最も認知度の高い「世界人権宣言」は、18.0%の県民が「内容（趣旨）を知っている」としており、「あることは知っている」の64.1%を加えれば82.1%の県民が認知していることがわかる。学校教育などで必ず取り上げられている結果であろう。

これに対して差別解消三法は、「内容（趣旨）を知っている」は、障害者差別解消法が11.3%、ヘイトスピーチ解消法は7.0%、部落差別解消推進法では9.2%といずれも10人に1人前後であった。「あることは知っている」を加えても、障害者差別解消法が57.3%、ヘイトスピーチ解消法は41.2%、部落差別解消推進法は53.0%にとどまっている。さらに「人権が尊重される三重県をつくる条例」に至っては「内容（趣旨）を知っている」3.1%、「あることは知っている」22.2%という低い認知状況であった。

県民が知らないのではいくら立派な法律や条令を制定しても効力は発揮されない。差別解消三法や三重県条例の更なる周知が求められる。これらの法律や条令の周知そのものが強力な人権教育・啓発活動となる。

どうすれば県民一人ひとりに伝えることができるのだろうか。様々な知恵を出し、これまでの取り組み方にこだわらない県民総ぐるみの周知徹底の実践が問われている。

図1 宣言・法律・条例の認知状況



＜3＞調査結果に見る部落差別の現実

部落差別解消推進法の第一条は、「この法律は、現在もなお部落差別が存在する」と部落差別の存在を法的に認知した。しかし、差別の現実にはなかなか実感として受け止められてはいない。

言うまでもなく、差別の現実を最も敏感に感じ取るのは被差別当事者である。しかし、当事者が感じるこうした差別への不安、悔しさ、つらさは自然に多くの人々にわかってもらえるものではない。そこで、それを市民に受け止めてもらう最も効果的な方法は、被差別当事者自身が訴えることである。

だがそれは、自分が被差別当事者であることをカミングアウトすることを意味する。その結果、被差別のリスクをさらに高めることになるのではないかと危惧が生じる。そうして差別の力が「差別の現実を訴えること」をねじ伏せてしまうのである。結果として差別の現実には市民に共有されにくくなり、そんな中で多くの市民は「もう部落差別なんて存在しない」、「あってもたいしたことではない」、「それは昔の話じゃないのか」と悪気無く思いこんでしまうケースが広く作り上げられている。ここでは調査結果を通じて、こうした差別の現実の可視化を部落問題に焦点を当てて検証してみる。

①身元調査

表1は、「あなたの身内の方に、結婚（縁談）の話があったとき、あなたの家族が相手に気づかれないように」、「A.相手の家族の病歴や障がいの有無」、「B.相手の家族の職業や学歴」、「C.相手の家族の収入や資産」、「D.相手の家族の国籍」、「E.同和地区の人であるかどうか」を調べることについての考えを問うた問7の結果である。

こうした調査はいずれも相手に知られないように個人情報盗み取る人権侵害行為である。そしてそれぞれの調査項目には、「このような人であれば排除したい」という偏見が刷り込まれている。

ところが「調べるのは当然だ」及び「感じはよくないが必要だ」との回答で、こうした調査を肯定した人の合計は、「A.相手の家族の病歴や障がいの有無」で 55.7%、「B.相手の家族の職業や学歴」で 45.9%、「C.相手の家族の収入や資産」で 37.6%、「D.相手の家族の国籍」で 56.0%に達しており、「E.同和地区の人であるかどうか」では 43.9%であった。

差別的な身元調査が、なおこれほど多くの県民に受け入れられていることに驚きを隠せない。そして結婚における同和地区出身者に対する排除（差別）の意向も県民になお広く存在していることが示された。

表1 結婚における身元調査

	該当数	調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきでない	無回答
A. 相手の家族の病歴や障がいの有無	1146	9.4%	46.3%	42.1%	2.2%
B. 相手の家族の職業や学歴	1146	8.5%	37.4%	51.6%	2.5%
C. 相手の家族の収入、資産	1146	6.1%	31.5%	60.1%	2.3%
D. 相手の家族の国籍	1146	15.3%	40.7%	41.8%	2.3%
E. 同和地区の人であるかどうか	1146	8.6%	35.3%	53.4%	2.7%

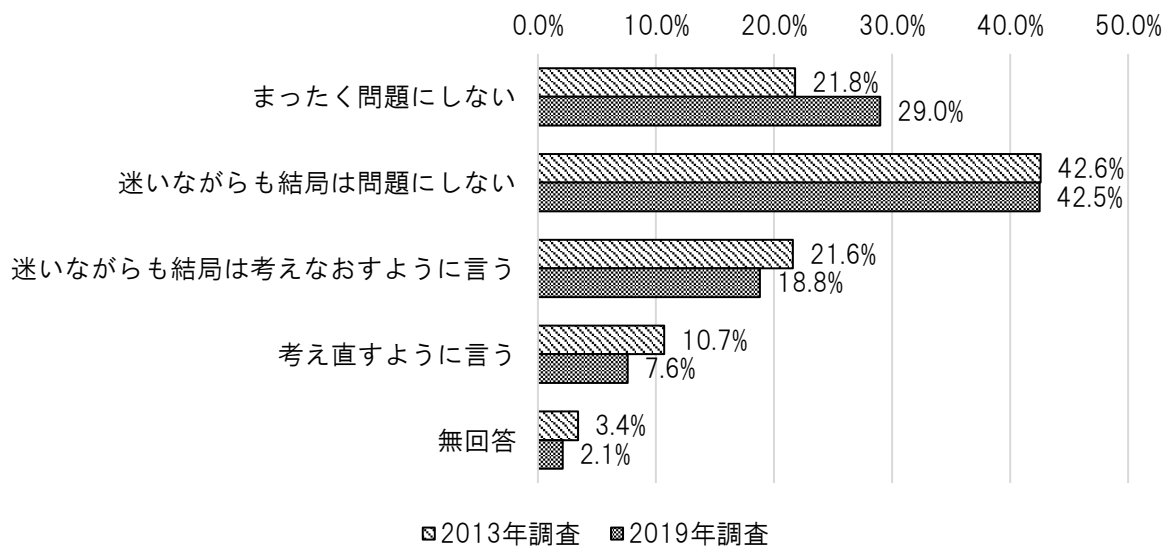
②結婚での排除

図2は、問8「もし仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどんな態度をとると思いますか」の質問における「A.同和地区出身者」にかかわる回答結果を2013年に実施された「人権問題に関する三重県民意識調査」（以下2013年調査とする）の結果と比較したものである。

「まったく問題にしない」が29.0%、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が42.5%であり、「問題にしない」グループの合計は71.5%（前回調査64.4%）であった。これに対して「考え直すように言う」が7.6%、「迷いながらも、結局は考え直すように言うだろう」が18.8%で、「考え直すように言う」グループの合計は26.4%（前回調査32.3%）であった。

前回調査（2013年）に比べて、結婚における忌避的態度はやや改善されている。しかし「考え直すように言う」とは、同和地区出身者との結婚に反対するということであり、その割合が今日なお県民の4人に1人強（26.4%）存在することは、なお深刻な状況と言える。

図2 子どもの結婚希望相手が同和地区出身者であった場合の態度



③土地差別

同和地区の土地や住宅に関して、購入や賃貸においてこれを避けることを土地差別という。今回の調査でもこの土地差別の深刻な状況が前回調査と同様に明らかにされた。

図3・図4は、問11「もし仮に、あなたが、住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くに次のような条件があることがわかった場合、あなたはどうしますか」に対する回答結果である。

図3は、「B.物件（住宅）が同和地区内にある」場合での結果であるが、「どれだけ条件がよくても買い（借り）たくない」が29.8%に達している。「こだわりはあるが条件がよければ買う（借りる）」とした人が40.5%であった。「まったくこだわらないでその家を買う（借りる）」は26.4%にとどまっている。

図4は、「A.同じ小学校区内に同和地区がある」の場合での結果である。同和地区が同じ小学校区内にある場合でさえ、「どれだけ条件がよくても買い（借り）たくない」が14.1%存在し、「まったくこだわらないのでその家を買う（借りる）」は43.7%と半数以下であった。同じ校区であるということさえ、この忌避的態度であった。

前回調査とさほど明確な改善は見られず、同和地区の土地や不動産に対する忌避意識はなお強く存在していることが示された。

図3 物件（住宅）が同和地区内にある場合の購入（借りる）についての態度

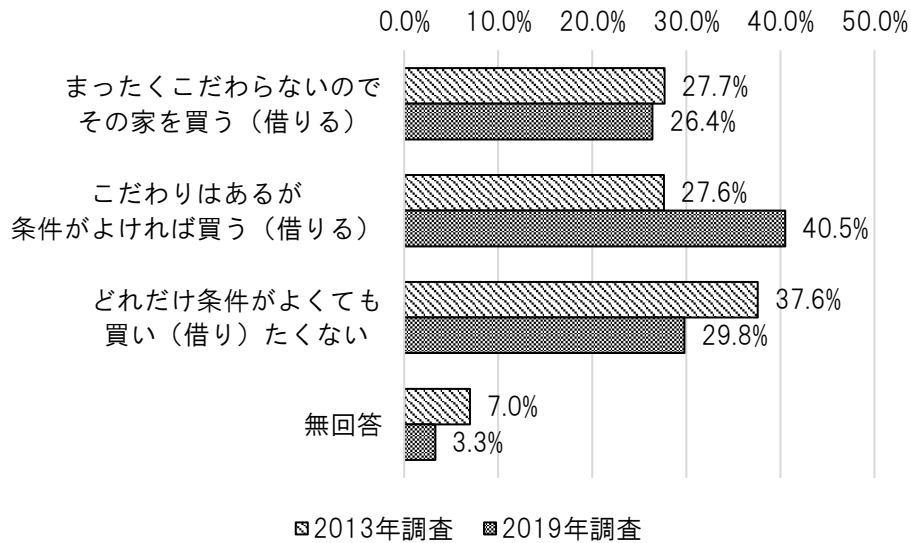
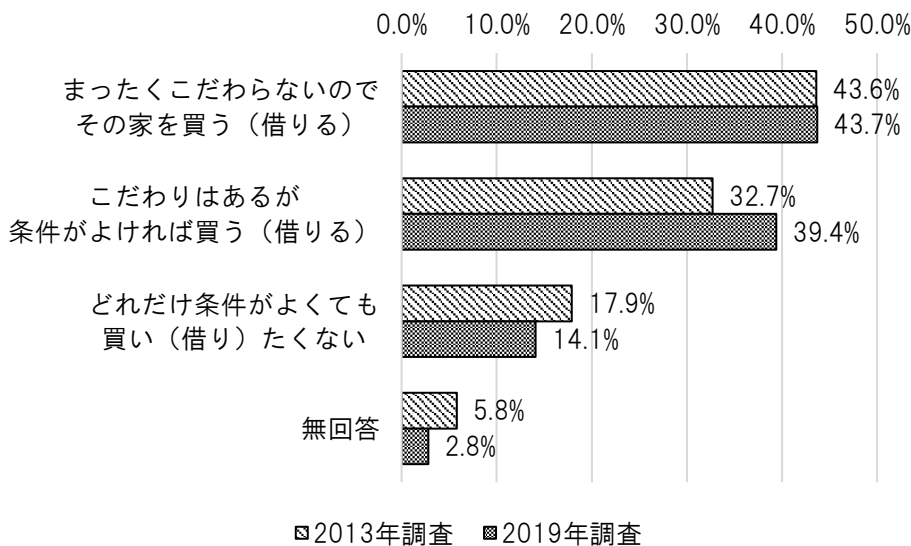


図4 同じ小学校区内に同和地区がある住宅の購入（借りる）についての態度



なお、土地差別問題に関連して、問12「世間では、どのようなことで『同和地区出身者』を判断していると思いますか」の回答結果を表2として紹介し、2013年調査の結果も併せて掲載している。

最も多かったのは「本人が現在、同和地区に住んでいる」の49.5%であった。次いで「本人の本籍地が同和地区にある」の40.1%、「本人の出生地が同和地区である」の39.9%と続いている。また両親や祖父母の現住所や本籍地、出生地を判断理由に挙げている場合も30%以上となっている。これらの結果は2013年調査の結果とほぼ同一であった。

調査の結果は、同和地区出身者か否かの判断において様々な基準が県民の間で流通しているものの、そこには「同和地区という地域（土地）とのかかわりの有無」によってその判断がなされているという共通点が存在していることが示されている。つまり、同和地区と「現住所・本籍地・出生地」などの何らかの接点を持てば「同和地区出身者と見なされる可能性が生じる」という社会の現実が人々を包み込んでいるのである。同和地区の不動

産物件への忌避的態度の背景には、こうした「同和地区との土地との関係を持てば同和地区出身者と見なされかねない」という社会の実態、部落差別の意識構造が影響を与えていると思われる。

表2 同和地区出身者の判断理由（複数回答可）

	総数	本人が現在、同和地区に住んでいる	本人が過去に同和地区に住んだことがある	本人の本籍地が同和地区にある	本人の出生地が同和地区である	父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる	父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区にある	父母あるいは祖父母の出生地が同和地区である	職業によって判断している	その他	わからない	無回答・不明
2019年調査	1146	49.5%	21.2%	40.1%	39.9%	36.6%	31.9%	31.8%	6.5%	3.0%	30.8%	4.4%
2013年調査	1209	50.0%	21.6%	40.4%	40.6%	35.3%	29.7%	30.3%	9.1%	3.5%	25.2%	3.3%

④差別的情報の流布

図5は、問13-1「最近5年間で、あなたは同和問題（部落差別）についての次のようなことを聞いたことがありますか。そのときに、あなたはどのように思いましたか」に対する回答のうち、「A.同和問題にはかかわらない方がよい」の結果を示したものである。

「聞いたことがない」は58.4%で、無回答の3.1%を除く残り38.5%の県民はこうした話を何らかの形で聞いた経験を有している。また、こうした話に接したとき、「疑問に思った」は11.8%、「反発を感じた」は3.1%であった。

図6は、同じ質問において「B.同和地区の人はこわい」という話についての場合の結果である。「聞いたことがない」は53.1%で、無回答の3.7%を除く残り43.2%の県民はこうした話を何らかの形で聞いた経験を有している。またこのような話に接したとき、「疑問に思った」は11.3%、「反発を感じた」は3.7%であった。

いずれも偏見に満ちたうわさであるが、それらを聞いたことがある県民は4割前後も存在している。「最近5年間」という条件付きの質問であることを踏まえるとき、差別を助長するこうした情報が広く流布されている状況がうかがえる。

また、それらを聞いて「疑問に思った」はいずれの場合も11%余りであり、「反発を感じた」も3%台にとどまっている。なぜこうもすんなり受け止められてしまうのであろうか。そこには県民の中にまだまだ同和問題や同和地区の人びとに対する偏見やマイナスイメージが色濃く漂っていることが示されている。

さて、こうした差別的情報はどこから入ってきたのだろうか。表3は、「A.同和問題にはかかわらない方がよい」、「B.同和地区の人はこわい」という話を聞いた人に対して「そのことは誰から聞きましたか」という問13-2の回答結果である。ともに最も多かったのは、「家族から聞いた」であり、次いで「友達から聞いた」「職場の人から聞いた」「近所の人から聞いた」となっている。ごくありふれた毎日の生活の中で差別的情報が飛び交っていることが示された。

図5 「同和問題にはかかわらない方がよい」という情報について

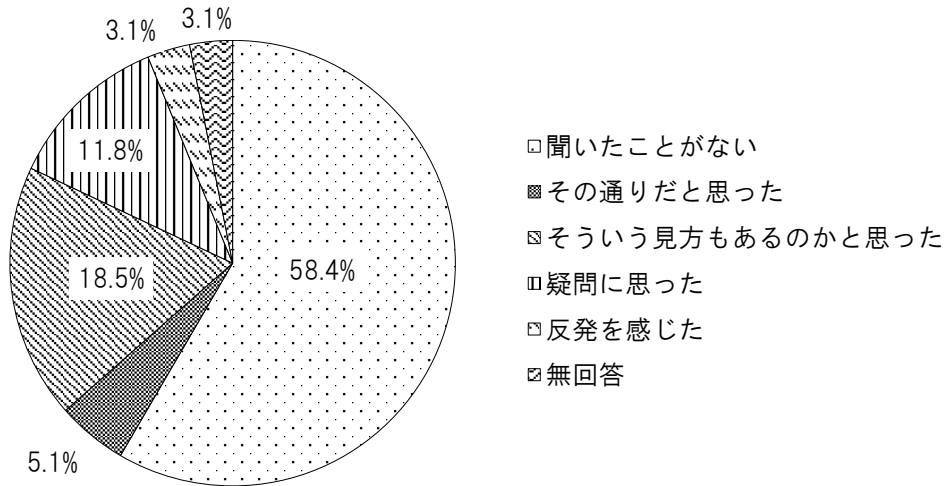


図6 「同和地区の人はこわい」という情報について

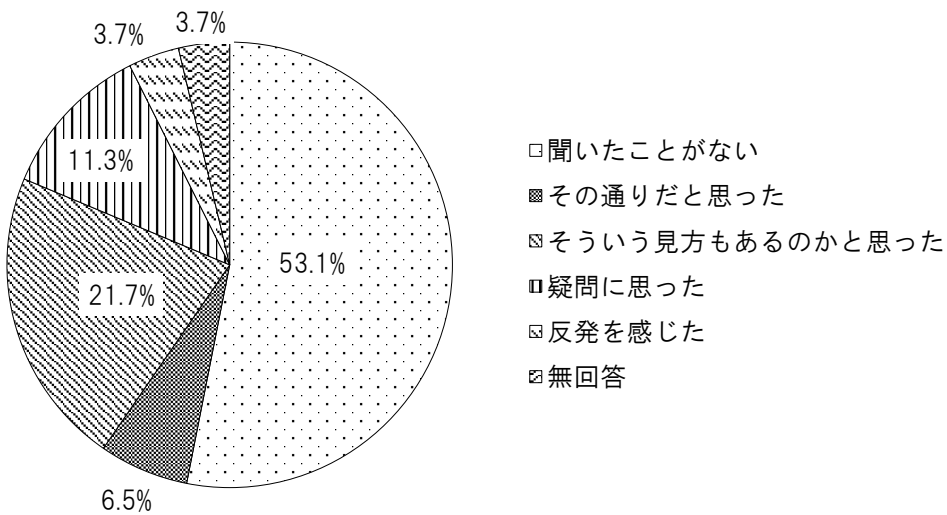


表3 差別的情報の入手経路

	該当数	家族から聞いた	親戚から聞いた	近所の人から聞いた	友だちから聞いた	職場の人から聞いた	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	インターネット上の情報で知った	覚えていない	その他	無回答
A.同和地区の人にはかかわらない方がよい	441	31.8%	12.5%	15.0%	21.8%	16.8%	9.3%	4.3%	14.7%	4.1%	7.0%
B.同和地区の人はこわい	496	24.8%	14.3%	17.9%	22.4%	18.8%	7.5%	5.0%	13.1%	4.8%	6.5%

⑤インターネット上での同和問題についての差別的表現

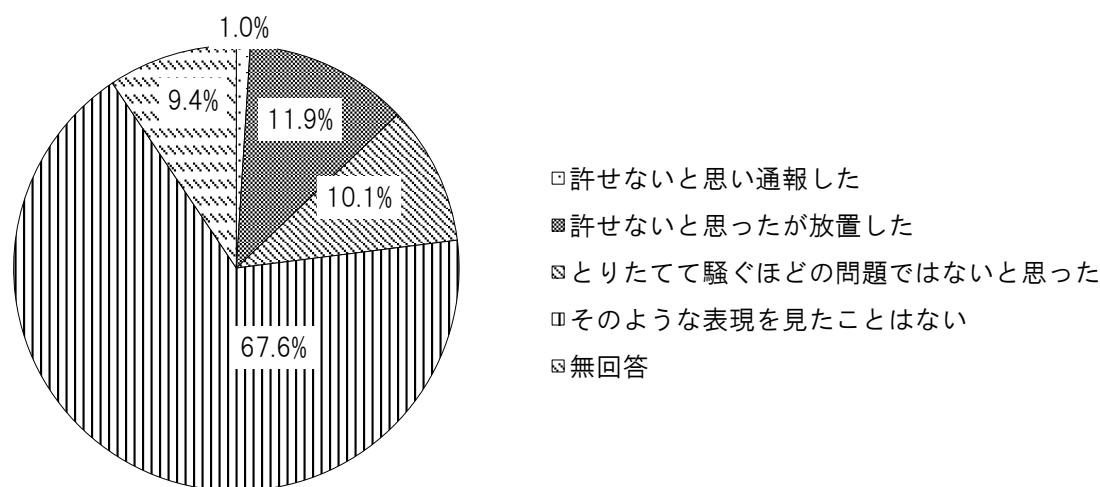
図7は、問14「あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか」に対する回答のうち、「B.同和問題についての差別的な表現」に関する回答結果である。

67.6%の人は「そのような表現を見たことはない」としているが、無回答（9.4%）を除く残りの23.0%の人はこうした差別的情報に接していることがわかる。ネット利用者の約4人に1人がこうした差別的情報に出会っていることがわかる。

先に部落差別解消推進法の内容（趣旨）を知っている人が9.2%であることを図1で紹介したが、いろいろ取り組んでもこの程度であるのに対して、ネットでの部落差別を助長する情報の認知が23.0%も存在しているとの回答結果に、ネット社会の威力を感じる。ネット上での差別的情報の広がりには差別解消にとって脅威となっている。

こうした差別的情報に対して「許せない人権侵害だと思い関係機関に通報した」人は1.0%であった。許せないと思いつつも放置した人が11.9%おり、こうした差別的情報に出会った場合の対処方法を広く県民に周知し共有する必要がある。また「とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った」という差別への軽視ともいえる人が10.1%いた。情報化社会の急速な広がりとその影響力の大きさを踏まえるとき、差別的な情報を見抜き、これを批判的にとらえることのできる力の養成は急務の課題である。

図7 インターネット上での同和問題についての差別的表現



⑥小括

部落差別の現実はまだ根深く三重県民の中に残されている。身元調査において「同和地区の人であるかどうか」を調べるのは「当然だ」「必要だ」としている人の合計は43.9%もあり、子どもの結婚相手が同和地区出身であった場合、「考え直すようにいう」人の合計は26.4%に達している。

また不動産売買においても、物件が同和地区内にある場合「まったくこだわらない」は26.4%しかなく、逆に「どれだけ条件がよくても買い（借り）たくない」人が29.8%も存在している。

「同和問題にかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」といった差別的情報に4割前後の県民が接しており、インターネット上でもネット利用者の23.0%の人が「同和問題について差別的な表現」と出会っている。そして、こうした状況にまだまだ有効な対応が取り切れていない現実も明らかになった。

以上、本調査の結果を見るにおいても、残念なことではあるが「現在もなお部落差別が存在する」という部落差別解消推進法第一条の指摘は三重県においても当てはまる事実であるといえる。

< 4 > 人権教育・啓発活動の現状と効果測定

(1) 人権教育・啓発活動の広がり と 課題

部落差別解消推進法の第5条では、国及び地方公共団体に対して「部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行う」ことを求めている。それを踏まえて、ここでは人権教育の先駆的役割を果たしてきた同和問題（部落差別）学習に焦点を当てて、まずは「部落差別を解消するための教育及び啓発」がどの程度広がりを持って行われてきたのかを検証する。

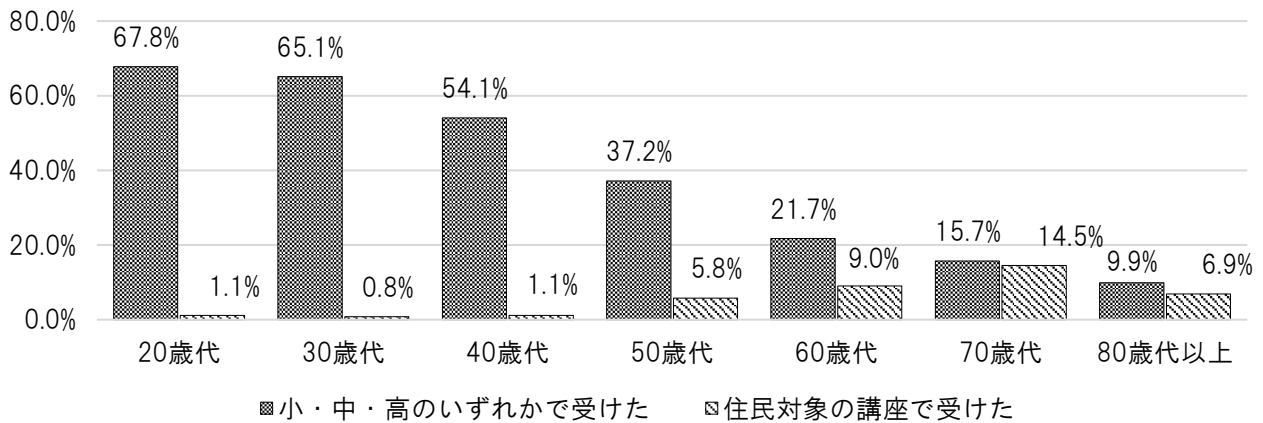
問18は「あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか」と学習経験をたずねている。このうち「A.同和問題（部落差別）」について、①小学校・中学校・高校という学校教育のいずれか（回答選択肢1・2・3）、および②「住民対象の講座など」（回答選択肢5）において、学習を受けた経験のある人の割合を年齢階層別に示しているのが図8である。

学校教育での学習経験は20歳代の67.8%が最も高く、年齢が高まるほど低くなっており、80歳以上では9.9%であった。着実な同和問題（部落差別）学習の広がりが示されている。

他方、「住民対象の講座など」では70歳代が14.5%と最も高く、次いで60歳代の9.0%、80歳以上の6.9%となっている。開催の量的な問題も影響してのことだと思われるが、学習経験率は学校教育ほど高くはない。しかしその中でも圧倒的に中高年の階層に受講経験が偏っている。20歳代～40歳代ではわずか1%前後に過ぎない。

「地域での取り組みに若い人の参加が少ない。高齢者によって取り組みが支えられている」との指摘が各地で聞かされるが、その実情が調査によって裏付けられたといえよう。

図8 年齢階層別の同和問題（部落差別）の学習経験



では、若い世代がなぜ「住民対象の講座など」への参加が少ないのか。問19-2では、最近5年間で「県や市町などが主催する人権に関する講演会や研修会」に一度も参加したことがない人にその理由をたずねている。その回答結果を年齢階層別に示しているのが表4である。

20歳代～40歳代では5割近い人が「講演会や研修会が開催されていることを知らなかった」と答えている。一方50歳代以上の人では、「時間や場所の問題で参加できなかった」との理由が、若い世代に比べて多くの割合を占めている。

調査結果を参考に「住民対象の講座など」への参加拡大を目指して、開催の周知徹底、開催時間や場所の改善など、一人でも多くの住民の参加が図られるよう取り組みの在り方の検討作業が始まることが期待される。

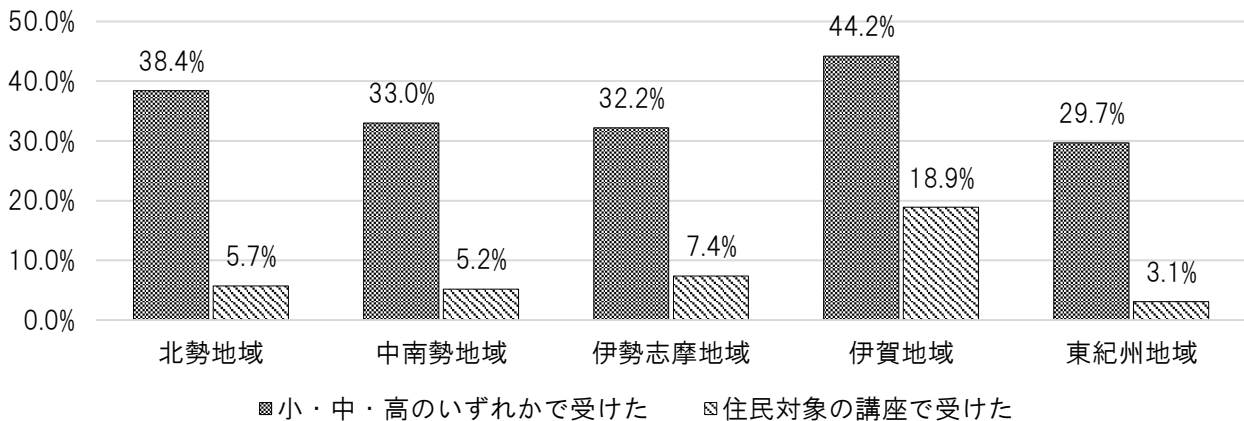
表4 講演会や研修会に参加したことがない理由

	該当数	講演会や研修会が開催されていることを知らなかった	時間や場所の問題で参加できなかった	関心がない	人権については十分に理解しているので、参加しなかった	その他	無回答
20歳代	81	49.4%	8.6%	38.3%	1.2%	2.5%	0.0%
30歳代	113	46.9%	8.0%	35.4%	5.3%	2.7%	1.8%
40歳代	153	47.7%	11.1%	31.4%	2.0%	5.2%	2.6%
50歳代	138	32.6%	16.7%	36.2%	7.2%	6.5%	0.7%
60歳代	187	32.1%	20.9%	29.9%	11.2%	2.1%	3.7%
70歳代	195	31.3%	16.4%	33.3%	12.3%	1.0%	5.6%
80歳以上	84	29.8%	10.7%	28.6%	20.2%	3.6%	7.1%

図 9 は、同じく学校での学習経験と住民対象の講座の受講経験を居住地域別に集計したものである。一見してわかる通り、地域によって取り組みに大きな落差が生じていることがわかる。

最も活発なのは伊賀地域で、学校での学習経験は 44.2%、住民対象の講座受講経験は 18.9%であった。最も厳しいのは東紀州地域で、学校での学習経験は 29.7%、住民対象の講座受講経験は 3.1%であった。これらの数値は、取り組みさえ推進すれば改善できる課題である。取り組みの遅れている地域での改善に向けた方策の立案が急がれる。

図 9 地域別の同和問題（部落差別）の学習経験



(2) 人権教育・啓発の効果検証

1. 検証の方法

では、こうしたこれまでの教育や啓発の取り組み（学習経験）は、差別解消に資する県民の態度や行動に効果を発揮しているのだろうか。次にこの点を検証したい。なお検証にあたっては次の方法を採用した。

- ①回答者を人権の「学習経験あり」のグループと「学習経験なし」のグループに分ける。
「学習経験あり」・・・問 18「あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか」において、「小学校・中学校・高校・大学等・住民対象の講座・職場研修」のいずれかで学んだ経験のある回答者とする。
「学習経験なし」・・・問 18において、「受けたことがない」と回答した人とする。
なお、問 18において「はっきり覚えていない」及び「無回答」は除外した。
- ②問 18 の学習経験は、「A. 同和問題（部落差別）」、「B. 障がい者の人権」、「C. 外国人問題の人権」について質問している。そこで検証は、同和問題（部落差別）、障害者問題、外国人問題のそれぞれについて行うこととした。
- ③結婚差別問題への対応については、問 8「もし仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいといっている相手が A～D の人であれば、あなたはどんな態度をとると思いますか」で取り上げている。分析では、回答選択肢の「全く問題にしない」と「迷いながらも結局は問題にしない」を「問題にしないグループ」とし、「考え直す」と「迷いながらも結局は考え直すように言う」を「考え直すように言うグループ」とした。
- ④なお、問 18 での学習経験とは別に、問 19-1「最近 5 年間で、県や市町村などが主催

する人権に関する講演会や研修会に参加したことがありますか」の質問において、「3回以上参加した」人の結果をそれぞれの図において併せて表示している。学習や研修の経験を積み重ねることの効果も確かめることとした。

2. 同和問題（部落差別）問題での検証

図 10 は、問 6 「差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか」での「A.同和問題（部落差別）」についての回答結果を問 18 の「A. 同和問題（部落差別）」についての学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「解決に向かう」との展望を有している人が 36.3%で、「学習経験なし」の人の 26.9%を 9.4 ポイント上回っている。また県や市町村などが主催する人権に関する講演会や研修会を「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 46.6%とさらに高くなっている。学習経験が同和問題（部落差別）の解決の展望を育てていることが推測される。

なお、「なくなる」の割合も、「学習経験あり」の人で 29.0%、「学習経験なし」で 27.2%、「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人では 37.9%とそれぞれ高い割合であった点にも留意する必要がある。

図 10 同和問題（部落差別）の学習経験と同和問題（部落差別）解決の展望

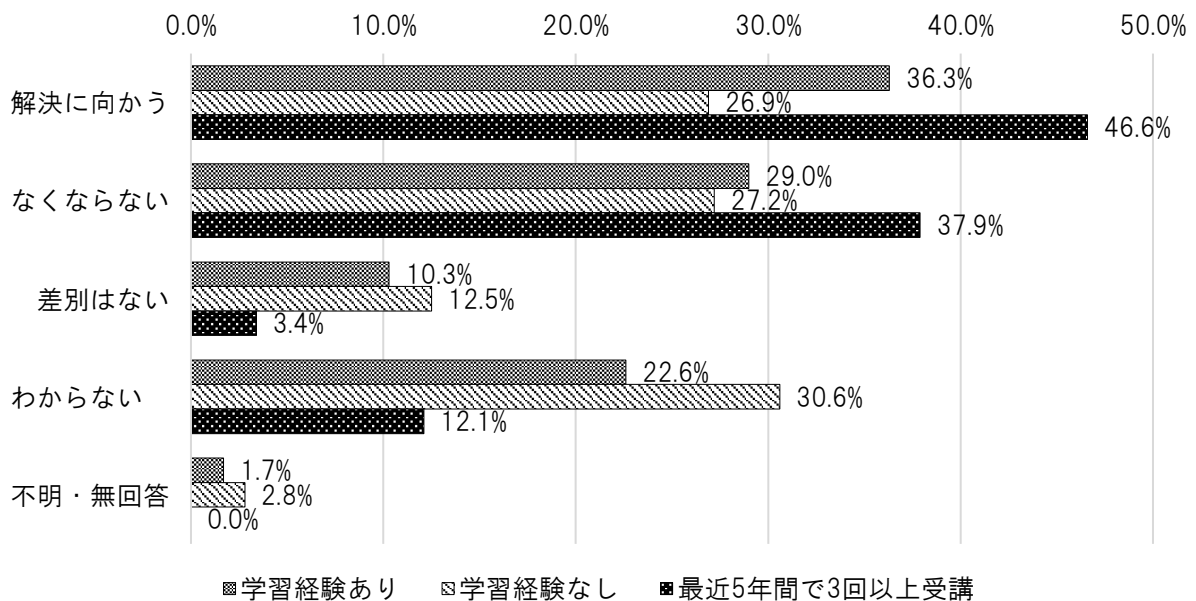


図 11 は、問 11 「B.物件（住宅）が同和地区にある」場合の購入への態度の違いを学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「こだわらないで買う（借りる）」とした人が 30.8%で、「学習経験なし」の人の 24.4%を 6.4 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 41.1%とさらに高くなっている。学習経験が土地差別問題の克服にプラス効果を与えていることが推測される。

図 11 同和問題（部落差別）の学習経験と土地差別

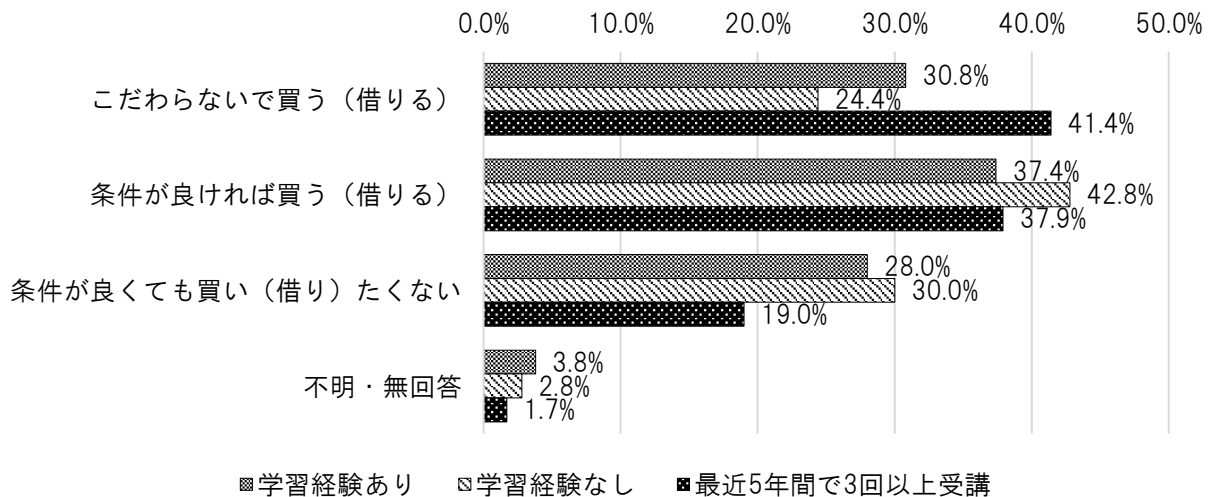
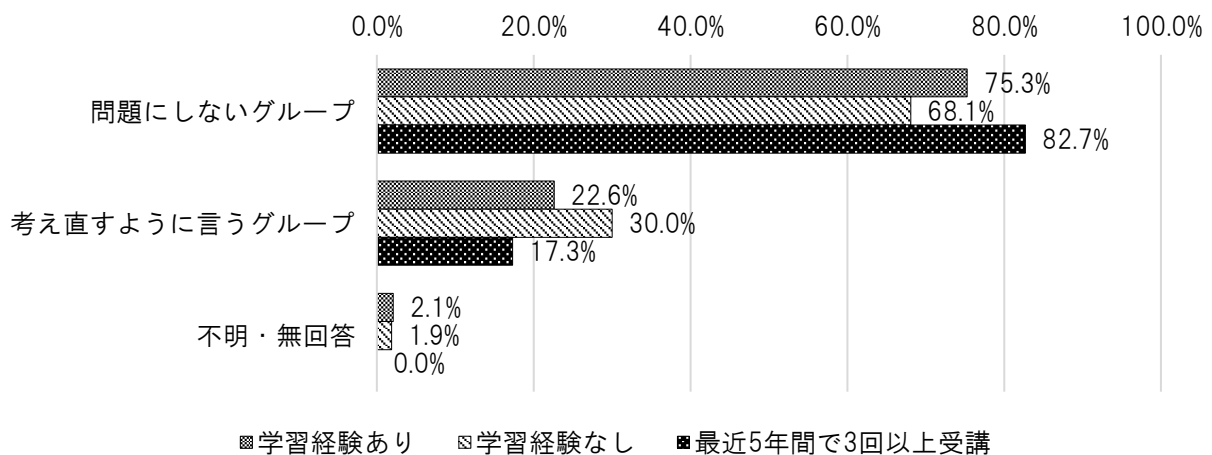


図 12 は、子どもの結婚相手による態度をたずねている問 8 での相手が「A.同和地区出身者」の場合の回答結果を学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「問題にしないグループ」が 75.3%で、「学習経験なし」の 68.1%を 7.2 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 82.7%とさらに高くなっている。学習経験が同和地区出身者に対する結婚差別問題の克服に寄与していることが推測される。

図 12 同和問題（部落差別）の学習経験と結婚での態度



3. 障害者問題での検証

図 13 は、問 9「ある市が、住宅地域の中心に A～C のような施設の建設を計画したところ、地元住民から反対運動が起こってきました。こうした住民の態度について、あなたは どう思いますか」での「A.知的障がい、精神障がい児・者の生活施設」の場合についての回答結果を問 18 の「B. 障がい者の人権」についての学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「反対運動は人権を侵害している」とした人が 56.6%で、「学習経験なし」の人の 47.7%を 8.9 ポイント上回っている。なお県や市町村などが主催する人権に関する講演会や研修会を「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 69.0%

とさらに高くなっている。学習経験が「A.知的障がい、精神障がい児・者の生活施設」の建設に対する反対（施設コンフリクト）を克服する一助となっていることが推測される。

図 13 障害者問題の学習経験と施設建設反対問題

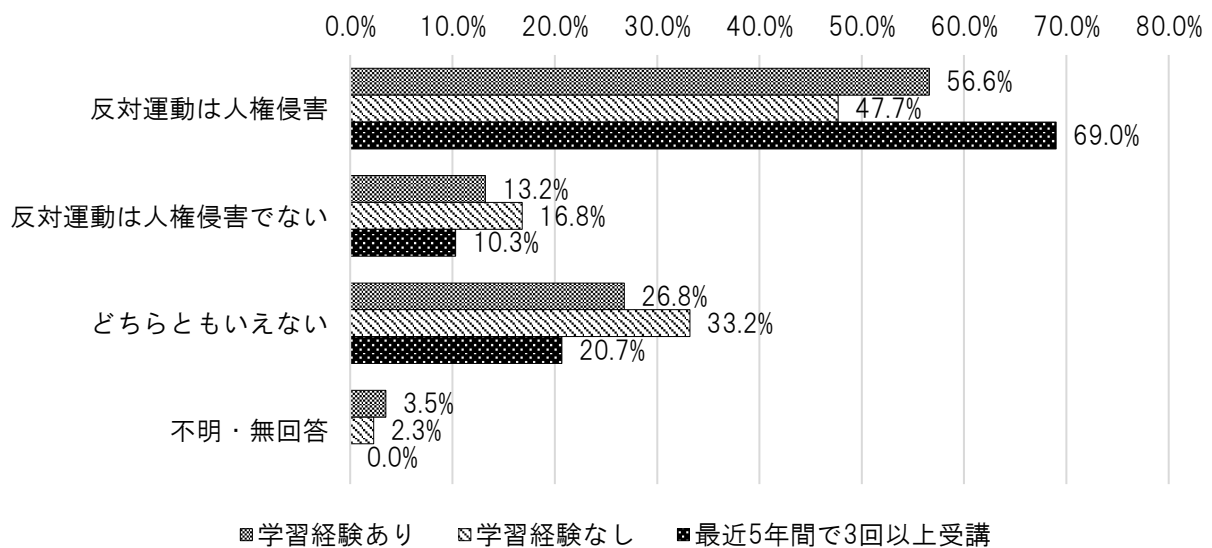


図 14 は、問 10「家主が賃貸マンションを A～C の人であることを理由に貸すことを断ること（入居拒否）について、あなたはどのように思いますか」での「A.障がい者」の場合についての回答結果を、問 18 の「B. 障がい者の人権」についての学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「入居拒否は人権を侵害している」とした人が 58.0% で、「学習経験なし」の人の 43.9% を 14.1 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 69.0% とさらに高くなっている。学習経験が障害者に対する入居差別を見抜く力の形成に効果を発揮していることが推測される。

図 14 障害者問題の学習経験と賃貸マンション入居問題

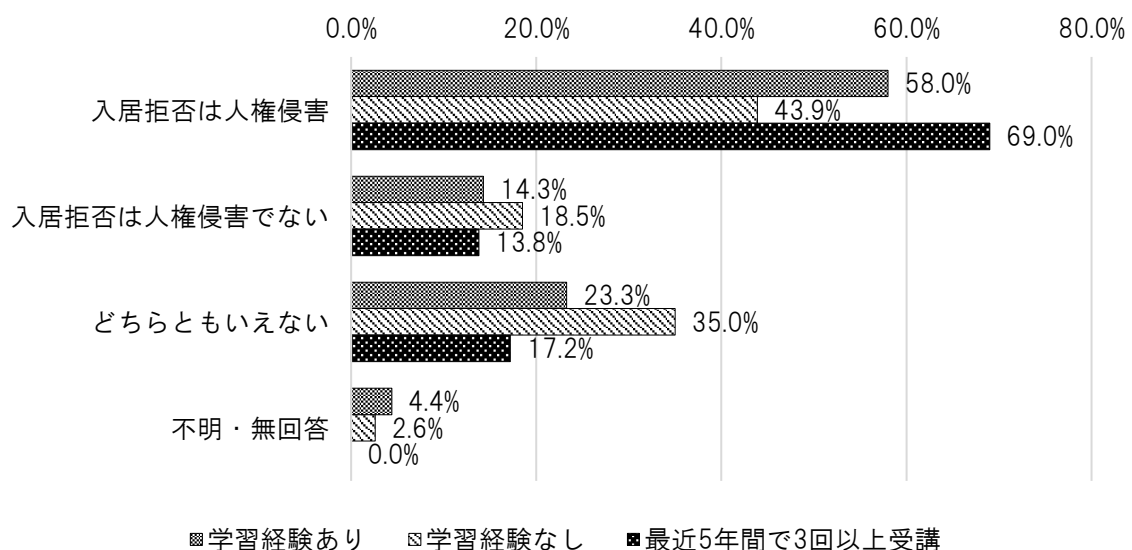
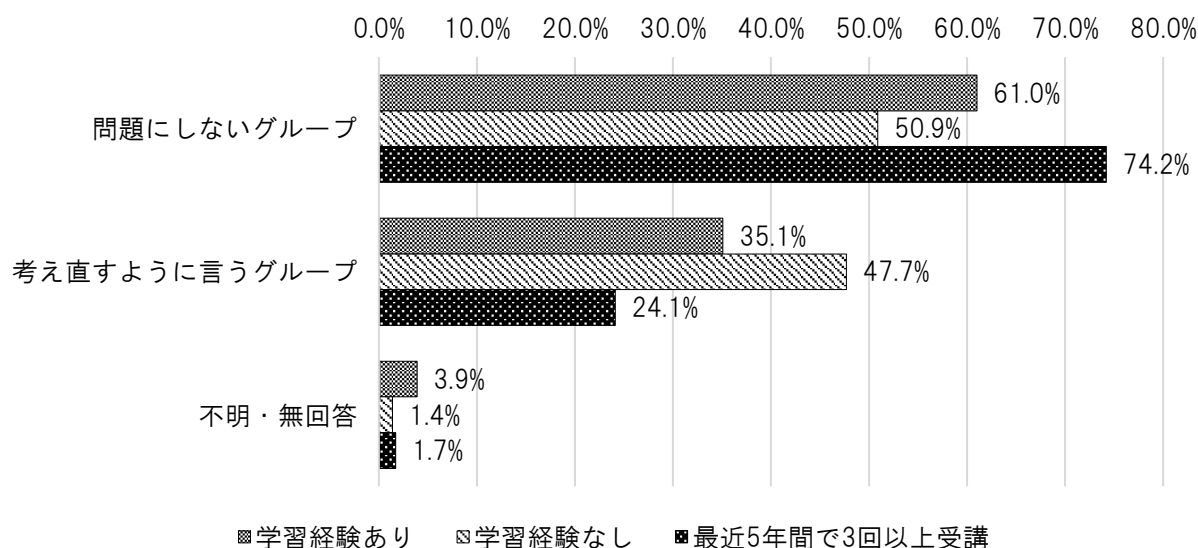


図 15 は、子どもの結婚相手による態度をたずねている問 8 での相手が「B.障がい者」の場合の回答結果を、学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「問題にしないグループ」が 61.0%で、「学習経験なし」の人の 50.9%を 10.1 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 74.2%とさらに高い。学習経験は障害者に対する結婚差別問題の克服に寄与していることが推測される。

図 15 障害者問題の学習経験と結婚での態度



4. 外国人問題での検証

図 16 は、問 9 の施設建設にかかわる住民の態度に関する質問において「C.外国人の研修施設」の場合についての回答結果を、問 18 の「C. 外国人の人権」についての学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「反対運動は人権を侵害している」とした人が 52.3%で、「学習経験なし」の人の 43.1%を 9.2 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 70.7%とさらに高い。学習経験が「C.外国人の研修施設」の建設に対する反対（施設コンフリクト）を克服する一助となっていることが推測される。

図 16 外国人問題の学習経験と施設建設反対問題

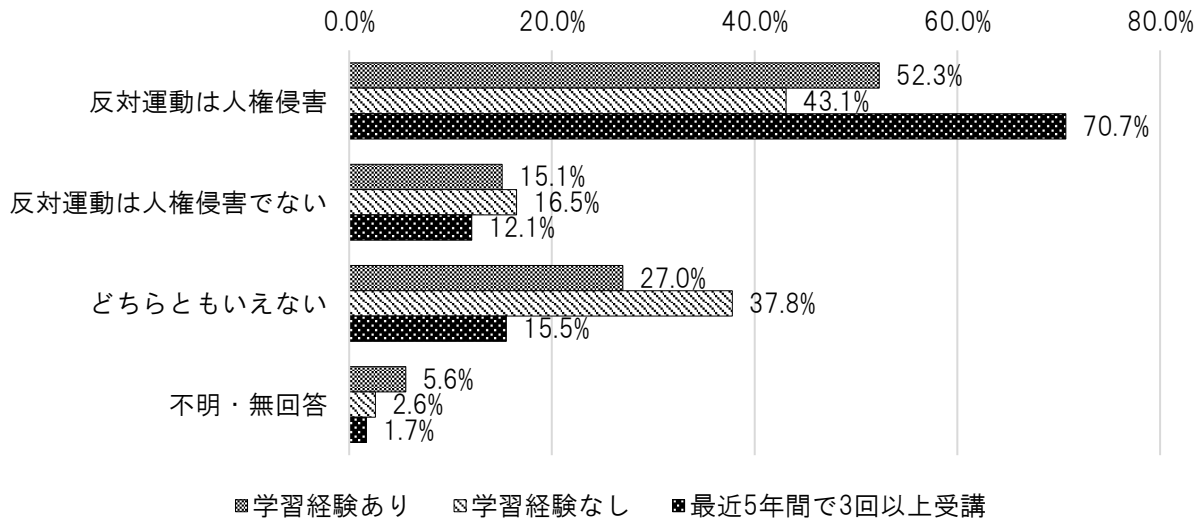


図 17 は、問 10 での入居拒否問題での「A.外国人」の場合についての回答結果を問 18 の「C. 外国人の人権」についての学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「入居拒否は人権を侵害している」とした人が 54.7% で、「学習経験なし」の人の 37.7% を 17.0 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 65.5% とさらに高くなっている。学習経験が外国人に対する入居差別を見抜く力の形成に効果を発揮していることが推測される。

図 17 外国人問題の学習経験と賃貸マンション入居問題

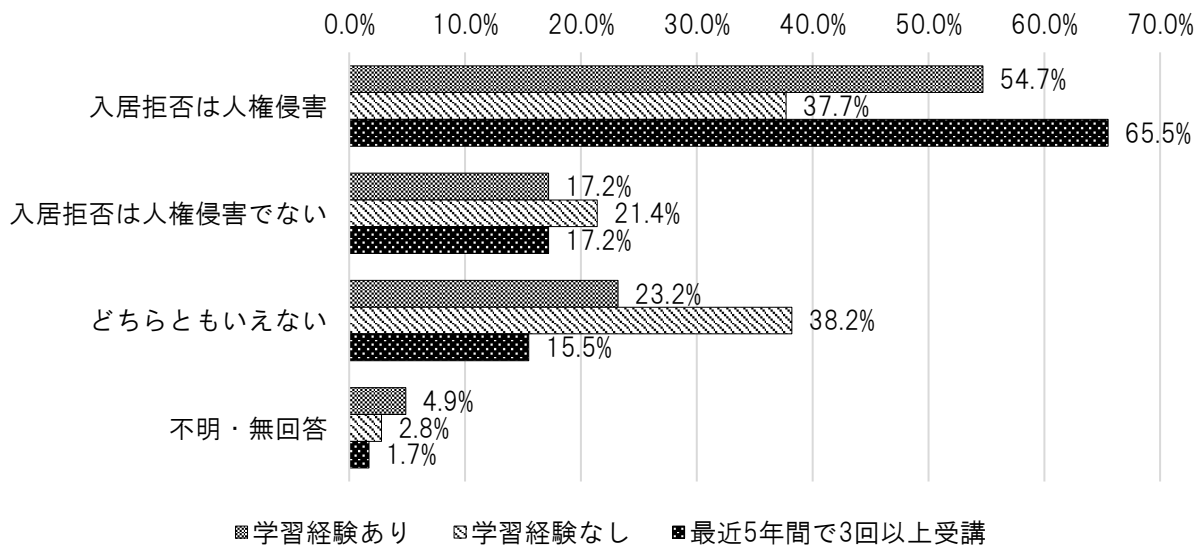
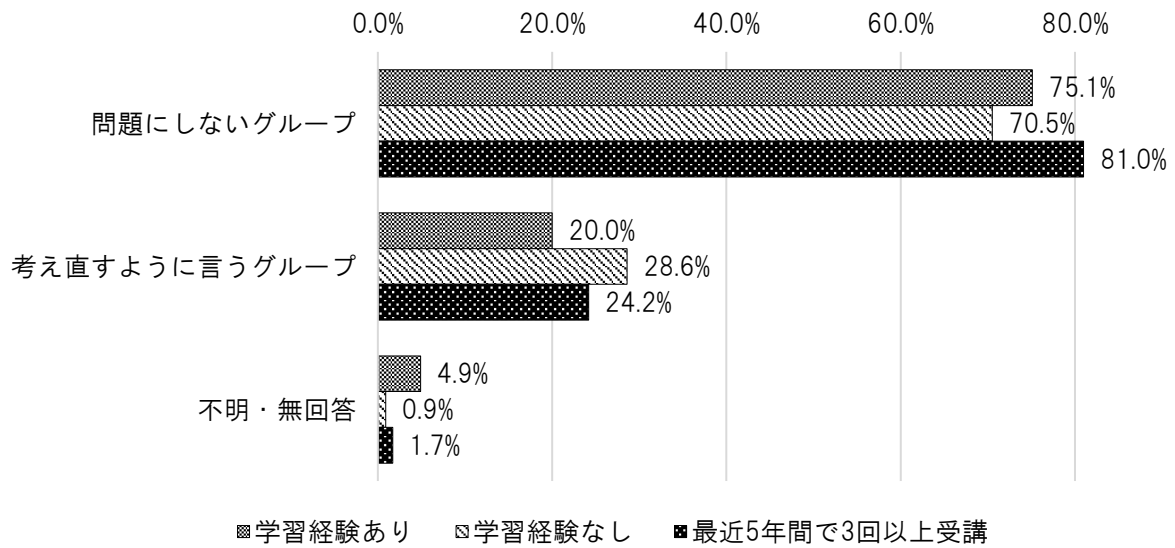


図 18 は、子どもの結婚相手による態度をたずねている問 8 での相手が「C.外国人」の場合の回答結果を学習経験の有無別に見たものである。

「学習経験あり」の人においては「問題にしないグループ」が 75.1% で、「学習経験なし」の人の 70.5% を 4.6 ポイント上回っている。なお「最近 5 年間で 3 回以上受講」した人の場合は 81.0% とさらに高い。学習経験は外国人に対する結婚差別問題の克服に寄与する傾向にあることが推測される。

図 18 外国人問題の学習経験と結婚での態度



5. 小括

これまでの教育や啓発の取り組みは実際の差別解消に効果を発揮していることが一定程度示されたといえる。人権学習は学校教育や住民対象の講座、職場での研修など多様な段階や場面で実施されているが、これらを経験している人にとっては、同和問題(部落差別)、障害者問題、外国人問題のいずれにおいても、学習経験のないものとの比較において、高い人権意識や態度を示した。

とりわけ最近5年間で県や市町村などが主催する人権に関する講演会や研修会を3回以上受講した人にとってはその学習・研修効果は高く、またそのことが更なる学習・研修活動への参加を促すという好循環を形成していると思われる。

取り組めば効果が発揮される。人権教育・啓発活動の一層の推進と内容の充実を調査結果は求めている。

< 5 > 「寝た子を起こすな論」の克服へ

(1) 「寝た子を起こすな論」とその現状

部落問題に限らず様々な差別問題の解決に向けた取り組みの推進には立ちどころ3つの壁がある。1つは、「もうそんな差別なんか存在しない。あってもたいしたことではない」という差別の存在の軽視や否定である。だから「取り組む必要はない」となる。部落差別解消推進法はこの第1の壁に対して、第一条で「現在もなお部落差別は存在する」とこれを明確に否定した。本論では「< 3 > 調査結果に見る部落差別の現実」として検証している。

「差別の存在認知」というこの第1の壁を乗り越えたところに、今度はそれをいかに受け止めるかという第2の壁が登場する。それが「宿命論」である。「取り組んだところで差別はなくなるものではない」というこの考え方は取り組みへの熱意をそぎ、差別解消への

希望を打ち砕く。部落差別解消推進法はこの第2の壁に対して、社会の在り方が区別を差別に転化しているという差別のとらえ方に立脚して、第一条で「部落差別のない社会を実現する」と明言し、「宿命論」を否定した。

そして、第3の壁が「寝た子を起こすな論」である。「生まれたばかりの赤ちゃんは世のなかに部落差別があることなど知っているはずはないし、当然、差別意識なども持ち合わせてはいない。だからそのままそっとしておいたらよい。そうすれば差別は自然に消えていく」という主張である。「であるから、寝た子を起こすような教育や啓発は行わない方がよい。それは逆効果である」となり、一切の取り組みへの抑止力となってきた。部落差別解消推進法はこの第3の壁に対して、第五条で「部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行う」と明記し、この考え方を退けている。

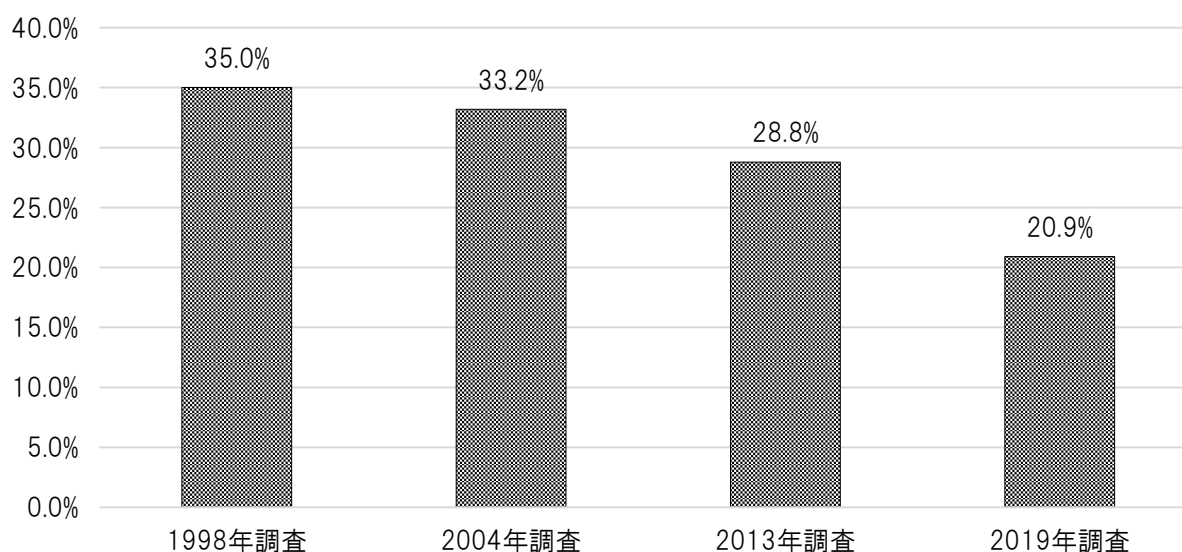
本項で取り上げるのは、この第3の壁となっている「寝た子を起こすな論」にかかわる調査結果の考察である。

本調査では「寝た子を起こすな論」については、問5「人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見があります。あなたはどのように思いますか」において、「C.そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という形でその賛否を問うている。

なお、分析に当たっては、問5Cの意見に対して「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を合わせて「寝た子を起こすな論」の「支持グループ」とした。まずはそれがどれほどの割合で存在しているのかを、過去の調査結果と比べる中で確かめておく。それが図19である。

いずれも三重県が実施した「人権問題に関する三重県民意識調査」の結果であり、設問の表現は多少異なっているが、それぞれの調査における「寝た子を起こすな論」の支持率である。今回の調査では「寝た子を起こすな論」を支持する人は20.9%であった。1998年調査では35.0%であり、その後次第に支持率は低下している。しかしなお、県民の約5人に1人がこの考え方を肯定している。

図19 寝た子を起こすな論を支持する割合



(2)「寝た子を起こすな論」を支持しているのはどのような人か

「寝た子を起こすな論」はどのような人によって支持を受けているのであろうか。

図 20 は、年齢階層別にみた「寝た子を起こすな論」の支持率である。最も支持率が高いのは「80 歳代以上」の 36.6%で、最も低いのは「20 歳代」の 11.1%であった。年齢が上がるほど支持率が高い傾向にあることがわかる。

図 20 年齢階層別の「寝た子を起こすな論」を支持する割合

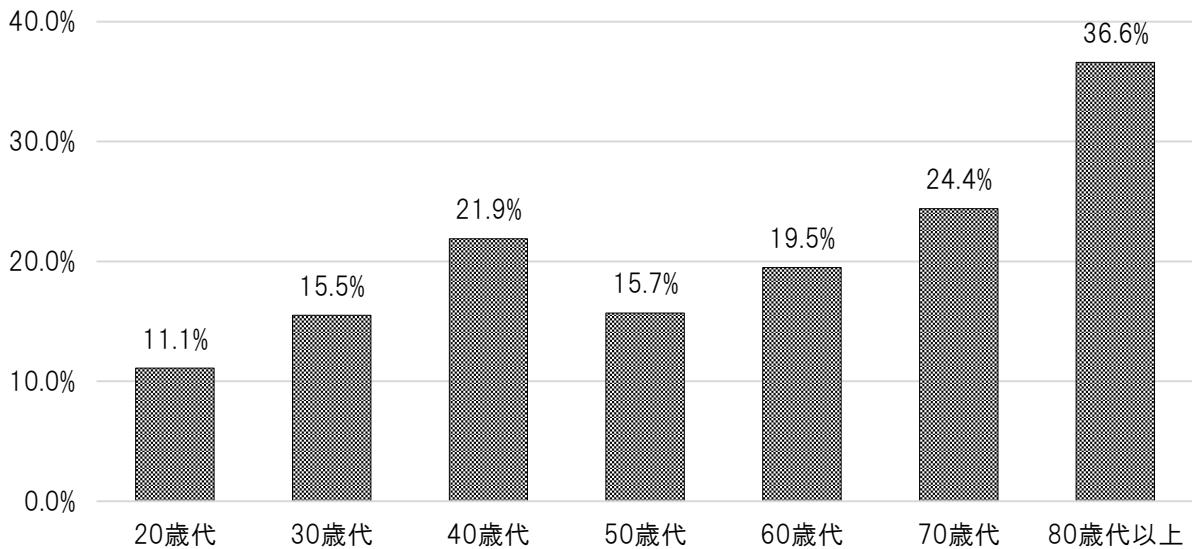


表 5 は、同和問題（部落差別）の学習経験の有無別に見た「寝た子を起こすな論」の支持率である。なお学習経験の有無は問 18A の結果を「< 4 >人権教育・啓発活動の現状と効果測定」と同様の基準で用いた。

さらに、問 5「人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見があります。あなたはどのように思いますか」において、「A.同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない」との意見の違い別に「寝た子を起こすな論」の支持率も併せて表示している。

同和問題（部落差別）の学習経験別では、「学習経験あり」の「寝た子を起こすな論」の支持率は 18.5%であったが、「学習経験なし」の場合は 23.0%で 4.5 ポイント高くなっている。

「A.同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない」という意見に対する違いでは、「そう思う・どちらかといえばそう思う」という積極的な考え方の人における支持率が 15.8%にとどまっているのに対して、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」人では支持率が 49.4%と 33.6 ポイントも高くなっている。

表5 学習経験別・考え方別の「寝た子を起こすな論」を支持する割合

		該当数	寝た子を起こすな論を支持する割合
同和問題（部落差別）の学習経験	あり	575	18.5%
	なし	360	23.0%
同和問題は早急に解決されなければならない	そう思う・どちらかと言えばそう思う	758	15.8%
	どちらともいえない	279	25.8%
	そう思わない・どちらかと言えばそう思わない	87	49.4%

同和問題（部落差別）の学習経験のある人ほど「寝た子を起こすな論」の支持率が低いことは、実際に学習を経験することによって「正しく知る」ことの必要性（正しさ）を感じているからではないだろうか。そのことと教育現場での学習経験率が高い若年層（図8）での「寝た子を起こすな論」の支持率の低さは連動していると思われる。

なお注目したいのは、「同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない」という考え方を持っている人においてさえ、「寝た子を起こすな論」の支持率が15.8%も存在することである。「善意」ともいえるべき差別解消への積極的な姿勢（反差別意識）を有する人において、その姿勢を裏切る考え方（「寝た子を起こすな論」）が一定の影響をもたせて同居していることに留意したい。

（3）「寝た子を起こすな論」の支持者の態度

図21は、問7の身元調査に関する質問において、「E.同和地区の人であるかどうか」を調べることへの態度を「寝た子を起こすな論」の支持者と県民全体の結果とを比較したものである。「調べるのは当然だ」とした人が「寝た子を起こすな論」の支持者では14.6%と、県民全体の8.6%より6.0ポイントと高い。

図22は、問8の結婚差別に関する質問において、相手が「A.同和地区出身者」の場合の態度を「寝た子を起こすな論」の支持者と県民全体の結果とを比較したものである。「考え直すように言う」グループが「寝た子を起こすな論」の支持者では30.5%と、県民全体の26.4%より4.1ポイントと高い。

図23は、問11の住宅購入に関する質問において、「B.物件（住宅）が同和地区にある」場合における態度を「寝た子を起こすな論」の支持者と県民全体の結果とを比較したものである。「どれだけ条件がよくても買い（借り）たくない」とした人が、「寝た子を起こすな論」の支持者では36.4%と、県民全体の29.8%より6.6ポイントと高い。

「寝た子を起こすな論」の支持者は、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく」としながらも、身元調査や結婚差別、土地差別への態度を見る限り、その考え方とは裏腹に決してそっとしておいているのではなく、実際にはむしろ県民平均よりもより差別助長の態度をとる傾向にあることを調査結果は示している。

図 21 「寝た子を起こすな論」の支持者と身元調査

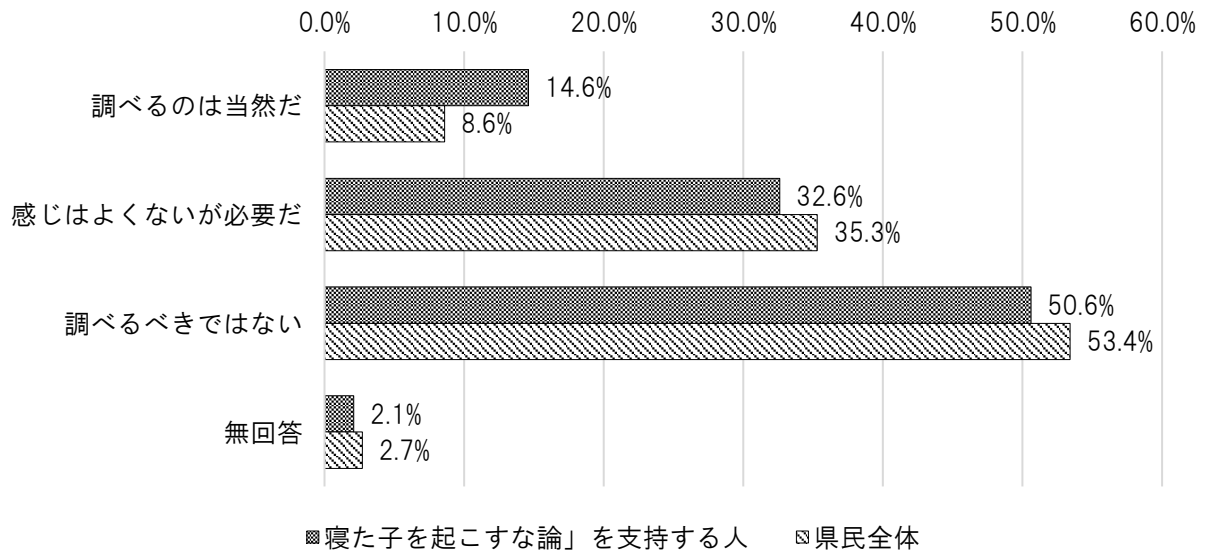


図 22 「寝た子を起こすな論」の支持者と結婚差別

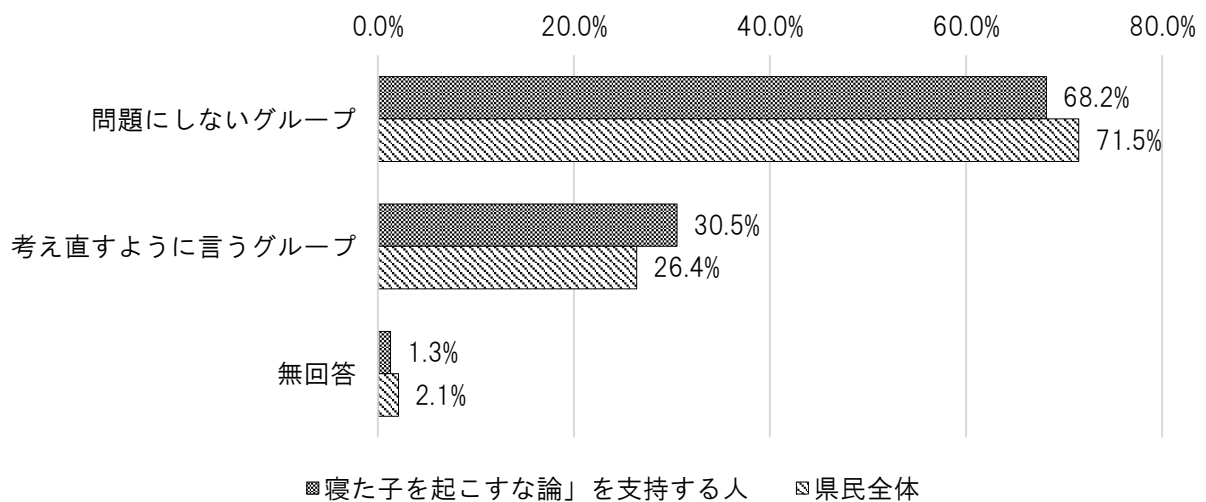
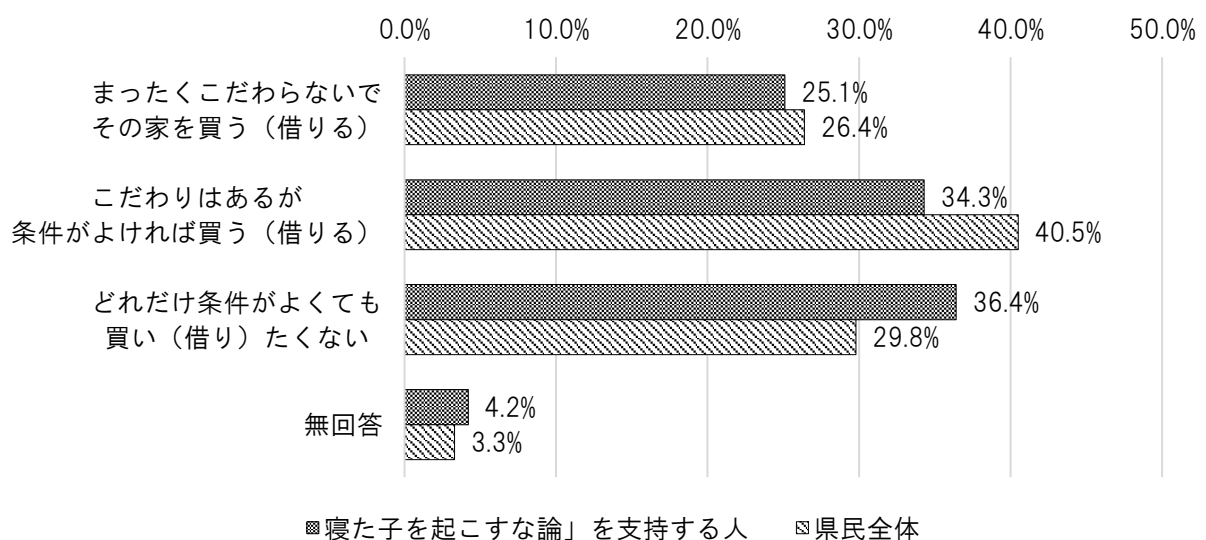


図 23 「寝た子を起こすな論」の支持者と土地差別



(4) 小括

1965 年に出された「同対審」答申は、『寝た子を起すな』式の考えで、同和問題はそのまま放置しておけば社会進化にともないいつとはなく解消すると主張することにも同意できない」（第 1 部 同和問題の認識）と「寝た子を起すな論」を明確に否定し、教育・啓発活動の推進を謳った。

そして実際、「< 4 > 人権教育・啓発活動の現状と効果測定」において検証した通り、この間の教育・啓発活動は差別解消への成果を上げている。さらに先にも述べたとおり、2016 年施行の部落差別解消推進法では、その第五条において「部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行う」ことを改めて国及び地方公共団体に求めた。にもかかわらず、なお「寝た子を起すな論」が根強く存在しており、取り組みの推進を拒む壁となって立ちはだかっている現実が示された。

「< 3 > 調査結果に見る部落差別の現実」の「④差別的情報の流布」及び「⑤インターネット上での同和問題についての差別的表現」で見たとおり、日常生活の中において差別的情報が飛び交い漂っている。こうした中で学校での人権教育（部落問題学習）や行政による人権啓発を行わないということは、県民が「部落問題を知らなくなり」その結果「部落差別は自然になくなっていく」のではなく、むしろ逆に「知らず知らずの間に部落問題を差別的に知る」こととなり、「部落差別が温存・助長されていく」ことを意味するといえよう。

「寝た子を起すな論」の克服なくして差別解消の実現はないことを踏まえ、人権教育・啓発活動の一層の推進を調査結果は求めている。

< 6 > 多発する人権侵害と相談機能の実態

(1) 多発する人権侵害

三重県内で人権侵害が多発していることが明らかにされた。図 24 は、問 21-1「あなたは、最近 5 年間で自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか」に対する回答結果である。「ある」が 11.2%に達している。これは大きな数値である。質問の設定が「最近 5 年間」に限定されていることを踏まえればその割合の大きさはより深刻である。

2018 年（平成 30 年）5 月 1 日の三重県の推計人口は 1,791,863 人である（三重県のホームページより）。その 11.2%といえは 200,689 人となる。一人の県民が受けた人権侵害が一回であったとした場合、この 5 年間で 20 万人以上の県民が人権の侵害を受けたのである。1 年に換算すれば人権侵害事案は 40,138 件、毎月なら 3,345 件の発生状況である。

表 6 は、こうした人権侵害を受けたと感じる人に対して「どのような理由で侵害されたとお考えですか」という問 21-2 の回答結果である。実に多様な理由による人権侵害が県民の日常生活において発生していることがわかる。

図 25 は、問 2「あなたは三重県は人権が尊重された社会になっていると感じますか」に対する回答結果である。「感じている」が 2.5%、「どちらかといえば感じている」が 20.9%

でその合計は 23.4%、県民の 4 人に 1 人弱にとどまっている。先の人権侵害の多発と合わせて受け止めるとき、なかなか厳しい結果であると感じる。

図 24 最近 5 年間で人権が侵害されたと感じたことのある人

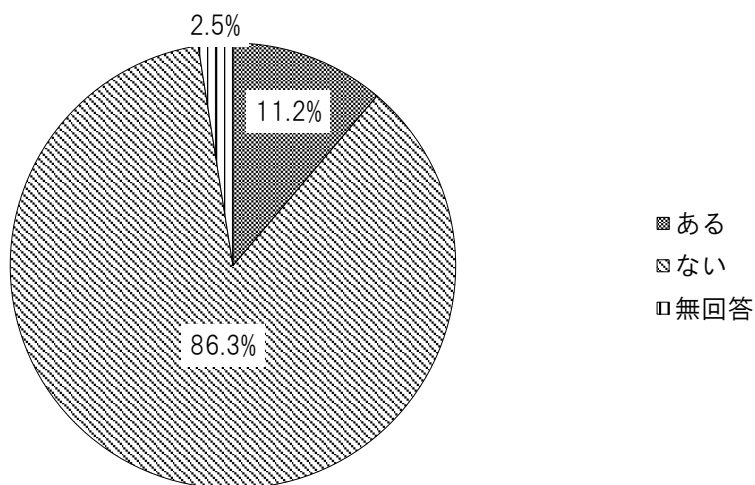
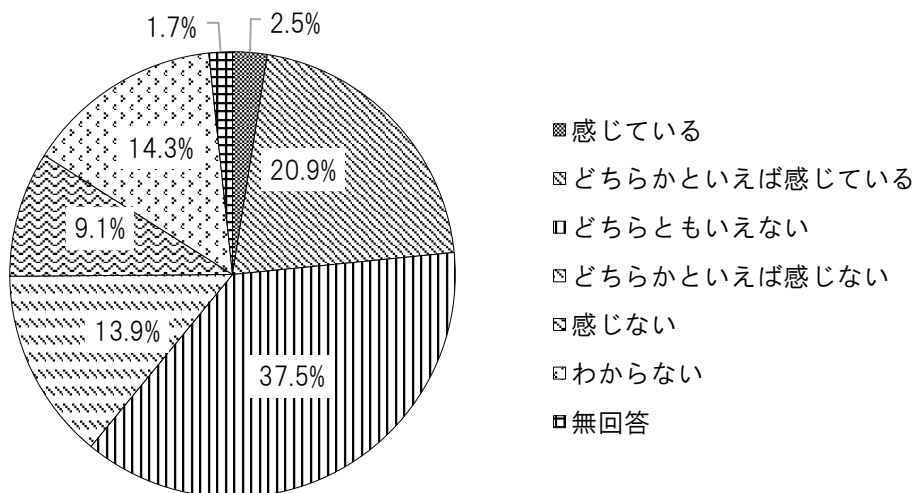


表 6 人権侵害を感じた人の理由（複数回答可）

	回答者数		回答者数		回答者数
アイヌの人びと	3	災害避難者	2	年齢	24
外見	21	障がい者	16	犯罪被害者	6
学歴	23	職業	23	病気	14
経済的困難、貧困	15	女性または男性であること	27	ホームレス	5
刑を終えた人であること	6	性的マイノリティであること	5	答えたくない	14
国籍、人種、民族	11	同和問題(部落差別)	7	その他	21

図 25 三重県は人権が尊重されていると感じる割合



(2) 人権侵害を受けたときの対処行動

表7は、問 21-1 で人権侵害を受けたと感じている人に対して、その時「あなたはどのような対応をしましたか」という問 21-3 の結果である。

「何もせず、がまんした」が 46.9%と最も高い割合を示している。人権侵害を受けたとき、それをだれにも相談せず自分一人の中に閉じ込めておくことが苦しみを倍加し、取り返しのつかない悲劇につながったことを過去の差別事件は教えている。深刻な事態と言えよう。

次に多かったのは「家族や友人など身近な人に相談した」の 36.7%であった。さらに「相手に抗議した」が 15.6%となっている。これら上位3ケースはいずれも人権侵害を受けた当事者あるいはその家族や友人における対応である。人権侵害を受けた時、こうしてその殆どが「私的な人間関係」によって対処されていることが示された。

「会社の上司や学校の先生などに相談した」の 11.7%を除き、国、県、市町、人権擁護委員など公的な人権相談窓口を訪れたケースはいずれも 10%未満であった。公的な人権相談窓口（機関）が十分その機能を果たしていない実態が明らかになっている。

表7 人権侵害を受けたときの対処行動（複数回答可）

	件数	割合		件数	割合
相手に抗議した	20	15.6%	人権擁護委員に相談した	4	3.1%
家族や友人など身近な人に相談した	47	36.7%	法テラス・弁護士に相談した	8	6.3%
会社の上司や学校の先生などに相談した	15	11.7%	警察に相談した	3	2.3%
国の機関（法務局、労働局など）の相談窓口	6	4.7%	何もせず、がまんした	60	46.9%
県の機関（県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など）の相談窓口	8	6.3%	その他	13	10.2%
市町の相談窓口（市役所、町役場、隣保館など）	9	7.0%	無回答	8	6.3%
NPOなどの民間の相談窓口相談した	5	3.9%			

では、なぜこれほど多くの人権侵害の被害者が「なにもせず、がまんした」のであろうか。一つの仮説として考えられるのは、「人権についての相談窓口」の存在を知らなかったのではないのかということである。

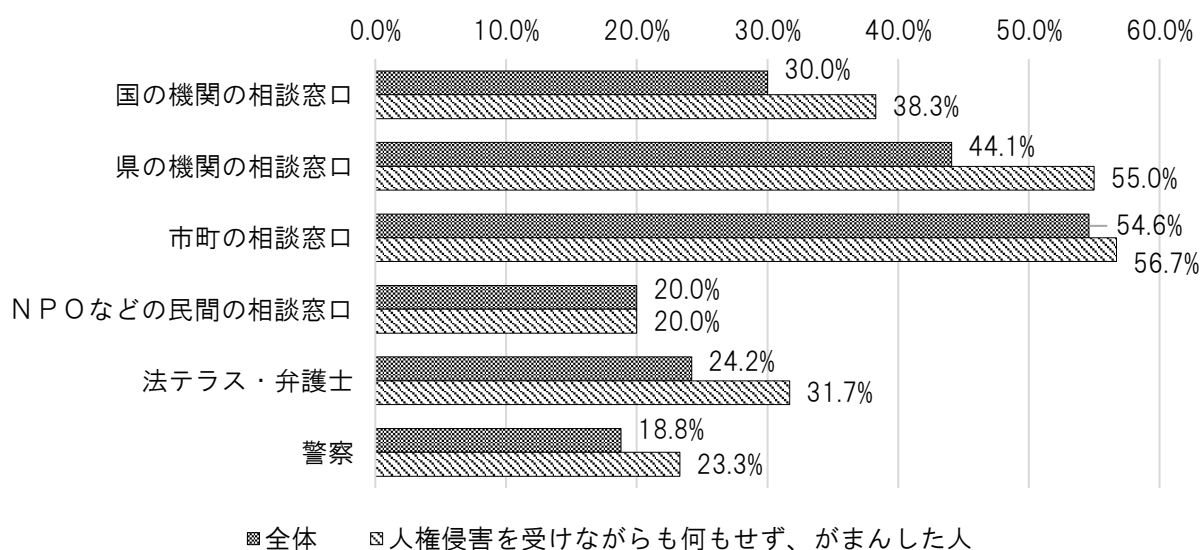
そこで、人権相談機関や相談窓口の認知を問うている問 20 の結果を、問 21-3 で「何もせず、がまんした」人と全体ではどのように異なっているのかをクロス集計した。それが図 26 である。

結果は、例えば「県の機関の相談窓口」ではこれを知っている割合は「何もせず、がまんした」が 55.0%と、全体の 44.1%より 10.9 ポイント高いなど、むしろ人権侵害を受けても「何もせず、がまんした」人の方が様々な人権相談機関や窓口の認知率が高くなっていることが示された。では一体、相談窓口の存在が認知されながらそれが活用されていないのはどうしてだろうか。調査結果は新たな課題を提起している。

部落差別解消推進法は第四条で「部落差別に関する相談に的確に応ずるための体制の充

実」を国及び地方公共団体に求めているが、それは部落差別だけではなく様々な人権侵害にも通じる指摘であるといえる。その具体化が急務である。

図 26 「何もせず、がまんした」人の人権相談機関・窓口の認知状況



< 7 > 差別解消のための調査について

最後に、今回の調査に参加して、今後の調査活動への期待として感じた点を 5 点簡単に述べておきたいと思う。

1. 人権問題に限られたことではないが、今回のような調査票調査（量的調査）だけでは調査目的を達成するにはやはり不十分であると感じた。例えば問 5 で「寝た子を起こすな論」を支持した人に対して、「なぜ、そう思ってしまうのか」という支持の理由を具体的に知ることができればその背景や克服の方策が一層明らかになると思う。

また問 21 で人権侵害を受けた人には「具体的にどんなことがあったのか」、「なぜ何もせず、がまんしたのか」、「なぜ相談窓口へ行かなかったのか」がわかれば今後の取り組みに大きな示唆を得ることができよう。

2000 年に実施された大阪府による調査では、被差別体験を有する回答者に対して、もう少し具体的な話を聞きとりさせてもらえるかどうかの設問を設定し、「了解した人」には連絡先を記入してもらう方法で「ヒアリング調査（質的調査）」を連動させた実績がある。それによって調査の価値は大いに高まった。今後の取り組みにおいて検討してもらえれば幸いである。

2. 差別の問題は被差別当事者が最も敏感に受け止めていることは言うまでもない。しかし差別の圧力が、なかなか当事者にそれを公にさせない現実があることは「< 3 > 調査結果に見る部落差別の現実」の冒頭で述べたとおりである。しかもそれは部落問題に限られてはならない。

そこで、同和地区住民や外国人、障害者など被差別当事者自身を対象とした人権にかかわる調査を実施し、当事者から見える現実や課題を明らかにすることが非常

に重要になってくる。それは単に生活実態だけではなく、困りごとや心配、これまでの被差別体験、行政や市民に求めたいことなど、今後の取り組みを推進するにあたって当事者から学ばなければならないことは多くあるはずだ。「Nothing about us Without us」の視点が調査にも求められている。

3. 三重県民意識調査は過去から継続的に実施されているが、それが一定期間ごとの定期的な取り組みにはなっていない。「経年変化」を見るためには、例えば5年に1回というように定例化すればデータ比較の意義はさらに高まる。

また人権全般を一度の調査で取り扱うことは困難で、ともすれば質問数がかさみ、結果として回収率が悪くなるという避けがたい困難に直面しがちである。部落問題、障害者問題、外国人問題など、課題別に焦点を当てた深い分析のできる個別調査の実施が毎年順次なされてほしいと思う。

さらに、三重県においては行政や民間組織において差別事象の把握やインターネットのモニタリングもなされている。「人権に関する総合調査」として、こうした取り組みの結果も合わせた分析がなされれば、それぞれの取り組みの意義は一層高まるものと思われる。

4. 今回の調査は三重県単独の調査であった。これに県内の市町も参加し合同で実施すればより効果的で効率的になったと思われる。市町単独で実施することは困難なところもあるが、地元市町の調査件数を若干増やせば、それぞれの市町の結果も導かれ、なおかつ県全体との比較も可能となる。調査予算もそれぞれが持ち寄れば単独で実施するよりも経済的である。今後は、県と市町との合同調査が検討されることを期待したい。
5. 調査は目的を達成するための一つの手段であり、取り組みの準備作業であるといえる。しかし「調査報告書」が出来上がると、ともすれば「一件落着」の様相を呈することが多々ある。多くの血税とそして何よりも多くの県民の協力によって得られた貴重な調査結果をぜひともこれからの政策立案に活かしてほしいと願っている。そのために「調査結果政策化プロジェクト」のような取り組みが始まることを期待してやまない。

2. 同和地区・同和地区出身者に対する忌避的態度の分析

関西大学社会学部教授 内田 龍史

はじめに

本稿は、同和地区・同和地区出身者に対する忌避的態度の現状と、それを促進する要因ならびにそれを解消する要因を分析することによって、部落差別や同和地区・同和地区出身者への忌避的態度を解消するための今後の方向性を提起することを目的とする。

1 同和問題とそれに関連する意識

本節では、同和問題とそれに関連する意識について、おもに属性（性別（問 22A）・年齢階層別（問 22B）・三重県内での生育歴別（問 22E））別に有意な差が見られた項目について、その結果を示す。

1-1 人権や差別に関する考え方（問 3）

- A. 人権は、侵すことのできない永久の権利である
- B. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである
- C. 差別は法律で禁止する必要がある
- D. 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある
- E. 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない
- F. 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない
- G. 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人がなばりが認められないので問題がある

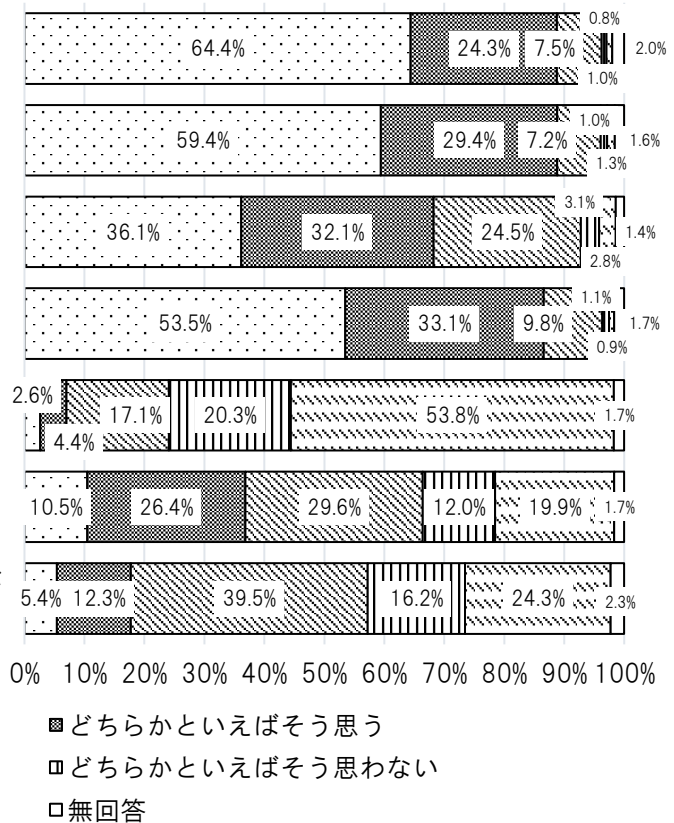


図 1-1 人権や差別に関する考え方

図 1-1 は、人権や差別に関する考え方についての回答結果を示している。これら人権や差別に関する考え方を要約して把握するために、これらの項目を用いて主成分分析を行った。その結果、これらの意識は、2つの「主成分」に要約できた。表 1-1 はその結果を示している。

表 1-1 人権や差別に関する考え方の主成分分析 (N=1104)

	第1主成分	第2主成分
A 人権は、侵すことのできない永久の権利である	0.703	-0.101
B 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	0.794	-0.176
C 差別は法律で禁止する必要がある	0.747	-0.036
D 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	0.701	-0.209
E 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	-0.149	0.730
F 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	-0.155	0.734
G 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	-0.074	0.789
固有値	2.703	1.301
寄与率	38.6	18.6
累積寄与率	38.6	57.2

※得点はバリマックス回転後のものである。「そう思う」=1、「どちらかと言えばそう思う」=2、「どちらかといえばそう思わない」=3、「そう思わない」=4として算出した。

第一主成分は、「B 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」(0.794)、「C 差別は法律で禁止する必要がある」(0.747)、「A 人権は、侵すことのできない永久の権利である」(0.703)、「D 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある」(0.701)で得点が高いことから、「反差別」と名付ける。

第二主成分は、「G 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」(0.789)、「F 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」(0.734)、「E 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」(0.730)で得点が高いことから、「自己責任」と名付ける。

以下では解釈を容易にするために、これらの意識を強く持つほど得点が高くなるように-1を乗し、分析を行うこととする。

なお、「反差別」については、性別・年齢階層別・生育歴別の属性との間に有意な関連は見られなかったが、「自己責任」については平均値を比較すると年齢階層別・性別で有意な差が見られ、性別では男性の方が(男性0.142、女性-0.122、 $t=4.390$ 、 $p<0.001$)、年齢階層別では「80歳代以上」(0.247)や「70歳代」(0.169)で「自己責任」意識が強く、「50歳代」(-0.227)で低い傾向が見られた($F=3.670$ 、 $p<0.001$) (図 1-2)。

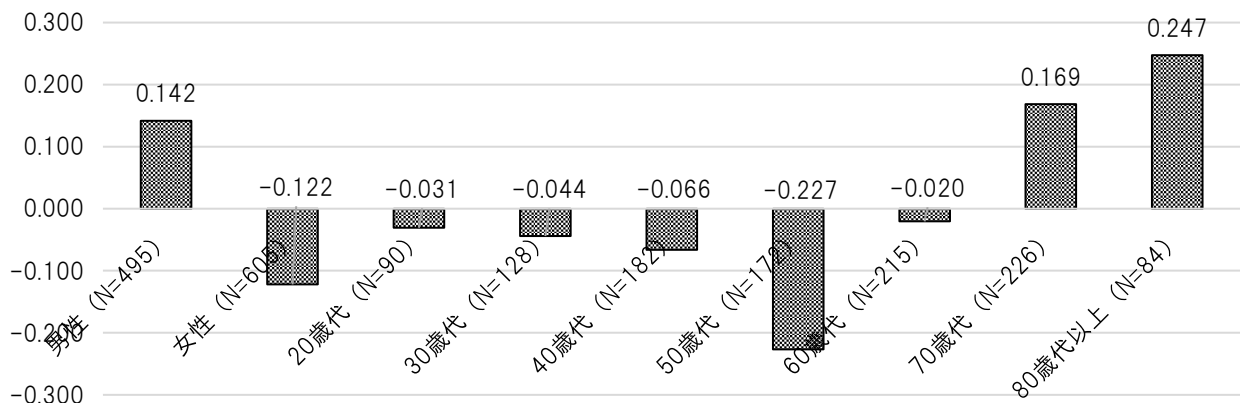


図 1-2 性別・年齢階層別自己責任得点の平均値

1-2 同和問題をめぐる意見（問5）

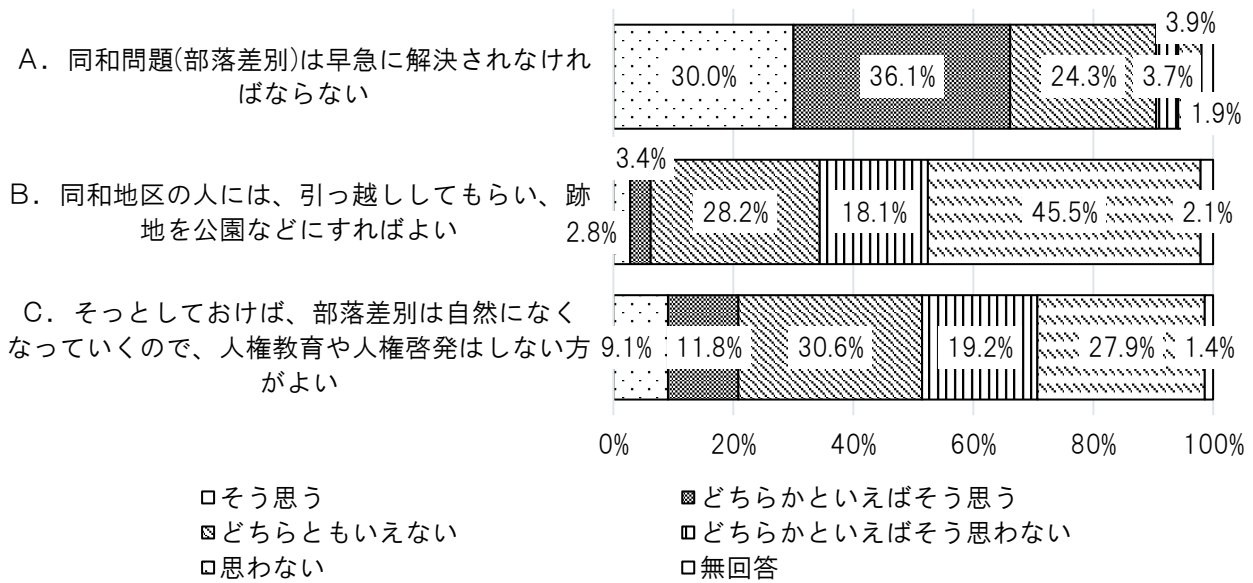


図 1-3 同和問題をめぐる意見

図 1-3 は、人権問題をめぐる意見における、同和問題をめぐる意見についての回答結果を示している。

「A. 同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」については、「そう思う」が 30.0%、「どちらかといえばそう思う」が 36.1%であり、これらで 3 分の 2 程度を占める。逆に、「どちらかといえばそう思わない」は 3.7%、「そう思わない」は 3.9%と、あわせて 1 割に満たない。「どちらともいえない」は 24.3%である。

属性別に見ると、性別では、男性の方が「そう思わない」とする割合が女性よりも高い(表 1-2)。

表 1-2 性別×同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない($\chi^2=13.995, p<0.01$)

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	合計
男性	152	184	113	27	27	503
	30.2%	36.6%	22.5%	5.4%	5.4%	100.0%
女性	189	229	165	15	16	614
	30.8%	37.3%	26.9%	2.4%	2.6%	100.0%
合計	341	413	278	42	43	1117
	30.5%	37.0%	24.9%	3.8%	3.8%	100.0%

「B. 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」は、いわゆる「部落分散論」であり、部落差別の解消を部落の人びとに求める犠牲者避難論でもあるが、「そう思わない」が 45.5%、「どちらかといえばそう思わない」が 18.1%であり、こ

れらで3分の2程度を占める。逆に、「そう思う」は2.8%、「どちらかといえばそう思う」は3.4%と、あわせて1割に満たない。「どちらともいえない」は28.2%である。

属性別に見ると、年齢階層別では、高年齢層ほど「そう思わない」とする割合が高い（表1-3）。

表1-3 年齢階層×同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	合計
20歳代	1	3	28	20	38	90
	1.1%	3.3%	31.1%	22.2%	42.2%	100.0%
30歳代	6	6	45	30	42	129
	4.7%	4.7%	34.9%	23.3%	32.6%	100.0%
40歳代	6	11	71	28	65	181
	3.3%	6.1%	39.2%	15.5%	35.9%	100.0%
50歳代	6	4	45	34	82	171
	3.5%	2.3%	26.3%	19.9%	48.0%	100.0%
60歳代	5	2	61	38	112	218
	2.3%	0.9%	28.0%	17.4%	51.4%	100.0%
70歳代	5	8	56	41	124	234
	2.1%	3.4%	23.9%	17.5%	53.0%	100.0%
80歳代以上	1	5	16	16	53	91
	1.1%	5.5%	17.6%	17.6%	58.2%	100.0%
合計	30	39	322	207	516	1114
	2.7%	3.5%	28.9%	18.6%	46.3%	100.0%

「C. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」は、いわゆる「寝た子を起すな論」であるが、「そう思わない」が27.9%、「どちらかといえばそう思わない」が19.2%であり、これらで半数弱を占める。「そう思う」は9.1%、「どちらかといえばそう思う」は11.8%と、2割程度である。「どちらともいえない」は30.6%である。

属性別に見ると、年齢階層別では、高年齢層ほど「そう思う」とする割合が高い（表1-4）。

表 1-4 年齢階層×そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい ($\chi^2=53.897$ 、 $p<0.001$)

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	合計
20 歳代	1	3	28	20	38	90
	1.1%	3.3%	31.1%	22.2%	42.2%	100.0%
30 歳代	6	6	45	30	42	129
	4.7%	4.7%	34.9%	23.3%	32.6%	100.0%
40 歳代	6	11	71	28	65	181
	3.3%	6.1%	39.2%	15.5%	35.9%	100.0%
50 歳代	6	4	45	34	82	171
	3.5%	2.3%	26.3%	19.9%	48.0%	100.0%
60 歳代	5	2	61	38	112	218
	2.3%	0.9%	28.0%	17.4%	51.4%	100.0%
70 歳代	5	8	56	41	124	234
	2.1%	3.4%	23.9%	17.5%	53.0%	100.0%
80 歳代以上	1	5	16	16	53	91
	1.1%	5.5%	17.6%	17.6%	58.2%	100.0%
合計	30	39	322	207	516	1114
	2.7%	3.5%	28.9%	18.6%	46.3%	100.0%

1-3 差別の現状・なくなる見通し (問 6)

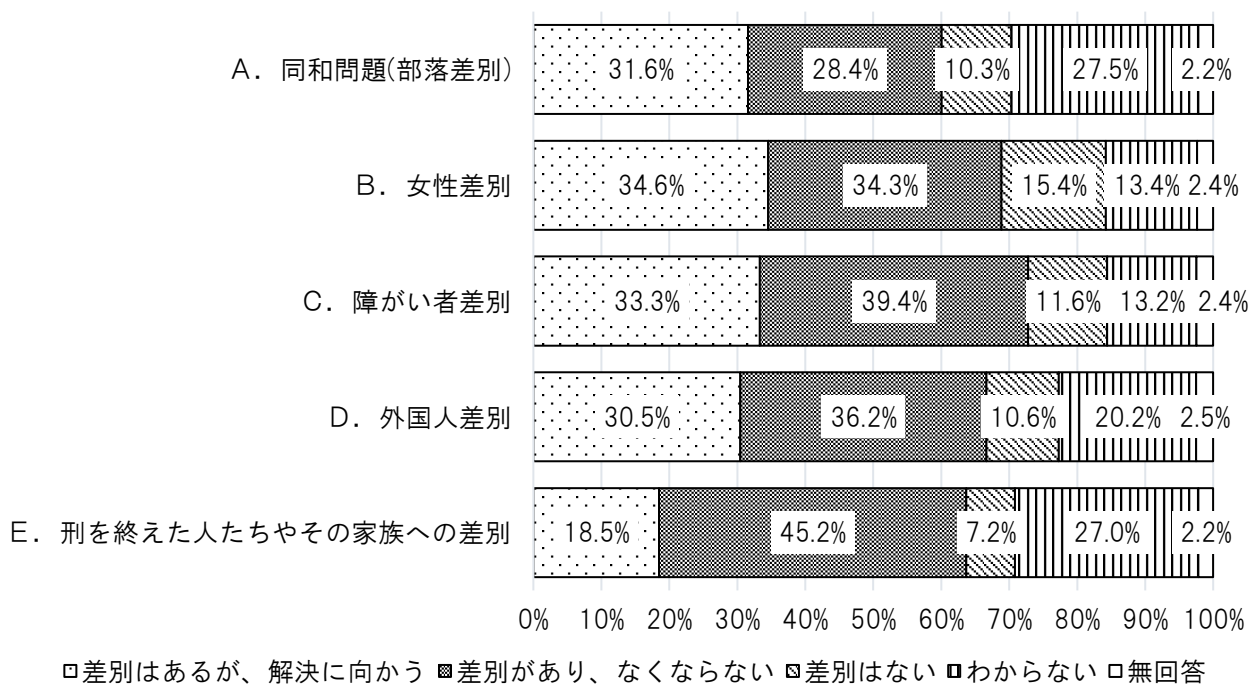


図 1-4 差別の現状・なくなる見通し (問 6)

図 1-4 は、差別の現状・なくなる見通しについての回答結果を示している。同和問題については「差別はあるが、解決に向かう」が 31.6%、「差別があり、なくなる」が 28.4%、「差別はない」が 10.3%、「わからない」が 27.5%となっている。「刑を終えた人たちやその家族への差別」と同様に、他の差別問題と比較して「わからない」と回答する割合が高い。

属性別に見ると、性別では女性で（表 1-5）、年齢階層別では 40 歳代以下の相対的に若年層で「わからない」と回答する割合が 3 割程度とやや高く、70 歳代以上で「差別はない」がおよそ 2 割と回答する割合が高い（表 1-6）。

また、生育歴については、三重県内で過ごした層の方が、「差別はあるが、解決に向かう」を選択する割合が高く、三重県外で過ごした層では「わからない」の割合が高い（表 1-7）。

表 1-5 性別×差別の現状・なくなる見通し（ $\chi^2=10.223$ 、 $p<0.05$ ）

	差別はあるが、 解決に向かう	差別があり、 なくなる	差別はない	わからない	合計
男性	164	158	59	118	499
	32.9%	31.7%	11.8%	23.6%	100.0%
女性	197	166	57	195	615
	32.0%	27.0%	9.3%	31.7%	100.0%
合計	361	324	116	313	1114
	32.4%	29.1%	10.4%	28.1%	100.0%

表 1-6 年齢階層×差別の現状・なくなる見通し（ $\chi^2=77.924$ 、 $p<0.05$ ）

	差別はあるが、 解決に向かう	差別があり、な くなる	差別はない	わからない	合計
20 歳代	30	24	4	31	89
	33.7%	27.0%	4.5%	34.8%	100.0%
30 歳代	45	39	6	38	128
	35.2%	30.5%	4.7%	29.7%	100.0%
40 歳代	47	62	14	59	182
	25.8%	34.1%	7.7%	32.4%	100.0%
50 歳代	60	60	10	39	169
	35.5%	35.5%	5.9%	23.1%	100.0%
60 歳代	74	80	16	50	220
	33.6%	36.4%	7.3%	22.7%	100.0%
70 歳代	73	38	47	73	231
	31.6%	16.5%	20.3%	31.6%	100.0%
80 歳代以上	31	21	19	23	94
	33.0%	22.3%	20.2%	24.5%	100.0%
合計	360	324	116	313	1113
	32.3%	29.1%	10.4%	28.1%	100.0%

表 1-7 生育歴×差別の現状・なくなる見通し ($\chi^2=9.059$ 、 $p<0.05$)

	差別はあるが、 解決に向かう	差別があり、 なくなる	差別はない	わからない	合計
三重県内	305	254	95	236	890
	34.3%	28.5%	10.7%	26.5%	100.0%
三重県外	57	71	21	77	226
	25.2%	31.4%	9.3%	34.1%	100.0%
合計	362	325	116	313	1116
	32.4%	29.1%	10.4%	28.0%	100.0%

1-4 身元調べ（問7）

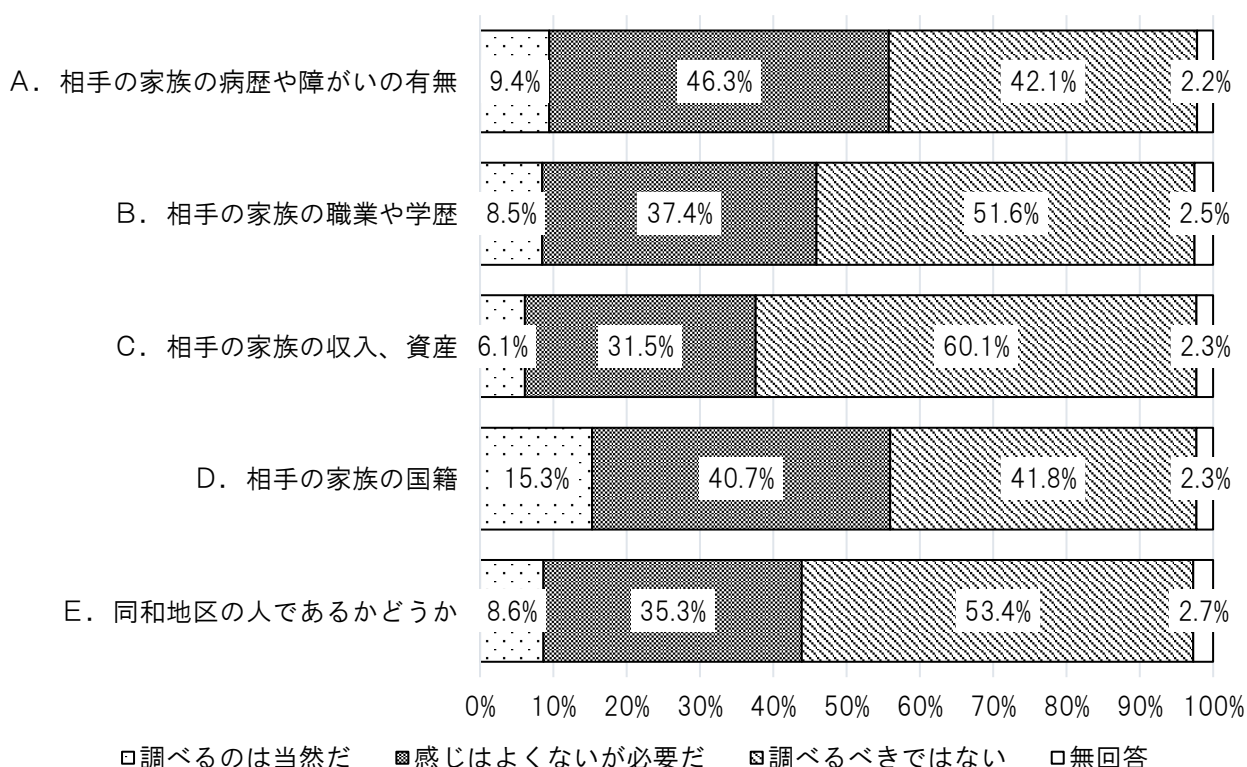


図 1-5 身元調べ（問7）

図 1-5 は、身元調べに関する考え方についての回答結果を示している。同和問題については「調べるべきではない」が 53.4%と過半数を占めているが、「調べるのは当然だ」(8.6%)、「感じはよくないが必要だ」(35.3%)をあわせると 4 割を超える。

属性別に見ると、若年になるほど「調べるべきではない」の割合が高くなっており、「20 歳代」では 8 割近くを占める。逆に高年齢になるほど「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」の割合は高くなり、70 歳以上ではこれらで過半数を占める（表 1-8）。

表 1-8 年齢階層×身元調べ ($\chi^2=38.504$ 、 $p<0.001$)

	調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	合計
20 歳代	3	17	69	89
	3.4%	19.1%	77.5%	100.0%
30 歳代	6	33	87	126
	4.8%	26.2%	69.0%	100.0%
40 歳代	16	68	97	181
	8.8%	37.6%	53.6%	100.0%
50 歳代	14	67	88	169
	8.3%	39.6%	52.1%	100.0%
60 歳代	23	81	116	220
	10.5%	36.8%	52.7%	100.0%
70 歳代	24	96	112	232
	10.3%	41.4%	48.3%	100.0%
80 歳代以上	11	38	41	90
	12.2%	42.2%	45.6%	100.0%
合計	97	400	610	1107
	8.8%	36.1%	55.1%	100.0%

1-5 世間での同和地区出身者であることの判断 (問 12)

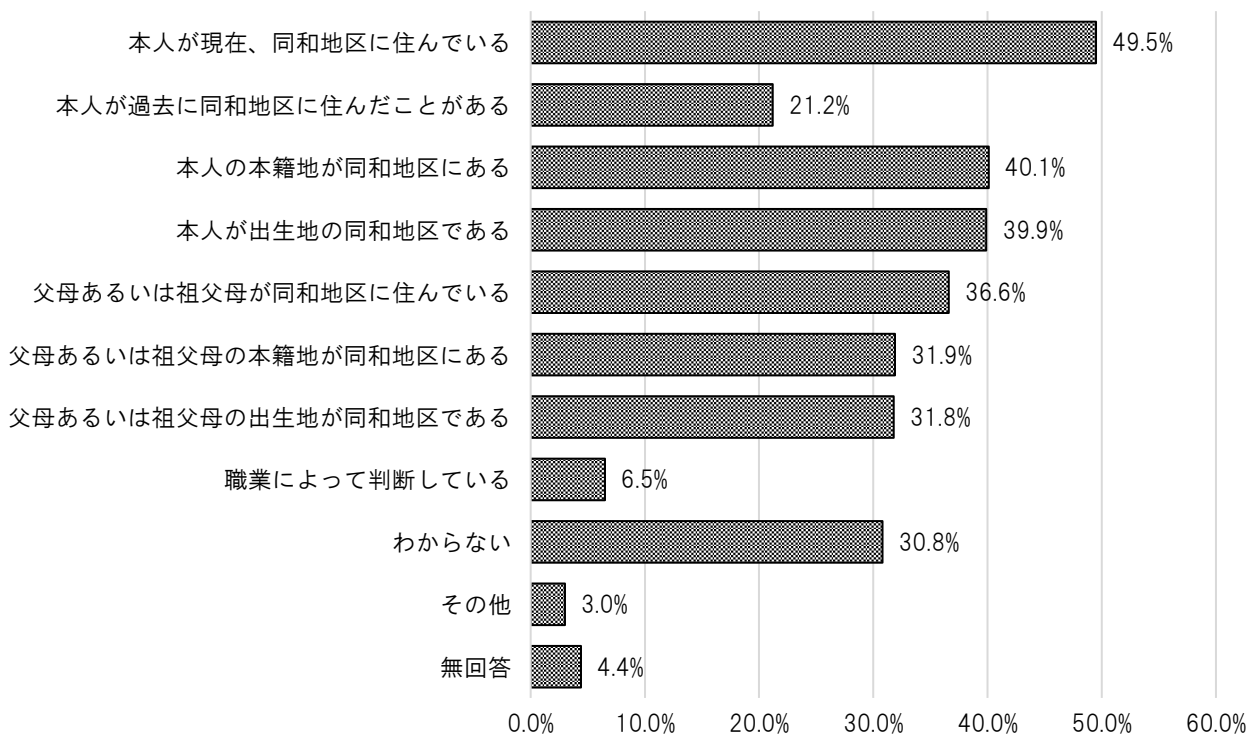


図 1-6 世間での同和地区出身者であることの判断 (問 12)

図 1-6 は、世間での同和地区出身者であることの判断についての回答結果を示している。最も割合が高いのは「本人が現在、同和地区に住んでいる」が 49.5%と半数近くを占めている。ほか、「本人の本籍地が同和地区にある」(40.1%)、「本人の出生地の同和地区である」(39.9%) が 4 割前後と割合が高くなっており、本人の居住地・本籍地・出生地が同和地区出身者であることの判断要素と見なされている。

表 1-9 世間での同和地区出身者であることの判断のクラスター分析

	1	2	3
問 12 本人が現在、同和地区に住んでいる	0.775	0.740	0.017
問 12 本人が過去に同和地区に住んだことがある	0.486	0.190	0.011
問 12 本人の本籍地が同和地区にある	0.921	0.361	0.014
問 12 本人の出生地が同和地区である	0.921	0.364	0.009
問 12 父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる	0.878	0.313	0.003
問 12 父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区にある	0.948	0.123	0.009
問 12 父母あるいは祖父母の出生地が同和地区である	0.973	0.108	0.000
問 12 職業によって判断している	0.134	0.055	0.023
問 12 わからない	0.046	0.014	0.943

これらの判断基準をもとに、クラスター分析を行い、3つのクラスターに分類した結果が表 1-9 である。第 1 クラスターは、「本人が現在、同和地区に住んでいる」「本人の本籍地が同和地区にある」「本人の出生地が同和地区である」といった本人に関するだけでなく、「父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる」「父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区にある」「父母あるいは祖父母の出生地が同和地区である」で平均点が高いため、「血縁重視」と名付ける。第 2 クラスターは「本人が現在、同和地区に住んでいる」でのみ平均点が高いため、「居住地重視」と名付ける。第 3 クラスターは「わからない」でのみ平均点が高いため、「わからない」と名付ける。

なお、これらの分類の結果は図 1-7 のとおりであり、「血縁重視」28.7%、「居住地重視」36.2%、「わからない」30.7%となっている。

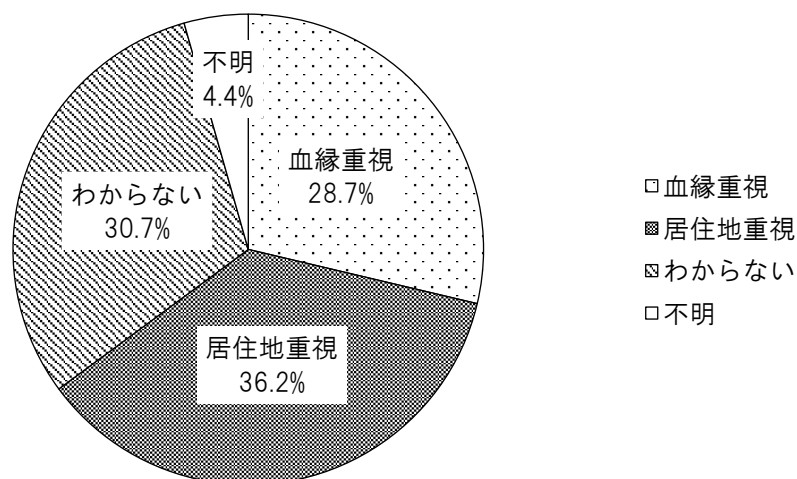


図 1-7 世間での同和地区出身者であることの判断の分類 (問 12)

これらの分類を属性別に見ると、年齢階層別で有意差が見られ、50・60歳代で「血縁重視」が3分の1程度、50歳代以下で「居住地重視」がおおむね4割以上、70歳代以上30歳代以下で「わからない」が3分の1以上と、回答する割合が相対的に高くなっている（表1-10）。

表1-10 年齢階層×世間での同和地区出身者であることの判断の分類（ $\chi^2=30.601$ 、 $p<0.01$ ）

	血縁重視	居住地重視	わからない	合計
20歳代	24	35	30	89
	27.0%	39.3%	33.7%	100.0%
30歳代	30	56	41	127
	23.6%	44.1%	32.3%	100.0%
40歳代	55	75	50	180
	30.6%	41.7%	27.8%	100.0%
50歳代	60	74	36	170
	35.3%	43.5%	21.2%	100.0%
60歳代	76	73	63	212
	35.8%	34.4%	29.7%	100.0%
70歳代	59	69	95	223
	26.5%	30.9%	42.6%	100.0%
80歳代以上	25	30	33	88
	28.4%	34.1%	37.5%	100.0%
合計	329	412	348	1089
	30.2%	37.8%	32.0%	100.0%

1-6 同和問題に関する偏見情報の伝聞（問13）

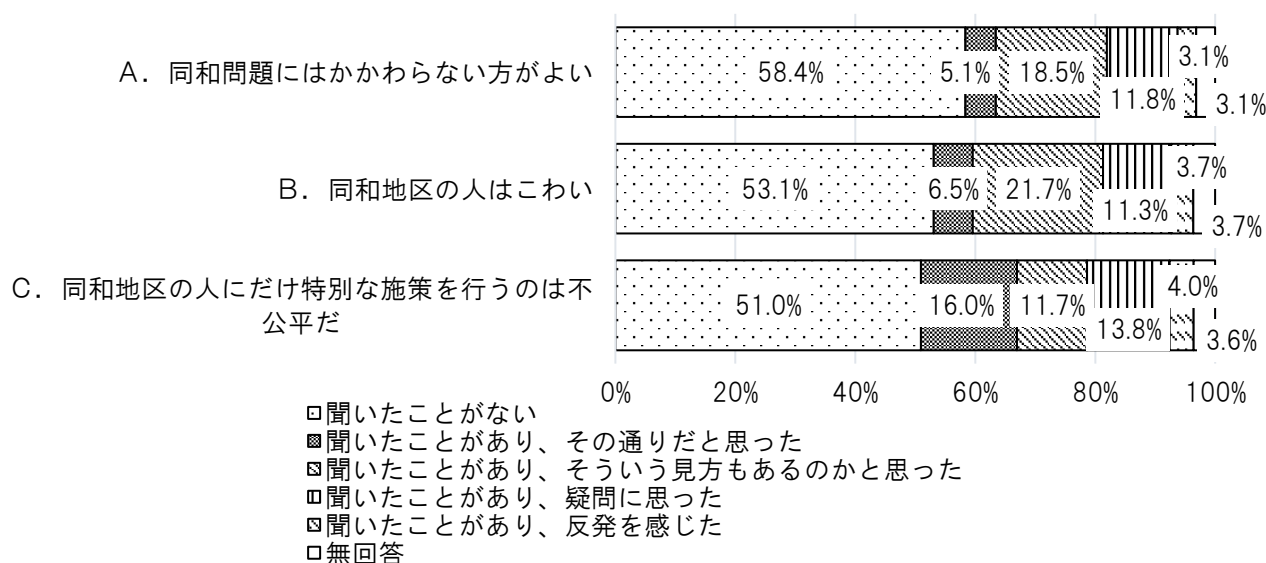


図1-8 同和問題に関する情報（問13-1）

図 1-8 は、直近 5 年間の同和問題に関する偏見情報の伝聞についての回答結果を示している。「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」「B. 同和地区の人はこわい」「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」のいずれにおいても「聞いたことがない」が過半数を占めているが、「B. 同和地区の人はこわい」については「聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った」が 21.7%とやや割合が高くなっている。また、「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」については「聞いたことがあり、その通りだと思った」割合が 16.0%とやや高くなっている。

属性別に見ると、年齢階層別では、30 歳代以下の若年層で、A～C のいずれにおいても「聞いたことがない」の割合が 7～8 割を占め、割合が高くなっている（表 1-11～13）。

表 1-11 年齢階層×同和問題にはかかわらない方がよい

	聞いたことが ない	聞いたことが あり、その通 りだと思った	聞いたことが あり、そうい う見方もある のかと思った	聞いたことが あり、疑問に 思った	聞いたことが あり、反発を 感じた	合計
20 歳代	64	3	8	10	5	90
	71.1%	3.3%	8.9%	11.1%	5.6%	100.0%
30 歳代	94	3	20	9	2	128
	73.4%	2.3%	15.6%	7.0%	1.6%	100.0%
40 歳代	125	7	33	15	3	183
	68.3%	3.8%	18.0%	8.2%	1.6%	100.0%
50 歳代	98	16	31	19	5	169
	58.0%	9.5%	18.3%	11.2%	3.0%	100.0%
60 歳代	124	10	40	30	13	217
	57.1%	4.6%	18.4%	13.8%	6.0%	100.0%
70 歳代	112	14	54	40	7	227
	49.3%	6.2%	23.8%	17.6%	3.1%	100.0%
80 歳代以上	47	4	24	12	1	88
	53.4%	4.5%	27.3%	13.6%	1.1%	100.0%
合計	664	57	210	135	36	1102
	60.3%	5.2%	19.1%	12.3%	3.3%	100.0%

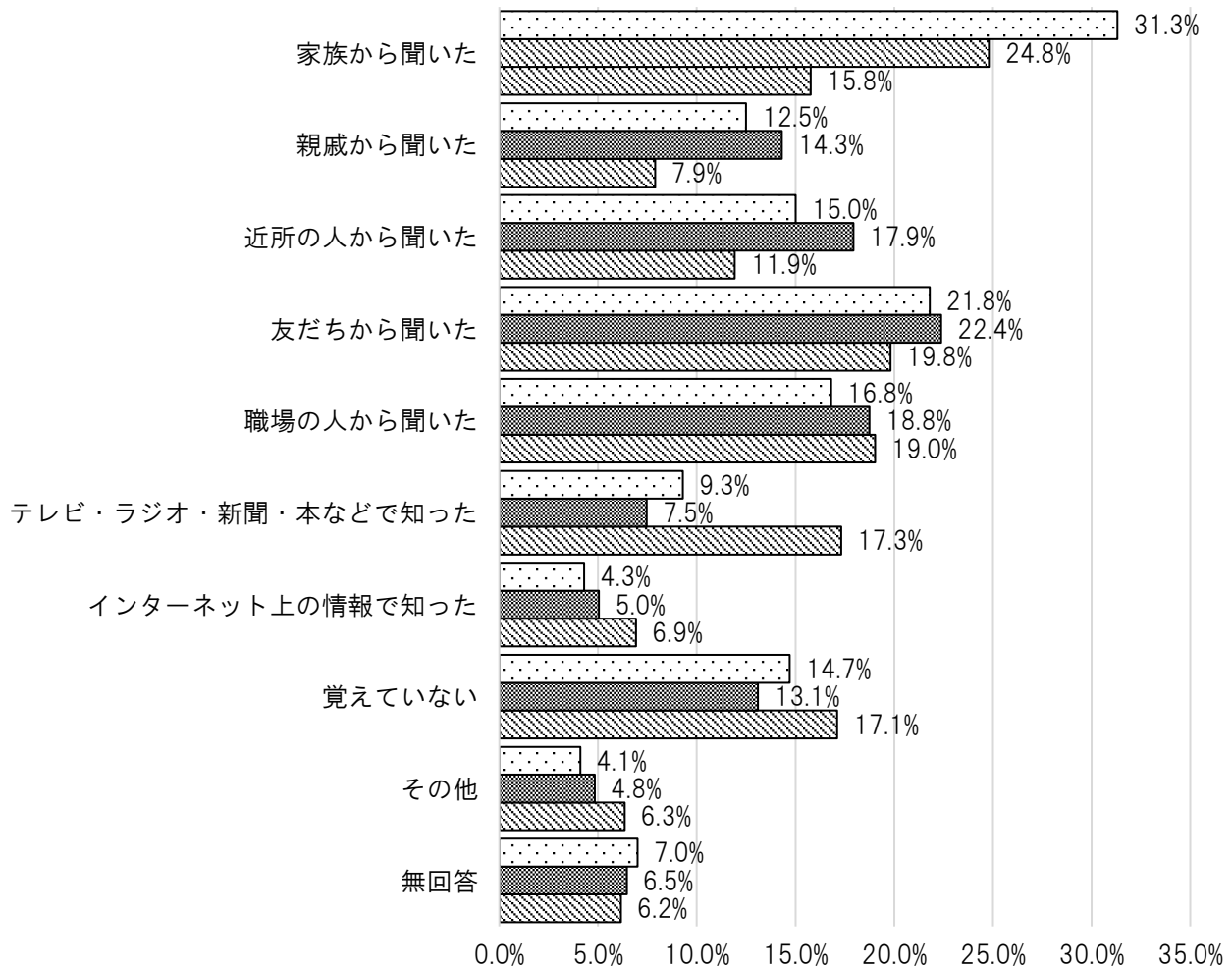
表 1-12 年齢階層×同和地区の人はこわい

	聞いたことが ない	聞いたことが あり、その通 りだと思った	聞いたことが あり、そうい う見方もある のかと思った	聞いたことが あり、疑問に 思った	聞いたことが あり、反発を 感じた	合計
20 歳代	68	1	11	5	5	90
	75.6%	1.1%	12.2%	5.6%	5.6%	100.0%
30 歳代	90	3	24	8	2	127
	70.9%	2.4%	18.9%	6.3%	1.6%	100.0%
40 歳代	113	13	41	12	4	183
	61.7%	7.1%	22.4%	6.6%	2.2%	100.0%
50 歳代	85	15	43	21	5	169
	50.3%	8.9%	25.4%	12.4%	3.0%	100.0%
60 歳代	96	22	51	36	11	216
	44.4%	10.2%	23.6%	16.7%	5.1%	100.0%
70 歳代	104	13	62	39	9	227
	45.8%	5.7%	27.3%	17.2%	4.0%	100.0%
80 歳代以上	47	7	16	8	6	84
	56.0%	8.3%	19.0%	9.5%	7.1%	100.0%
合計	603	74	248	129	42	1096
	55.0%	6.8%	22.6%	11.8%	3.8%	100.0%

表 1-13 年齢階層×同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

	聞いたことが ない	聞いたことが あり、その通 りだと思った	聞いたことが あり、そうい う見方もある のかと思った	聞いたことが あり、疑問に 思った	聞いたことが あり、反発を 感じた	合計
20 歳代	73	3	6	6	2	90
	81.1%	3.3%	6.7%	6.7%	2.2%	100.0%
30 歳代	90	11	15	7	3	126
	71.4%	8.7%	11.9%	5.6%	2.4%	100.0%
40 歳代	113	31	18	18	1	181
	62.4%	17.1%	9.9%	9.9%	0.6%	100.0%
50 歳代	80	42	20	24	6	172
	46.5%	24.4%	11.6%	14.0%	3.5%	100.0%
60 歳代	93	41	32	37	14	217
	42.9%	18.9%	14.7%	17.1%	6.5%	100.0%
70 歳代	91	36	34	51	16	228
	39.9%	15.8%	14.9%	22.4%	7.0%	100.0%
80 歳代以上	39	18	7	15	4	83
	47.0%	21.7%	8.4%	18.1%	4.8%	100.0%
合計	579	182	132	158	46	1097
	52.8%	16.6%	12.0%	14.4%	4.2%	100.0%

なお、2節・3節においては、これらの項目について、「聞いたことがない」と「聞いたことがある」のふたつに再分類して分析を行っている。



- A. 同和問題にはかかわらない方がよい (N=441)
- B. 同和地区の人はこわい (N=496)
- ▨ C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ (N=520)

図 1-9 同和問題に関する情報の入手経路 (問 13-2)

図 1-9 は、同和問題に関する情報を聞いたことがあるという人に対する情報の入手経路についての回答結果を示している。「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」は「家族から聞いた」が3分の1程度、「B. 同和地区の人はこわい」も「家族から聞いた」が4分の1程度と、家族から聞いたとする割合が高い。「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」については「友だちから聞いた」「職場の人から聞いた」「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」などの割合がそれぞれ2割弱となっており、相対的に多様な経路から情報が入手されていることがわかる。

属性別に見ると、「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」では、女性で「家族から聞いた」、男性で「職場の人から聞いた」(図 1-10)、50歳代以上で「近所の人から聞いた」「友だちから聞いた」、30歳代以下で「インターネット上の情報で知った」(図 1-11)、生育歴三重県内で「家族から聞いた」(図 1-12)の割合が高い。

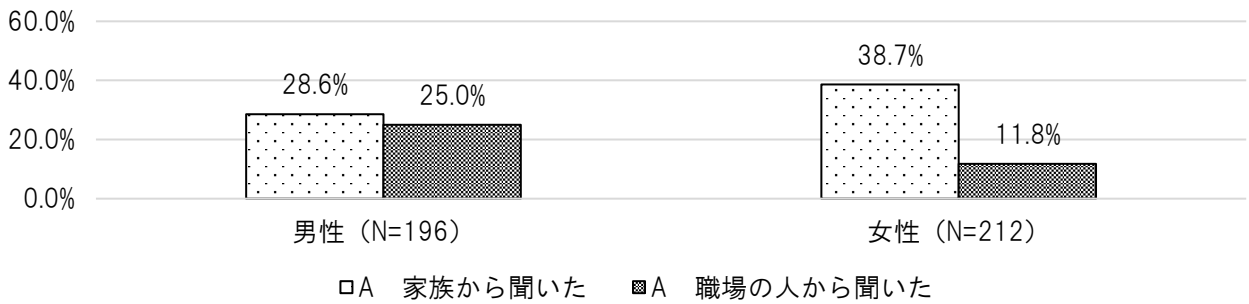


図 1-10 性別×同和問題にはかかわらない方がよい
 (「家族」： $\chi^2=4.649$ 、 $p<0.05$ 、「職場」： $\chi^2=11.965$ 、 $p<0.01$)

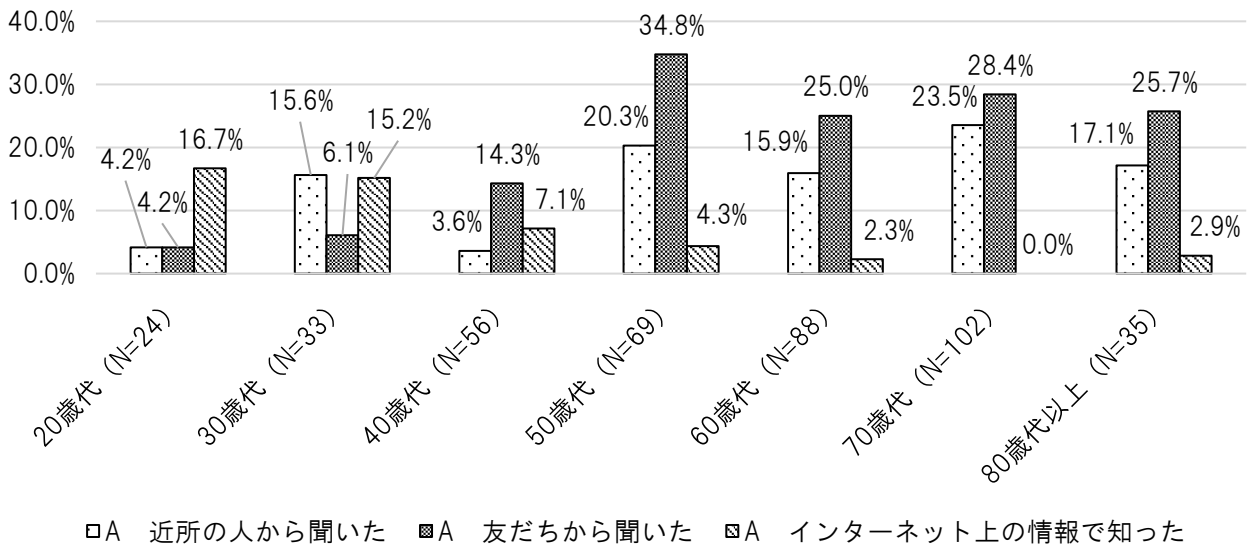


図 1-11 年齢階層×同和問題にはかかわらない方がよい (「近所の人から聞いた」のみ 30 歳代 (N=32))



図 1-12 生育歴×同和問題にはかかわらない方がよい ($\chi^2=5.849$ 、 $p<0.05$)

「B. 同和地区の人はこわい」では、女性で「家族から聞いた」、男性で「友だちから聞いた」「職場の人から聞いた」、40 歳代以下で「家族から聞いた」、60 歳代以上で「近所の人から聞いた」、40 歳代以上で「友だちから聞いた」、50 歳代で「職場の人から聞いた」、30 歳代以下で「インターネット上の情報で知った」の割合が高い。

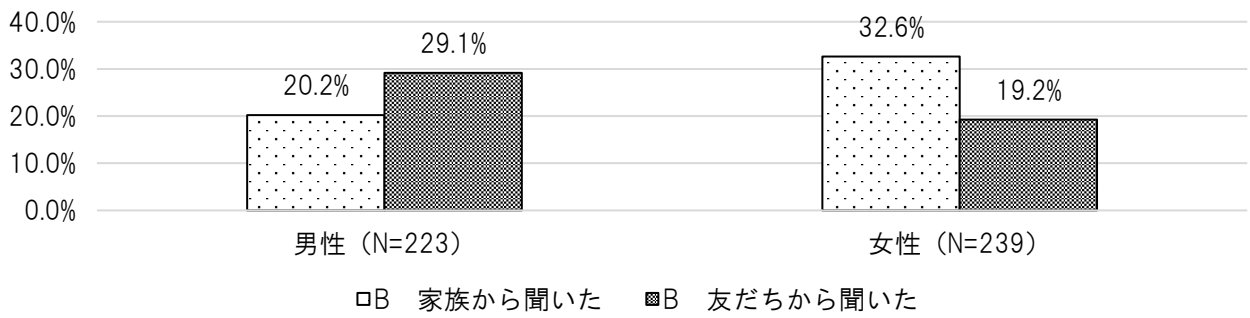


図1-13 性別×同和地区の人はこわい (「家族」： $\chi^2=9.163$ 、 $p<0.01$ 、「友だち」： $\chi^2=6.196$ 、 $p<0.05$)

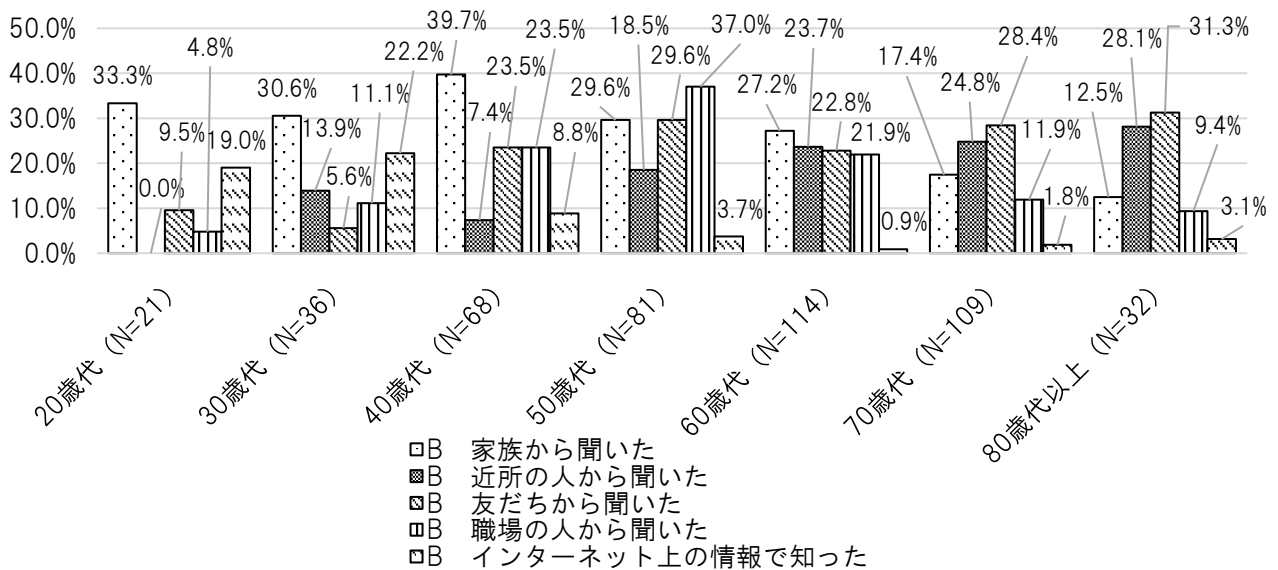


図1-14 年齢階層×同和地区の人はこわい

「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」では、女性で「家族から聞いた」、男性で「職場の人から聞いた」「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」、30・40歳代で「家族から聞いた」、70代・50代で「友だちから聞いた」、50歳代で「職場の人から聞いた」、60代以上で「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」、30代で「インターネット上の情報で知った」の割合が高い。

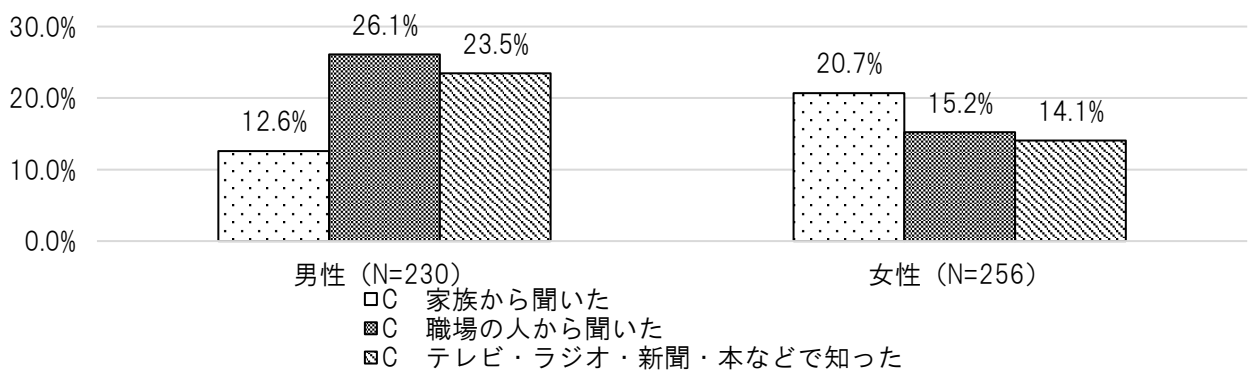


図1-15 性別×同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

(「家族」： $\chi^2=5.660$ 、 $p<0.05$ 、「職場」： $\chi^2=8.797$ 、 $p<0.01$ 、「テレビなど」： $\chi^2=7.118$ 、 $p<0.01$)

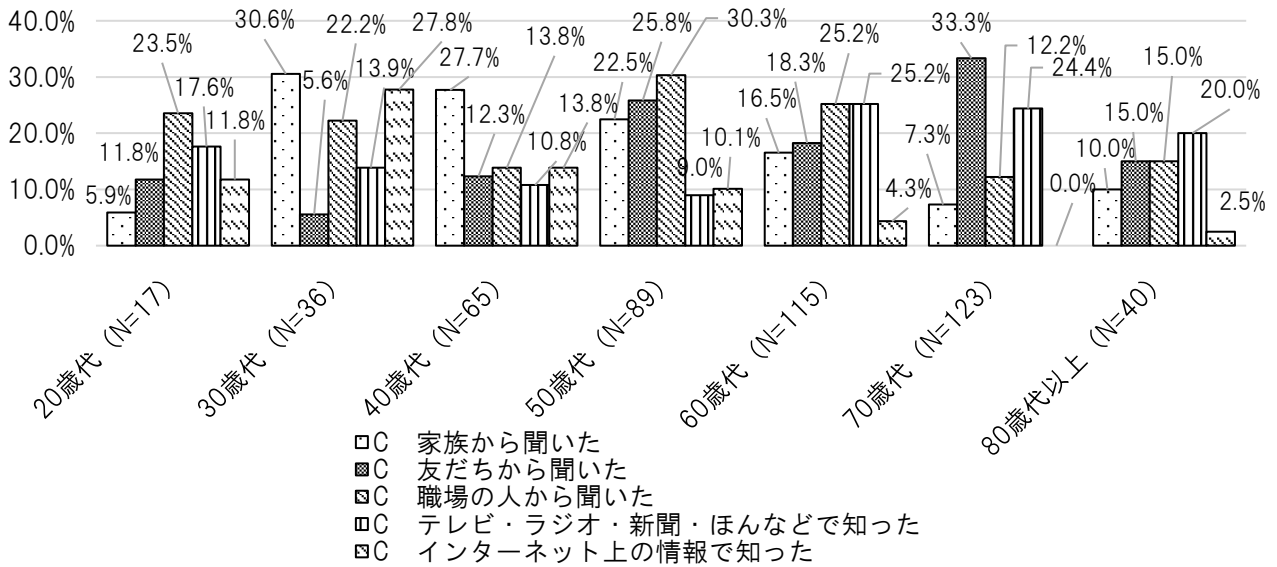


図 1-16 年齢階層×同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

1-7 インターネット上での差別的表現に対する反応（問 14）

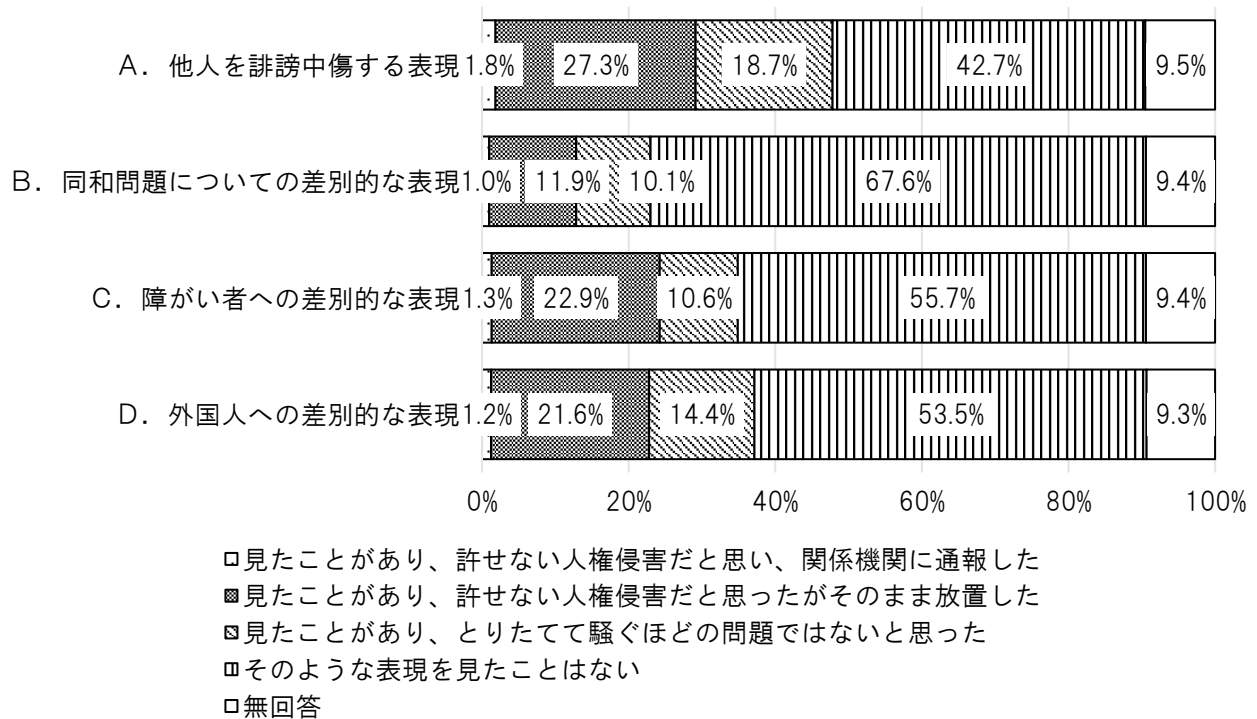


図 1-17 インターネット上での差別的表現に対する反応（問 14）

図 1-17 は、インターネット上での差別的表現に対する反応についての回答結果を示している。「同和問題についての差別的な表現」については「そのような表現を見たことがない」が 67.6%と他の表現よりも割合が高くなっている。見たことがあるとするのは 22.9%である。

属性別に見ると、性別では、女性で「そのような表現を見たことがない」が 8 割を越え、男性の 3 分の 2 程度と比較して高くなっていた（表 1-14）。

表 1-14 性別×インターネット上での差別的表現に対する反応 ($\chi^2=31.253$ 、 $p<0.001$)

	見たことがあり、 許せない人権侵害 だと思い、関係機 関に通報した	見たことがあり、 許せない人権侵害 だと思ったがその まま放置した	見たことがあり、 とりたてて騒ぐほ どの問題ではない と思った	そのような表現を 見たことはない	合計
男性	4	83	69	310	466
	0.9%	17.8%	14.8%	66.5%	100.0%
女性	7	53	47	460	567
	1.2%	9.3%	8.3%	81.1%	100.0%
合計	11	136	116	770	1033
	1.1%	13.2%	11.2%	74.5%	100.0%

なお、2節・3節においては、これらの項目について、「見たことがない」と「見たことがある」のふたつに再分類して分析を行っている。

1-8 人権問題に熱心に取り組んでいる人との出会い (問 17)

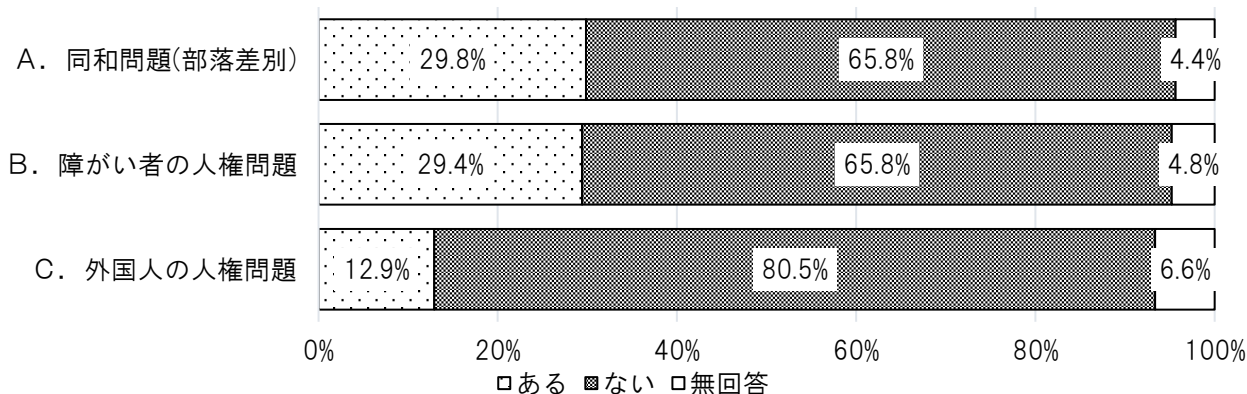


図 1-18 人権問題に熱心に取り組んでいる人との出会い (問 17)

図 1-18 は、人権問題に熱心に取り組んでいる人との出会いについての回答結果を示している。「同和問題」については3割程度が「ある」と回答している。

属性別に見ると、生育歴別において、「ある」は「三重県内」では3分の1程度であるが、「三重県外」では4分の1程度と、「三重県内」の方が「ある」とする割合が高くなっている。

表 1-15 生育歴×人権問題に熱心に取り組んでいる人との出会い ($\chi^2=4.125$ 、 $p<0.05$)

	ある	ない	合計
三重県内	285	585	870
	32.8%	67.2%	100.0%
三重県外	57	165	222
	25.7%	74.3%	100.0%
合計	342	750	1092
	31.3%	68.7%	100.0%

1-9 人権学習を受けた経験（問 18）

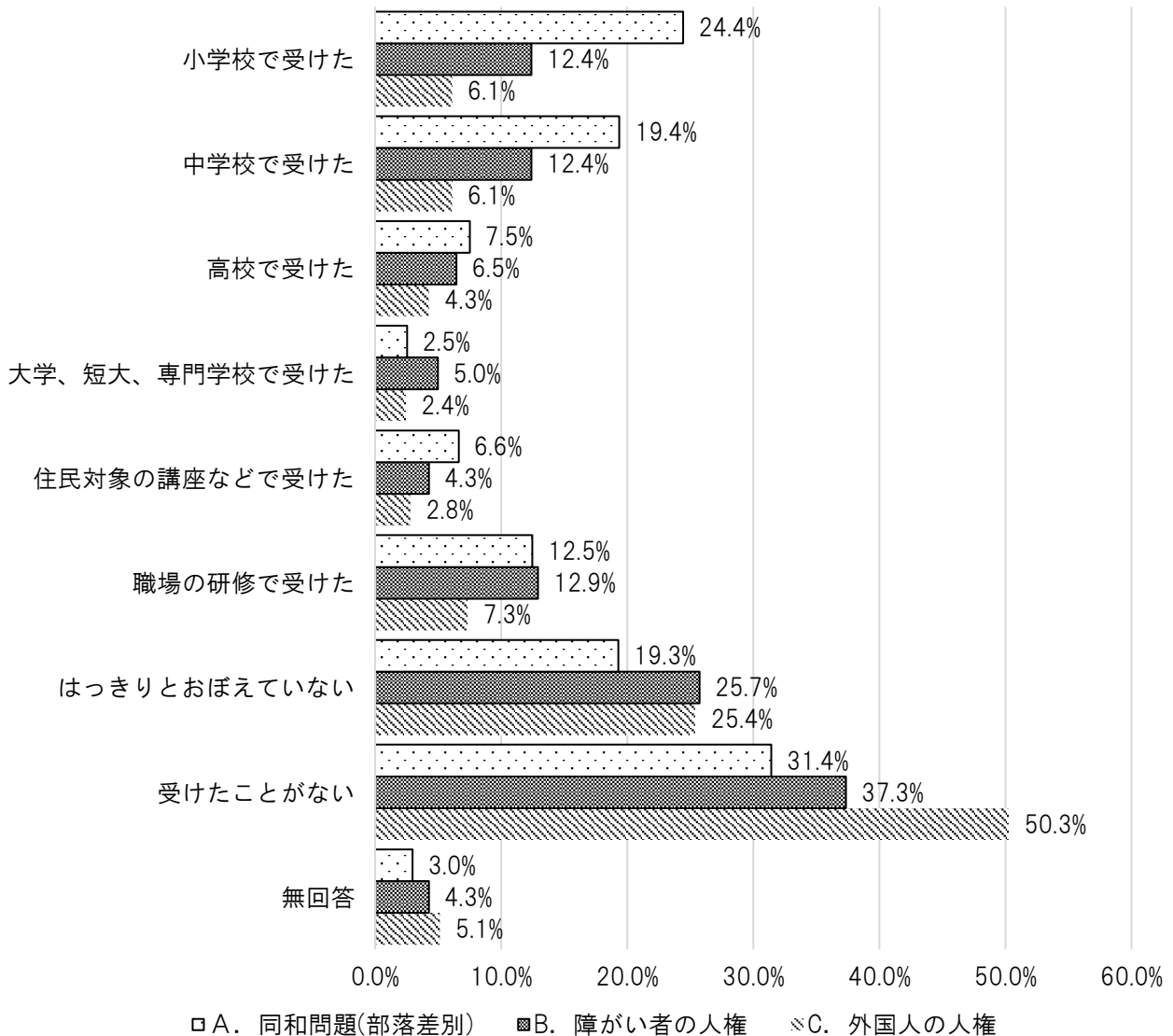


図 1-19 人権学習を受けた経験（問 18）

図 1-19 は、人権学習を受けた経験についての回答結果を示している。「同和問題」については「受けたことがない」が31.4%と最も割合が高く、以下、「小学校で受けた」が24.4%、「中学校で受けた」が19.4%、「はっきりと覚えていない」が19.3%などとなっている。

属性別に見ると、性別では女性で「小学校で受けた」、男性で「住民対象の講座などで受けた」「職場の研修で受けた」とする割合が高い（図 1-20）。年齢階層別（図 1-21）では、おおむね若年になるほど「小学校で受けた」「中学校で受けた」「高校で受けた」割合が高くなっており、「小学校で受けた」は30歳代以下では過半数を占め、「中学校で受けた」は30歳代以下で3分の1以上、「高校で受けた」は40歳代以下で1割強となっている。「住民対象の講座などで受けた」は70歳代で15%程度と、他の年齢階層と比較してやや高い。さらに、おおむね年齢が高くなるほど「受けたことがない」の割合は高くなり、80歳以上では過半数を占める。

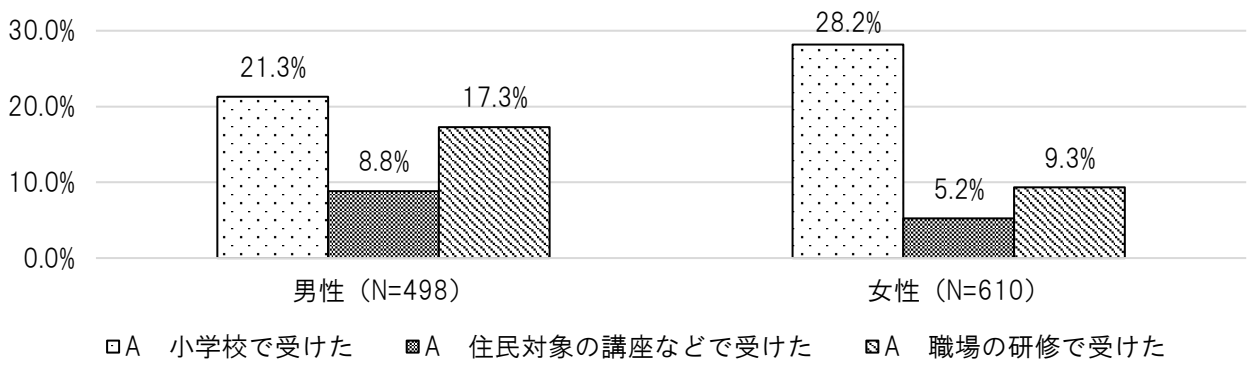


図 1-20 性別×人権学習を受けた経験

(「小学校」： $\chi^2=6.968$ 、 $p<0.01$ 、「住民」： $\chi^2=5.529$ 、 $p<0.05$ 、「職場」： $\chi^2=15.318$ 、 $p<0.001$)

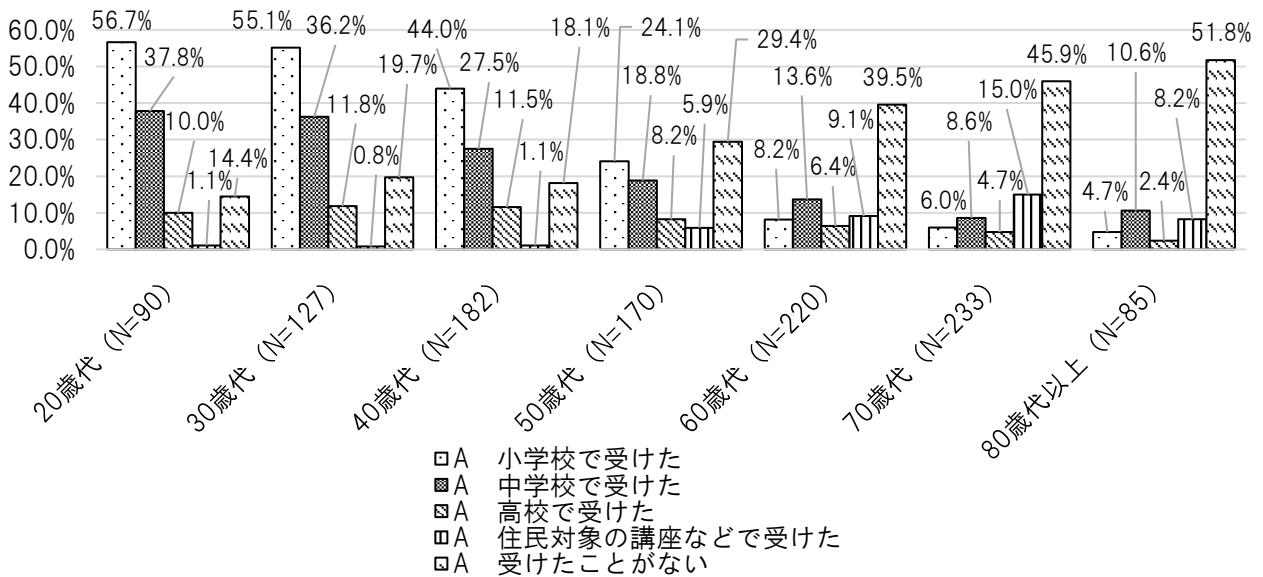


図 1-21 年齢階層×人権学習を受けた経験

(「小学校」： $\chi^2=240.472$ 、 $p<0.001$ 、「中学校」： $\chi^2=74.514$ 、 $p<0.001$ 、「高校」： $\chi^2=14.289$ 、 $p<0.05$ 、「住民」： $\chi^2=47.914$ 、 $p<0.001$ 、「受けたことがない」： $\chi^2=79.328$ 、 $p<0.001$)

2 同和地区に対する忌避的態度の分析

2-1 同和地区に対する忌避的態度（問 11）

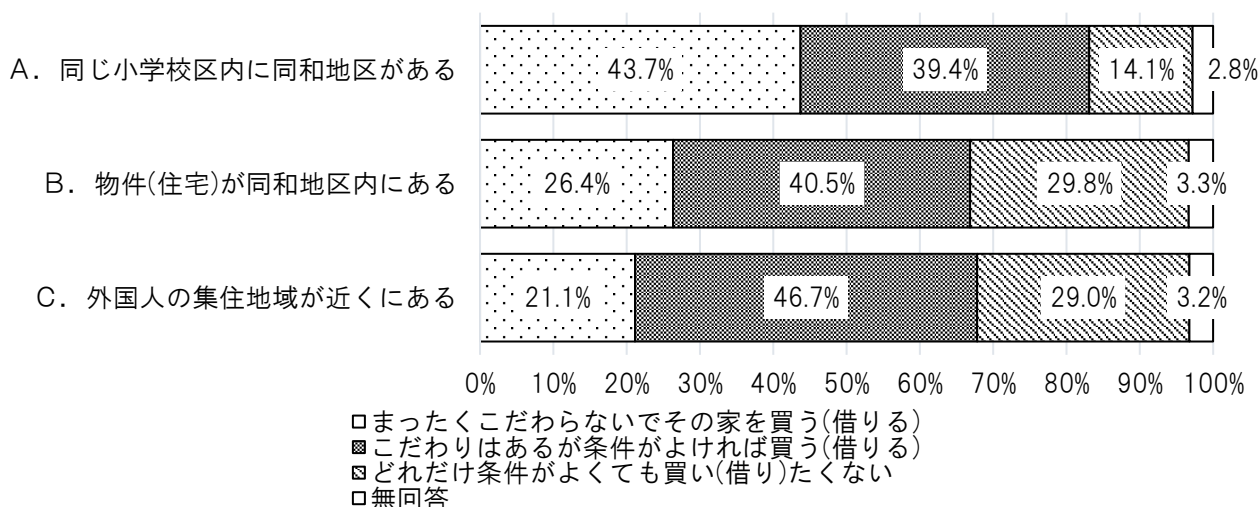


図 2-1 同和地区に対する忌避的態度など（問 11）

図 2-1 は、同和地区に対する忌避的態度などについての回答結果を示している。「A. 同じ小学校区内に同和地区がある」場合は、「まったくこだわらないでその家を買う(借りる)」が 43.7%、「こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)」が 39.4%、「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」が 14.1%となっている。また、「B. 物件(住宅)が同和地区内にある」場合は、「まったくこだわらないでその家を買う(借りる)」が 26.4%、「こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)」が 40.5%、「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」が 29.8%となっており、3 割程度の人が同和地区内にある物件は避けると回答していることになる。

2-2 属性と同和地区に対する忌避的態度との関係

属性別に見ると、年齢階層別で有意な差が見られる。「A. 同じ小学校区内に同和地区がある」場合は、おおむね高齢になるほど「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」とする割合が高くなっており、20 歳代では 1 割に満たないのに対し、80 歳代以上では 2 割を越える。また、「B. 物件(住宅)が同和地区内にある」場合においては、おおむね若年になるほど「まったくこだわらないでその家を買う(借りる)」とする割合が高くなり、20 歳代では半数を占める。

これらの結果から、若年層ほど同和地区に対する忌避的態度をとらない傾向を指摘できる。

2-3 同和地区出身者の判断基準と同和地区内の物件に対する忌避的態度との関係

表 2-1 同和地区出身者の判断基準と同和地区に対する忌避的態度 ($\chi^2=37.524$ 、 $p<0.001$)

	まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	合計
血縁重視	72 22.2%	115 35.4%	138 42.5%	325 100.0%
居住地重視	103 25.2%	186 45.6%	119 29.2%	408 100.0%
わからない	115 33.4%	154 44.8%	75 21.8%	344 100.0%
合計	290 26.9%	455 42.2%	332 30.8%	1077 100.0%

表 2-1 は、先に示した同和地区出身者の判断基準と、「A. 同じ小学校区内に同和地区がある」場合とのクロス集計の結果である。「血縁重視」では、「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」が 42.5%と他の層と比較して優位に割合が高くなっており、血縁意識を重視する意識が、同和地区への忌避的態度と結びついていることがわかる。

2-4 部落差別の現状・なくなる見通しと同和地区内の物件に対する忌避的態度との関係

表 2-2 部落差別の現状・なくなる見通しと同和地区内の物件に対する忌避的態度 ($\chi^2=24.691$ 、 $p<0.001$)

	まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	合計
差別はあるが、解決に向かう	116 32.6%	142 39.9%	98 27.5%	356 100.0%
差別があり、なくなる	72 22.6%	121 37.9%	126 39.5%	319 100.0%
差別はない	37 31.9%	53 45.7%	26 22.4%	116 100.0%
わからない	71 23.7%	142 47.3%	87 29.0%	300 100.0%
合計	296 27.1%	458 42.0%	337 30.9%	1091 100.0%

表 2-2 は、部落差別の現状・なくなる見通しと、「A. 同じ小学校区内に同和地区がある」場合とのクロス集計の結果である。「差別があり、なくなる」では、「どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない」が 39.5%と他の層と比較して有意に割合が高くなっており、差別がなくなるという意識が、同和地区への忌避的態度と結びついていることがわかる。

2-5 同和地区に対する忌避的態度の規定因

同和地区に対する忌避的態度を規定する要因を確認するために、同和地区に対する忌避的態度（問 11A）を従属変数とし、上述した属性や同和問題に関連するさまざまな意識や経験、さらには人権問題についての話し合い状況（問 4）や、人権に関する知識（問 1）を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。結果は表 2-3 のとおりである。

表 2-3 同和地区内の物件に対する忌避的態度の規定因に関する重回帰分析
(ステップワイズ法)の結果 ($R^2=0.127$)

	標準偏回帰係数
問 13-1 B 同和地区の人はこわい	0.209 ***
問 5 B 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい	-0.165 ***
問 22 B 年齢	0.140 ***
問 19-1 講演会や研修会への参加経験	-0.081 *
問 5 C そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	-0.092 **
問 1 L 部落差別解消推進法	0.072 *

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

決定係数は 0.127 と高くはないが、有意な差が見られた。標準偏回帰係数が大きなものから、「問 13-1 B 同和地区の人はこわい」(0.209)、「問 5 B 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」(-0.165)、「問 22 B 年齢」(0.140)、「問 5 C そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」(-0.092)、「問 19-1 講演会や研修会への参加経験」(-0.081)、「問 1 L 部落差別解消推進法」(0.072)、となった。

この結果を解釈すると、最近 5 年間の間に「同和地区の人はこわい」という情報を聞いたことがある人ほど、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」と考える人ほど、年齢が高いほど、「講演会や研修会への参加経験」がない人ほど、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」と考える人ほど、「部落差別解消推進法」を知らない人ほど、同和地区を避けるということである。

これらの結果から、「同和地区の人はこわい」といった偏見を解消させたりコントロールすること、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」といった部落分散論を否定すること、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」といった寝た子を起こすなといった意識を否定すること、「部落差別解消推進法」の内実を広く啓発していくこと、さらには高年齢層に積極的に働きかけていくことが、同和地区に対する忌避的態度を解消するために重要であると指摘できる。

3 同和地区出身者に対する結婚忌避的態度の分析

3-1 同和地区出身者に対する結婚忌避的態度（問8）

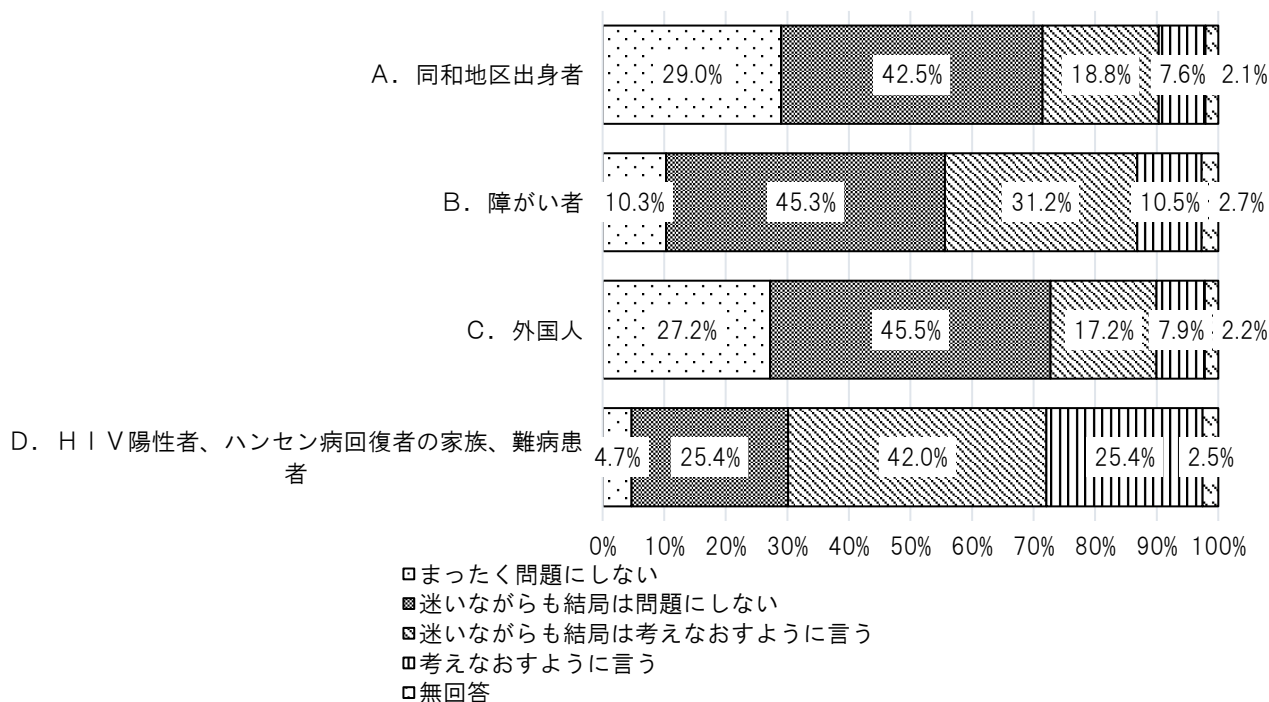


図 3-1 同和地区出身者に対する結婚忌避的態度など（問8）

図 3-1 は、同和地区出身者に対する結婚忌避的態度などについての回答結果を示している。同和地区出身者については、「まったく問題にしない」が 29.0%、「迷いながらも結局は問題にしない」が 42.5%、「迷いながらも結局は考えなおすように言う」が 18.8%、「考えなおすように言う」が 7.6%となっており、4 分の 1 程度が「考えなおすように言う」、すなわち、結婚差別をする可能性を示している。

3-2 属性と同和地区出身者に対する結婚忌避的態度との関係

属性別に見ると、年齢階層別で有意な差が見られる。「まったく問題にしない」割合は、おおむね若年になるほど割合が高くなり、80 歳代以上では 16.1%であるのに対し、20 歳代では 56.7%と過半数を占める。

これらの結果から、若年層ほど同和地区出身者に対する忌避的態度をとらない傾向を指摘できる。

3-3 同和地区出身者の判断基準と同和地区出身者に対する結婚忌避的態度との関係

表 3-2 同和地区出身者の判断基準と同和地区出身者に対する結婚忌避的態度
($\chi^2=45.875$ 、 $p<0.001$)

	まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	合計
血縁重視	83 25.4%	120 36.7%	84 25.7%	40 12.2%	327 100.0%
居住地重視	106 25.9%	210 51.3%	72 17.6%	21 5.1%	409 100.0%
わからない	130 38.1%	137 40.2%	54 15.8%	20 5.9%	341 100.0%
合計	319 29.6%	467 43.4%	210 19.5%	81 7.5%	1077 100.0%

表 3-2 は、先に示した同和地区出身者の判断基準と、同和地区出身者に対する結婚忌避的態度とのクロス集計の結果である。「血縁重視」では、「迷いながらも結局は考えなおすように言う」が 25.7%、「考えなおすように言う」が 12.2%と、他の層と比較して有意に割合が高くなっており、血縁意識を重視する意識が、同和地区出身者への結婚忌避的態度と結びついていることがわかる。

3-4 部落差別の現状・なくなる見通しと同和地区出身者に対する結婚忌避的態度との関係

表 3-3 部落差別の現状・なくなる見通しと同和地区出身者に対する結婚忌避的態度
($\chi^2=63.862$ 、 $p<0.001$)

	まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	合計
差別はあるが、解決に向かう	121 33.5%	176 48.8%	50 13.9%	14 3.9%	361 100.0%
差別があり、なくなるらない	76 23.3%	124 38.0%	83 25.5%	43 13.2%	326 100.0%
差別はない	50 42.7%	54 46.2%	11 9.4%	2 1.7%	117 100.0%
わからない	82 26.8%	130 42.5%	69 22.5%	25 8.2%	306 100.0%
合計	329 29.6%	484 43.6%	213 19.2%	84 7.6%	1110 100.0%

表 3-3 は、部落差別の現状・なくなる見通しと、同和地区出身者に対する結婚忌避的態度とのクロス集計の結果である。「差別があり、なくなる」では、「迷いながらも結局は考えなおすように言う」が 25.5%、「考えなおすように言う」が 13.2%と、他の層と比較して有意に割合が高くなっており、差別がなくなるという意識が、同和地区出身者への結婚忌避的態度と結びついていることがわかる。

3-5 同和地区出身者に対する忌避的態度の規定因

同和地区出身者に対する結婚忌避的態度を規定する要因を確認するために、同和地区出身者に対する結婚忌避的態度を従属変数とし、属性や同和問題に関連するさまざまな意識や経験を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。結果は表 3-4 のとおりである。

表 3-4 同和地区出身者に対する結婚忌避的態度の規定因に関する重回帰分析（ステップワイズ法）の結果 ($R^2=0.199$)

	標準偏回帰係数
問 3 自己責任	0.154 ***
問 22 B 年齢	0.208 ***
問 5 A 同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない	0.131 ***
問 13-1 B 同和地区の人はこわい	0.176 ***
問 5 B 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい	-0.093 **
問 18 A はっきりとおぼえていない	0.068 *
問 3 反差別	-0.077 *
問 17 A 同和問題（部落差別）	0.066 *

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$

決定係数は 0.199 と高くはないが、有意な差が見られた。標準偏回帰係数が大きなものから、「問 22 B 年齢」(0.208)、「問 13-1 B 同和地区の人はこわい」(0.176)、「問 3 自己責任」(0.154)、「問 5 A 同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない」(0.131)、「問 5 B 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」(-0.093)、「問 3 反差別」(-0.077)、「問 18 A はっきりとおぼえていない」(0.068)、「問 17 A 同和問題（部落差別）」(0.066)となった。

この結果を解釈すると、年齢が高い人ほど、最近 5 年間の間に「同和地区の人はこわい」という情報を聞いたことがある人ほど、自己責任意識を強く持つ人ほど、「同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない」と思わない人ほど、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」と思う人ほど、反差別意識を持たない人ほど、同和問題の学習経験を「はっきりとおぼえていない」人ほど、「同和問題（部落差別）」の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがない人ほど、同和地区出身者との結婚を避けるということである。

これらの結果から、「同和地区の人はこわい」といった偏見を解消させたりコントロールすること、自己責任意識を解除すること、「同和問題（部落差別）は早急に解決されなけれ

ばならない」という意識を促進させること、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」といった部落分散論を否定すること、反差別意識を促進すること、同和問題に関する学習を記憶に残るかたちで経験させること、「同和問題(部落差別)」の解決に熱心に取り組んでいる人との出会いを促進することが、同和地区出身者に対する結婚忌避的態度を解消するために重要であると指摘できる。

4 考察と提言

以上の同和問題に関する項目の分析から明らかになったことをまとめると、以下のようになる。

①同和問題をめぐる意見(問5・1-2)において、「A. 同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合が3分の2程度、「B. 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」という「部落分散論」については、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」をあわせて3分の2程度、「C. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という「寝た子を起こすな論」については、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」をあわせて半数弱程度である。いずれにいても「どちらともいえない」という意識が4分の1から3割程度見られることから、同和問題の早急な解決を求める人々を増やし、「部落分散論」「寝た子を起こすな論」への支持を減らすことが求められる。

②差別の現状・なくなる見通し(問6・1-3)については、「差別はあるが、解決に向かう」が31.6%にとどまっており、「差別があり、なくなる」と諦念する意識も28.4%となっている。解決に向かう見通しを展望できる教育・啓発などの働きかけが必要であろう。

③身元調べ(問7・1-4)については、「調べるのは当然だ」(8.6%)、「感じはよくないが必要だ」(35.3%)をあわせると4割を越えており、こうした意識を減らしていく働きかけが求められる。

④世間での同和地区出身者であることの判断(問12・1-5)については、「本人が現在、同和地区に住んでいる」が49.5%と半数近くを占めるなど、本人の居住地・本籍地・出生地が同和地区出身者であることの判断要素と見なされている。他方で父母の居住地・本籍地・出生地も本人ほどではないものの、その判断要素となっており、これらをクラスター分析によって分類すると、「血縁重視」28.7%、「居住地重視」36.2%、「わからない」30.7%の三つに分けられる。

⑤同和問題に関する偏見情報の伝聞(問13・1-6)については、「A. 同和問題にはかかわらない方がよい」「B. 同和地区の人はこわい」「C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」のいずれにおいても「聞いたことがない」が過半数を占めているものの、4割前後が聞いたことがあるとしており、同和問題に関する偏見情報が流通していることがわかる。これらの偏見情報をいかに否定していくかが問われている。なお、すべての情報に共通するのは、男性で「職場から聞いた」、女性で「家族から聞いた」割合が高いことと、50歳代以上で「友だちから聞いた」、30歳代の比較的若年層で「インターネット上の情報で知った」とする割合が高い。職場・家庭・インターネット上でのこれらの属性

を対象にした働きかけが求められる。

⑥インターネット上での差別的表現に対する反応（問 14・1-7）において、「同和問題についての差別的な表現」については、「そのような表現を見たことがない」が 67.6%となっているが、見たことがあるとする者も 22.9%おり、一定の広がりを見せていることの証左となっている。

⑦人権問題に熱心に取り組んでいる人との出会い（問 17・1-8）において、「同和問題」については 3 割程度が「ある」と回答している。三重県内で生育した人の方が熱心に取り組んでいる人々とより出会っている傾向が見られるが、そうした人々をより増やしていくことが求められる。

⑧人権学習を受けた経験において（問 18・1-9）、「同和問題」については「受けたことがない」が 31.4%と最も割合が高く、以下、「小学校で受けた」が 24.4%、「中学校で受けた」が 19.4%、「はっきりと覚えていない」が 19.3%などとなっている。年齢階層別に見ると、30 歳代以下では他の年齢層よりも学習したとする割合は高いものの、その割合は小学校で半数強、中学校では 3 分の 1 強、高校では 1 割強程度であり、より学習機会を広げていくことが求められる。

⑨同和地区に対する忌避的態度（問 11・2-1）については、3 割程度の人と同和地区内にある物件は避けると回答している。これらの忌避的態度を解消するためには、血縁を重視する意識を解消すること（2-3）、差別が解決に向かうという展望を持つこと（2-4）、「同和地区の人は怖い」といった偏見を解消させたりコントロールすること、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」といった部落分散論を否定すること、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」といった寝た子を起こすなといった意識を否定すること、「部落差別解消推進法」の内実を広く啓発していくこと、さらには高年齢層に積極的に働きかけていくこと（2-5）が求められる。

⑩同和地区出身者に対する結婚忌避的態度（問 8・3-1）については、子どもの結婚の際に、4 分の 1 程度が「考えなおすように言う」、すなわち、結婚差別をする可能性を示している。これらの忌避的態度を解消するためには、血縁を重視する意識を解消すること（3-3）、差別が解決に向かうという展望を持つこと（3-4）、「同和地区の人は怖い」といった偏見を解消させたりコントロールすること、自己責任意識を解除すること、「同和問題（部落差別）は早急に解決されなければならない」という意識を促進させること、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればいい」といった部落分散論を否定すること、反差別意識を促進すること、同和問題に関する学習を記憶に残るかたちで経験させること、「同和問題（部落差別）」の解決に熱心に取り組んでいる人との出会いを促進すること（3-5）が求められる。

おわりに

以上、同和問題に関連する意識や経験と、忌避的態度に関する分析を行ってきた。今後も経年変化の把握や、他府県との地域比較を念頭に置いた、継続的な調査と分析を行い、三重県内の施策に活かされることを期待したい。

3. 人権を尊重する態度や行動につなげる人権啓発・教育を求めて

公益財団法人反差別・人権研究所みえ 調査・研究員 原田 朋記

本稿では、どのような意識や認識が態度・行動に影響を与えているかを明らかにするため、設問間のクロス集計を行った。

1. 人権に関する知識

人権に関する宣言や条約・法律・条例の認知度について、「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合で、最も高かったのは「世界人権宣言」で82.1%となっている。一方、「人権が尊重される三重をつくる条例」の認知度は25.3%となっている。

(1) 差別解消三法の認知度

図1 差別解消三法の認知度

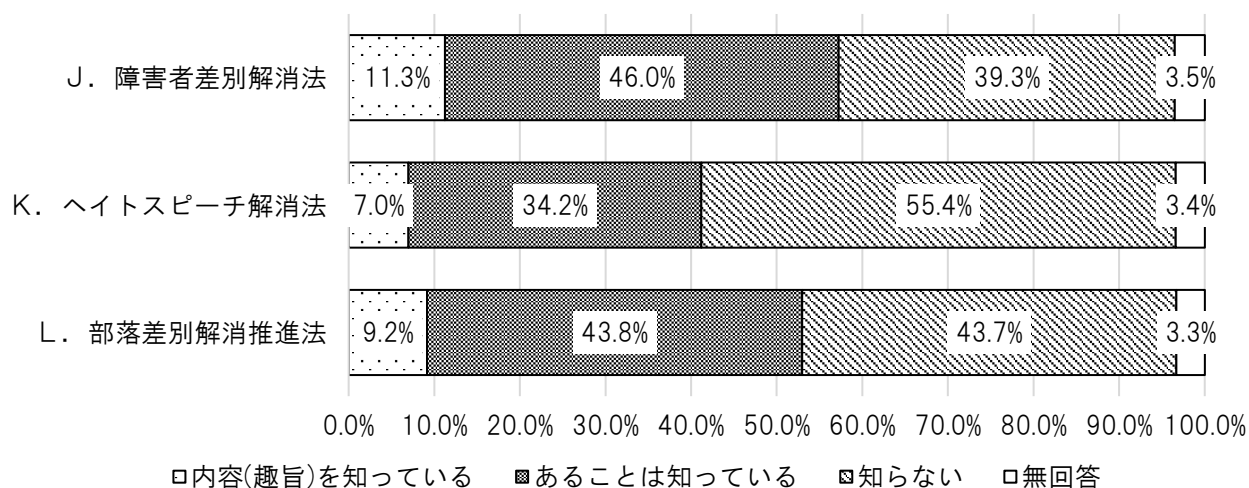


図1は、平成28年度施行の「差別解消三法」の認知度である。「内容(趣旨)を知っている」「あることは知っている」を合わせた割合は、「障害者差別解消法」が57.3%、「ヘイトスピーチ解消法」が41.2%、「部落差別解消推進法」が53.0%となっている。

(2) 近県調査との比較

表1 差別解消三法にかかる認知度について近県調査との比較

		障害者差別解消法	ヘイトスピーチ解消法	部落差別解消推進法
令和元年三重県	「内容(趣旨)を知っている」 「あることは知っている」	57.3%	41.2%	53.0%
平成30年奈良県 〔参考〕	「内容も知っている」 「内容は知らないが名称は知っている」	42.4%	56.1%	52.5%
令和元年静岡県 〔参考〕	「知っている」 「聞いたことがある」	-	-	37.6%

表1は、差別解消三法にかかる認知度について近県調査との比較である。三重県におけるこれらの法の認知度は、近県との比較では高いものもみられるが、「内容(趣旨)まで知っている」の割合は10.0%程度にとどまっていることから、内容(趣旨)までの周知を継続していく必要がある。

(3) 差別解消三法の認知度が与える影響

表2 差別解消三法の認知度と人権や差別についての考え方

		問3-C差別は法律で禁止する必要がある			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わない」 グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	81.9%	17.1%	1.0%	0.0%
	知らない	64.3%	27.1%	8.2%	0.4%
問1-J障害者差別解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	85.3%	13.2%	1.6%	0.0%
	知らない	62.0%	29.8%	7.8%	0.4%
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	85.0%	12.5%	2.5%	0.0%
	知らない	66.3%	26.6%	6.5%	0.6%
		問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わない」 グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	8.6%	8.6%	82.9%	0.0%
	知らない	6.4%	20.6%	72.5%	0.6%
問1-J障害者差別解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	7.0%	9.3%	83.7%	0.0%
	知らない	6.4%	22.4%	70.4%	0.7%
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	5.0%	5.0%	88.8%	1.3%
	知らない	7.6%	20.5%	71.3%	0.6%

表2は、差別解消三法の認知度と人権や差別についての考え方をクロス集計したものである。人権や差別についての考え方で、「差別は法律で禁止する必要がある」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」グループ、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

差別解消三法の内容や趣旨を知っている県民ほど、「差別は法律で禁止する必要がある」という考え方を肯定し、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」という考え方を否定している。

表3 差別解消三法の認知度とインターネット上の人権侵害

		問14-Bインターネット上の人権侵害【同和問題についての差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思つた	そのような表現を見たことはない	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	0.0%	27.6%	8.6%	54.3%	9.5%
	知らない	0.4%	7.8%	10.2%	74.7%	7.0%
		問14-Cインターネット上の人権侵害【障がい者への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思つた	そのような表現を見たことはない	不明
問1-J障害者差別解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	2.3%	33.3%	8.5%	45.7%	10.1%
	知らない	0.7%	17.6%	9.8%	65.1%	6.9%
		問14-Dインターネット上の人権侵害【外国人への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思つた	そのような表現を見たことはない	不明
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	1.3%	30.0%	20.0%	43.8%	5.0%
	知らない	0.6%	17.3%	13.1%	60.6%	8.3%

表3は、差別解消三法の認知度とインターネット上の人権侵害をクロス集計したものである。インターネット上の人権侵害で、「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

差別解消三法の内容や趣旨を知っている県民ほど、インターネット上の同和問題についての差別的な表現、障がい者への差別的な表現、外国人への差別的な表現を「許せない人権侵害」として認識している。

表4 部落差別解消推進法の認知度と同和問題についての意見

		問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わない」 グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	78.1%	14.3%	6.7%	1.0%
	知らない	59.1%	31.3%	8.0%	1.6%
		問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わない」 グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	6.7%	14.3%	78.1%	1.0%
	知らない	7.2%	31.7%	60.1%	1.0%
		問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わない」 グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	20.0%	21.9%	58.1%	0.0%
	知らない	21.2%	33.1%	45.1%	0.6%

表4は、部落差別解消推進法の認知度と同和問題についての意見をクロス集計したものである。同和問題についての意見で、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」は「そう思う」グループ、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」は「そう思わない」グループ、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

部落差別解消推進法の内容や趣旨を知っている県民ほど、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定している。

表5 部落差別解消推進法の認知度と住居購入に対する意向

		問11-A同じ小学校区内に同和地区がある			
		まったくこだわらないのでその家を買(借り)る	こだわりはあるが条件がよければ買(借り)る	どれだけ条件がよ(借り)ても買(借り)たくない	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	57.1%	27.6%	12.4%	2.9%
	知らない	40.9%	40.7%	16.8%	1.6%
		問11-B物件(住宅)が同和地区内にある			
		まったくこだわらないのでその家を買(借り)る	こだわりはあるが条件がよければ買(借り)る	どれだけ条件がよ(借り)ても買(借り)たくない	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	36.2%	36.2%	25.7%	1.9%
	知らない	24.8%	37.9%	35.1%	2.2%

表5は、部落差別解消推進法の認知度と住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「まったくこだわらないのでその家を買(借り)る」において、10ポイント以上の差が示された。

部落差別解消推進法の内容や趣旨を知っている県民ほど、同じ小学校区内に同和地区がある場合や物件(住宅)が同和地区内にある場合、「まったくこだわらないのでその家を買(借り)る」としている。

表6 部落差別解消推進法の認知度と同和問題についての偏見の流布と受容

		問13-1A同和問題にはかかわらない方がよい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	43.8%	26.7%	26.7%	2.9%
	知らない	67.5%	20.8%	10.2%	1.6%
		問13-1B同和地区の人はこわい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	39.0%	32.4%	24.8%	3.8%
	知らない	62.7%	25.3%	10.4%	1.6%
		問13-1C同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問1-L部落差別解消推進法の認知度	内容(趣旨)を知っている	35.2%	35.2%	25.7%	3.8%
	知らない	59.9%	23.8%	13.0%	3.4%

表6は、部落差別解消推進法の認知度と同和問題についての偏見の流布と受容をクロス

集計したものである。同和問題についての偏見の流布と受容で、「聞いたことがあり、疑問に思った」「聞いたことがあり、反発を感じた」を合わせた「否定(疑問・反発)」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

部落差別解消推進法の内容や趣旨を知っている県民ほど、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」「同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」と聞いたときに、疑問や反発を感じている。

表7 障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法の認知度と施設建設についての意識

		問9-A知的障がい、精神障がい児・者の生活施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問1-J障害者差別解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	69.0%	11.6%	17.8%	1.6%
	知らない	43.8%	14.4%	39.8%	2.0%
		問9-C外国人の研修施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	67.5%	11.3%	20.0%	1.3%
	知らない	40.6%	16.2%	40.9%	2.2%

表7は、障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法の認知度と施設建設についての意識をクロス集計したものである。施設建設についての意識で、「反対運動は人権を侵害している」において、20ポイント以上の差が示された。

障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法の内容や趣旨を知っている県民ほど、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設や外国人の研修施設の建設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表8 障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法の認知度と入居拒否に対する意識

		問10-B入居拒否に対する意識【障がい者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問1-J障害者差別解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	64.3%	15.5%	17.8%	2.3%
	知らない	44.2%	18.0%	36.0%	1.8%
		問10-A入居拒否に対する意識【外国人】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	58.8%	15.0%	25.0%	1.3%
	知らない	41.1%	21.1%	35.6%	2.2%

表8は、障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法の認知度と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」

において、20ポイント以上の差が示された。

障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法の内容や趣旨を知っている県民ほど、障がい者や外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表9 ヘイトスピーチ解消法の認知度と人権問題についての意見

		問5-H外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	8.8%	12.5%	78.8%	0.0%
	知らない	16.2%	26.3%	56.1%	1.4%

表9は、ヘイトスピーチ解消法の認知度と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は「そう思わない」グループにおいて、20ポイント以上の差が示された。

ヘイトスピーチ解消法の内容や趣旨を知っている県民ほど、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」という意見を否定している。

表10 ヘイトスピーチ解消法の認知度とヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかという、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)	どちらかという、Bの意見に近い(表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ)	どちらかという、Cの意見に近い(ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方がないことだ)	不明
問1-Kヘイトスピーチ解消法の認知度	内容(趣旨)を知っている	81.3%	8.8%	6.3%	3.8%
	知らない	69.3%	17.5%	6.8%	6.5%

表10は、ヘイトスピーチ解消法の認知度とヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。ヘイトスピーチに対する意識で、「どちらかという、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)」において、10ポイント以上の差が示された。

ヘイトスピーチ解消法の内容や趣旨を知っている県民ほど、ヘイトスピーチを人権侵害として認識し、許されないこととして捉えている。

(4) 小括

差別解消三法を内容(趣旨)まで知っている県民は、「差別は法律で禁止する必要がある」という考えを肯定し、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」という考えを否定していることが明らかになった。また、インターネット上の「同和問題についての差別的な表現」「障がい者への差別的な表現」「外国人への差別的な表現」を許せない人権侵害として認識している。

部落差別解消推進法を内容(趣旨)まで知っている県民は、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定していることが明らかになった。また、同和地区に関係する物件に対する忌避的態度も弱くなっており、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」「同和地区の人にだけ特別な施策を実施するのは不公平だ」という偏見を見聞きしたときに疑問や反発を感じている。

障害者差別解消法とヘイトスピーチ解消法を内容(趣旨)まで知っている県民は、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設の建設や外国人の研修施設の建設に対する反対運動、障がい者や外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。ヘイトスピーチ解消法においては、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」という意見を否定し、ヘイトスピーチを許されない人権侵害として認識している。

これらのことから、差別解消三法の県民への周知を継続するとともに、法律の内容(趣旨)についても理解を求める、具体的な取組が求められる。

2. 三重県の人権

表11 三重県の人権と講演会・研修会への参加経験や出会いの有無

		3回以上の 啓発等参加	出会い・話を聞いた 経験がある
三重県の人権	「感じている」 「どちらかといえば感じている」	34.5%	29.1%
	「どちらかといえば感じていない」 「感じていない」	20.7%	24.3%

表11は、三重県の人権と講演会・研修会への参加経験や出会いの有無である。「三重県は人権が尊重されている社会になっていると感じるか」について、「感じている」「どちらかといえば感じている」を合わせた割合は23.4%となっている。最近5年間に県や市町などが主催する人権に関する講演会・研修会に3回以上の参加経験がある人、人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったり話を聞いたりしたことがある人は、人権尊重社会だと感じる割合が高くなっている。

3. 人権や差別についての考え方

図2 人権や差別についての考え方

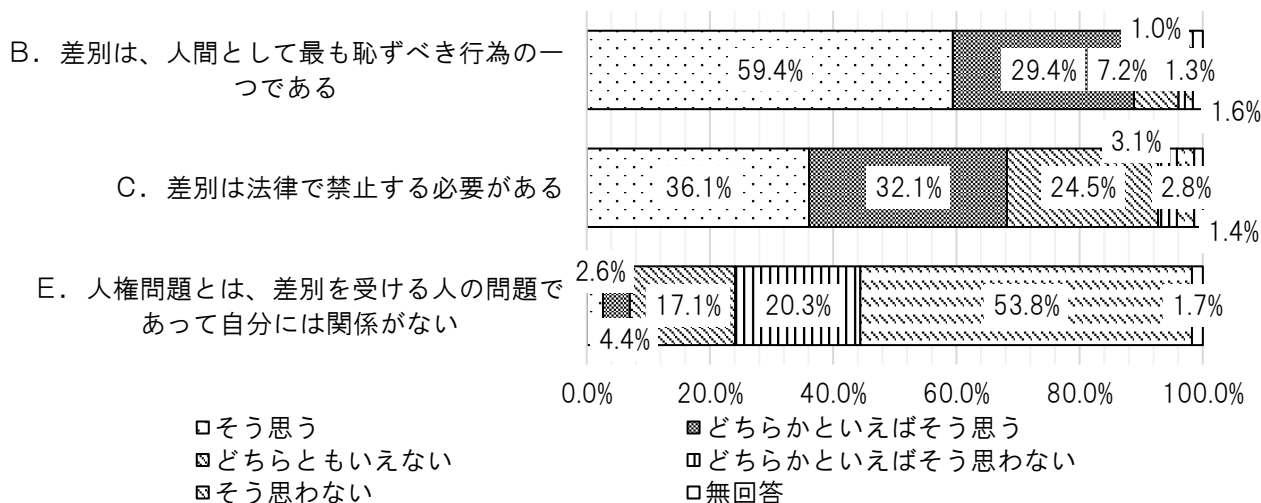


図2は、人権や差別についての考え方の中で、「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」「差別は法律で禁止する必要がある」「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」を抜き出したものである。

「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 88.8%で、県民の多くが差別を否定する意識を持っている。この意識を行動に移していけるよう、啓発を継続していく必要がある。

「差別は法律で禁止する必要がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 68.2%となっており、前回調査の 63.1%より 5.1 ポイント増えた。法律による差別禁止が必要と考える割合が高くなっている。

「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」という考え方に対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 74.1%となっている。県民の多くは人権問題について、自らも考え、向き合うべき問題との認識を持っていると考えられる。

(1) 人権や差別についての考え方が同和問題(部落差別)についての認識や態度に与える影響

表12 人権や差別についての考え方と結婚(縁談)相手の調査

		問7-E結婚(縁談)相手の調査【同和地区の人であるかどうか】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	7.7%	35.5%	55.2%	1.7%
	「そう思わない」グループ	25.0%	30.0%	45.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	7.7%	35.0%	55.5%	1.9%
	「そう思わない」グループ	40.7%	25.9%	33.3%	0.0%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	7.7%	34.7%	55.9%	1.8%
	「そう思わない」グループ	20.9%	38.8%	40.3%	0.0%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	7.6%	35.0%	55.8%	1.6%
	「そう思わない」グループ	43.5%	26.1%	30.4%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	7.9%	21.1%	33.8%	37.2%
	「そう思わない」グループ	1.7%	18.1%	46.3%	33.9%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方ない	「そう思う」グループ	14.7%	38.2%	46.0%	1.2%
	「そう思わない」グループ	4.6%	28.7%	65.0%	1.6%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	18.2%	40.4%	39.9%	1.5%
	「そう思わない」グループ	6.0%	30.6%	61.9%	1.5%

表12は、人権や差別についての考え方と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、「調べるべきではない」において、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」を調べようとする行為を否定している。

表13 人権や差別についての考え方と住居購入に対する意向

		問11-A同じ小学校区内に同和地区がある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	46.1%	39.5%	12.6%	1.8%
	「そう思わない」グループ	35.0%	35.0%	30.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	46.1%	39.5%	12.6%	1.9%
	「そう思わない」グループ	25.9%	33.3%	37.0%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	28.0%	41.2%	28.6%	2.2%
	「そう思わない」グループ	14.9%	37.3%	46.3%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	45.9%	39.7%	12.6%	1.8%
	「そう思わない」グループ	21.7%	34.8%	39.1%	4.3%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	22.5%	38.8%	35.0%	3.8%
	「そう思わない」グループ	49.2%	38.6%	10.4%	1.9%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	37.7%	41.5%	18.2%	2.6%
	「そう思わない」グループ	53.6%	36.9%	8.2%	1.4%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	34.0%	44.8%	18.2%	3.0%
	「そう思わない」グループ	52.4%	33.8%	11.2%	2.6%

表13は、人権や差別についての考え方と住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」において、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、同じ小学校区内に同和地区がある場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」としている。

(2) 人権や差別についての考え方が障がい者の人権についての認識や態度に与える影響

表14 人権や差別についての考え方と結婚(縁談)相手の調査

		問7-A結婚(縁談)相手の調査			
		【相手の家族の病歴や障がいの有無】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	8.8%	46.4%	43.5%	1.4%
	「そう思わない」グループ	35.0%	50.0%	15.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	8.5%	46.5%	43.5%	1.5%
	「そう思わない」グループ	40.7%	37.0%	22.2%	0.0%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	8.4%	46.4%	43.6%	1.5%
	「そう思わない」グループ	20.9%	50.7%	28.4%	0.0%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	8.5%	46.7%	43.4%	1.4%
	「そう思わない」グループ	34.8%	52.2%	13.0%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	23.8%	45.0%	31.3%	0.0%
	「そう思わない」グループ	7.3%	46.4%	45.1%	1.3%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方ない	「そう思う」グループ	15.4%	47.2%	36.5%	0.9%
	「そう思わない」グループ	3.8%	42.1%	52.5%	1.6%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	17.2%	46.8%	35.0%	1.0%
	「そう思わない」グループ	6.7%	40.5%	50.9%	1.9%

表14は、人権や差別についての考え方と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、相手の家族の病歴や障がいの有無について「調べるべきではない」において、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、家族が相手に気づかれないように「相手の家族の病歴や障がいの有無」を調べようとする行為を否定している。

表15 人権や差別についての考え方と施設建設についての意識

		問9-A知的障がい、精神障がい児・者の生活施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	55.2%	13.7%	29.4%	1.8%
	「そう思わない」グループ	30.0%	25.0%	45.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	55.0%	12.6%	30.7%	1.7%
	「そう思わない」グループ	22.2%	25.9%	48.1%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	57.7%	11.9%	28.6%	1.8%
	「そう思わない」グループ	34.3%	23.9%	40.3%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	54.9%	12.9%	30.3%	1.8%
	「そう思わない」グループ	26.1%	21.7%	47.8%	4.3%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	37.5%	23.8%	33.8%	5.0%
	「そう思わない」グループ	57.6%	11.2%	29.5%	1.6%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	43.8%	21.1%	31.8%	3.3%
	「そう思わない」グループ	65.3%	5.7%	27.9%	1.1%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	43.3%	24.6%	30.0%	2.0%
	「そう思わない」グループ	64.9%	8.4%	24.8%	1.9%

表15は、人権や差別についての考え方と施設建設についての意識をクロス集計したものである。施設建設についての意識で、「反対運動は人権を侵害している」において、20ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設の建設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表16 人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識

		問10-B入居拒否に対する意識【障がい者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	47.2%	18.4%	32.4%	2.1%
	「そう思わない」グループ	15.0%	65.0%	20.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	47.3%	18.2%	32.5%	2.0%
	「そう思わない」グループ	14.8%	51.9%	29.6%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	50.1%	17.5%	30.2%	2.2%
	「そう思わない」グループ	28.4%	34.3%	35.8%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	47.9%	17.9%	32.2%	2.0%
	「そう思わない」グループ	21.7%	30.4%	43.5%	4.3%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	30.0%	28.8%	36.3%	5.0%
	「そう思わない」グループ	57.2%	13.8%	27.2%	1.9%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	36.3%	28.4%	32.2%	3.1%
	「そう思わない」グループ	56.8%	12.8%	29.0%	1.4%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	32.5%	29.1%	36.0%	2.5%
	「そう思わない」グループ	54.5%	15.9%	27.4%	2.2%

表16は、人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、20ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、障がい者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

(3) 人権や差別についての考え方が外国人の人権についての認識や態度に与える影響

表17 人権や差別についての考え方と人権問題についての意見

		問5-H外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わない」 グループ	不明
問3-A人権は、侵すことのでき ない永久の権利である	「そう思う」 グループ	11.7%	24.2%	63.0%	1.1%
	「そう思わない」 グループ	30.0%	20.0%	45.0%	5.0%
問3-B差別は、人間として最も 恥ずべき行為の一つである	「そう思う」 グループ	11.2%	24.5%	63.3%	1.1%
	「そう思わない」 グループ	44.4%	18.5%	33.3%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必 要がある	「そう思う」 グループ	12.5%	22.9%	63.3%	1.3%
	「そう思わない」 グループ	23.9%	26.9%	49.3%	0.0%
問3-D差別される人の言葉をき ちんと聞く必要がある	「そう思う」 グループ	11.1%	23.9%	63.9%	1.1%
	「そう思わない」 グループ	52.2%	17.4%	30.4%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受 ける人の問題であって自分には 関係がない	「そう思う」 グループ	36.3%	33.8%	28.8%	1.3%
	「そう思わない」 グループ	9.4%	20.9%	68.7%	0.9%
問3-F競争社会だから、能力に よる差別が生じるのは仕方がな い	「そう思う」 グループ	23.2%	28.2%	47.9%	0.7%
	「そう思わない」 グループ	6.0%	15.3%	77.3%	1.4%
問3-G社会的弱者が優遇される のは、一般の人のがんばりが認 められないので問題がある	「そう思う」 グループ	25.6%	28.6%	43.8%	2.0%
	「そう思わない」 グループ	8.6%	16.6%	73.9%	0.9%

表17は、人権や差別についての考え方と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は「そう思わない」グループにおいて、20ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」という意見を否定している。

表18 人権や差別についての考え方と結婚(縁談)相手の調査

		問7-D結婚(縁談)相手の調査【相手や家族の国籍】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	不明
問3-A人権は、侵すことのでき ない永久の権利である	「そう思う」 グループ	14.7%	41.3%	42.7%	1.4%
	「そう思わない」 グループ	35.0%	35.0%	30.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も 恥ずべき行為の一つである	「そう思う」 グループ	14.3%	41.7%	42.5%	1.5%
	「そう思わない」 グループ	51.9%	18.5%	29.6%	0.0%
問3-C差別は法律で禁止する必 要がある	「そう思う」 グループ	14.6%	41.2%	42.8%	1.4%
	「そう思わない」 グループ	28.4%	38.8%	32.8%	0.0%
問3-D差別される人の言葉をき ちんと聞く必要がある	「そう思う」 グループ	14.1%	41.3%	43.1%	1.4%
	「そう思わない」 グループ	43.5%	30.4%	26.1%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受 ける人の問題であって自分には 関係がない	「そう思う」 グループ	33.8%	37.5%	27.5%	1.3%
	「そう思わない」 グループ	13.4%	40.7%	44.7%	1.2%
問3-F競争社会だから、能力に よる差別が生じるのは仕方な い	「そう思う」 グループ	22.5%	40.5%	35.5%	1.4%
	「そう思わない」 グループ	9.8%	34.2%	55.2%	0.8%
問3-G社会的弱者が優遇される のは、一般の人のがんばりが認 められないので問題がある	「そう思う」 グループ	22.2%	40.4%	36.0%	1.5%
	「そう思わない」 グループ	12.7%	37.7%	48.1%	1.5%

表18は、人権や差別についての考え方と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、「調べるべきではない」において、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、家族が相手に気づかれないように「相手や家族の国籍」を調べようとする行為を否定している。

表19 人権や差別についての考え方と施設建設についての意識

		問9-C外国人の研修施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	48.7%	15.1%	34.2%	2.0%
	「そう思わない」グループ	35.0%	20.0%	45.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	49.0%	14.2%	35.0%	1.8%
	「そう思わない」グループ	14.8%	29.6%	51.9%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	50.9%	13.0%	34.0%	2.0%
	「そう思わない」グループ	28.4%	26.9%	43.3%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	48.7%	14.5%	35.0%	1.8%
	「そう思わない」グループ	30.4%	17.4%	47.8%	4.3%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	35.0%	27.5%	32.5%	5.0%
	「そう思わない」グループ	52.6%	12.7%	33.1%	1.6%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	37.9%	22.3%	36.5%	3.3%
	「そう思わない」グループ	57.4%	9.3%	32.2%	1.1%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	34.0%	25.1%	38.4%	2.5%
	「そう思わない」グループ	59.3%	8.8%	30.0%	1.9%

表19は、人権や差別についての考え方と施設建設についての意識をクロス集計したものである。外国人の研修施設の建設で、「反対運動は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、外国人の研修施設の建設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表20 人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識

		問10-A入居拒否に対する意識【外国人】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	47.2%	18.4%	32.4%	2.1%
	「そう思わない」グループ	15.0%	65.0%	20.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	47.3%	18.2%	32.5%	2.0%
	「そう思わない」グループ	14.8%	51.9%	29.6%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	50.1%	17.5%	30.2%	2.2%
	「そう思わない」グループ	28.4%	34.3%	35.8%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	47.9%	17.9%	32.2%	2.0%
	「そう思わない」グループ	21.7%	30.4%	43.5%	4.3%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	28.8%	31.3%	35.0%	5.0%
	「そう思わない」グループ	50.2%	17.1%	30.9%	1.8%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	36.3%	28.4%	32.2%	3.1%
	「そう思わない」グループ	56.8%	12.8%	29.0%	1.4%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	32.5%	29.1%	36.0%	2.5%
	「そう思わない」グループ	54.5%	15.9%	27.4%	2.2%

表20は、人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、20ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表2 1 人権や差別についての考え方とヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかという、 Aの意見に近い(人権 を侵害しており、許 されないことだ)	どちらかという、 Bの意見に近い(表現 の自由の範囲内のこ とであり、許される ことだ)	どちらかという、 Cの意見に近い(ヘイ トスピーチをされる 側に問題があり、仕 方のないことだ)	不明
問3-A人権は、侵すこ とのできない永久の 権利である	「そう思う」 グループ	73.2%	18.0%	5.6%	3.2%
	「そう思わな い」グループ	20.0%	25.0%	30.0%	25.0%
問3-B差別は、人間と して最も恥ずべき行 為の一つである	「そう思う」 グループ	73.5%	16.6%	5.1%	4.8%
	「そう思わな い」グループ	25.9%	33.3%	25.9%	14.8%
問3-C差別は法律で禁 止する必要がある	「そう思う」 グループ	75.3%	14.8%	5.2%	4.6%
	「そう思わな い」グループ	40.3%	28.4%	22.4%	9.0%
問3-D差別される人の 言葉をきちんと聞く 必要がある	「そう思う」 グループ	73.5%	17.5%	4.6%	4.3%
	「そう思わな い」グループ	39.1%	26.1%	30.4%	4.3%
問3-E人権問題とは、 差別を受ける人の問 題であって自分には 関係がない	「そう思う」 グループ	35.0%	32.5%	18.8%	13.8%
	「そう思わな い」グループ	76.5%	15.1%	5.3%	3.2%
問3-F競争社会だか ら、能力による差別 が生じるのは仕方が ない	「そう思う」 グループ	59.5%	24.2%	11.6%	4.7%
	「そう思わな い」グループ	82.0%	11.5%	2.2%	4.4%
問3-G社会的弱者が優 遇されるのは、一般 の人のがんばりが認 められないので問題 がある	「そう思う」 グループ	51.7%	25.6%	14.3%	8.4%
	「そう思わな い」グループ	79.1%	12.7%	4.1%	4.1%

表2 1は、人権や差別についての考え方とヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。ヘイトスピーチに対する意識で、「どちらかという、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)」において、20ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、ヘイトスピーチを人権侵害として認識し、許されないこととして捉えている。

(4) 人権や差別についての考え方が子どもの人権についての認識や態度に与える影響

表2 2 人権や差別についての考え方と人権問題についての意見

		問5-D子どものしつけのためには、体罰はやむをえない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	14.4%	26.4%	59.0%	0.3%
	「そう思わない」グループ	35.0%	35.0%	30.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	13.8%	25.6%	60.4%	0.2%
	「そう思わない」グループ	48.1%	25.9%	25.9%	0.0%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	14.1%	25.3%	60.1%	0.5%
	「そう思わない」グループ	38.8%	32.8%	28.4%	0.0%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	14.5%	26.5%	59.0%	0.0%
	「そう思わない」グループ	39.1%	26.1%	34.8%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	36.3%	26.3%	37.5%	0.0%
	「そう思わない」グループ	13.1%	24.8%	62.1%	0.0%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	29.4%	29.6%	41.0%	0.0%
	「そう思わない」グループ	7.4%	19.4%	73.0%	0.3%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	34.0%	26.6%	38.4%	1.0%
	「そう思わない」グループ	10.1%	20.0%	69.8%	0.0%

表2 2は、人権や差別についての考え方と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」は「そう思わない」グループにおいて、20ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」という意見を否定している。

(5) 人権や差別についての考え方が患者等の人権についての認識や態度に与える影響

表 2 3 人権や差別についての考え方と人権問題についての意見

		問5-1私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っている			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	55.0%	35.5%	8.6%	1.0%
	「そう思わない」グループ	15.0%	55.0%	25.0%	5.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	54.8%	35.5%	8.7%	1.0%
	「そう思わない」グループ	29.6%	44.4%	22.2%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	54.3%	35.4%	8.8%	1.4%
	「そう思わない」グループ	35.8%	41.8%	22.4%	0.0%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	55.3%	35.4%	8.3%	1.0%
	「そう思わない」グループ	21.7%	52.2%	26.1%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	41.3%	38.8%	20.0%	0.0%
	「そう思わない」グループ	57.1%	34.1%	7.8%	1.1%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	48.8%	37.2%	13.0%	0.9%
	「そう思わない」グループ	61.5%	30.1%	6.8%	1.6%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	43.8%	34.5%	20.2%	1.5%
	「そう思わない」グループ	62.1%	28.9%	7.8%	1.3%

表 2 3 は、人権や差別についての考え方と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っている」は「そう思う」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っている」という意見を肯定している。

表24 人権や差別についての考え方と人権問題についての意見

		問5-J家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	61.2%	28.5%	8.7%	1.7%
	「そう思わない」グループ	45.0%	40.0%	10.0%	5.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	61.0%	29.5%	7.7%	1.9%
	「そう思わない」グループ	33.3%	29.6%	33.3%	3.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	60.1%	29.9%	7.7%	2.3%
	「そう思わない」グループ	47.8%	31.3%	19.4%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	61.5%	28.6%	8.0%	1.9%
	「そう思わない」グループ	43.5%	21.7%	34.8%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	47.5%	28.8%	22.5%	1.3%
	「そう思わない」グループ	64.5%	26.4%	7.4%	1.8%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	56.2%	30.8%	11.4%	1.7%
	「そう思わない」グループ	67.8%	22.1%	7.1%	3.0%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	45.8%	36.5%	16.3%	1.5%
	「そう思わない」グループ	69.2%	21.6%	6.9%	2.4%

表24は、人権や差別についての考え方と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」は「そう思う」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」という意見を肯定している。

表25 人権や差別についての考え方と人権問題についての意見

		問5-L災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	10.3%	17.3%	71.2%	1.2%
	「そう思わない」グループ	20.0%	35.0%	45.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	10.0%	16.9%	71.9%	1.2%
	「そう思わない」グループ	25.9%	25.9%	48.1%	0.0%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	8.6%	17.0%	73.3%	1.2%
	「そう思わない」グループ	20.9%	25.4%	52.2%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	10.5%	16.9%	71.6%	1.0%
	「そう思わない」グループ	17.4%	21.7%	60.9%	0.0%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	33.8%	22.5%	43.8%	0.0%
	「そう思わない」グループ	8.7%	14.6%	75.9%	0.8%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	18.5%	20.9%	59.7%	0.9%
	「そう思わない」グループ	6.3%	10.9%	81.7%	1.1%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	25.6%	23.6%	49.3%	1.5%
	「そう思わない」グループ	6.3%	10.3%	82.5%	0.9%

表25は、人権や差別についての考え方と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、「災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない」という意見を否定している。

(6) 人権や差別についての考え方が高齢者の人権についての認識や態度に与える影響

表26 人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識

		問10-C入居拒否に対する意識【高齢者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である	「そう思う」グループ	53.1%	15.1%	29.8%	2.0%
	「そう思わない」グループ	10.0%	60.0%	30.0%	0.0%
問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	「そう思う」グループ	18.6%	6.8%	24.0%	50.5%
	「そう思わない」グループ	3.8%	8.9%	24.7%	62.7%
問3-C差別は法律で禁止する必要がある	「そう思う」グループ	56.0%	14.1%	27.7%	2.2%
	「そう思わない」グループ	32.8%	26.9%	38.8%	1.5%
問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	「そう思う」グループ	53.6%	14.9%	29.4%	2.0%
	「そう思わない」グループ	26.1%	30.4%	39.1%	4.3%
問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	「そう思う」グループ	32.5%	25.0%	37.5%	5.0%
	「そう思わない」グループ	56.8%	13.1%	28.4%	1.8%
問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	「そう思う」グループ	40.3%	23.7%	32.9%	3.1%
	「そう思わない」グループ	65.0%	9.0%	24.3%	1.6%
問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	「そう思う」グループ	32.5%	28.6%	36.5%	2.5%
	「そう思わない」グループ	62.3%	12.5%	23.1%	2.2%

表26は、人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

人権や差別について、A～Gの7項目を人権尊重の観点で認識している県民ほど、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

(7) 小括

「人権についての基本的な認識」「当事者の声を聞く大切さの理解」「人権問題を自分の問題として捉える」「自己責任論の否定」といった人権尊重の観点に立った考えを持つことは、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」「相手の家族の病歴や障がいの有無」「相手や家族の国籍」を調べようとする行為を否定することに影響を与えている。また、同じ小学校区内に同和地区がある物件に対する忌避的態度も弱くなっており、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設の建設や外国人の研修施設の建設に対する反対運動、障がい者や外国人、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識すること、ヘイトスピーチを許されない人権侵害として認識することにも影響を与えている。

さらに、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」「災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない」という意見を否定し、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける」「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」という意見を肯定している。

これらのことから、人権尊重の観点に立った考えを持つような人権啓発や人権教育を継続していく必要がある。

4. 人権問題についての意見

図3 人権問題についての意見

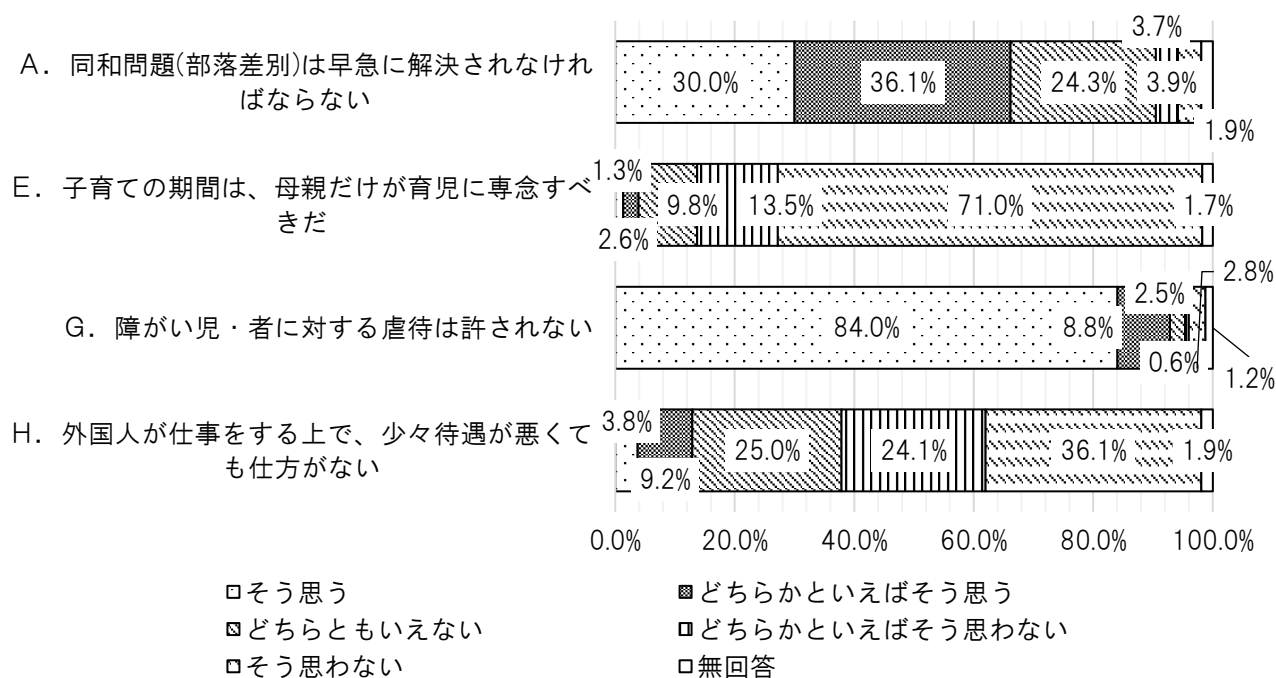


図3は、人権問題についての意見の中で、「同和問題(部落差別)は、早急に解決されなければならない」「障がい児・者に対する虐待は許されない」「外国人は仕事をする上で少々待遇が悪くても仕方がない」「子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ」を抜き出したものである。

「同和問題（部落差別）は、早急に解決されなければならない」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は66.1%となっている。

「子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ」について、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は84.5%で、前回調査より50.5ポイント増えた。男女の役割分担意識を否定する割合が増加したことから、男女共同参画の考え方が浸透していると考えられる。

「障がい児・者に対する虐待は許されない」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は92.8%となっている。年齢階層別では80歳代以上が9.7ポイント低くなっている。

「外国人は仕事をする上で少々待遇が悪くても仕方がない」について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は60.2%となっている。

(1) 人権問題についての意見が同和問題(部落差別)についての認識や態度に与える影響

表27 人権問題についての意見と人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-A人権問題についての現状認識となくなる見通し 【同和問題(部落差別)】				
		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなるらない	差別はない	わからない	不明
問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない	「そう思う」グループ	37.7%	27.8%	8.8%	24.3%	1.3%
	「そう思わない」グループ	23.0%	26.4%	26.4%	24.1%	0.0%
問5-B同和地区の人には、引越してもらい、跡地を公園などにすればよい	「そう思う」グループ	28.2%	39.4%	18.3%	12.7%	1.4%
	「そう思わない」グループ	35.0%	26.8%	11.8%	25.3%	1.1%
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	29.7%	19.2%	23.8%	25.5%	1.7%
	「そう思わない」グループ	34.4%	31.5%	6.5%	26.1%	1.5%

表27は、人権問題についての意見と人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題についての現状やなくなる見通しで、「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなるらない」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」を肯定し、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、同和問題(部落差別)の現状を認識している。また、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」を肯定している県民ほど現状を認識し、「差別はあるが、解決に向かう」となくなる見通しを持っている。

表 28 人権問題についての意見と結婚(縁談)相手の調査

		問7-E結婚(縁談)相手の調査【同和地区の人であるかどうか】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない	「そう思う」グループ	6.5%	33.1%	59.1%	1.3%
	「そう思わない」グループ	20.7%	26.4%	50.6%	2.3%
問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい	「そう思う」グループ	19.7%	36.6%	43.7%	0.0%
	「そう思わない」グループ	7.8%	31.2%	59.9%	1.1%
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	14.6%	32.6%	50.6%	2.1%
	「そう思わない」グループ	5.7%	32.2%	60.2%	1.9%

表 28 は、人権問題についての意見と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、「調べるべきではない」において、10ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」を否定している県民ほど、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」を調べようとする行為を否定している。

表 29 人権問題についての意見と結婚に対する意識

		問8-A結婚に対する意識【同和地区出身者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない	「そう思う」グループ	77.4%	21.1%	1.5%
	「そう思わない」グループ	62.1%	35.6%	2.3%
問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい	「そう思う」グループ	66.2%	33.8%	0.0%
	「そう思わない」グループ	76.8%	22.3%	1.0%
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	68.2%	30.5%	1.3%
	「そう思わない」グループ	76.5%	21.9%	1.7%

表 29 は、人権問題についての意見と結婚に対する意識をクロス集計したものである。結婚に対する意識で、「まったく問題にしない」「迷いながらも結局は問題にしない」を合わせた「問題にしない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」を否定している県民ほど、子どもの結婚相手が同和地区出身者だった場合、「問題にしない」とする割合が高くなっている。

表30 人権問題についての意見と住居購入に対する意向

		問11-A同じ小学校区内に同和地区がある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない	「そう思う」グループ	48.3%	38.7%	10.8%	2.2%
	「そう思わない」グループ	42.5%	27.6%	27.6%	2.3%
問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい	「そう思う」グループ	31.0%	46.5%	21.1%	1.4%
	「そう思わない」グループ	50.1%	36.8%	11.5%	1.5%
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	40.6%	37.7%	18.4%	3.3%
	「そう思わない」グループ	51.1%	36.3%	10.4%	2.2%
		問11-B物件(住宅)が同和地区内にある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない	「そう思う」グループ	28.0%	43.5%	25.6%	2.9%
	「そう思わない」グループ	27.6%	29.9%	39.1%	3.4%
問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい	「そう思う」グループ	19.7%	38.0%	40.8%	1.4%
	「そう思わない」グループ	30.8%	41.5%	25.4%	2.3%
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	25.1%	34.3%	36.4%	4.2%
	「そう思わない」グループ	31.9%	42.6%	22.8%	2.8%

表30は、人権問題についての意見と住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」において、10ポイント以上の差が示された。

「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」を否定している県民ほど、同じ小学校区内に同和地区がある場合や物件が同和地区内にある場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」とする割合が高くなっている。また、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、同じ小学校区内に同和地区がある場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」とする割合が高くなっている。

(2) 人権問題についての意見が認識や態度に与える影響

表31 人権問題についての意見と結婚(縁談)相手の調査

		問7-A結婚(縁談)相手の調査【相手の家族の病歴や障がいの有無】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	15.5%	46.4%	36.4%	1.7%
	「そう思わない」グループ	7.0%	43.9%	47.4%	1.7%
		問7-D結婚(縁談)相手の調査【相手の家族の国籍】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	24.3%	35.1%	38.9%	1.7%
	「そう思わない」グループ	12.4%	39.3%	46.5%	1.9%

表31は、人権問題についての意見と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、「調べるべきではない」において、10ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、家族が相手に気づかれないように「相手の家族の病歴や障がいの有無」「相手や家族の国籍」を調べようとする行為を否定している。

表 3 2 人権問題についての意見と結婚に対する意識

		問8-B結婚に対する意識【障がい者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	46.0%	53.6%	0.4%
	「そう思わない」グループ	63.3%	33.9%	2.8%
		問8-C結婚に対する意識【外国人】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	70.3%	29.3%	0.4%
	「そう思わない」グループ	77.2%	20.7%	2.0%
		問8-C結婚に対する意識【HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	26.4%	72.8%	0.8%
	「そう思わない」グループ	36.7%	61.1%	2.2%

表 3 2 は、人権問題についての意見と結婚に対する意識をクロス集計したものである。結婚に対する意識で、「問題にしない」グループにおいて、10 ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、子どもの結婚相手が障がい者、HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者だった場合、「問題にしない」とする割合が高くなっている。

表 3 3 人権問題についての意見と施設建設についての意識

		問9-A知的障がい、精神障がい児・者の生活施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	45.6%	15.5%	36.4%	2.5%
	「そう思わない」グループ	62.2%	11.3%	24.4%	2.0%
		問9-B児童養護施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	50.6%	14.2%	31.8%	3.3%
	「そう思わない」グループ	67.6%	9.4%	20.9%	2.0%
		問9-C外国人の研修施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	40.2%	17.2%	39.3%	3.3%
	「そう思わない」グループ	56.7%	13.0%	28.1%	2.2%

表 3 3 は、人権や差別についての考え方と施設建設についての意識をクロス集計したものである。施設建設についての意識で、「反対運動は人権を侵害している」において、10 ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設、児童養護施設、外国人の研修施設の建設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表34 人権問題についての意見と入居拒否に対する意識

		問10-A入居拒否に対する意識【外国人】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	37.2%	24.7%	34.3%	3.8%
	「そう思わない」グループ	53.3%	16.9%	27.8%	2.0%
		問10-B入居拒否に対する意識【障がい者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	40.6%	23.4%	32.2%	3.8%
	「そう思わない」グループ	59.6%	13.5%	24.4%	2.4%
		問10-C入居拒否に対する意識【高齢者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	42.7%	21.8%	31.8%	3.8%
	「そう思わない」グループ	58.0%	13.0%	26.9%	2.2%

表34は、人権や差別についての考え方と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、外国人、障がい者、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表35 人権問題についての意見とインターネット上の人権侵害

		問14-Aインターネット上の人権侵害【他人を誹謗中傷する表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思つた	そのような表現を見たことはない	不明
問5-Cそつとしておけば、部落差別は自然になつていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	1.3%	21.3%	22.2%	42.7%	12.6%
	「そう思わない」グループ	1.9%	32.2%	15.4%	42.4%	8.1%
		問14-Cインターネット上の人権侵害【障がい者への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思つた	そのような表現を見たことはない	不明
問5-Cそつとしておけば、部落差別は自然になつていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	0.8%	18.8%	13.4%	54.8%	12.1%
	「そう思わない」グループ	1.1%	26.9%	8.3%	55.9%	7.8%
		問14-Dインターネット上の人権侵害【外国人への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思つた	そのような表現を見たことはない	不明
問5-Cそつとしておけば、部落差別は自然になつていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	0.8%	18.4%	18.4%	51.5%	10.9%
	「そう思わない」グループ	1.1%	24.3%	12.6%	53.7%	8.3%

表35は、人権や差別についての考え方とインターネット上の人権侵害をクロス集計したものである。インターネット上の人権侵害で、「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思つたがそのまま放置した」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そつとしておけば、部落差別は自然になつていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、インターネット上の他人を誹謗中傷する表現を「許せない人権侵害」として認識している割合が高くなつていく。

表36 人権問題についての意見と性的指向・性自認に関する人権問題

		問15性的指向・性自認に関する人権問題										
		と職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	アパートなどへの入居を拒否されること	宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否	じろじろ見られたり、避けられたりすること	ナ―関係が法的に認められないこと	同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー	特にな	わからない	その他
問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい	「そう思う」グループ	41.0%	35.1%	44.4%	15.1%	10.9%	32.6%	37.7%	17.2%	23.4%	0.4%	5.0%
	「そう思わない」グループ	52.2%	45.7%	53.3%	18.3%	13.7%	40.4%	53.7%	9.6%	18.5%	0.9%	2.0%

表36は、人権や差別についての考え方と性的指向・性自認に関する人権問題をクロス集計したものである。性的指向・性自認に関する人権問題で、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」「同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー関係が法的に認められていないこと」において、10ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、性的指向・性自認に関する人権問題として「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」「同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー関係が法的に認められていないこと」を認識している。

表37 人権問題についての意見とヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかという と、Aの意見に近い(人権を侵害し ており、許され ないことだ)	どちらかという と、Bの意見に近 い(表現の自由の 範囲内のことで あり、許される ことだ)	どちらかという と、Cの意見に近 い(ヘイトスピー チをされる側に 問題があり、仕 方のないことだ)	不明
問5-Cそっとしておけば、部 落差別は自然になくなって いくので、人権教育や人権 啓発はしない方がよい	「そう思う」 グループ	56.1%	23.0%	11.7%	9.2%
	「そう思わな い」グループ	78.5%	13.7%	3.9%	3.9%

表37は、人権問題についての意見とヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。ヘイトスピーチに対する意識で、「どちらかという、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)」において、20ポイント以上の差が示された。

人権問題についての意見で、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定している県民ほど、ヘイトスピーチを人権侵害として認識し、許されないこととして捉えている。

(3) 小括

「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見の肯定は、同和問題(部落差別)の現状を認識することや、子どもの結婚相手が同和地区出身者だった場合に「問題にしない」という意識に影響を与えている。

「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」という意見の否定は、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」を調べようとする行為を否定することや、子どもの結婚相手が同和地区出身者だった場合に「問題にしない」という意識に影響を与えている。同和地区に関係する物件に対する忌避的態度も弱くなっている。

「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見の否定は、同和問題(部落差別)の現状を認識することと、同じ小学校区内に同和地区がある物件に対する忌避的態度が弱くなることに影響を与えている。また、同和問題以外の以下の認識や態度にも影響を与えている。

- 家族が相手に気づかれないように「相手の家族の病歴や障がいの有無」「相手や家族の国籍」を調べようとする行為を否定
- 子どもの結婚相手が障がい者、HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者だった場合に「問題にしない」という意識を持つこと
- 知的障がい、精神障がい児・者の生活施設、児童養護施設、外国人の研修施設の建設に対する反対運動、障がい者や外国人、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識すること
- インターネット上の「他人を誹謗中傷する表現」やヘイトスピーチを許されない人権侵害として認識すること
- 性的指向・性自認に関する人権問題を認識すること

以上のことから、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定できるような取組が求められる。

5. 人権問題についての現状認識となくなる見通し

図4 人権問題についての現状認識となくなる見通し

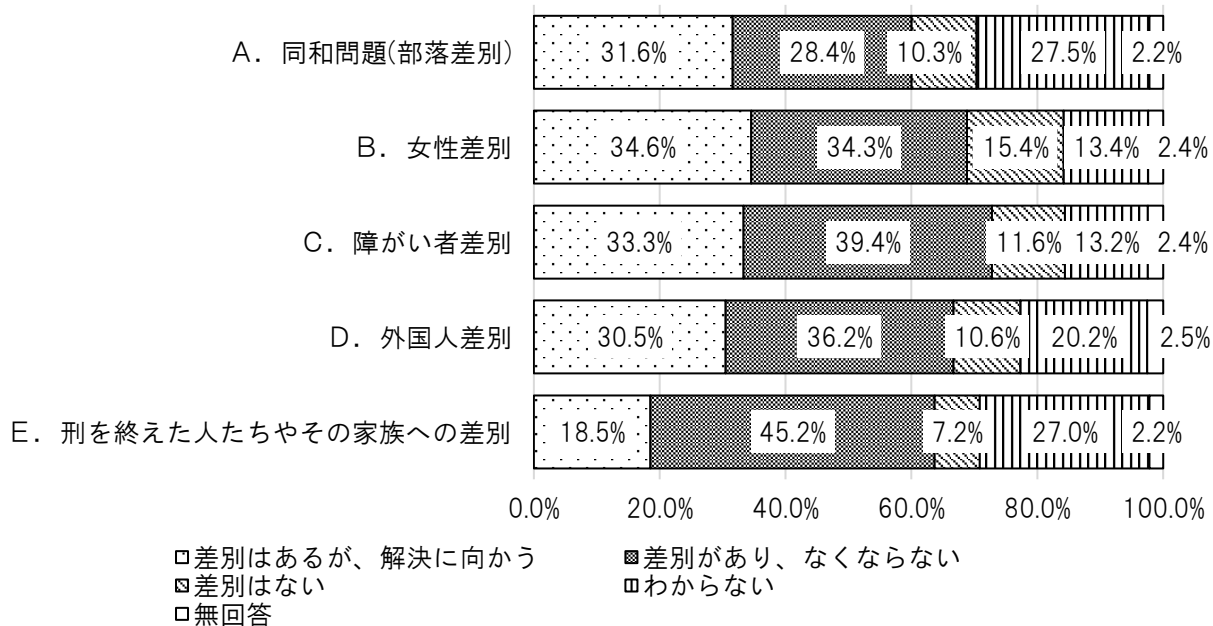


図4は、人権問題についての現状認識となくなる見通しについての回答結果である。同和問題(部落差別)、女性差別、障がい者差別、外国人差別について、「差別はあるが、解決に向かう」は30.5～34.6%となっている。また、「刑を終えた人たちやその家族への差別」は18.5%となっている。今後も、人権問題への現状認識となくなる見通しを持つことができる学習・啓発が必要である。

表38 属性(生育歴)と人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-A人権問題についての現状認識となくなる見通し【同和問題(部落差別)】				
		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなる	差別はない	わからない	不明
生育歴	三重県内	33.5%	27.9%	10.4%	25.9%	2.2%
	三重県外	24.7%	30.7%	9.1%	33.3%	2.2%

表38は、属性(生育歴)と人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題についての現状認識となくなる見通しの中で、同和問題(部落差別)においては、三重県内で過ごした層の方が、「差別はあるが、解決に向かう」を選択する割合が高く、三重県外で過ごした層では「わからない」の割合が高くなっている。

(1) 同和問題(部落差別)についての現状認識が態度や認識に与える影響

表39 人権問題についての現状認識となくなる見通しと人権問題についての意見

		問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わな い」グループ	不明
問6-A人権問題につ いての現状認識とな くなる見通し【同和 問題(部落差別)】	差別はあるが、解決に 向かう	79.0%	15.2%	5.5%	0.3%
	差別はない	56.8%	22.9%	19.5%	0.8%
		問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などに すればよい			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わな い」グループ	不明
問6-A人権問題につ いての現状認識とな くなる見通し【同和 問題(部落差別)】	差別はあるが、解決に 向かう	5.5%	23.5%	70.4%	0.6%
	差別はない	11.0%	14.4%	72.9%	1.7%
		問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、 人権教育や人権啓発はしない方がよい			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いえない	「そう思わな い」グループ	不明
問6-A人権問題につ いての現状認識とな くなる見通し【同和 問題(部落差別)】	差別はあるが、解決に 向かう	19.6%	28.7%	51.4%	0.3%
	差別はない	48.3%	21.2%	29.7%	0.8%

表39は、人権問題についての現状認識となくなる見通しと人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての考え方で、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」は「そう思う」グループ、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」は「そう思わない」グループにおいて、20ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民ほど、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見を肯定し、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定している。

(2) 障がい者差別についての現状認識となくなる見通しが態度や認識に与える影響

表40 人権問題についての現状認識となくなる見通しと入居拒否に対する意識

		問10-B入居拒否に対する意識【障がい者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問6-C人権問題についての現状認識となくなる見通し【障がい者差別】	差別はあるが、解決に向かう	59.2%	12.8%	26.2%	1.8%
	差別はない	47.4%	22.6%	28.6%	1.5%

表40は、人権問題についての現状認識となくなる見通しと入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

障がい者差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民ほど、障がい者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

(3) 外国人差別についての現状認識となくなる見通しが態度や認識に与える影響

表4-1 人権問題についての現状認識となくなる見通しと人権問題についての意見

		問5-H外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない			
		「思う」グループ	どちらともいえない	「思わない」グループ	不明
問6-D人権問題についての現状認識となくなる見通し【外国人差別】	差別はあるが、解決に向かう	12.3%	17.5%	69.6%	0.6%
	差別はない	15.6%	30.3%	53.3%	0.8%

表4-1は、人権問題についての現状認識となくなる見通しと人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての考え方で、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は「思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

外国人差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民ほど、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」という意見を否定している。

表4-2 人権問題についての現状認識となくなる見通しと入居拒否に対する意識

		問10-A入居拒否に対する意識【外国人】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問6-D人権問題についての現状認識となくなる見通し【外国人差別】	差別はあるが、解決に向かう	56.7%	12.0%	29.2%	2.0%
	差別はない	46.7%	21.3%	31.1%	0.8%

表4-2は、人権問題についての現状認識となくなる見通しと入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

外国人差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民ほど、外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表 4 3 人権問題についての現状認識となくなる見通しとインターネット上の人権侵害

		問14-Dインターネット上の人権侵害【外国人への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、たがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思ひた	そのような表現を見たことはない	不明
問6-D人権問題についての現状認識となくなる見通し【外国人差別】	差別はあるが、解決に向かう	1.7%	30.1%	12.9%	47.9%	7.4%
	差別はない	0.8%	18.0%	11.5%	57.4%	12.3%

表 4 3 は、人権問題についての現状認識となくなる見通しとインターネット上の人権侵害をクロス集計したものである。インターネット上の人権侵害で、「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひ、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ひたがそのまま放置した」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

外国人差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民ほど、インターネット上の外国人への差別的な表現を「許せない人権侵害」として認識している。

表 4 4 人権問題についての現状認識となくなる見通しとヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかというど、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)	どちらかというど、Bの意見に近い(表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ)	どちらかというど、Cの意見に近い(ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ)	不明
問6-D人権問題についての現状認識となくなる見通し【外国人差別】	差別はあるが、解決に向かう	76.5%	15.2%	5.2%	3.2%
	差別はない	64.8%	19.7%	6.6%	9.0%

表 4 4 は、人権問題についての現状認識となくなる見通しとヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。ヘイトスピーチに対する意識で、「どちらかというど、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)」において、10ポイント以上の差が示された。

外国人差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民ほど、ヘイトスピーチを人権侵害として認識し、許されないこととして捉えている。

(4) 小括

同和問題(部落差別)の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民は、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見を肯定し、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定していることが明らかになった。また、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」「相手や家族の国籍」を調べようとする行為を否定することに影響を与えている。

障がい者差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民は、障がい者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

外国人差別の現状を認識し、なくなる見通しを持っている県民は、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」を否定し、外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。また、インターネット上の「外国人への差別的な表現」を許せない人権侵害、ヘイトスピーチを許されない人権侵害として認識している。

差別の現状を認識するだけにとどまらず、なくなる見通しを持てるような人権啓発や人権教育が求められる。

6. 施設建設についての意識

図5 施設建設についての意識

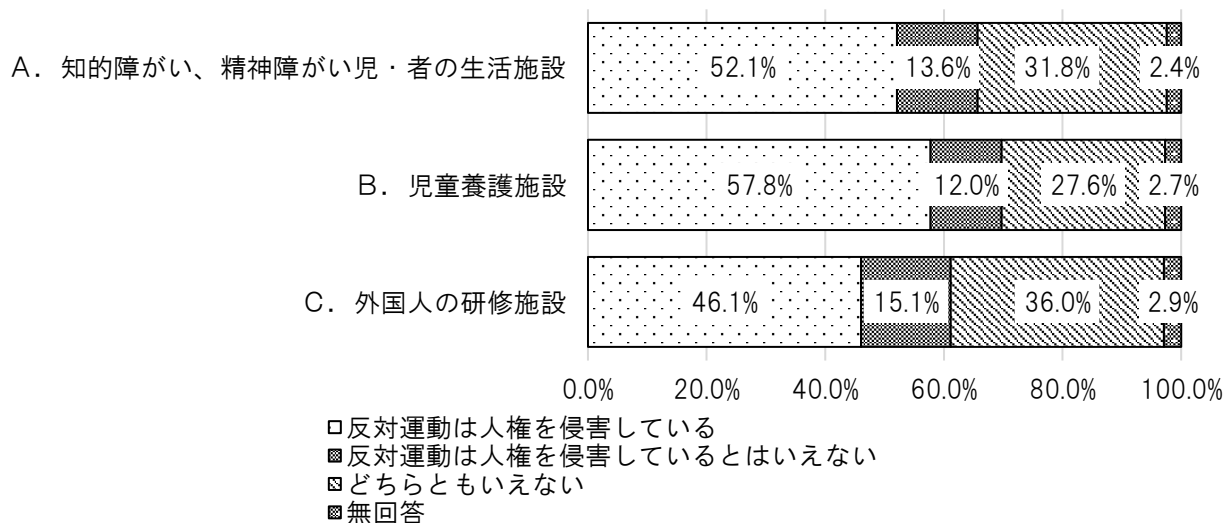


図5は、施設建設についての意識の回答結果である。障がい児・者の生活施設の建設計画に対する反対運動について「人権を侵害している」は52.1%で、年齢階層別では70歳代で8.3ポイント、80歳代以上で16.5ポイント低くなっている。家主が賃貸マンションを貸す際、外国人、障がい者、高齢者であることを理由に断ることを「人権を侵害している」とする割合は44.4～50.7%となっている。今後も、一人ひとりがそれぞれの個性や多様性を認め合い、地域で共に暮らす共生社会の実現に向けた啓発が必要である。

7. 個別の人権問題、今日的な人権問題

(1) 同和問題についての偏見の流布と受容

表45 同和問題についての偏見の流布と受容と偏見を誰から聞いたか

		問13-2偏見を誰から聞いたか						
		家族	親戚	近所の人	友だち	職場の人	テレビ・ラジオ・新聞・本	インターネット
問13-1A同和問題にはかかわらない方がよい	肯定(その通り・そういう見方もあるのか)	39.3%	13.7%	17.8%	23.7%	18.1%	8.5%	5.2%
	否定(疑問・反発)	18.7%	10.5%	10.6%	18.7%	14.6%	10.5%	2.9%
		問13-2偏見を誰から聞いたか						
		家族	親戚	近所の人	友だち	職場の人	テレビ・ラジオ・新聞・本	インターネット
問13-1B同和地区の人はこわい	肯定(その通り・そういう見方もあるのか)	29.0%	14.8%	18.8%	24.7%	21.3%	6.5%	5.9%
	否定(疑問・反発)	16.9%	13.4%	16.3%	18.0%	14.0%	9.3%	3.5%
		問13-2偏見を誰から聞いたか						
		家族	親戚	近所の人	友だち	職場の人	テレビ・ラジオ・新聞・本	インターネット
問13-1C同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ	肯定(その通り・そういう見方もあるのか)	18.9%	10.1%	11.7%	20.2%	23.0%	3.1%	8.2%
	否定(疑問・反発)	10.8%	4.4%	12.3%	19.2%	12.8%	2.4%	4.9%

表45は、同和問題についての偏見の流布と受容と偏見を誰から聞いたかをクロス集計したものである。偏見やうわさを誰から聞いたか「家族」「職場の人」において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題についての偏見の流布と受容で、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」については、「家族」から聞いた場合、肯定する割合が高くなっている。「同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」については、「職場の人」から聞いた場合、肯定する割合が高くなっている。

(2) ヘイトスピーチに対する意識

表4-6 属性(年齢)とヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかという、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)	どちらかという、Bの意見に近い(表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ)	どちらかという、Cの意見に近い(ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ)	不明
総数		69.4%	18.2%	6.6%	5.8%
年齢	20歳代	70.0%	26.7%	3.3%	0.0%
	30歳代	69.0%	25.6%	3.9%	1.6%
	40歳代	80.3%	14.8%	4.4%	0.5%
	50歳代	79.7%	12.8%	5.8%	1.7%
	60歳代	68.8%	19.5%	7.7%	4.1%
	70歳代	64.5%	16.5%	7.4%	11.6%
	80歳代以上	47.5%	17.8%	12.9%	21.8%

表4-6は、属性(年齢)とヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。年齢階層別では、20～30歳代で「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」が、40～50歳代で「人権を侵害しており、許されないことだ」が平均値より高く、80歳代では「ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ」が多くなっている。

(3) 小括

家族から「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」と聞いた県民、職場の人から「同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」と聞いた県民は、偏見やうわさを肯定する割合が高くなることが明らかになった。偏見やうわさを聞いたときに疑問や反発を感じ否定する人権教育や人権研修の推進が求められる。また、偏見やうわさの流布は差別を助長することを、県民が認識できるように人権啓発が必要である。

ヘイトスピーチは、年齢層によって「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」「ヘイトスピーチされる側に問題があり、仕方のないことだ」と認識している。平成28年に施行されたヘイトスピーチ解消法に基づいて、年齢階層別の啓発が必要である。

8. 人権問題の解決に熱心な人との出会い

(1) 同和問題(部落差別)の解決に熱心に取り組んでいる人との出会い

表47 人権問題の解決に熱心な人との出会いと部落差別解消推進法の認知度

		問1-L部落差別解消推進法の認知度			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	17.5%	48.5%	31.9%	2.0%
	ない	5.3%	42.6%	49.1%	3.1%

表47は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと部落差別解消推進法の認知度をクロス集計したものである。部落差別解消推進法の「内容(趣旨)を知っている」において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、部落差別解消推進法の内容(趣旨)を知っている。

表48 人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての意見

		問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	74.9%	17.8%	7.3%	0.0%
	ない	64.1%	26.4%	7.7%	1.9%
		問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	6.7%	21.3%	71.3%	0.6%
	ない	5.7%	31.2%	61.7%	1.5%
		問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	19.0%	24.3%	56.4%	0.3%
	ない	21.0%	34.0%	43.9%	1.2%

表48は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「同和問題(部落差別)は早急に解決されな

ければならない」は「そう思う」グループ、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見を肯定し、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定している。

表49 人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-A人権問題についての現状認識となくなる見通し【同和問題(部落差別)】				
		差別はあるが、 解決に向かう	差別があり、な くならない	差別はない	わからない	不明
問17-A人権問題の解決 に熱心な人との出会い 【同和問題(部落差別)】	ある	41.2%	31.3%	9.1%	17.0%	1.5%
	ない	28.0%	27.5%	10.6%	32.1%	1.9%

表49は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題についての現状認識となくなる見通しで「差別はあるが、解決に向かう」において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、同和問題(部落差別)の現状を認識し、「差別はあるが、解決に向かう」となくなる見通しを持っている。

表50 人権問題の解決に熱心な人との出会いと同和問題についての偏見の流布と受容

		問13-1A同和問題にはかかわらない方がよい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	47.7%	26.0%	24.3%	2.0%
	ない	64.5%	22.5%	10.7%	2.3%
		問13-1B同和地区の人はこわい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	42.7%	31.3%	23.1%	2.9%
	ない	58.5%	27.6%	11.5%	2.4%
		問13-1C同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【同和問題(部落差別)】	ある	39.8%	34.5%	23.7%	2.0%
	ない	57.3%	24.8%	15.3%	2.7%

表50は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと同和問題についての偏見の流布と受容をクロス集計したものである。同和問題についての偏見の流布と受容で、「聞いたことがあり、疑問に思った」「聞いたことがあり、反発を感じた」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」と聞いたときに、疑問や反発を感じている。

(2) 障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人との出会い

表5 1 人権問題の解決に熱心な人との出会いと部落差別解消推進法の認知度

		問1-J障害者差別解消法の認知度			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【障がい者の人権問題】	ある	24.3%	48.7%	23.7%	3.3%
	ない	5.7%	44.8%	46.9%	2.5%

表5 1は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと障害者差別解消法の認知度をクロス集計したものである。障害者差別解消法の「内容(趣旨)を知っている」において、10ポイント以上の差が示された。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、障害者差別解消法の内容(趣旨)を知っている。

表5 2 人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-C人権問題についての現状認識となくなる見通し【障がい者差別】				
		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなる見通し	差別はない	わからない	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【障がい者の人権問題】	ある	39.5%	43.3%	8.3%	7.1%	1.8%
	ない	31.0%	39.7%	12.1%	15.4%	1.9%

表5 2は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題についての現状認識となくなる見通しで「差別はあるが、解決に向かう」「差別があり、なくなる見通し」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、障がい者差別の現状を認識している。

表5 3 人権問題の解決に熱心な人との出会いと結婚に対する意識

		問8-B結婚に対する意識【障がい者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【障がい者の人権問題】	ある	64.4%	33.5%	2.1%
	ない	52.3%	45.9%	1.9%

表5 3は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと結婚に対する意識をクロス集計したものである。結婚に対する意識で「問題にしない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、

子どもの結婚相手が障がい者だった場合、「問題にしない」とする割合が高くなっている。

表5 4 人権問題の解決に熱心な人との出会いと施設建設についての意識

		問9-A知的障がい、精神障がい児・者の生活施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害している とはいえない	どちらともいえない	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【障がい者の人権問題】	ある	62.3%	11.3%	25.8%	0.6%
	ない	49.2%	14.7%	34.5%	1.6%

表5 4は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと施設建設についての意識をクロス集計したものである。施設建設についての意識で、「反対運動は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表5 5 人権問題の解決に熱心な人との出会いと入居拒否に対する意識

		問10-B入居拒否に対する意識【障がい者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害している とはいえない	どちらともいえない	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【障がい者の人権問題】	ある	60.8%	13.6%	24.3%	1.2%
	ない	47.6%	17.6%	33.0%	1.7%

表5 5は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10ポイント以上の差が示された。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、障がい者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表56 人権問題の解決に熱心な人との出会いとインターネット上の人権侵害

		問14-Cインターネット上の人権侵害【障がい者への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った	そのような表現を見たことはない	不明
問17-A人権問題の解決に熱心な人との出会い【障がい者の人権問題】	ある	2.4%	31.2%	11.6%	48.7%	6.2%
	ない	0.7%	20.3%	10.6%	60.6%	7.8%

表56は、人権問題の解決に熱心な人との出会いとインターネット上の人権侵害をクロス集計したものである。インターネット上の人権侵害で、「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、インターネット上の障がい者への差別的な表現を「許せない人権侵害」として認識している。

(3) 外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人との出会い

表5 7 人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権や差別についての考え方

		問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	87.2%	8.8%	4.1%	0.0%
	ない	90.6%	6.8%	1.4%	1.2%
		問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	86.5%	9.5%	4.1%	0.0%
	ない	90.2%	6.8%	2.2%	0.8%
		問3-C差別は法律で禁止する必要がある			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	70.3%	20.9%	8.1%	0.7%
	ない	68.2%	25.7%	5.6%	0.4%
		問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	87.8%	10.8%	1.4%	0.0%
	ない	87.6%	9.5%	2.1%	0.8%
		問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	7.4%	12.8%	79.7%	0.0%
	ない	6.6%	17.7%	74.9%	0.8%
		問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	29.7%	27.0%	43.2%	0.0%
	ない	38.5%	30.3%	30.4%	0.9%
		問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	19.6%	32.4%	48.0%	0.0%
	ない	16.8%	42.2%	39.7%	1.3%

表5 7は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権や差別についての考え方をクロ

ス集計したものである。人権や差別についての考え方で、「競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、「競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」という考え方を否定している。

表58 人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての意見

		問5-H外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	9.5%	18.2%	70.3%	2.0%
	ない	12.9%	25.9%	60.1%	1.1%

表58は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」という意見を否定している。

表59 人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-D人権問題についての現状認識となくなる見通し【外国人差別】				
		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなる	差別はない	わからない	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	41.9%	39.9%	7.4%	9.5%	1.4%
	ない	29.2%	37.2%	10.4%	21.6%	1.6%

表59は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題についての現状認識やなくなる見通しで「差別はあるが、解決に向かう」において、10ポイント以上の差が示された。

外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、外国人差別の現状を認識し、「差別はあるが、解決に向かう」となくなる見通しを持っている。

表 6 0 人権問題の解決に熱心な人との出会いと入居拒否に対する意識

		問10-A入居拒否に対する意識【外国人】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	58.8%	16.2%	24.3%	0.7%
	ない	43.9%	19.6%	34.9%	1.5%

表 6 0 は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10 ポイント以上の差が示された。

外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表 6 1 人権問題の解決に熱心な人との出会いと住居購入に対する意向

		問11-C外国人の集住地域が近くにある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	30.4%	41.9%	27.0%	0.7%
	ない	19.7%	48.4%	29.7%	2.2%

表 6 1 は、人権問題の解決に熱心な人との出会いと住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「外国人の集住地域が近くにある」物件に対して「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」において、10 ポイント以上の差が示された。

外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、外国人の集住地域が近くにある場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」としている。

表 6 2 人権問題の解決に熱心な人との出会いとインターネット上の人権侵害

		問14-Dインターネット上の人権侵害【外国人への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思いい、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思いたがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思っ	そのような表現を見たことはない	不明
問17-C人権問題の解決に熱心な人との出会い【外国人の人権問題】	ある	3.4%	30.4%	16.9%	45.3%	4.1%
	ない	0.9%	20.2%	14.6%	56.9%	7.4%

表62は、人権問題の解決に熱心な人との出会いとインターネット上の人権侵害をクロス集計したものである。インターネット上の人権侵害で、「見たことがあり、許せない人権侵害だ」と思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と出会ったことがある県民ほど、インターネット上の外国人への差別的な表現を「許せない人権侵害」として認識している。

(4) 小括

同和問題の解決に熱心に取り組む人との出会いは、部落差別解消推進法の内容(趣旨)を理解することや、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という意見を肯定し、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定することにつながっている。また、差別の現状認識となくなる見通しを持つことや、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」という偏見を見聞きしたときに疑問や反発を感じるにつながっている。

障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組む人との出会いは、障害者差別解消法の内容(趣旨)を理解することや、障がい者差別の現状を認識すること、子どもの結婚相手が障がい者だった場合に「問題にしない」という態度を持つことにつながっている。また、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設の建設や障がい者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。インターネット上の「障がい者への差別的な表現」を許せない人権侵害として認識することにも影響を与えている。

外国人の人権問題の解決に取り組む人との出会いは、「競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」の否定につながっている。外国人差別の現状を認識すること、外国人を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識すること、外国人の集住地域が近くにある物件に対する忌避的態度を弱くすること、インターネット上の「外国人への差別的な表現」を許せない人権侵害として認識することにも影響を与えている。

これらのことから、人権問題の解決に熱心に取り組む人との出会いを、人権啓発や人権教育に積極的に取り入れることが必要である。

9. 同和問題(部落差別)についての学習経験

(1) 学習経験が同和問題(部落差別)の認識や意識に与える影響

表63 同和問題(部落差別)についての学習経験と部落差別解消推進法の認知度

		問1-L部落差別解消推進法の認知度			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	19.7%	47.4%	28.9%	3.9%
	職場の研修	21.0%	47.6%	29.4%	2.1%
	受けたことがない	6.1%	36.1%	54.4%	3.3%

表63は、同和問題(部落差別)についての学習経験と部落差別解消推進法の認知度をクロス集計したものである。部落差別解消推進法の「内容(趣旨)を知っている」において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、部落差別解消推進法の内容(趣旨)を知っている。

表 6 4 同和問題(部落差別)についての学習経験と人権や差別についての考え方

		問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	90.8%	7.9%	0.0%	1.3%
	職場の研修	94.4%	3.5%	2.1%	0.0%
	受けたことがない	86.9%	8.9%	2.2%	1.9%
		問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	88.2%	3.9%	2.6%	5.3%
	職場の研修	93.7%	4.2%	1.4%	0.7%
	受けたことがない	86.7%	8.3%	3.3%	1.7%
		問3-C差別は法律で禁止する必要がある			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	67.1%	21.1%	6.6%	5.3%
	職場の研修	72.7%	17.5%	8.4%	1.4%
	受けたことがない	66.7%	26.1%	6.1%	1.1%
		問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	77.6%	14.5%	3.9%	3.9%
	職場の研修	90.2%	6.3%	2.8%	0.7%
	受けたことがない	83.9%	12.2%	1.9%	1.9%
		問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	3.9%	21.1%	71.1%	3.9%
	職場の研修	4.9%	9.8%	84.6%	0.7%
	受けたことがない	8.3%	20.6%	69.2%	1.9%
		問3-F競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	32.9%	35.5%	27.6%	3.9%
	職場の研修	30.8%	27.3%	41.3%	0.7%
	受けたことがない	39.7%	25.6%	32.8%	1.9%
		問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	19.7%	42.1%	34.2%	3.9%
	職場の研修	13.3%	34.3%	51.0%	1.4%
	受けたことがない	21.7%	38.3%	36.9%	3.1%

表 6 4 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と人権や差別についての考え方をクロス集計したものである。人権や差別についての考え方で、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係ない」は「そう思わない」グループ、「社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」は「そう思わない」グル

ープにおいて、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係ない」「社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」という考え方を否定している。

表65 同和問題(部落差別)についての学習経験と人権問題についての意見

		問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	79.6%	12.2%	8.2%	0.0%
	職場の研修	76.4%	16.2%	6.8%	0.7%
	受けたことがない	61.4%	26.9%	9.3%	2.3%
		問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	3.9%	11.8%	80.3%	3.9%
	職場の研修	4.2%	21.0%	74.1%	0.7%
	受けたことがない	5.6%	30.6%	61.4%	2.5%
		問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	21.1%	22.4%	53.9%	2.6%
	職場の研修	15.4%	20.3%	64.3%	0.0%
	受けたことがない	23.1%	31.1%	44.2%	1.7%

表65は、同和問題(部落差別)についての学習経験と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」は「そう思う」グループ、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」は「そう思わない」グループ、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」という考え方を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定している。また、「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」という意見を否定している。

表 6 6 同和問題(部落差別)についての学習経験と人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-A人権問題についての現状認識となくなる見通し 【同和問題(部落差別)】				
		差別はあるが、 解決に向かう	差別があり、な くならない	差別はない	わからない	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	43.4%	22.4%	11.8%	21.1%	1.3%
	職場の研修	45.5%	32.9%	7.0%	12.6%	2.1%
	受けたことがない	26.9%	27.2%	12.5%	30.6%	2.8%

表 6 6 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題についての現状認識となくなる見通しで、「差別はあるが、解決に向かう」において、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、同和問題(部落差別)の現状を認識し、「差別はあるが、解決に向かう」となくなる見通しを持っている。

表 6 7 同和問題(部落差別)についての学習経験と結婚(縁談)相手の調査

		問7-E結婚(縁談)相手の調査【同和地区の人であるかどうか】			
		調べるのは当然 だ	感じはよくない が必要だ	調べるべきでは ない	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	6.6%	36.8%	52.6%	3.9%
	職場の研修	2.8%	30.1%	64.3%	2.8%
	受けたことがない	8.9%	38.1%	50.0%	3.1%

表 6 7 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、「調べるべきではない」において、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」を調べようとする行為を否定している。

表 6 8 同和問題(部落差別)についての学習経験と結婚に対する意識

		問8-A結婚に対する意識【同和地区出身者】		
		「問題にしない」グ ループ	「考え直すように言 う」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学 習経験【同和問題(部落差 別)】	住民対象の講座	71.1%	27.6%	1.3%
	職場の研修	78.3%	20.3%	1.4%
	受けたことがない	68.1%	30.0%	1.9%

表 6 8 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と結婚に対する意識をクロス集計したものである。結婚に対する態度で、「問題にしない」グループにおいて、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、子どもの結婚相手が同和地区出身者だった場合、「問題にしない」とする割合が高くなっている。

表 6 9 同和問題(部落差別)についての学習経験と住居購入に対する意向

		問11-A同じ小学校区内に同和地区がある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	53.9%	30.3%	13.2%	2.6%
	職場の研修	53.1%	36.4%	8.4%	2.1%
	受けたことがない	39.7%	42.2%	15.3%	2.8%
		問11-B物件(住宅)が同和地区内にある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	31.6%	35.5%	30.3%	2.6%
	職場の研修	31.5%	42.7%	24.5%	1.4%
	受けたことがない	24.4%	42.8%	30.0%	2.8%

表 6 9 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」において、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、同じ小学校区内に同和地区がある場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」としている。

表 7 0 同和問題(部落差別)についての学習経験と同和問題についての偏見の流布と受容

		問13-1A同和問題にはかかわらない方がよい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	40.8%	22.4%	32.9%	3.9%
	職場の研修	57.3%	22.4%	19.6%	0.7%
	受けたことがない	59.2%	22.8%	14.4%	3.6%
		問13-1B同和地区の人はこわい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	32.9%	27.6%	31.6%	7.9%
	職場の研修	51.0%	27.3%	19.6%	2.1%
	受けたことがない	53.6%	29.4%	13.1%	3.9%
		問13-1C同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	26.3%	31.6%	34.2%	7.9%
	職場の研修	46.2%	29.4%	21.7%	2.8%
	受けたことがない	48.9%	26.4%	21.1%	3.6%

表 7 0 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と同和問題についての偏見の流布と

受容をクロス集計したものである。同和問題についての偏見の流布と受容で、「聞いたことがあり、疑問に思った」「聞いたことがあり、反発を感じた」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」「同和地区にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」と聞いたときに、疑問や反発を感じている。

(2) 学習経験が人権問題の認識や意識に与える影響

表7-1 同和問題(部落差別)についての学習経験と人権問題についての意見

		問5-D子どものしつけのためには、体罰はやむをえない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	13.2%	22.4%	60.5%	3.9%
	職場の研修	15.4%	22.4%	61.5%	0.7%
	受けたことがない	19.7%	27.2%	51.1%	1.9%
		問5-E子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	2.6%	11.8%	81.6%	3.9%
	職場の研修	3.5%	9.1%	86.7%	0.7%
	受けたことがない	4.4%	11.9%	81.4%	2.2%
		問5-F議会で女性議員の割合が低いのは問題だ			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	48.7%	35.5%	11.8%	3.9%
	職場の研修	51.0%	36.4%	11.9%	0.7%
	受けたことがない	45.3%	33.3%	20.0%	1.4%
		問5-I私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまで と同じようにつき合っている			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	44.7%	38.2%	13.2%	3.9%
	職場の研修	58.7%	33.6%	5.6%	2.1%
	受けたことがない	46.9%	37.8%	12.8%	2.5%
		問5-J家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場 合、これまでと同じように接することができる			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	50.0%	36.8%	9.2%	3.9%
	職場の研修	63.6%	27.3%	7.0%	2.1%
	受けたことがない	51.9%	32.5%	12.5%	3.1%
		問5-K罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	14.5%	22.4%	59.2%	3.9%
	職場の研修	16.1%	25.2%	56.6%	2.1%
	受けたことがない	20.3%	30.6%	46.9%	2.2%
		問5-L災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が 必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	5.3%	15.8%	75.0%	3.9%
	職場の研修	9.8%	13.3%	74.8%	2.1%
	受けたことがない	10.6%	19.7%	66.9%	2.8%
		問5-M原発事故の被災者を避けようとするのはおかしい			
		「そう思う」 グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
18-A人権問題につ いての学習経験【同和 問題(部落差別)】	住民対象の講座	81.6%	6.6%	7.9%	3.9%
	職場の研修	88.8%	7.0%	2.1%	2.1%
	受けたことがない	80.8%	8.9%	8.3%	1.9%

表71は、同和問題(部落差別)についての学習経験と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」は「そう思わない」グループ、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける」は「そう思う」グループ、「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」は「そう思う」グループ、「罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」という考え方を否定し、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける」「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」という意見を肯定している。「住民対象の講座」で学習経験がある県民ほど、「罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない」という意見を否定している。

表72 同和問題(部落差別)についての学習経験と結婚に対する意識

		問8-B結婚に対する意識【障がい者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	59.2%	36.8%	3.9%
	職場の研修	66.4%	31.5%	2.1%
	受けたことがない	50.8%	46.7%	2.5%
		問8-C結婚に対する意識【外国人】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	67.1%	28.9%	3.9%
	職場の研修	80.4%	17.5%	2.1%
	受けたことがない	68.6%	28.9%	2.5%
		問8-C結婚に対する意識【HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	34.2%	61.8%	3.9%
	職場の研修	37.1%	60.8%	2.1%
	受けたことがない	28.6%	68.9%	2.5%

表72は、同和問題(部落差別)についての学習経験と結婚に対する意識をクロス集計したものである。結婚に対する意識で、「問題にしない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、子どもの結婚相手が障がい者、外国人だった場合、「問題にしない」とする割合が高くなっている。

表 7 3 同和問題(部落差別)についての学習経験と施設建設についての意識

		問9-A知的障がい、精神障がい児・者の生活施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	59.2%	7.9%	31.6%	1.3%
	職場の研修	58.7%	14.0%	26.6%	0.7%
	受けたことがない	46.1%	17.8%	33.6%	2.5%
		問9-B児童養護施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	67.1%	5.3%	23.7%	3.9%
	職場の研修	63.6%	12.6%	22.4%	1.4%
	受けたことがない	51.4%	16.1%	30.0%	2.5%
		問9-C外国人の研修施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	50.0%	7.9%	38.2%	3.9%
	職場の研修	54.5%	17.5%	26.6%	1.4%
	受けたことがない	38.1%	18.6%	40.3%	3.1%

表 7 3 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と施設建設についての意識をクロス集計したものである。施設建設についての意識で、「反対運動は人権を侵害している」において、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設、児童養護施設、外国人の研修施設の建設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表 7 4 同和問題(部落差別)についての学習経験と入居拒否に対する意識

		問10-A入居拒否に対する意識【外国人】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	48.7%	17.1%	31.6%	2.6%
	職場の研修	56.6%	18.9%	23.8%	0.7%
	受けたことがない	35.8%	19.2%	42.2%	2.8%
		問10-B入居拒否に対する意識【障がい者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	52.6%	13.2%	31.6%	2.6%
	職場の研修	60.1%	15.4%	23.1%	1.4%
	受けたことがない	44.2%	16.7%	36.4%	2.8%
		問10-C入居拒否に対する意識【高齢者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	55.3%	10.5%	30.3%	3.9%
	職場の研修	60.1%	15.4%	23.1%	1.4%
	受けたことがない	43.9%	15.8%	37.8%	2.5%

表 7 4 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、外国人、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、障がい者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表 7 5 同和問題(部落差別)についての学習経験と住居購入に対する意向

		問11-C外国人の集住地域が近くにある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	31.6%	39.5%	25.0%	3.9%
	職場の研修	28.0%	44.1%	25.9%	2.1%
	受けたことがない	21.4%	44.7%	30.6%	3.3%

表 7 5 は、同和問題(部落差別)についての学習経験と住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」において、10 ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」で学習経験がある県民ほど、外国人の集住地域が近くにある場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」としている。

表76 同和問題(部落差別)についての学習経験とヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかというど、 Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)	どちらかというど、 Bの意見に近い(表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ)	どちらかというど、 Cの意見に近い(ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ)	不明
18-A人権問題についての学習経験【同和問題(部落差別)】	住民対象の講座	73.7%	15.8%	6.6%	3.9%
	職場の研修	78.3%	11.2%	7.0%	3.5%
	受けたことがない	65.6%	20.3%	8.3%	5.8%

表76は、同和問題(部落差別)についての学習経験とヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。ヘイトスピーチに対する意識で、「どちらかというど、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)」において、10ポイント以上の差が示された。

同和問題(部落差別)について「職場の研修」で学習経験がある県民ほど、ヘイトスピーチを人権侵害として認識し、許されないこととして捉えている。

(3) 小括

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」での学習経験は、部落差別解消推進法の内容(趣旨)を理解することや、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」「社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」を否定することにつながっている。また、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」を否定することにつながっている。さらに、同和問題(部落差別)の現状認識となくなる見通しを持つことや、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」を調べようとする行為を否定すること、子どもの結婚相手が同和地区出身者だった場合に「問題にしない」という態度を持つことにつながっている。同じ小学校区内に同和地区がある物件に対する忌避的態度を弱くすること、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」「同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」という偏見を見聞きしたときに疑問や反発を感じることにつながっている。

同和問題(部落差別)について「住民対象の講座」や「職場の研修」での学習経験は、他の人権問題に対する態度や認識にも影響を与えている。同和問題(部落差別)についての学習経験は、「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」「罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない」を否定し、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける」「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」を肯定している。子どもの結婚相手が障がい者や外国人だった場合に「問題にしない」という態度を持つこと、知的障がい、精神障がい児・者の生活施設、児童養護施設、外国人の研修施設の建設や外国人、障がい者、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識することにつながっている。外国人の集住地域が近くにある物件に対する忌避的態度を弱くすること、ヘイトスピーチを許されない人権侵害として認識することにつながっている。

特に、「職場の研修」の効果が大きいため、今後より一層、職場での研修が促進される必要がある。

10. 講演会や研修会への参加経験

(1) 講演会や研修会に一度も参加したことがない理由

表77 属性(年齢・居住地域)と一度も参加したことがない理由

		問19-2一度も参加したことがない理由					
		講演会や研修会 が開催されてい ることを知らな かった	時間や場所の問 題で参加できな かった	関心がない	人権については 十分に理解して いるので、参加 しなかった	その他	不明
総数		37.6%	14.2%	33.1%	8.6%	3.3%	3.2%
年齢	20歳代	49.4%	8.6%	38.3%	1.2%	2.5%	0.0%
	30歳代	46.9%	8.0%	35.4%	5.3%	2.7%	1.8%
	40歳代	47.7%	11.1%	31.4%	2.0%	5.2%	2.6%
	50歳代	32.6%	16.7%	36.2%	7.2%	6.5%	0.7%
	60歳代	32.1%	20.9%	29.9%	11.2%	2.1%	3.7%
	70歳代	31.3%	16.4%	33.3%	12.3%	1.0%	5.6%
	80歳代以上	29.8%	10.7%	28.6%	20.2%	3.6%	7.1%
居住 地域	北勢地域	38.8%	13.1%	35.0%	7.4%	2.9%	2.7%
	中南勢地域	37.2%	13.8%	31.6%	9.5%	4.3%	3.6%
	伊勢志摩地域	31.7%	19.2%	35.6%	7.7%	2.9%	2.9%
	伊賀地域	34.4%	18.0%	27.9%	11.5%	3.3%	4.9%
	東紀州地域	42.9%	17.9%	21.4%	8.9%	3.6%	5.4%

表77は、属性(年齢・居住地域)と一度も参加したことがない理由をクロス集計したものである。講演会等の不参加理由を年齢階層、居住地域別にみると、「講演会・研修会が開催されていることを知らなかった」は20～40歳代と東紀州地域、「時間や場所の問題で参加できなかった」は60歳代と伊勢志摩地域、「関心がない」は20歳代、「人権については十分に理解しているのに、参加しなかった」は80歳代以上がそれぞれ高くなっている。

(2) 講演会や研修会への参加経験

表78 講演会や研修会への参加回数と差別解消三法の認知度

		問1-L 部落差別解消推進法の認知度			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	不明
問19-1 講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	11.7%	48.6%	37.8%	1.8%
	3回以上参加した	39.7%	36.2%	20.7%	3.4%
	一度も参加したことがない	7.0%	44.0%	45.7%	3.2%
		問1-J 障害者差別解消法の認知度			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	不明
問19-1 講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	12.6%	57.7%	27.9%	1.8%
	3回以上参加した	41.4%	43.1%	8.6%	6.9%
	一度も参加したことがない	9.1%	44.8%	42.9%	3.2%
		問1-K ヘイトスピーチ解消法の認知度			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	不明
問19-1 講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	8.1%	36.9%	54.1%	0.9%
	3回以上参加した	24.1%	56.9%	15.5%	3.4%
	一度も参加したことがない	5.9%	32.3%	58.4%	3.5%

表78は、講演会や研修会への参加回数と差別解消三法の認知度をクロス集計したものである。差別解消三法の認知度で、「内容(趣旨)を知っている」において、10ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、部落差別解消推進法、障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法の内容(趣旨)を知っている。

表 7 9 講演会や研修会への参加回数と人権や差別についての考え方

		問3-A人権は、侵すことのできない永久の権利である			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	92.8%	6.3%	0.9%	0.0%
	3回以上参加した	91.4%	5.2%	3.4%	0.0%
	一度も参加したことがない	88.6%	7.7%	1.7%	2.0%
		問3-B差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	92.8%	6.3%	0.9%	0.0%
	3回以上参加した	94.8%	1.7%	1.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	88.4%	7.6%	2.5%	1.5%
		問3-C差別は法律で禁止する必要がある			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	69.4%	24.3%	5.4%	0.9%
	3回以上参加した	82.8%	12.1%	3.4%	1.7%
	一度も参加したことがない	67.5%	25.4%	6.0%	1.2%
		問3-D差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	87.4%	10.8%	1.8%	0.0%
	3回以上参加した	93.1%	3.4%	1.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	86.4%	10.0%	2.0%	1.6%
		問3-E人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	6.3%	12.6%	81.1%	0.0%
	3回以上参加した	1.7%	3.4%	93.1%	1.7%
	一度も参加したことがない	6.9%	18.4%	73.0%	1.7%
		問3-F競走社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	31.5%	29.7%	38.7%	0.0%
	3回以上参加した	22.4%	24.1%	51.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	38.2%	30.1%	30.1%	1.6%
		問3-G社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わな い」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	14.4%	39.6%	45.0%	0.9%
	3回以上参加した	10.3%	27.6%	60.3%	1.7%
	一度も参加したことがない	18.3%	40.7%	38.8%	2.2%

表 7 9 は、講演会や研修会への参加回数と人権や差別についての考え方をクロス集計したものである。人権や差別についての考え方で、「差別は法律で禁止する必要がある」は「そう思う」グループ、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」

は「そう思わない」グループ、「競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」は「そう思わない」グループ、「社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、「差別は法律で禁止する必要がある」という考え方を肯定し、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」「競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」「社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」という考え方を否定している。

表 8 0 講演会や研修会への参加回数と人権問題についての意見

		問5-A同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	70.3%	23.4%	6.3%	0.0%
	3回以上参加した	82.8%	15.5%	1.7%	0.0%
	一度も参加したことがない	65.1%	24.9%	8.1%	2.0%
		問5-B同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	4.5%	21.6%	73.9%	0.0%
	3回以上参加した	5.2%	12.1%	81.0%	1.7%
	一度も参加したことがない	6.2%	30.0%	61.7%	2.1%
		問5-Cそっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	21.6%	24.3%	54.1%	0.0%
	3回以上参加した	10.3%	17.2%	70.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	21.2%	32.5%	45.0%	1.3%
		問5-D子どものしつけのためには、体罰はやむをえない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	14.4%	17.1%	68.5%	0.0%
	3回以上参加した	10.3%	17.2%	70.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	16.3%	28.2%	54.1%	1.4%
		問5-E子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	2.7%	6.3%	91.0%	0.0%
	3回以上参加した	3.4%	8.6%	86.2%	1.7%
	一度も参加したことがない	3.9%	10.0%	84.4%	1.7%
		問5-F議会で女性議員の割合が低いのは問題だ			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	49.5%	36.9%	13.5%	0.0%
	3回以上参加した	70.7%	15.5%	12.1%	1.7%
	一度も参加したことがない	45.0%	34.9%	18.8%	1.3%
		問5-G障がい児・者に対する虐待は許されない			
		「そう思う」グループ	どちらともいえない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	97.3%	0.9%	1.8%	0.0%
	3回以上参加した	93.1%	0.0%	5.2%	1.7%
	一度も参加したことがない	92.9%	2.9%	3.1%	1.0%

		問5-H外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や 研修会への参加経 験	1～2回参加した	15.3%	22.5%	60.4%	1.8%
	3回以上参加した	6.9%	15.5%	74.1%	3.4%
	一度も参加したことがない	13.0%	25.8%	59.6%	1.6%
		問5-I私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や 研修会への参加経 験	1～2回参加した	56.8%	29.7%	11.7%	1.8%
	3回以上参加した	70.7%	20.7%	5.2%	3.4%
	一度も参加したことがない	50.9%	37.9%	9.4%	1.8%
		問5-J家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や 研修会への参加経 験	1～2回参加した	64.0%	27.0%	7.2%	1.8%
	3回以上参加した	75.9%	19.0%	1.7%	3.4%
	一度も参加したことがない	57.5%	30.2%	9.5%	2.7%
		問5-K罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や 研修会への参加経 験	1～2回参加した	18.0%	28.8%	51.4%	1.8%
	3回以上参加した	12.1%	24.1%	62.1%	1.7%
	一度も参加したことがない	20.2%	29.4%	48.4%	2.0%
		問5-L災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や 研修会への参加経 験	1～2回参加した	11.7%	17.1%	69.4%	1.8%
	3回以上参加した	5.2%	5.2%	87.9%	1.7%
	一度も参加したことがない	11.1%	19.7%	67.3%	2.0%
		問5-M原発事故の被災者を避けようとするのはおかしい			
		「そう思う」グループ	どちらとも いけない	「そう思わない」グループ	不明
問19-1講演会や 研修会への参加経 験	1～2回参加した	86.5%	7.2%	4.5%	1.8%
	3回以上参加した	93.1%	3.4%	1.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	83.6%	8.1%	6.5%	1.9%

表80は、講演会や研修会への参加回数と人権問題についての意見をクロス集計したものである。人権問題についての意見で、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」は「そう思う」グループ、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」は「そう思わない」グループ、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」は「そう思わない」グループ、「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」は「そう思わない」グループ、「議会で女性議員の割合が低いのは問題だ」は「そう思う」グループ、「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は「そう思わない」グループ、「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける」は「そう思

う」グループ、「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」は「そう思う」グループ、「罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない」は「そう思わない」グループ、「災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない」は「そう思わない」グループにおいて、10ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、「同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない」「議会で女性議員の割合が低いのは問題だ」「私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける」「家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる」という意見を肯定し、「同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい」「子どものしつけのためには、体罰はやむをえない」「外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」「罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない」「災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない」という意見を否定している。

表8-1 講演会や研修会への参加回数と人権問題についての現状認識となくなる見通し

		問6-C人権問題についての現状認識となくなる見通し				
		【障がい者差別】				
		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなる	差別はない	わからない	不明
問19-1講演会や 研修会への参加 経験	1～2回参加した	33.3%	44.1%	6.3%	14.4%	1.8%
	3回以上参加した	53.4%	34.5%	8.6%	1.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	32.4%	39.3%	12.2%	13.7%	2.3%
		問6-D人権問題についての現状認識となくなる見通し				
		【外国人差別】				
		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなる	差別はない	わからない	不明
問19-1講演会や 研修会への参加 経験	1～2回参加した	30.6%	41.4%	9.9%	16.2%	1.8%
	3回以上参加した	50.0%	32.8%	6.9%	8.6%	1.7%
	一度も参加したことがない	29.4%	36.2%	10.8%	21.2%	2.4%

表8-1は、講演会や研修会への参加回数と人権問題についての現状認識となくなる見通しをクロス集計したものである。人権問題の現状認識となくなる見通しで、「差別はあるが、解決に向かう」において、20ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、障がい者差別、外国人差別の現状を認識し、「差別はあるが、解決に向かう」となくなる見通しを持っている。

表 8 2 講演会や研修会への参加回数と結婚(縁談)相手の調査

		問7-A結婚(縁談)相手の調査【相手の家族の病歴や障がいの有無】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	8.1%	51.4%	38.7%	1.8%
	3回以上参加した	5.2%	32.8%	60.3%	1.7%
	一度も参加したことがない	9.6%	46.7%	41.7%	2.0%
		問7-D結婚(縁談)相手の調査【相手や家族の国籍】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	14.4%	42.3%	40.5%	2.7%
	3回以上参加した	3.4%	34.5%	62.1%	0.0%
	一度も参加したことがない	15.8%	41.1%	41.0%	2.1%
		問7-E結婚(縁談)相手の調査【同和地区の人であるかどうか】			
		調べるのは当然だ	感じはよくないが必要だ	調べるべきではない	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	9.0%	26.1%	62.2%	2.7%
	3回以上参加した	1.7%	24.1%	72.4%	1.7%
	一度も参加したことがない	8.7%	37.2%	51.6%	2.5%

表 8 2 は、講演会や研修会への参加回数と結婚(縁談)相手の調査をクロス集計したものである。結婚(縁談)相手の調査で、「調べるべきではない」において、10 ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、家族が相手に気づかれないように「相手の家族の病歴や障がいの有無」「相手や家族の国籍」「同和地区の人であるかどうか」を調べようとする行為を否定している。

表 8 3 講演会や研修会への参加回数と結婚に対する意識

		問8-C結婚に対する意識		
		【HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者】		
		「問題にしない」グループ	「考え直すように言う」グループ	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	37.8%	60.4%	1.8%
	3回以上参加した	46.6%	51.7%	1.7%
	一度も参加したことがない	28.2%	69.4%	2.4%

表 8 3 は、講演会や研修会への参加回数と結婚に対する意識をクロス集計したものである。結婚に対する意識で、「問題にしない」グループにおいて、10 ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、子どもの結婚相手がHIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者だった場合、「問題にしない」とする割合が高くなっている。

表 8 4 講演会や研修会への参加回数と施設建設についての意識

		問9-B児童養護施設			
		反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	67.6%	10.8%	20.7%	0.9%
	3回以上参加した	75.9%	10.3%	12.1%	1.7%
	一度も参加したことがない	56.0%	12.0%	29.5%	2.5%

表 8 4 は、講演会や研修会への参加回数と施設建設についての意識をクロス集計したものである。施設建設についての意識で、「反対運動は人権を侵害している」において、10 ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、児童養護施設の建設に対する反対運動を人権侵害として認識している。

表 8 5 講演会や研修会への参加回数と入居拒否に対する意識

		問10-C入居拒否に対する意識【高齢者】			
		入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	57.7%	12.6%	27.9%	1.8%
	3回以上参加した	69.0%	13.8%	15.5%	1.7%
	一度も参加したことがない	49.0%	16.4%	32.1%	2.5%

表 8 5 は、講演会や研修会への参加回数と入居拒否に対する意識をクロス集計したものである。入居拒否に対する意識で、「入居拒否は人権を侵害している」において、20 ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識している。

表 8 6 講演会や研修会への参加回数と住居購入に対する意向

		問11-C外国人の集住地域が近くにある			
		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	28.8%	46.8%	23.4%	0.9%
	3回以上参加した	39.7%	36.2%	22.4%	1.7%
	一度も参加したことがない	19.0%	47.9%	30.0%	3.0%

表 8 6 は、講演会や研修会への参加回数と住居購入に対する意向をクロス集計したものである。住居購入に対する意向で、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」において、20 ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、外国人の集住地域が近くにあ

る場合、「まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)」としている。

表 8 7 講演会や研修会への参加回数と同和問題についての偏見の流布と受容

		問13-1A同和問題にはかかわらない方がよい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	41.4%	33.3%	23.4%	1.8%
	3回以上参加した	48.3%	10.3%	41.4%	0.0%
	一度も参加したことがない	61.2%	23.2%	12.4%	3.1%
		問13-1B同和地区の人はこわい			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	42.3%	37.8%	18.9%	0.9%
	3回以上参加した	44.8%	20.7%	32.8%	1.7%
	一度も参加したことがない	54.8%	27.9%	13.5%	3.8%
		問13-1C同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ			
		聞いたことがない	「肯定(その通り・そういう見方もあるのか)」グループ	「否定(疑問・反発)」グループ	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	40.5%	35.1%	22.5%	1.8%
	3回以上参加した	41.4%	29.3%	27.6%	1.7%
	一度も参加したことがない	53.0%	26.8%	16.6%	3.6%

表 8 7 は、講演会や研修会への参加回数と同和問題についての偏見の流布と受容をクロス集計したものである。同和問題についての偏見の流布と受容で、「聞いたことがあり、疑問に思った」「聞いたことがあり、反発を感じた」を合わせた割合において、10 ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」と聞いたときに、疑問や反発を感じている。

表 8 8 講演会や研修会への参加回数とインターネット上の人権侵害

		問14-Aインターネット上の人権侵害【他人を誹謗中傷する表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った	そのような表現を見たことはない	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	0.9%	36.9%	17.1%	36.9%	8.1%
	3回以上参加した	5.2%	41.4%	8.6%	36.2%	8.6%
	一度も参加したことがない	1.6%	25.7%	19.6%	44.1%	9.0%
		問14-Bインターネット上の人権侵害【同和問題についての差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った	そのような表現を見たことはない	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	0.9%	17.1%	10.8%	63.1%	8.1%
	3回以上参加した	3.4%	25.9%	8.6%	53.4%	8.6%
	一度も参加したことがない	0.7%	10.5%	10.1%	69.8%	8.9%
		問14-Cインターネット上の人権侵害【障がい者への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った	そのような表現を見たことはない	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	0.9%	30.6%	10.8%	49.5%	8.1%
	3回以上参加した	3.4%	36.2%	1.7%	50.0%	8.6%
	一度も参加したことがない	1.2%	21.4%	11.1%	57.4%	8.9%
		問14-Dインターネット上の人権侵害【外国人への差別的な表現】				
		見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した	見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した	見たことがあり、とりたてて騒ぐほどの問題ではないと思った	そのような表現を見たことはない	不明
問19-1講演会や研修会への参加経験	1～2回参加した	0.9%	26.1%	17.1%	46.8%	9.0%
	3回以上参加した	3.4%	34.5%	3.4%	50.0%	8.6%
	一度も参加したことがない	1.0%	20.5%	15.0%	54.8%	8.7%

表 8 8 は、講演会や研修会への参加回数とインターネット上の人権侵害をクロス集計したものである。インターネット上の人権侵害で、「見たことがあり、許せない人権侵害だと思い、関係機関に通報した」「見たことがあり、許せない人権侵害だと思ったがそのまま放置した」を合わせた割合において、10ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、インターネット上の他人を誹謗中傷する表現、同和問題についての差別的な表現、障がい者への差別的な表現、外国人への差別的な表現を「許せない人権侵害」として認識している。

表 8 9 講演会や研修会への参加回数とヘイトスピーチに対する意識

		問16ヘイトスピーチに対する意識			
		どちらかという と、Aの意見に近い (人権を侵害してお り、許されないこ とだ)	どちらかという と、Bの意見に近い (表現の自由の範囲 内のことであり、 許されることだ)	どちらかという と、Cの意見に近い (ヘイトスピーチを される側に問題が あり、仕方のない ことだ)	不明
問19-1講演会 や研修会への 参加経験	1～2回参加した	73.0%	17.1%	8.1%	1.8%
	3回以上参加した	81.0%	10.3%	3.4%	5.2%
	一度も参加したことがない	69.5%	18.9%	6.7%	4.9%

表 8 9 は、講演会や研修会への参加回数とヘイトスピーチに対する意識をクロス集計したものである。ヘイトスピーチに対する意識で、「どちらかという、Aの意見に近い(人権を侵害しており、許されないことだ)」において、10ポイント以上の差が示された。

講演会や研修会に3回以上参加したことがある県民ほど、ヘイトスピーチを人権侵害として認識し、許されないこととして捉えている。

(3) 小括

講演会や研修会に3回以上参加している県民は、差別解消三法の内容(趣旨)を理解することや、「差別は法律で禁止する必要がある」を肯定し、「人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない」「競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない」「社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある」を否定することにつながっている。また、人権問題についての意見を次のように捉えている。

【肯定している意見】

- 同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない
- 議会で女性議員の割合が低いのは問題だ
- 私は友人がH1Vに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける
- 家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる

【否定している意見】

- 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい
- そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい
- 子どものしつけのためには、体罰はやむをえない
- 外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない
- 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない
- 災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない

さらに、障がい者差別と外国人差別の現状認識となくなる見通しを持つことや、家族が相手に気づかれないように「同和地区の人であるかどうか」「相手の家族の病歴や障がいの有無」「相手や家族の国籍」を調べようとする行為を否定すること、子どもの結婚相手がH1V陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者だった場合に「問題にしない」という態度を持つことにつながっている。

高齢者を理由とする家主の入居拒否を人権侵害として認識すること、外国人の集住地域が近くにある物件に対する忌避的態度を弱くすること、「同和問題にはかかわらない方がよい」「同和地区の人はこわい」「同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」という偏見を見聞きしたときに疑問や反発を感じることにつながっている。インターネット上の「他人を誹謗中傷する表現」「同和問題についての差別的な表現」「障がい者への差別的な表現」「外国人への差別的な表現」を許せない人権侵害として認識することや、ヘイトスピーチを許されない人権侵害として認識することにつながっている。

これらのことから、講演会や研修会に3回以上参加することが多くの認識や態度に作用するといえる。20~40歳代が講演会や研修会に一度も参加したことがない理由を「講演会や研修会が開催されていることを知らなかった」としていることをふまえ、工夫を凝らしながら講演会や研修会を開催していくことが必要である。

4. 調査結果及び分析のまとめ

- ①最近5年間の県や市町などが主催する人権に関する講演会・研修会に3回以上の参加経験がある人、人権問題の解決に熱心に取り組む人との出会いのある人は、「三重県は人権が尊重された社会になっている」と感じる割合が高く、また、個別の人権課題に関する質問においても人権を尊重する意見を選択する割合が高くなっている。このことをふまえ、人権啓発事業への参加促進や内容の工夫が重要である。
- ②前回調査以後、身元調査や土地差別等の事例を取り上げた啓発に取り組んだ結果、一定の改善がみられたことから、具体的な個別の人権問題に学ぶ取組を継続していく必要がある。
- ③同和問題（部落差別）については、結婚相手の身元調査を必要とする意識や結婚差別、土地差別など同和地区への偏見や差別意識は改善しつつあるものの、依然として残っていることがうかがえる。今後も、「部落差別解消推進法」をふまえ、さまざまな手法を工夫しながら、同和問題（部落差別）についての正しい理解と認識を深める啓発に取り組んでいく必要がある。
- ④性的指向や性自認に関わる人権問題については、社会の理解促進を図るとともに、性的指向・性自認に関する相談窓口の周知を行う必要がある。
- ⑤ヘイトスピーチへの意識については、「ヘイトスピーチ解消法」についての認知度を上げるとともに、内容（趣旨）まで周知していくことで、ヘイトスピーチが許されないものであることへの理解を促進する必要がある。
- ⑥インターネットによる人権侵害については、インターネット上での人権問題に関する啓発活動を継続するとともに、差別事象や人権侵害の監視に関する体制づくりや削除行動についての啓発を進めていく必要がある。
- ⑦研修会等への参加経験のない人に参加してもらえるよう、開催告知の方法や参加しやすい時間や場所を設定することなど、開催方法の工夫をするとともに、人権問題に関心のない人に講演会・研修会に参加してもらうため、年齢階層や家族構成等を考慮し、多角的に人権問題を考えることができるような内容の設定に取り組んでいく必要がある。
- ⑧多様化、複雑化する人権相談に的確に応じていくため、相談員の資質向上や相談機関相互の共同・連携の強化を図るとともに、相談内容に応じた窓口と利用方法の一層の周知に努める必要がある。また、相談窓口の周知にあたっては、がまんせずに気軽に利用してほしい旨を、県民に認識していただく必要がある。

第3部 資料編

属性別集計表

アンケート調査用紙(結果数値含む)

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 A. 世界人権宣言

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 206	735	178	27	1146
		% 18.0%	64.1%	15.5%	2.4%	100.0%
性別	男性	85	342	75	9	511
		% 16.6%	66.9%	14.7%	1.8%	100.0%
	女性	119	391	100	18	628
	% 18.9%	62.3%	15.9%	2.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	22	55	13	0	90
		% 24.4%	61.1%	14.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	24	80	25	0	129
		% 18.6%	62.0%	19.4%	0.0%	100.0%
	40歳代	33	123	26	1	183
		% 18.0%	67.2%	14.2%	0.5%	100.0%
	50歳代	46	96	29	1	172
	% 26.7%	55.8%	16.9%	0.6%	100.0%	
	60歳代	37	173	25	12	247
	% 15.0%	70.0%	10.1%	4.9%	100.0%	
	70歳代	32	173	25	12	242
	% 13.2%	71.5%	10.3%	5.0%	100.0%	
	80歳代以上	10	60	25	6	101
	% 9.9%	59.4%	24.8%	5.9%	100.0%	
国籍	日本	199	730	173	26	1128
	% 17.6%	64.7%	15.3%	2.3%	100.0%	
	その他	6	3	3	0	12
	% 50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	101	320	81	8	510
		% 19.8%	62.7%	15.9%	1.6%	100.0%
	中南勢地域	46	203	49	8	306
		% 15.0%	66.3%	16.0%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	19	85	16	1	121
	% 15.7%	70.2%	13.2%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	16	65	11	3	95
	% 16.8%	68.4%	11.6%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	17	32	11	4	64
	% 26.6%	50.0%	17.2%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	161	583	143	23	910
	% 17.7%	64.1%	15.7%	2.5%	100.0%	
	三重県外	44	150	33	4	231
	% 19.0%	64.9%	14.3%	1.7%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 B. 水平社宣言

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 100	260	753	33	1146
		% 8.7%	22.7%	65.7%	2.9%	100.0%
性別	男性	43	131	326	11	511
		% 8.4%	25.6%	63.8%	2.2%	100.0%
	女性	57	128	421	22	628
	% 9.1%	20.4%	67.0%	3.5%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	12	37	41	0	90
		% 13.3%	41.1%	45.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	9	32	88	0	129
		% 7.0%	24.8%	68.2%	0.0%	100.0%
	40歳代	10	42	129	2	183
		% 5.5%	23.0%	70.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	28	30	113	1	172
	% 16.3%	17.4%	65.7%	0.6%	100.0%	
	60歳代	19	43	152	7	221
	% 8.6%	19.5%	68.8%	3.2%	100.0%	
	70歳代	16	48	165	13	242
	% 6.6%	19.8%	68.2%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	6	26	59	10	101
	% 5.9%	25.7%	58.4%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	97	259	740	32	1128
	% 8.6%	23.0%	65.6%	2.8%	100.0%	
	その他	3	0	9	0	12
	% 25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	35	107	357	11	510
		% 6.9%	21.0%	70.0%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	30	77	191	8	306
		% 9.8%	25.2%	62.4%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	7	33	80	1	121
	% 5.8%	27.3%	66.1%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	15	24	51	5	95
	% 15.8%	25.3%	53.7%	5.3%	100.0%	
	東紀州地域	12	8	40	4	64
	% 18.8%	12.5%	62.5%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	84	205	594	27	910
	% 9.2%	22.5%	65.3%	3.0%	100.0%	
	三重県外	16	54	155	6	231
	% 6.9%	23.4%	67.1%	2.6%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 C. 人種差別撤廃条約

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 160	606	341	39	1146
		% 14.0%	52.9%	29.8%	3.4%	100.0%
性別	男性	74	260	162	15	511
		% 14.5%	50.9%	31.7%	2.9%	100.0%
	女性	86	345	173	24	628
	% 13.7%	54.9%	27.5%	3.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	20	46	24	0	90
		% 22.2%	51.1%	26.7%	0.0%	100.0%
	30歳代	24	69	36	0	129
		% 18.6%	53.5%	27.9%	0.0%	100.0%
	40歳代	19	99	62	3	183
		% 10.4%	54.1%	33.9%	1.6%	100.0%
	50歳代	25	80	67	0	172
	% 14.5%	46.5%	39.0%	0.0%	100.0%	
	60歳代	26	128	59	8	221
	% 11.8%	57.9%	26.7%	3.6%	100.0%	
	70歳代	38	133	56	15	242
	% 15.7%	55.0%	23.1%	6.2%	100.0%	
	80歳代以上	8	50	30	13	101
	% 7.9%	49.5%	29.7%	12.9%	100.0%	
国籍	日本	154	603	333	38	1128
	% 13.7%	53.5%	29.5%	3.4%	100.0%	
	その他	6	2	4	0	12
	% 50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	77	274	148	11	510
		% 15.1%	53.7%	29.0%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	35	164	94	13	306
		% 11.4%	53.6%	30.7%	4.2%	100.0%
	伊勢志摩地域	13	65	40	3	121
	% 10.7%	53.7%	33.1%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	15	50	26	4	95
	% 15.8%	52.6%	27.4%	4.2%	100.0%	
	東紀州地域	15	28	15	6	64
	% 23.4%	43.8%	23.4%	9.4%	100.0%	
生育歴	三重県内	126	478	276	30	910
	% 13.8%	52.5%	30.3%	3.3%	100.0%	
	三重県外	34	128	60	9	231
	% 14.7%	55.4%	26.0%	3.9%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 D. 子どもの権利条約

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 180	542	390	34	1146
		% 15.7%	47.3%	34.0%	3.0%	100.0%
性別	男性	64	229	205	13	511
		% 12.5%	44.8%	40.1%	2.5%	100.0%
	女性	115	311	181	21	628
	% 18.3%	49.5%	28.8%	3.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	22	44	24	0	90
		% 24.4%	48.9%	26.7%	0.0%	100.0%
	30歳代	23	64	42	0	129
		% 17.8%	49.6%	32.6%	0.0%	100.0%
	40歳代	28	83	69	3	183
		% 15.3%	45.4%	37.7%	1.6%	100.0%
	50歳代	42	62	68	0	172
	% 24.4%	36.0%	39.5%	0.0%	100.0%	
	60歳代	32	116	65	8	221
	% 14.5%	52.5%	29.4%	3.6%	100.0%	
	70歳代	25	127	77	13	242
	% 10.3%	52.5%	31.8%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	7	44	40	10	101
	% 6.9%	43.6%	39.6%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	175	536	384	33	1128
		% 15.5%	47.5%	34.0%	2.9%	100.0%
	その他	4	4	4	0	12
	% 33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	85	239	175	11	510
		% 16.7%	46.9%	34.3%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	42	158	96	10	306
		% 13.7%	51.6%	31.4%	3.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	20	54	46	1	121
	% 16.5%	44.6%	38.0%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	15	46	31	3	95
	% 15.8%	48.4%	32.6%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	12	23	24	5	64
	% 18.8%	35.9%	37.5%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	141	424	315	30	910
		% 15.5%	46.6%	34.6%	3.3%	100.0%
	三重県外	38	116	73	4	231
	% 16.5%	50.2%	31.6%	1.7%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 E. 同和対策審議会答申

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数 (人)		100	419	588	39	1146
%		8.7%	36.6%	51.3%	3.4%	100.0%
性別	男性	48	198	251	14	511
	%	9.4%	38.7%	49.1%	2.7%	100.0%
	女性	52	221	330	25	628
%	8.3%	35.2%	52.5%	4.0%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	7	21	61	1	90
	%	7.8%	23.3%	67.8%	1.1%	100.0%
	30歳代	4	32	91	2	129
	%	3.1%	24.8%	70.5%	1.6%	100.0%
	40歳代	9	45	125	4	183
	%	4.9%	24.6%	68.3%	2.2%	100.0%
	50歳代	22	65	84	1	172
%	12.8%	37.8%	48.8%	0.6%	100.0%	
60歳代	23	94	96	8	221	
%	10.4%	42.5%	43.4%	3.6%	100.0%	
70歳代	26	117	87	12	242	
%	10.7%	48.3%	36.0%	5.0%	100.0%	
80歳代以上	9	45	36	11	101	
%	8.9%	44.6%	35.6%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	98	417	575	38	1128
	%	8.7%	37.0%	51.0%	3.4%	100.0%
	その他	2	1	9	0	12
%	16.7%	8.3%	75.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	40	176	281	13	510
	%	7.8%	34.5%	55.1%	2.5%	100.0%
	中南勢地域	24	117	151	14	306
	%	7.8%	38.2%	49.3%	4.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	10	47	62	2	121
%	8.3%	38.8%	51.2%	1.7%	100.0%	
伊賀地域	13	40	40	2	95	
%	13.7%	42.1%	42.1%	2.1%	100.0%	
東紀州地域	10	22	27	5	64	
%	15.6%	34.4%	42.2%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	90	334	454	32	910
	%	9.9%	36.7%	49.9%	3.5%	100.0%
	三重県外	10	85	129	7	231
%	4.3%	36.8%	55.8%	3.0%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 F. 男女共同参画社会基本法

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 263	558	289	36	1146
		% 22.9%	48.7%	25.2%	3.1%	100.0%
性別	男性	119	245	132	15	511
		% 23.3%	47.9%	25.8%	2.9%	100.0%
	女性	144	309	154	21	628
	% 22.9%	49.2%	24.5%	3.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	48	34	8	0	90
		% 53.3%	37.8%	8.9%	0.0%	100.0%
	30歳代	29	62	38	0	129
		% 22.5%	48.1%	29.5%	0.0%	100.0%
	40歳代	33	93	55	2	183
		% 18.0%	50.8%	30.1%	1.1%	100.0%
	50歳代	42	83	45	2	172
	% 24.4%	48.3%	26.2%	1.2%	100.0%	
	60歳代	47	110	55	9	221
	% 21.3%	49.8%	24.9%	4.1%	100.0%	
	70歳代	50	126	52	14	242
	% 20.7%	52.1%	21.5%	5.8%	100.0%	
	80歳代以上	14	45	33	9	101
	% 13.9%	44.6%	32.7%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	259	551	283	35	1128
		% 23.0%	48.8%	25.1%	3.1%	100.0%
	その他	4	4	4	0	12
	% 33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	121	237	140	12	510
		% 23.7%	46.5%	27.5%	2.4%	100.0%
	中南勢地域	65	164	66	11	306
		% 21.2%	53.6%	21.6%	3.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	31	57	30	3	121
	% 25.6%	47.1%	24.8%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	23	47	23	2	95
	% 24.2%	49.5%	24.2%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	18	26	15	5	64
	% 28.1%	40.6%	23.4%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	204	445	230	31	910
		% 22.4%	48.9%	25.3%	3.4%	100.0%
	三重県外	59	111	56	5	231
	% 25.5%	48.1%	24.2%	2.2%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 G. 犯罪被害者等基本法

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 106	525	473	42	1146
		% 9.2%	45.8%	41.3%	3.7%	100.0%
性別	男性	47	239	212	13	511
		% 9.2%	46.8%	41.5%	2.5%	100.0%
	女性	58	284	257	29	628
	% 9.2%	45.2%	40.9%	4.6%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	5	35	50	0	90
		% 5.6%	38.9%	55.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	12	48	66	3	129
		% 9.3%	37.2%	51.2%	2.3%	100.0%
	40歳代	23	83	74	3	183
		% 12.6%	45.4%	40.4%	1.6%	100.0%
	50歳代	20	91	61	0	172
	% 11.6%	52.9%	35.5%	0.0%	100.0%	
	60歳代	21	116	77	7	221
	% 9.5%	52.5%	34.8%	3.2%	100.0%	
	70歳代	21	115	90	16	242
	% 8.7%	47.5%	37.2%	6.6%	100.0%	
	80歳代以上	3	34	51	13	101
	% 3.0%	33.7%	50.5%	12.9%	100.0%	
国籍	日本	100	520	467	41	1128
	% 8.9%	46.1%	41.4%	3.6%	100.0%	
	その他	5	3	4	0	12
	% 41.7%	25.0%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	42	236	218	14	510
		% 8.2%	46.3%	42.7%	2.7%	100.0%
	中南勢地域	29	141	121	15	306
		% 9.5%	46.1%	39.5%	4.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	16	54	50	1	121
	% 13.2%	44.6%	41.3%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	12	44	36	3	95
	% 12.6%	46.3%	37.9%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	7	28	23	6	64
	% 10.9%	43.8%	35.9%	9.4%	100.0%	
生育歴	三重県内	89	400	385	36	910
	% 9.8%	44.0%	42.3%	4.0%	100.0%	
	三重県外	16	124	85	6	231
	% 6.9%	53.7%	36.8%	2.6%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 H. 拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数 (人)		78	525	511	32	1146
%		6.8%	45.8%	44.6%	2.8%	100.0%
性別	男性	38	227	234	12	511
	%	7.4%	44.4%	45.8%	2.3%	100.0%
	女性	40	298	270	20	628
%	6.4%	47.5%	43.0%	3.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	5	39	46	0	90
	%	5.6%	43.3%	51.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	8	67	54	0	129
	%	6.2%	51.9%	41.9%	0.0%	100.0%
	40歳代	14	82	84	3	183
	%	7.7%	44.8%	45.9%	1.6%	100.0%
	50歳代	11	94	67	0	172
%	6.4%	54.7%	39.0%	0.0%	100.0%	
60歳代	11	97	106	7	221	
%	5.0%	43.9%	48.0%	3.2%	100.0%	
70歳代	24	111	95	12	242	
%	9.9%	45.9%	39.3%	5.0%	100.0%	
80歳代以上	5	35	51	10	101	
%	5.0%	34.7%	50.5%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	75	520	503	30	1128
	%	6.6%	46.1%	44.6%	2.7%	100.0%
	その他	3	4	4	1	12
%	25.0%	33.3%	33.3%	8.3%	100.0%	
居住地域	北勢地域	32	238	230	10	510
	%	6.3%	46.7%	45.1%	2.0%	100.0%
	中南勢地域	17	145	134	10	306
	%	5.6%	47.4%	43.8%	3.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	7	56	57	1	121
%	5.8%	46.3%	47.1%	0.8%	100.0%	
伊賀地域	10	47	35	3	95	
%	10.5%	49.5%	36.8%	3.2%	100.0%	
東紀州地域	9	23	27	5	64	
%	14.1%	35.9%	42.2%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	60	425	399	26	910
	%	6.6%	46.7%	43.8%	2.9%	100.0%
	三重県外	18	100	107	6	231
%	7.8%	43.3%	46.3%	2.6%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 1. ハンセン病問題の解決の促進に関する法律

		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 120	542	452	32	1146
		% 10.5%	47.3%	39.4%	2.8%	100.0%
性別	男性	54	248	199	10	511
		% 10.6%	48.5%	38.9%	2.0%	100.0%
	女性	65	293	248	22	628
	% 10.4%	46.7%	39.5%	3.5%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	6	31	52	1	90
		% 6.7%	34.4%	57.8%	1.1%	100.0%
	30歳代	8	52	69	0	129
		% 6.2%	40.3%	53.5%	0.0%	100.0%
	40歳代	18	90	73	2	183
		% 9.8%	49.2%	39.9%	1.1%	100.0%
	50歳代	18	98	56	0	172
	% 10.5%	57.0%	32.6%	0.0%	100.0%	
	60歳代	24	110	81	6	221
	% 10.9%	49.8%	36.7%	2.7%	100.0%	
	70歳代	32	116	81	13	242
	% 13.2%	47.9%	33.5%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	13	44	34	10	101
	% 12.9%	43.6%	33.7%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	116	538	443	31	1128
	% 10.3%	47.7%	39.3%	2.7%	100.0%	
	その他	2	3	7	0	12
	% 16.7%	25.0%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	51	232	217	10	510
		% 10.0%	45.5%	42.5%	2.0%	100.0%
	中南勢地域	26	157	114	9	306
		% 8.5%	51.3%	37.3%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	15	61	44	1	121
	% 12.4%	50.4%	36.4%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	9	49	33	4	95
	% 9.5%	51.6%	34.7%	4.2%	100.0%	
	東紀州地域	12	24	23	5	64
	% 18.8%	37.5%	35.9%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	95	432	356	27	910
	% 10.4%	47.5%	39.1%	3.0%	100.0%	
	三重県外	24	109	93	5	231
	% 10.4%	47.2%	40.3%	2.2%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 J. 障害者差別解消法

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数	(人)	129	527	450	40	1146
	%	11.3%	46.0%	39.3%	3.5%	100.0%
性別	男性	47	249	200	15	511
	%	9.2%	48.7%	39.1%	2.9%	100.0%
	女性	81	278	244	25	628
%	12.9%	44.3%	38.9%	4.0%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	15	36	39	0	90
	%	16.7%	40.0%	43.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	13	58	56	2	129
	%	10.1%	45.0%	43.4%	1.6%	100.0%
	40歳代	23	72	87	1	183
	%	12.6%	39.3%	47.5%	0.5%	100.0%
	50歳代	25	78	68	1	172
%	14.5%	45.3%	39.5%	0.6%	100.0%	
60歳代	18	116	78	9	221	
%	8.1%	52.5%	35.3%	4.1%	100.0%	
70歳代	22	123	81	16	242	
%	9.1%	50.8%	33.5%	6.6%	100.0%	
80歳代以上	12	44	34	11	101	
%	11.9%	43.6%	33.7%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	124	523	442	39	1128
	%	11.0%	46.4%	39.2%	3.5%	100.0%
	その他	4	3	5	0	12
%	33.3%	25.0%	41.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	53	232	211	14	510
	%	10.4%	45.5%	41.4%	2.7%	100.0%
	中南勢地域	33	142	117	14	306
	%	10.8%	46.4%	38.2%	4.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	17	56	46	2	121
%	14.0%	46.3%	38.0%	1.7%	100.0%	
伊賀地域	15	45	33	2	95	
%	15.8%	47.4%	34.7%	2.1%	100.0%	
東紀州地域	9	29	21	5	64	
%	14.1%	45.3%	32.8%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	99	429	347	35	910
	%	10.9%	47.1%	38.1%	3.8%	100.0%
	三重県外	29	98	99	5	231
%	12.6%	42.4%	42.9%	2.2%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 K. ヘイトスピーチ解消法

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 80	392	635	39	1146
		% 7.0%	34.2%	55.4%	3.4%	100.0%
性別	男性	38	213	246	14	511
		% 7.4%	41.7%	48.1%	2.7%	100.0%
	女性	42	177	384	25	628
	% 6.7%	28.2%	61.1%	4.0%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	6	30	54	0	90
		% 6.7%	33.3%	60.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	9	39	80	1	129
		% 7.0%	30.2%	62.0%	0.8%	100.0%
	40歳代	15	69	96	3	183
		% 8.2%	37.7%	52.5%	1.6%	100.0%
	50歳代	18	69	84	1	172
	% 10.5%	40.1%	48.8%	0.6%	100.0%	
	60歳代	16	81	116	8	221
	% 7.2%	36.7%	52.5%	3.6%	100.0%	
	70歳代	11	81	134	16	242
	% 4.5%	33.5%	55.4%	6.6%	100.0%	
	80歳代以上	5	21	65	10	101
	% 5.0%	20.8%	64.4%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	76	387	627	38	1128
	% 6.7%	34.3%	55.6%	3.4%	100.0%	
	その他	4	3	5	0	12
	% 33.3%	25.0%	41.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	32	183	284	11	510
		% 6.3%	35.9%	55.7%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	25	97	170	14	306
		% 8.2%	31.7%	55.6%	4.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	6	49	65	1	121
	% 5.0%	40.5%	53.7%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	7	36	48	4	95
	% 7.4%	37.9%	50.5%	4.2%	100.0%	
	東紀州地域	8	14	37	5	64
	% 12.5%	21.9%	57.8%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	60	308	510	32	910
	% 6.6%	33.8%	56.0%	3.5%	100.0%	
	三重県外	20	82	122	7	231
	% 8.7%	35.5%	52.8%	3.0%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 L. 部落差別解消推進法

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 105	502	501	38	1146
		% 9.2%	43.8%	43.7%	3.3%	100.0%
性別	男性	54	234	212	11	511
		% 10.6%	45.8%	41.5%	2.2%	100.0%
	女性	51	268	282	27	628
	% 8.1%	42.7%	44.9%	4.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	10	36	44	0	90
		% 11.1%	40.0%	48.9%	0.0%	100.0%
	30歳代	15	49	65	0	129
		% 11.6%	38.0%	50.4%	0.0%	100.0%
	40歳代	12	79	90	2	183
		% 6.6%	43.2%	49.2%	1.1%	100.0%
	50歳代	24	73	74	1	172
	% 14.0%	42.4%	43.0%	0.6%	100.0%	
	60歳代	15	104	93	9	221
	% 6.8%	47.1%	42.1%	4.1%	100.0%	
	70歳代	22	114	91	15	242
	% 9.1%	47.1%	37.6%	6.2%	100.0%	
	80歳代以上	7	47	36	11	101
	% 6.9%	46.5%	35.6%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	102	499	490	37	1128
	% 9.0%	44.2%	43.4%	3.3%	100.0%	
	その他	3	2	7	0	12
	% 25.0%	16.7%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	37	215	246	12	510
		% 7.3%	42.2%	48.2%	2.4%	100.0%
	中南勢地域	30	139	126	11	306
		% 9.8%	45.4%	41.2%	3.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	12	53	53	3	121
	% 9.9%	43.8%	43.8%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	14	49	28	4	95
	% 14.7%	51.6%	29.5%	4.2%	100.0%	
	東紀州地域	10	26	23	5	64
	% 15.6%	40.6%	35.9%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	82	415	382	31	910
	% 9.0%	45.6%	42.0%	3.4%	100.0%	
	三重県外	23	87	114	7	231
	% 10.0%	37.7%	49.4%	3.0%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 M. アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数 (人)		50	332	733	31	1146
%		4.4%	29.0%	64.0%	2.7%	100.0%
性別	男性	27	164	310	10	511
	%	5.3%	32.1%	60.7%	2.0%	100.0%
	女性	23	167	417	21	628
	%	3.7%	26.6%	66.4%	3.3%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	4	28	58	0	90
	%	4.4%	31.1%	64.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	7	33	89	0	129
	%	5.4%	25.6%	69.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	5	43	133	2	183
	%	2.7%	23.5%	72.7%	1.1%	100.0%
	50歳代	10	65	97	0	172
%	5.8%	37.8%	56.4%	0.0%	100.0%	
	60歳代	9	66	139	7	221
	%	4.1%	29.9%	62.9%	3.2%	100.0%
	70歳代	11	71	148	12	242
	%	4.5%	29.3%	61.2%	5.0%	100.0%
	80歳代以上	4	25	62	10	101
	%	4.0%	24.8%	61.4%	9.9%	100.0%
国籍	日本	48	327	723	30	1128
	%	4.3%	29.0%	64.1%	2.7%	100.0%
	その他	2	4	6	0	12
	%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	19	140	342	9	510
	%	3.7%	27.5%	67.1%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	15	93	187	11	306
	%	4.9%	30.4%	61.1%	3.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	4	41	75	1	121
%	3.3%	33.9%	62.0%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	5	27	60	3	95
	%	5.3%	28.4%	63.2%	3.2%	100.0%
	東紀州地域	6	19	35	4	64
	%	9.4%	29.7%	54.7%	6.3%	100.0%
生育歴	三重県内	43	258	583	26	910
	%	4.7%	28.4%	64.1%	2.9%	100.0%
	三重県外	7	73	146	5	231
	%	3.0%	31.6%	63.2%	2.2%	100.0%

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 N. 日本語教育推進法

		内容(趣旨) を知っている	あることは 知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 27	254	826	39	1146
		% 2.4%	22.2%	72.1%	3.4%	100.0%
性別	男性	9	118	372	12	511
		% 1.8%	23.1%	72.8%	2.3%	100.0%
	女性	17	136	448	27	628
	% 2.7%	21.7%	71.3%	4.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	14	73	0	90
		% 3.3%	15.6%	81.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	3	25	100	1	129
		% 2.3%	19.4%	77.5%	0.8%	100.0%
	40歳代	3	31	147	2	183
		% 1.6%	16.9%	80.3%	1.1%	100.0%
	50歳代	3	38	131	0	172
	% 1.7%	22.1%	76.2%	0.0%	100.0%	
	60歳代	3	52	158	8	221
	% 1.4%	23.5%	71.5%	3.6%	100.0%	
	70歳代	8	67	151	16	242
	% 3.3%	27.7%	62.4%	6.6%	100.0%	
	80歳代以上	3	27	59	12	101
	% 3.0%	26.7%	58.4%	11.9%	100.0%	
国籍	日本	24	251	815	38	1128
		% 2.1%	22.3%	72.3%	3.4%	100.0%
	その他	2	2	8	0	12
	% 16.7%	16.7%	66.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	8	100	391	11	510
		% 1.6%	19.6%	76.7%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	8	77	209	12	306
		% 2.6%	25.2%	68.3%	3.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	3	27	90	1	121
	% 2.5%	22.3%	74.4%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	5	25	61	4	95
	% 5.3%	26.3%	64.2%	4.2%	100.0%	
	東紀州地域	2	14	41	7	64
	% 3.1%	21.9%	64.1%	10.9%	100.0%	
生育歴	三重県内	21	206	650	33	910
		% 2.3%	22.6%	71.4%	3.6%	100.0%
	三重県外	5	48	172	6	231
	% 2.2%	20.8%	74.5%	2.6%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 O. 人権が尊重される三重をつくる条例

		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 35	254	815	42	1146
		% 3.1%	22.2%	71.1%	3.7%	100.0%
性別	男性	15	113	367	16	511
		% 2.9%	22.1%	71.8%	3.1%	100.0%
	女性	20	140	442	26	628
	% 3.2%	22.3%	70.4%	4.1%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	12	75	0	90
		% 3.3%	13.3%	83.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	3	26	99	1	129
		% 2.3%	20.2%	76.7%	0.8%	100.0%
	40歳代	5	30	145	3	183
		% 2.7%	16.4%	79.2%	1.6%	100.0%
	50歳代	10	33	129	0	172
	% 5.8%	19.2%	75.0%	0.0%	100.0%	
	60歳代	2	61	150	8	221
	% 0.9%	27.6%	67.9%	3.6%	100.0%	
	70歳代	9	65	152	16	242
	% 3.7%	26.9%	62.8%	6.6%	100.0%	
	80歳代以上	3	26	58	14	101
	% 3.0%	25.7%	57.4%	13.9%	100.0%	
国籍	日本	32	252	803	41	1128
		% 2.8%	22.3%	71.2%	3.6%	100.0%
	その他	3	1	8		12
	% 25.0%	8.3%	66.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	10	109	378	13	510
		% 2.0%	21.4%	74.1%	2.5%	100.0%
	中南勢地域	12	65	215	14	306
		% 3.9%	21.2%	70.3%	4.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	4	27	89	1	121
	% 3.3%	22.3%	73.6%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	5	25	61	4	95
	% 5.3%	26.3%	64.2%	4.2%	100.0%	
	東紀州地域	4	14	42	4	64
	% 6.3%	21.9%	65.6%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	32	211	633	34	910
		% 3.5%	23.2%	69.6%	3.7%	100.0%
	三重県外	3	42	178	8	231
	% 1.3%	18.2%	77.1%	3.5%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 P. 三重県子ども条例

		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 60	349	704	33	1146
		% 5.2%	30.5%	61.4%	2.9%	100.0%
性別	男性	19	147	333	12	511
		% 3.7%	28.8%	65.2%	2.3%	100.0%
	女性	41	201	365	21	628
	% 6.5%	32.0%	58.1%	3.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	5	17	68	0	90
		% 5.6%	18.9%	75.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	6	43	80	0	129
		% 4.7%	33.3%	62.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	11	56	114	2	183
		% 6.0%	30.6%	62.3%	1.1%	100.0%
	50歳代	16	51	105	0	172
	% 9.3%	29.7%	61.0%	0.0%	100.0%	
	60歳代	9	74	131	7	221
	% 4.1%	33.5%	59.3%	3.2%	100.0%	
	70歳代	10	79	139	14	242
	% 4.1%	32.6%	57.4%	5.8%	100.0%	
	80歳代以上	3	28	60	10	101
	% 3.0%	27.7%	59.4%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	57	346	693	32	1128
	% 5.1%	30.7%	61.4%	2.8%	100.0%	
	その他	3	2	7	0	12
	% 25.0%	16.7%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	25	141	333	11	510
		% 4.9%	27.6%	65.3%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	14	109	174	9	306
		% 4.6%	35.6%	56.9%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	7	33	80	1	121
	% 5.8%	27.3%	66.1%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	8	31	53	3	95
	% 8.4%	32.6%	55.8%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	5	18	36	5	64
	% 7.8%	28.1%	56.3%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	51	282	550	27	910
	% 5.6%	31.0%	60.4%	3.0%	100.0%	
	三重県外	9	67	149	6	231
	% 3.9%	29.0%	64.5%	2.6%	100.0%	

問1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。A～Qのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問1 Q. 障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例

		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	合計
総数		(人) 55	285	778	28	1146
		% 4.8%	24.9%	67.9%	2.4%	100.0%
性別	男性	18	119	363	11	511
		% 3.5%	23.3%	71.0%	2.2%	100.0%
	女性	36	166	409	17	628
	% 5.7%	26.4%	65.1%	2.7%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	2	15	73	0	90
		% 2.2%	16.7%	81.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	4	20	105	0	129
		% 3.1%	15.5%	81.4%	0.0%	100.0%
	40歳代	2	35	144	2	183
		% 1.1%	19.1%	78.7%	1.1%	100.0%
	50歳代	13	35	124	0	172
	% 7.6%	20.3%	72.1%	0.0%	100.0%	
	60歳代	10	58	147	6	221
	% 4.5%	26.2%	66.5%	2.7%	100.0%	
	70歳代	14	88	129	11	242
	% 5.8%	36.4%	53.3%	4.5%	100.0%	
	80歳代以上	9	34	49	9	101
	% 8.9%	33.7%	48.5%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	50	283	768	27	1128
		% 4.4%	25.1%	68.1%	2.4%	100.0%
	その他	4	1	7	0	12
	% 33.3%	8.3%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	19	102	380	9	510
		% 3.7%	20.0%	74.5%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	14	84	199	9	306
		% 4.6%	27.5%	65.0%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	6	38	76	1	121
	% 5.0%	31.4%	62.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	8	30	55	2	95
	% 8.4%	31.6%	57.9%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	6	17	37	4	64
	% 9.4%	26.6%	57.8%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	45	241	600	24	910
		% 4.9%	26.5%	65.9%	2.6%	100.0%
	三重県外	9	44	174	4	231
	% 3.9%	19.0%	75.3%	1.7%	100.0%	

問2 三重県では、「性別、出身地、障がいの有無などによる差別がなく、一人ひとりの人権が尊重され、個性や能力を発揮できる機会が誰にでも与えられる社会」の実現をめざしています。あなたは、「三重県は人権が尊重されている社会になっている」と感じますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

		感じている	どちらかといえば感じている	どちらともいえない	どちらかといえば感じない	感じない	わからない	無回答	合計
総数	(人)	29	240	430	159	104	164	20	1146
	%	2.5%	20.9%	37.5%	13.9%	9.1%	14.3%	1.7%	100.0%
性別	男性	13	121	186	73	42	67	9	511
	%	2.5%	23.7%	36.4%	14.3%	8.2%	13.1%	1.8%	100.0%
	女性	15	117	244	86	59	96	11	628
%	2.4%	18.6%	38.9%	13.7%	9.4%	15.3%	1.8%	100.0%	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	1	17	46	5	8	11	2	90
	%	1.1%	18.9%	51.1%	5.6%	8.9%	12.2%	2.2%	100.0%
	30歳代	1	24	52	23	14	14	1	129
	%	0.8%	18.6%	40.3%	17.8%	10.9%	10.9%	0.8%	100.0%
	40歳代	2	31	69	32	22	26	1	183
	%	1.1%	16.9%	37.7%	17.5%	12.0%	14.2%	0.5%	100.0%
	50歳代	1	30	65	26	26	24	0	172
%	0.6%	17.4%	37.8%	15.1%	15.1%	14.0%	0.0%	100.0%	
60歳代	4	49	82	34	18	33	1	221	
%	1.8%	22.2%	37.1%	15.4%	8.1%	14.9%	0.5%	100.0%	
70歳代	12	64	88	27	9	35	7	242	
%	5.0%	26.4%	36.4%	11.2%	3.7%	14.5%	2.9%	100.0%	
80歳代以上	7	22	28	12	4	20	8	101	
%	6.9%	21.8%	27.7%	11.9%	4.0%	19.8%	7.9%	100.0%	
国籍	日本	28	237	426	159	97	163	18	1128
	%	2.5%	21.0%	37.8%	14.1%	8.6%	14.5%	1.6%	100.0%
その他	1	1	3	0	6	0	1	12	
%	8.3%	8.3%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	8.3%	100.0%	
居住地域	北勢地域	9	103	197	71	41	83	6	510
	%	1.8%	20.2%	38.6%	13.9%	8.0%	16.3%	1.2%	100.0%
	中南勢地域	13	63	112	43	27	42	6	306
	%	4.2%	20.6%	36.6%	14.1%	8.8%	13.7%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	2	25	50	15	12	15	2	121
%	1.7%	20.7%	41.3%	12.4%	9.9%	12.4%	1.7%	100.0%	
伊賀地域	0	27	34	11	10	11	2	95	
%	0.0%	28.4%	35.8%	11.6%	10.5%	11.6%	2.1%	100.0%	
東紀州地域	4	16	21	9	6	8	0	64	
%	6.3%	25.0%	32.8%	14.1%	9.4%	12.5%	0.0%	100.0%	
生育歴	三重県内	23	185	351	128	78	128	17	910
	%	2.5%	20.3%	38.6%	14.1%	8.6%	14.1%	1.9%	100.0%
三重県外	6	53	78	31	25	35	3	231	
%	2.6%	22.9%	33.8%	13.4%	10.8%	15.2%	1.3%	100.0%	

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 A. 人権は、侵すことのできない永久の権利である

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 738	279	86	9	11	23	1146
		% 64.4%	24.3%	7.5%	0.8%	1.0%	2.0%	100.0%
性別	男性	325	131	38	4	4	9	511
		% 63.6%	25.6%	7.4%	0.8%	0.8%	1.8%	100.0%
	女性	410	147	46	5	6	14	628
	% 65.3%	23.4%	7.3%	0.8%	1.0%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	59	23	7	0	1	0	90
		% 65.6%	25.6%	7.8%	0.0%	1.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	87	29	10	1	2	0	129
		% 67.4%	22.5%	7.8%	0.8%	1.6%	0.0%	100.0%
	40歳代	120	46	16	0	0	1	183
		% 65.6%	25.1%	8.7%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	120	38	10	3	1	0	172
	% 69.8%	22.1%	5.8%	1.7%	0.6%	0.0%	100.0%	
	60歳代	149	52	12	2	2	4	221
	% 67.4%	23.5%	5.4%	0.9%	0.9%	1.8%	100.0%	
	70歳代	143	65	20	2	3	9	242
	% 59.1%	26.9%	8.3%	0.8%	1.2%	3.7%	100.0%	
	80歳代以上	56	25	9	1	1	9	101
	% 55.4%	24.8%	8.9%	1.0%	1.0%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	726	277	84	9	10	22	1128
	% 64.4%	24.6%	7.4%	0.8%	0.9%	2.0%	100.0%	
	その他	10	1	1	0	0	0	12
	% 83.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	333	126	38	3	5	5	510
		% 65.3%	24.7%	7.5%	0.6%	1.0%	1.0%	100.0%
	中南勢地域	198	69	23	5	4	7	306
		% 64.7%	22.5%	7.5%	1.6%	1.3%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	80	28	10	1	0	2	121
	% 66.1%	23.1%	8.3%	0.8%	0.0%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	57	28	7	0	0	3	95
	% 60.0%	29.5%	7.4%	0.0%	0.0%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	40	16	4	0	1	3	64
	% 62.5%	25.0%	6.3%	0.0%	1.6%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	582	223	69	8	8	20	910
	% 64.0%	24.5%	7.6%	0.9%	0.9%	2.2%	100.0%	
	三重県外	154	55	16	1	2	3	231
	% 66.7%	23.8%	6.9%	0.4%	0.9%	1.3%	100.0%	

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 B. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 681	337	83	12	15	18	1146
		% 59.4%	29.4%	7.2%	1.0%	1.3%	1.6%	100.0%
性別	男性	299	145	42	7	9	9	511
		% 58.5%	28.4%	8.2%	1.4%	1.8%	1.8%	100.0%
	女性	381	189	39	5	5	9	628
	% 60.7%	30.1%	6.2%	0.8%	0.8%	1.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	43	39	6	1	1	0	90
		% 47.8%	43.3%	6.7%	1.1%	1.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	65	48	12	2	1	1	129
		% 50.4%	37.2%	9.3%	1.6%	0.8%	0.8%	100.0%
	40歳代	109	52	20	1	0	1	183
		% 59.6%	28.4%	10.9%	0.5%	0.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	107	48	10	3	4	0	172
	% 62.2%	27.9%	5.8%	1.7%	2.3%	0.0%	100.0%	
	60歳代	147	54	12	2	3	3	221
	% 66.5%	24.4%	5.4%	0.9%	1.4%	1.4%	100.0%	
	70歳代	150	67	14	2	4	5	242
	% 62.0%	27.7%	5.8%	0.8%	1.7%	2.1%	100.0%	
	80歳代以上	59	25	7	1	1	8	101
	% 58.4%	24.8%	6.9%	1.0%	1.0%	7.9%	100.0%	
国籍	日本	670	335	80	12	14	17	1128
		% 59.4%	29.7%	7.1%	1.1%	1.2%	1.5%	100.0%
	その他	10	1	1	0	0	0	12
	% 83.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	289	164	42	4	6	5	510
		% 56.7%	32.2%	8.2%	0.8%	1.2%	1.0%	100.0%
	中南勢地域	186	84	22	5	4	5	306
		% 60.8%	27.5%	7.2%	1.6%	1.3%	1.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	79	33	5	2	1	1	121
	% 65.3%	27.3%	4.1%	1.7%	0.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	56	27	7	1	2	2	95
	% 58.9%	28.4%	7.4%	1.1%	2.1%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	44	13	4	0	1	2	64
	% 68.8%	20.3%	6.3%	0.0%	1.6%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	550	263	59	11	12	15	910
		% 60.4%	28.9%	6.5%	1.2%	1.3%	1.6%	100.0%
	三重県外	130	73	22	1	2	3	231
	% 56.3%	31.6%	9.5%	0.4%	0.9%	1.3%	100.0%	

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 C. 差別は法律で禁止する必要がある

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 414	368	281	35	32	16	1146
		% 36.1%	32.1%	24.5%	3.1%	2.8%	1.4%	100.0%
性別	男性	187	158	117	20	21	8	511
		% 36.6%	30.9%	22.9%	3.9%	4.1%	1.6%	100.0%
	女性	226	209	160	15	10	8	628
	% 36.0%	33.3%	25.5%	2.4%	1.6%	1.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	21	40	23	1	5	0	90
		% 23.3%	44.4%	25.6%	1.1%	5.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	42	48	30	2	7	0	129
		% 32.6%	37.2%	23.3%	1.6%	5.4%	0.0%	100.0%
	40歳代	73	52	49	7	1	1	183
		% 39.9%	28.4%	26.8%	3.8%	0.5%	0.5%	100.0%
	50歳代	60	60	41	8	3	0	172
	% 34.9%	34.9%	23.8%	4.7%	1.7%	0.0%	100.0%	
	60歳代	83	62	62	5	7	2	221
	% 37.6%	28.1%	28.1%	2.3%	3.2%	0.9%	100.0%	
	70歳代	93	75	54	9	6	5	242
	% 38.4%	31.0%	22.3%	3.7%	2.5%	2.1%	100.0%	
	80歳代以上	41	30	17	3	2	8	101
	% 40.6%	29.7%	16.8%	3.0%	2.0%	7.9%	100.0%	
国籍	日本	402	367	279	34	31	15	1128
		% 35.6%	32.5%	24.7%	3.0%	2.7%	1.3%	100.0%
	その他	10	1	0	1	0	0	12
	% 83.3%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	175	170	127	19	15	4	510
		% 34.3%	33.3%	24.9%	3.7%	2.9%	0.8%	100.0%
	中南勢地域	122	91	72	8	7	6	306
		% 39.9%	29.7%	23.5%	2.6%	2.3%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	40	42	33	3	2	1	121
	% 33.1%	34.7%	27.3%	2.5%	1.7%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	32	31	24	3	4	1	95
	% 33.7%	32.6%	25.3%	3.2%	4.2%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	29	18	13	1	1	2	64
	% 45.3%	28.1%	20.3%	1.6%	1.6%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	326	302	218	24	27	13	910
		% 35.8%	33.2%	24.0%	2.6%	3.0%	1.4%	100.0%
	三重県外	86	66	61	11	4	3	231
	% 37.2%	28.6%	26.4%	4.8%	1.7%	1.3%	100.0%	

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 D. 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 613	379	112	13	10	19	1146
		% 53.5%	33.1%	9.8%	1.1%	0.9%	1.7%	100.0%
性別	男性	250	176	63	8	6	8	511
		% 48.9%	34.4%	12.3%	1.6%	1.2%	1.6%	100.0%
	女性	361	200	49	4	3	11	628
	% 57.5%	31.8%	7.8%	0.6%	0.5%	1.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	47	37	5	1	0	0	90
		% 52.2%	41.1%	5.6%	1.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	73	44	12	0	0	0	129
		% 56.6%	34.1%	9.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	105	56	19	2	0	1	183
		% 57.4%	30.6%	10.4%	1.1%	0.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	104	52	11	4	1	0	172
	% 60.5%	30.2%	6.4%	2.3%	0.6%	0.0%	100.0%	
	60歳代	116	70	28	3	1	3	221
	% 52.5%	31.7%	12.7%	1.4%	0.5%	1.4%	100.0%	
	70歳代	118	79	29	2	6	8	242
	% 48.8%	32.6%	12.0%	0.8%	2.5%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	48	37	8	0	1	7	101
	% 47.5%	36.6%	7.9%	0.0%	1.0%	6.9%	100.0%	
国籍	日本	601	376	112	12	9	18	1128
		% 53.3%	33.3%	9.9%	1.1%	0.8%	1.6%	100.0%
	その他	10	1	0	1	0	0	12
	% 83.3%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	266	174	60	4	2	4	510
		% 52.2%	34.1%	11.8%	0.8%	0.4%	0.8%	100.0%
	中南勢地域	175	91	27	4	2	7	306
		% 57.2%	29.7%	8.8%	1.3%	0.7%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	62	45	10	2	1	1	121
	% 51.2%	37.2%	8.3%	1.7%	0.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	55	26	9	1	3	1	95
	% 57.9%	27.4%	9.5%	1.1%	3.2%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	34	20	5	1	1	3	64
	% 53.1%	31.3%	7.8%	1.6%	1.6%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	490	301	87	9	7	16	910
		% 53.8%	33.1%	9.6%	1.0%	0.8%	1.8%	100.0%
	三重県外	121	76	25	4	2	3	231
	% 52.4%	32.9%	10.8%	1.7%	0.9%	1.3%	100.0%	

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 E. 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数 (人)		30	50	196	233	617	20	1146
		2.6%	4.4%	17.1%	20.3%	53.8%	1.7%	100.0%
性別	男性	12	23	96	123	248	9	511
		2.3%	4.5%	18.8%	24.1%	48.5%	1.8%	100.0%
	女性	16	27	99	109	366	11	628
		2.5%	4.3%	15.8%	17.4%	58.3%	1.8%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	1	2	17	26	44	0	90
		1.1%	2.2%	18.9%	28.9%	48.9%	0.0%	100.0%
	30歳代	4	3	18	37	67	0	129
		3.1%	2.3%	14.0%	28.7%	51.9%	0.0%	100.0%
	40歳代	1	7	25	39	110	1	183
		0.5%	3.8%	13.7%	21.3%	60.1%	0.5%	100.0%
	50歳代	2	5	23	29	113	0	172
	1.2%	2.9%	13.4%	16.9%	65.7%	0.0%	100.0%	
	60歳代	7	8	36	38	129	3	221
		3.2%	3.6%	16.3%	17.2%	58.4%	1.4%	100.0%
	70歳代	8	15	56	45	112	6	242
		3.3%	6.2%	23.1%	18.6%	46.3%	2.5%	100.0%
	80歳代以上	5	10	20	18	38	10	101
		5.0%	9.9%	19.8%	17.8%	37.6%	9.9%	100.0%
国籍	日本	25	49	194	232	609	19	1128
		2.2%	4.3%	17.2%	20.6%	54.0%	1.7%	100.0%
	その他	2	1	1	0	8	0	12
		16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	8	20	85	109	283	5	510
		1.6%	3.9%	16.7%	21.4%	55.5%	1.0%	100.0%
	中南勢地域	11	12	47	57	172	7	306
		3.6%	3.9%	15.4%	18.6%	56.2%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	2	5	26	26	61	1	121
	1.7%	4.1%	21.5%	21.5%	50.4%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	4	5	20	17	48	1	95
		4.2%	5.3%	21.1%	17.9%	50.5%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	1	4	9	13	34	3	64
		1.6%	6.3%	14.1%	20.3%	53.1%	4.7%	100.0%
生育歴	三重県内	27	42	154	181	490	16	910
		3.0%	4.6%	16.9%	19.9%	53.8%	1.8%	100.0%
	三重県外	1	8	41	51	126	4	231
		0.4%	3.5%	17.7%	22.1%	54.5%	1.7%	100.0%

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 F. 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 120	302	339	138	228	19	1146
		% 10.5%	26.4%	29.6%	12.0%	19.9%	1.7%	100.0%
性別	男性	63	161	147	51	81	8	511
		% 12.3%	31.5%	28.8%	10.0%	15.9%	1.6%	100.0%
	女性	54	139	191	87	146	11	628
		% 8.6%	22.1%	30.4%	13.9%	23.2%	1.8%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0
		% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	7	23	37	9	14	0	90
		% 7.8%	25.6%	41.1%	10.0%	15.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	17	34	33	17	28	0	129
		% 13.2%	26.4%	25.6%	13.2%	21.7%	0.0%	100.0%
	40歳代	16	55	60	18	33	1	183
		% 8.7%	30.1%	32.8%	9.8%	18.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	13	43	49	24	43	0	172
	% 7.6%	25.0%	28.5%	14.0%	25.0%	0.0%	100.0%	
	60歳代	30	53	53	29	53	3	221
		% 13.6%	24.0%	24.0%	13.1%	24.0%	1.4%	100.0%
	70歳代	25	60	80	31	39	7	242
		% 10.3%	24.8%	33.1%	12.8%	16.1%	2.9%	100.0%
	80歳代以上	8	32	26	10	17	8	101
		% 7.9%	31.7%	25.7%	9.9%	16.8%	7.9%	100.0%
国籍	日本	114	297	338	138	223	18	1128
		% 10.1%	26.3%	30.0%	12.2%	19.8%	1.6%	100.0%
	その他	3	3	1	0	5	0	12
		% 25.0%	25.0%	8.3%	0.0%	41.7%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	41	150	155	62	97	5	510
		% 8.0%	29.4%	30.4%	12.2%	19.0%	1.0%	100.0%
	中南勢地域	44	75	78	30	73	6	306
		% 14.4%	24.5%	25.5%	9.8%	23.9%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	12	34	43	15	16	1	121
	% 9.9%	28.1%	35.5%	12.4%	13.2%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	11	18	33	11	21	1	95
		% 11.6%	18.9%	34.7%	11.6%	22.1%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	7	13	18	10	14	2	64
		% 10.9%	20.3%	28.1%	15.6%	21.9%	3.1%	100.0%
生育歴	三重県内	97	233	274	113	178	15	910
		% 10.7%	25.6%	30.1%	12.4%	19.6%	1.6%	100.0%
	三重県外	20	68	65	25	49	4	231
		% 8.7%	29.4%	28.1%	10.8%	21.2%	1.7%	100.0%

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問3 G. 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 62	141	453	186	278	26	1146
		% 5.4%	12.3%	39.5%	16.2%	24.3%	2.3%	100.0%
性別	男性	32	84	197	81	108	9	511
		% 6.3%	16.4%	38.6%	15.9%	21.1%	1.8%	100.0%
	女性	29	57	253	105	168	16	628
	% 4.6%	9.1%	40.3%	16.7%	26.8%	2.5%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	12	38	13	24	0	90
		% 3.3%	13.3%	42.2%	14.4%	26.7%	0.0%	100.0%
	30歳代	8	12	51	26	32	0	129
		% 6.2%	9.3%	39.5%	20.2%	24.8%	0.0%	100.0%
	40歳代	8	15	82	29	48	1	183
		% 4.4%	8.2%	44.8%	15.8%	26.2%	0.5%	100.0%
	50歳代	6	20	60	34	52	0	172
	% 3.5%	11.6%	34.9%	19.8%	30.2%	0.0%	100.0%	
	60歳代	12	33	86	32	55	3	221
	% 5.4%	14.9%	38.9%	14.5%	24.9%	1.4%	100.0%	
	70歳代	19	30	97	39	49	8	242
	% 7.9%	12.4%	40.1%	16.1%	20.2%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	5	18	36	13	16	13	101
	% 5.0%	17.8%	35.6%	12.9%	15.8%	12.9%	100.0%	
国籍	日本	59	138	451	185	270	25	1128
	% 5.2%	12.2%	40.0%	16.4%	23.9%	2.2%	100.0%	
	その他	2	2	0	1	7	0	12
	% 16.7%	16.7%	0.0%	8.3%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	25	61	203	86	128	7	510
		% 4.9%	12.0%	39.8%	16.9%	25.1%	1.4%	100.0%
	中南勢地域	17	42	113	48	77	9	306
		% 5.6%	13.7%	36.9%	15.7%	25.2%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	5	12	56	19	28	1	121
	% 4.1%	9.9%	46.3%	15.7%	23.1%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	9	10	35	15	23	3	95
	% 9.5%	10.5%	36.8%	15.8%	24.2%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	4	6	24	10	17	3	64
	% 6.3%	9.4%	37.5%	15.6%	26.6%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	51	106	365	139	228	21	910
	% 5.6%	11.6%	40.1%	15.3%	25.1%	2.3%	100.0%	
	三重県外	10	34	86	47	49	5	231
	% 4.3%	14.7%	37.2%	20.3%	21.2%	2.2%	100.0%	

問4 あなたは、差別や人権問題について、家族や友人と話すことがありますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

		よくある	ときどきある	ない	無回答	合計
総数 (人)		53	568	511	14	1146
		4.6%	49.6%	44.6%	1.2%	100.0%
性別	男性	22	235	249	5	511
		4.3%	46.0%	48.7%	1.0%	100.0%
	女性	30	331	258	9	628
		4.8%	52.7%	41.1%	1.4%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	2	40	48	0	90
		2.2%	44.4%	53.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	8	66	55	0	129
		6.2%	51.2%	42.6%	0.0%	100.0%
	40歳代	10	102	70	1	183
		5.5%	55.7%	38.3%	0.5%	100.0%
	50歳代	8	103	61	0	172
	4.7%	59.9%	35.5%	0.0%	100.0%	
	60歳代	11	110	97	3	221
		5.0%	49.8%	43.9%	1.4%	100.0%
	70歳代	7	110	122	3	242
		2.9%	45.5%	50.4%	1.2%	100.0%
	80歳代以上	6	34	54	7	101
		5.9%	33.7%	53.5%	6.9%	100.0%
国籍	日本	51	560	504	13	1128
		4.5%	49.6%	44.7%	1.2%	100.0%
	その他	2	8	2	0	12
		16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	100.0%
居住地	北勢地域	21	259	228	2	510
		4.1%	50.8%	44.7%	0.4%	100.0%
	中南勢地域	14	145	140	7	306
		4.6%	47.4%	45.8%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	5	54	61	1	121
	4.1%	44.6%	50.4%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	7	55	32	1	95
		7.4%	57.9%	33.7%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	4	35	24	1	64
		6.3%	54.7%	37.5%	1.6%	100.0%
生育歴	三重県内	42	449	407	12	910
		4.6%	49.3%	44.7%	1.3%	100.0%
	三重県外	11	118	100	2	231
		4.8%	51.1%	43.3%	0.9%	100.0%

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 A. 同和問題(部落差別)は早急に解決されなければならない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 344	414	279	42	45	22	1146
		% 30.0%	36.1%	24.3%	3.7%	3.9%	1.9%	100.0%
性別	男性	152	184	113	27	27	8	511
		% 29.7%	36.0%	22.1%	5.3%	5.3%	1.6%	100.0%
	女性	189	229	165	15	16	14	628
	% 30.1%	36.5%	26.3%	2.4%	2.5%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	30	34	24	1	1	0	90
		% 33.3%	37.8%	26.7%	1.1%	1.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	41	48	32	5	3	0	129
		% 31.8%	37.2%	24.8%	3.9%	2.3%	0.0%	100.0%
	40歳代	49	70	47	10	5	2	183
		% 26.8%	38.3%	25.7%	5.5%	2.7%	1.1%	100.0%
	50歳代	46	62	51	6	7	0	172
	% 26.7%	36.0%	29.7%	3.5%	4.1%	0.0%	100.0%	
	60歳代	62	86	53	6	11	3	221
	% 28.1%	38.9%	24.0%	2.7%	5.0%	1.4%	100.0%	
	70歳代	78	80	51	13	13	7	242
	% 32.2%	33.1%	21.1%	5.4%	5.4%	2.9%	100.0%	
	80歳代以上	35	32	20	1	3	10	101
	% 34.7%	31.7%	19.8%	1.0%	3.0%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	335	411	275	42	44	21	1128
		% 29.7%	36.4%	24.4%	3.7%	3.9%	1.9%	100.0%
	その他	7	2	3	0	0	0	12
	% 58.3%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	136	198	133	17	17	9	510
		% 26.7%	38.8%	26.1%	3.3%	3.3%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	104	100	72	8	16	6	306
		% 34.0%	32.7%	23.5%	2.6%	5.2%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	30	48	27	8	7	1	121
	% 24.8%	39.7%	22.3%	6.6%	5.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	32	33	23	4	2	1	95
	% 33.7%	34.7%	24.2%	4.2%	2.1%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	25	19	13	3	1	3	64
	% 39.1%	29.7%	20.3%	4.7%	1.6%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	277	328	214	34	38	19	910
		% 30.4%	36.0%	23.5%	3.7%	4.2%	2.1%	100.0%
	三重県外	64	86	64	8	6	3	231
	% 27.7%	37.2%	27.7%	3.5%	2.6%	1.3%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 B. 同和地区の人には、引っ越ししてもらい、跡地を公園などにすればよい

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 32	39	323	207	521	24	1146
		% 2.8%	3.4%	28.2%	18.1%	45.5%	2.1%	100.0%
性別	男性	15	19	136	97	234	10	511
		% 2.9%	3.7%	26.6%	19.0%	45.8%	2.0%	100.0%
	女性	15	20	186	110	283	14	628
	% 2.4%	3.2%	29.6%	17.5%	45.1%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	1	3	28	20	38	0	90
		% 1.1%	3.3%	31.1%	22.2%	42.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	6	6	45	30	42	0	129
		% 4.7%	4.7%	34.9%	23.3%	32.6%	0.0%	100.0%
	40歳代	6	11	71	28	65	2	183
		% 3.3%	6.0%	38.8%	15.3%	35.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	6	4	45	34	82	1	172
	% 3.5%	2.3%	26.2%	19.8%	47.7%	0.6%	100.0%	
	60歳代	5	2	61	38	112	3	221
	% 2.3%	0.9%	27.6%	17.2%	50.7%	1.4%	100.0%	
	70歳代	5	8	56	41	124	8	242
	% 2.1%	3.3%	23.1%	16.9%	51.2%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	1	5	16	16	53	10	101
	% 1.0%	5.0%	15.8%	15.8%	52.5%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	28	39	320	205	513	23	1128
		% 2.5%	3.5%	28.4%	18.2%	45.5%	2.0%	100.0%
	その他	2	0	2	1	7	0	12
	% 16.7%	0.0%	16.7%	8.3%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	11	21	164	96	212	6	510
		% 2.2%	4.1%	32.2%	18.8%	41.6%	1.2%	100.0%
	中南勢地域	12	9	75	56	146	8	306
		% 3.9%	2.9%	24.5%	18.3%	47.7%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	0	2	31	27	60	1	121
	% 0.0%	1.7%	25.6%	22.3%	49.6%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	2	3	26	12	51	1	95
	% 2.1%	3.2%	27.4%	12.6%	53.7%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	3	1	14	9	33	4	64
	% 4.7%	1.6%	21.9%	14.1%	51.6%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	25	33	250	162	420	20	910
		% 2.7%	3.6%	27.5%	17.8%	46.2%	2.2%	100.0%
	三重県外	5	6	72	45	99	4	231
	% 2.2%	2.6%	31.2%	19.5%	42.9%	1.7%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 C. そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていくので、人権教育や人権啓発はしない方がよい

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 104	135	351	220	320	16	1146
		% 9.1%	11.8%	30.6%	19.2%	27.9%	1.4%	100.0%
性別	男性	47	70	139	100	148	7	511
		% 9.2%	13.7%	27.2%	19.6%	29.0%	1.4%	100.0%
	女性	56	63	211	120	169	9	628
	% 8.9%	10.0%	33.6%	19.1%	26.9%	1.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	7	28	23	29	0	90
		% 3.3%	7.8%	31.1%	25.6%	32.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	9	11	47	31	31	0	129
		% 7.0%	8.5%	36.4%	24.0%	24.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	13	27	58	40	44	1	183
		% 7.1%	14.8%	31.7%	21.9%	24.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	7	20	63	30	52	0	172
	% 4.1%	11.6%	36.6%	17.4%	30.2%	0.0%	100.0%	
	60歳代	22	21	65	48	62	3	221
	% 10.0%	9.5%	29.4%	21.7%	28.1%	1.4%	100.0%	
	70歳代	32	27	67	37	74	5	242
	% 13.2%	11.2%	27.7%	15.3%	30.6%	2.1%	100.0%	
	80歳代以上	17	20	22	10	25	7	101
	% 16.8%	19.8%	21.8%	9.9%	24.8%	6.9%	100.0%	
国籍	日本	102	133	348	218	312	15	1128
	% 9.0%	11.8%	30.9%	19.3%	27.7%	1.3%	100.0%	
	その他	1	0	2	2	7	0	12
	% 8.3%	0.0%	16.7%	16.7%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	34	56	170	109	137	4	510
		% 6.7%	11.0%	33.3%	21.4%	26.9%	0.8%	100.0%
	中南勢地域	30	35	78	57	100	6	306
		% 9.8%	11.4%	25.5%	18.6%	32.7%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	10	16	44	25	25	1	121
	% 8.3%	13.2%	36.4%	20.7%	20.7%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	12	12	22	16	31	2	95
	% 12.6%	12.6%	23.2%	16.8%	32.6%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	11	8	20	7	17	1	64
	% 17.2%	12.5%	31.3%	10.9%	26.6%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	88	110	280	170	250	12	910
	% 9.7%	12.1%	30.8%	18.7%	27.5%	1.3%	100.0%	
	三重県外	15	24	70	50	68	4	231
	% 6.5%	10.4%	30.3%	21.6%	29.4%	1.7%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 D. 子どものしつけのためには、体罰はやむをえない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 46	136	304	208	435	17	1146
		% 4.0%	11.9%	26.5%	18.2%	38.0%	1.5%	100.0%
性別	男性	25	84	160	84	150	8	511
		% 4.9%	16.4%	31.3%	16.4%	29.4%	1.6%	100.0%
	女性	20	50	141	124	284	9	628
		% 3.2%	8.0%	22.5%	19.7%	45.2%	1.4%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0
		% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	2	8	16	21	43		90
		% 2.2%	8.9%	17.8%	23.3%	47.8%	0.0%	100.0%
	30歳代	5	12	40	21	51		129
		% 3.9%	9.3%	31.0%	16.3%	39.5%	0.0%	100.0%
	40歳代	5	21	59	34	63	1	183
		% 2.7%	11.5%	32.2%	18.6%	34.4%	0.5%	100.0%
	50歳代	7	18	41	34	72		172
	% 4.1%	10.5%	23.8%	19.8%	41.9%	0.0%	100.0%	
	60歳代	7	25	58	47	81	3	221
		% 3.2%	11.3%	26.2%	21.3%	36.7%	1.4%	100.0%
	70歳代	14	32	67	35	88	6	242
		% 5.8%	13.2%	27.7%	14.5%	36.4%	2.5%	100.0%
	80歳代以上	5	18	20	16	35	7	101
		% 5.0%	17.8%	19.8%	15.8%	34.7%	6.9%	100.0%
国籍	日本	44	133	300	207	428	16	1128
		% 3.9%	11.8%	26.6%	18.4%	37.9%	1.4%	100.0%
	その他	1	2	1	1	7		12
		% 8.3%	16.7%	8.3%	8.3%	58.3%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	15	59	143	103	187	3	510
		% 2.9%	11.6%	28.0%	20.2%	36.7%	0.6%	100.0%
	中南勢地域	16	34	75	46	128	7	306
		% 5.2%	11.1%	24.5%	15.0%	41.8%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	6	17	36	22	39	1	121
	% 5.0%	14.0%	29.8%	18.2%	32.2%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	4	10	22	18	40	1	95
		% 4.2%	10.5%	23.2%	18.9%	42.1%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	4	9	12	12	25	2	64
		% 6.3%	14.1%	18.8%	18.8%	39.1%	3.1%	100.0%
生育歴	三重県内	38	103	249	157	349	14	910
		% 4.2%	11.3%	27.4%	17.3%	38.4%	1.5%	100.0%
	三重県外	7	32	53	51	85	3	231
		% 3.0%	13.9%	22.9%	22.1%	36.8%	1.3%	100.0%

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 E. 子育ての期間は、母親だけが育児に専念すべきだ

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 15	30	112	155	814	20	1146
		% 1.3%	2.6%	9.8%	13.5%	71.0%	1.7%	100.0%
性別	男性	4	14	60	88	337	8	511
		% 0.8%	2.7%	11.7%	17.2%	65.9%	1.6%	100.0%
	女性	10	16	51	66	473	12	628
		% 1.6%	2.5%	8.1%	10.5%	75.3%	1.9%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0
		% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	0	1	2	12	75	0	90
		% 0.0%	1.1%	2.2%	13.3%	83.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	4	1	5	16	103	0	129
		% 3.1%	0.8%	3.9%	12.4%	79.8%	0.0%	100.0%
	40歳代	0	4	19	18	141	1	183
		% 0.0%	2.2%	10.4%	9.8%	77.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	0	3	15	25	129	0	172
	% 0.0%	1.7%	8.7%	14.5%	75.0%	0.0%	100.0%	
	60歳代	1	6	20	33	157	4	221
		% 0.5%	2.7%	9.0%	14.9%	71.0%	1.8%	100.0%
	70歳代	8	7	36	32	152	7	242
		% 3.3%	2.9%	14.9%	13.2%	62.8%	2.9%	100.0%
	80歳代以上	1	8	14	18	52	8	101
		% 1.0%	7.9%	13.9%	17.8%	51.5%	7.9%	100.0%
国籍	日本	12	29	111	153	804	19	1128
		% 1.1%	2.6%	9.8%	13.6%	71.3%	1.7%	100.0%
	その他	2	1	0	1	8	0	12
		% 16.7%	8.3%	0.0%	8.3%	66.7%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	5	10	47	62	381	5	510
		% 1.0%	2.0%	9.2%	12.2%	74.7%	1.0%	100.0%
	中南勢地域	6	9	26	39	220	6	306
		% 2.0%	2.9%	8.5%	12.7%	71.9%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	1	7	16	23	72	2	121
	% 0.8%	5.8%	13.2%	19.0%	59.5%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	1	2	11	14	66	1	95
		% 1.1%	2.1%	11.6%	14.7%	69.5%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	1	1	7	12	40	3	64
		% 1.6%	1.6%	10.9%	18.8%	62.5%	4.7%	100.0%
生育歴	三重県内	11	24	84	122	652	17	910
		% 1.2%	2.6%	9.2%	13.4%	71.6%	1.9%	100.0%
	三重県外	3	6	27	32	160	3	231
		% 1.3%	2.6%	11.7%	13.9%	69.3%	1.3%	100.0%

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 F. 議会で女性議員の割合が低いのは問題だ

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 259	278	386	97	110	16	1146
		% 22.6%	24.3%	33.7%	8.5%	9.6%	1.4%	100.0%
性別	男性	112	119	167	51	54	8	511
		% 21.9%	23.3%	32.7%	10.0%	10.6%	1.6%	100.0%
	女性	145	157	219	45	54	8	628
	% 23.1%	25.0%	34.9%	7.2%	8.6%	1.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	11	23	37	12	7	0	90
		% 12.2%	25.6%	41.1%	13.3%	7.8%	0.0%	100.0%
	30歳代	28	30	48	13	10	0	129
		% 21.7%	23.3%	37.2%	10.1%	7.8%	0.0%	100.0%
	40歳代	32	55	70	13	12	1	183
		% 17.5%	30.1%	38.3%	7.1%	6.6%	0.5%	100.0%
	50歳代	42	46	55	10	18	1	172
	% 24.4%	26.7%	32.0%	5.8%	10.5%	0.6%	100.0%	
	60歳代	59	53	63	16	27	3	221
	% 26.7%	24.0%	28.5%	7.2%	12.2%	1.4%	100.0%	
	70歳代	64	51	81	17	24	5	242
	% 26.4%	21.1%	33.5%	7.0%	9.9%	2.1%	100.0%	
	80歳代以上	21	18	31	15	10	6	101
	% 20.8%	17.8%	30.7%	14.9%	9.9%	5.9%	100.0%	
国籍	日本	253	270	386	96	108	15	1128
		% 22.4%	23.9%	34.2%	8.5%	9.6%	1.3%	100.0%
	その他	5	6	0	0	1	0	12
	% 41.7%	50.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	104	144	173	43	43	3	510
		% 20.4%	28.2%	33.9%	8.4%	8.4%	0.6%	100.0%
	中南勢地域	78	68	97	27	30	6	306
		% 25.5%	22.2%	31.7%	8.8%	9.8%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	29	25	41	7	18	1	121
	% 24.0%	20.7%	33.9%	5.8%	14.9%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	23	23	34	5	9	1	95
	% 24.2%	24.2%	35.8%	5.3%	9.5%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	15	7	26	8	5	3	64
	% 23.4%	10.9%	40.6%	12.5%	7.8%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	209	205	324	71	88	13	910
		% 23.0%	22.5%	35.6%	7.8%	9.7%	1.4%	100.0%
	三重県外	48	72	62	25	21	3	231
	% 20.8%	31.2%	26.8%	10.8%	9.1%	1.3%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 G. 障がい児・者に対する虐待は許されない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 963	101	29	7	32	14	1146
		% 84.0%	8.8%	2.5%	0.6%	2.8%	1.2%	100.0%
性別	男性	423	51	13	3	14	7	511
		% 82.8%	10.0%	2.5%	0.6%	2.7%	1.4%	100.0%
	女性	536	50	15	3	17	7	628
	% 85.4%	8.0%	2.4%	0.5%	2.7%	1.1%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	70	11	5	0	4	0	90
		% 77.8%	12.2%	5.6%	0.0%	4.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	107	16	4	0	2	0	129
		% 82.9%	12.4%	3.1%	0.0%	1.6%	0.0%	100.0%
	40歳代	155	18	2	1	6	1	183
		% 84.7%	9.8%	1.1%	0.5%	3.3%	0.5%	100.0%
	50歳代	152	13	2	0	5	0	172
	% 88.4%	7.6%	1.2%	0.0%	2.9%	0.0%	100.0%	
	60歳代	190	19	3	2	5	2	221
	% 86.0%	8.6%	1.4%	0.9%	2.3%	0.9%	100.0%	
	70歳代	208	16	7	2	5	4	242
	% 86.0%	6.6%	2.9%	0.8%	2.1%	1.7%	100.0%	
	80歳代以上	76	8	5	1	4	7	101
	% 75.2%	7.9%	5.0%	1.0%	4.0%	6.9%	100.0%	
国籍	日本	951	100	28	6	30	13	1128
		% 84.3%	8.9%	2.5%	0.5%	2.7%	1.2%	100.0%
	その他	9	1	1	0	1	0	12
	% 75.0%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	429	47	14	2	15	3	510
		% 84.1%	9.2%	2.7%	0.4%	2.9%	0.6%	100.0%
	中南勢地域	257	28	6	2	7	6	306
		% 84.0%	9.2%	2.0%	0.7%	2.3%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	101	11	4	1	3	1	121
	% 83.5%	9.1%	3.3%	0.8%	2.5%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	83	6	3	0	2	1	95
	% 87.4%	6.3%	3.2%	0.0%	2.1%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	55	4	1	1	2	1	64
	% 85.9%	6.3%	1.6%	1.6%	3.1%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	769	78	21	5	26	11	910
		% 84.5%	8.6%	2.3%	0.5%	2.9%	1.2%	100.0%
	三重県外	191	23	8	1	5	3	231
	% 82.7%	10.0%	3.5%	0.4%	2.2%	1.3%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 H. 外国人が仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 43	105	286	276	414	22	1146
		% 3.8%	9.2%	25.0%	24.1%	36.1%	1.9%	100.0%
性別	男性	22	51	137	120	172	9	511
		% 4.3%	10.0%	26.8%	23.5%	33.7%	1.8%	100.0%
	女性	20	54	145	154	242	13	628
	% 3.2%	8.6%	23.1%	24.5%	38.5%	2.1%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	2	8	18	23	39	0	90
		% 2.2%	8.9%	20.0%	25.6%	43.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	5	12	25	42	44	1	129
		% 3.9%	9.3%	19.4%	32.6%	34.1%	0.8%	100.0%
	40歳代	4	16	37	52	72	2	183
		% 2.2%	8.7%	20.2%	28.4%	39.3%	1.1%	100.0%
	50歳代	4	12	49	33	73	1	172
	% 2.3%	7.0%	28.5%	19.2%	42.4%	0.6%	100.0%	
	60歳代	7	21	55	53	83	2	221
	% 3.2%	9.5%	24.9%	24.0%	37.6%	0.9%	100.0%	
	70歳代	16	25	70	51	72	8	242
	% 6.6%	10.3%	28.9%	21.1%	29.8%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	4	11	28	19	31	8	101
	% 4.0%	10.9%	27.7%	18.8%	30.7%	7.9%	100.0%	
国籍	日本	40	102	283	275	407	21	1128
		% 3.5%	9.0%	25.1%	24.4%	36.1%	1.9%	100.0%
	その他	2	2	1	0	7	0	12
	% 16.7%	16.7%	8.3%	0.0%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	15	45	122	138	183	7	510
		% 2.9%	8.8%	23.9%	27.1%	35.9%	1.4%	100.0%
	中南勢地域	15	23	83	60	121	4	306
		% 4.9%	7.5%	27.1%	19.6%	39.5%	1.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	5	14	35	27	38	2	121
	% 4.1%	11.6%	28.9%	22.3%	31.4%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	3	10	21	27	31	3	95
	% 3.2%	10.5%	22.1%	28.4%	32.6%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	3	6	12	13	28	2	64
	% 4.7%	9.4%	18.8%	20.3%	43.8%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	37	81	233	214	328	17	910
		% 4.1%	8.9%	25.6%	23.5%	36.0%	1.9%	100.0%
	三重県外	4	24	51	61	86	5	231
	% 1.7%	10.4%	22.1%	26.4%	37.2%	2.2%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 1. 私は友人がHIVに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っていける

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 288	311	415	61	47	24	1146
		% 25.1%	27.1%	36.2%	5.3%	4.1%	2.1%	100.0%
性別	男性	125	127	191	36	21	11	511
		% 24.5%	24.9%	37.4%	7.0%	4.1%	2.2%	100.0%
	女性	163	182	220	25	25	13	628
	% 26.0%	29.0%	35.0%	4.0%	4.0%	2.1%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	38	32	14	1	5	0	90
		% 42.2%	35.6%	15.6%	1.1%	5.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	46	41	34	3	4	1	129
		% 35.7%	31.8%	26.4%	2.3%	3.1%	0.8%	100.0%
	40歳代	54	57	59	8	4	1	183
		% 29.5%	31.1%	32.2%	4.4%	2.2%	0.5%	100.0%
	50歳代	53	51	52	7	8	1	172
	% 30.8%	29.7%	30.2%	4.1%	4.7%	0.6%	100.0%	
	60歳代	42	52	104	15	7	1	221
	% 19.0%	23.5%	47.1%	6.8%	3.2%	0.5%	100.0%	
	70歳代	38	52	109	20	12	11	242
	% 15.7%	21.5%	45.0%	8.3%	5.0%	4.5%	100.0%	
	80歳代以上	16	24	39	7	6	9	101
	% 15.8%	23.8%	38.6%	6.9%	5.9%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	280	308	410	61	46	23	1128
		% 24.8%	27.3%	36.3%	5.4%	4.1%	2.0%	100.0%
	その他	7	1	4	0	0	0	12
	% 58.3%	8.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	135	153	167	29	17	9	510
		% 26.5%	30.0%	32.7%	5.7%	3.3%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	78	82	110	15	15	6	306
		% 25.5%	26.8%	35.9%	4.9%	4.9%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	30	34	49	4	3	1	121
	% 24.8%	28.1%	40.5%	3.3%	2.5%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	23	17	39	10	4	2	95
	% 24.2%	17.9%	41.1%	10.5%	4.2%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	15	16	24	3	4	2	64
	% 23.4%	25.0%	37.5%	4.7%	6.3%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	236	247	324	45	39	19	910
		% 25.9%	27.1%	35.6%	4.9%	4.3%	2.1%	100.0%
	三重県外	51	62	90	16	7	5	231
	% 22.1%	26.8%	39.0%	6.9%	3.0%	2.2%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 J. 家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 345	328	337	67	35	34	1146
		% 30.1%	28.6%	29.4%	5.8%	3.1%	3.0%	100.0%
性別	男性	118	151	165	40	21	16	511
		% 23.1%	29.5%	32.3%	7.8%	4.1%	3.1%	100.0%
	女性	226	173	171	27	13	18	628
	% 36.0%	27.5%	27.2%	4.3%	2.1%	2.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	38	37	13	2	0	0	90
		% 42.2%	41.1%	14.4%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	50	43	25	6	4	1	129
		% 38.8%	33.3%	19.4%	4.7%	3.1%	0.8%	100.0%
	40歳代	71	58	41	7	4	2	183
		% 38.8%	31.7%	22.4%	3.8%	2.2%	1.1%	100.0%
	50歳代	65	47	49	5	4	2	172
	% 37.8%	27.3%	28.5%	2.9%	2.3%	1.2%	100.0%	
	60歳代	53	70	77	11	8	2	221
	% 24.0%	31.7%	34.8%	5.0%	3.6%	0.9%	100.0%	
	70歳代	54	46	96	25	8	13	242
	% 22.3%	19.0%	39.7%	10.3%	3.3%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	12	23	35	11	6	14	101
	% 11.9%	22.8%	34.7%	10.9%	5.9%	13.9%	100.0%	
国籍	日本	337	324	333	67	34	33	1128
		% 29.9%	28.7%	29.5%	5.9%	3.0%	2.9%	100.0%
	その他	8	1	3	0	0	0	12
	% 66.7%	8.3%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	152	157	137	31	20	13	510
		% 29.8%	30.8%	26.9%	6.1%	3.9%	2.5%	100.0%
	中南勢地域	97	93	81	19	6	10	306
		% 31.7%	30.4%	26.5%	6.2%	2.0%	3.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	36	34	42	6	1	2	121
	% 29.8%	28.1%	34.7%	5.0%	0.8%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	28	17	39	5	3	3	95
	% 29.5%	17.9%	41.1%	5.3%	3.2%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	24	14	19	3	2	2	64
	% 37.5%	21.9%	29.7%	4.7%	3.1%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	285	247	277	49	25	27	910
		% 31.3%	27.1%	30.4%	5.4%	2.7%	3.0%	100.0%
	三重県外	59	78	60	18	9	7	231
	% 25.5%	33.8%	26.0%	7.8%	3.9%	3.0%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 K. 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 52	173	333	247	316	25	1146
		% 4.5%	15.1%	29.1%	21.6%	27.6%	2.2%	100.0%
性別	男性	24	80	142	110	144	11	511
		% 4.7%	15.7%	27.8%	21.5%	28.2%	2.2%	100.0%
	女性	27	91	189	135	172	14	628
	% 4.3%	14.5%	30.1%	21.5%	27.4%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	4	19	24	21	22		90
		% 4.4%	21.1%	26.7%	23.3%	24.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	4	23	32	40	29	1	129
		% 3.1%	17.8%	24.8%	31.0%	22.5%	0.8%	100.0%
	40歳代	7	39	56	36	43	2	183
		% 3.8%	21.3%	30.6%	19.7%	23.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	8	22	67	34	40	1	172
	% 4.7%	12.8%	39.0%	19.8%	23.3%	0.6%	100.0%	
	60歳代	7	28	58	48	78	2	221
	% 3.2%	12.7%	26.2%	21.7%	35.3%	0.9%	100.0%	
	70歳代	15	26	70	45	78	8	242
	% 6.2%	10.7%	28.9%	18.6%	32.2%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	6	14	24	20	26	11	101
	% 5.9%	13.9%	23.8%	19.8%	25.7%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	50	167	329	246	312	24	1128
	% 4.4%	14.8%	29.2%	21.8%	27.7%	2.1%	100.0%	
	その他	1	3	3	1	4		12
	% 8.3%	25.0%	25.0%	8.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	18	89	157	105	133	8	510
		% 3.5%	17.5%	30.8%	20.6%	26.1%	1.6%	100.0%
	中南勢地域	17	44	85	64	89	7	306
		% 5.6%	14.4%	27.8%	20.9%	29.1%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	8	18	37	27	30	1	121
	% 6.6%	14.9%	30.6%	22.3%	24.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	4	12	28	20	29	2	95
	% 4.2%	12.6%	29.5%	21.1%	30.5%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	1	5	17	17	21	3	64
	% 1.6%	7.8%	26.6%	26.6%	32.8%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	45	138	261	191	255	20	910
	% 4.9%	15.2%	28.7%	21.0%	28.0%	2.2%	100.0%	
	三重県外	6	33	71	56	60	5	231
	% 2.6%	14.3%	30.7%	24.2%	26.0%	2.2%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 L. 災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 39	87	215	303	477	25	1146
		% 3.4%	7.6%	18.8%	26.4%	41.6%	2.2%	100.0%
性別	男性	21	43	103	129	205	10	511
		% 4.1%	8.4%	20.2%	25.2%	40.1%	2.0%	100.0%
	女性	16	43	110	173	271	15	628
	% 2.5%	6.8%	17.5%	27.5%	43.2%	2.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	4	12	19	24	31	0	90
		% 4.4%	13.3%	21.1%	26.7%	34.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	4	12	28	46	38	1	129
		% 3.1%	9.3%	21.7%	35.7%	29.5%	0.8%	100.0%
	40歳代	9	19	37	53	63	2	183
		% 4.9%	10.4%	20.2%	29.0%	34.4%	1.1%	100.0%
	50歳代	3	8	29	51	80	1	172
	% 1.7%	4.7%	16.9%	29.7%	46.5%	0.6%	100.0%	
	60歳代	5	11	38	63	102	2	221
	% 2.3%	5.0%	17.2%	28.5%	46.2%	0.9%	100.0%	
	70歳代	7	11	45	48	121	10	242
	% 2.9%	4.5%	18.6%	19.8%	50.0%	4.1%	100.0%	
	80歳代以上	5	12	17	17	41	9	101
	% 5.0%	11.9%	16.8%	16.8%	40.6%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	36	85	212	301	470	24	1128
	% 3.2%	7.5%	18.8%	26.7%	41.7%	2.1%	100.0%	
	その他	1	1	2	1	7	0	12
	% 8.3%	8.3%	16.7%	8.3%	58.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	18	34	88	144	217	9	510
		% 3.5%	6.7%	17.3%	28.2%	42.5%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	8	30	54	79	128	7	306
		% 2.6%	9.8%	17.6%	25.8%	41.8%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	5	8	27	36	44	1	121
	% 4.1%	6.6%	22.3%	29.8%	36.4%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	3	4	20	22	44	2	95
	% 3.2%	4.2%	21.1%	23.2%	46.3%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	2	6	14	10	30	2	64
	% 3.1%	9.4%	21.9%	15.6%	46.9%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	33	66	169	238	385	19	910
	% 3.6%	7.3%	18.6%	26.2%	42.3%	2.1%	100.0%	
	三重県外	4	20	45	65	91	6	231
	% 1.7%	8.7%	19.5%	28.1%	39.4%	2.6%	100.0%	

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見がありますが、あなたはどのように思いますか。A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問5 M. 原発事故の被災者を避けようとするのはおかしい

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	思わない	無回答	合計
総数		(人) 793	169	91	24	45	24	1146
		% 69.2%	14.7%	7.9%	2.1%	3.9%	2.1%	100.0%
性別	男性	336	86	40	13	24	12	511
		% 65.8%	16.8%	7.8%	2.5%	4.7%	2.3%	100.0%
	女性	452	83	50	11	20	12	628
	% 72.0%	13.2%	8.0%	1.8%	3.2%	1.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	58	14	13	3	2	0	90
		% 64.4%	15.6%	14.4%	3.3%	2.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	91	28	9	0	0	1	129
		% 70.5%	21.7%	7.0%	0.0%	0.0%	0.8%	100.0%
	40歳代	142	27	7	2	2	3	183
		% 77.6%	14.8%	3.8%	1.1%	1.1%	1.6%	100.0%
	50歳代	127	21	11	5	7	1	172
	% 73.8%	12.2%	6.4%	2.9%	4.1%	0.6%	100.0%	
	60歳代	153	37	15	1	13	2	221
	% 69.2%	16.7%	6.8%	0.5%	5.9%	0.9%	100.0%	
	70歳代	162	25	27	8	13	7	242
	% 66.9%	10.3%	11.2%	3.3%	5.4%	2.9%	100.0%	
	80歳代以上	54	17	8	5	7	10	101
	% 53.5%	16.8%	7.9%	5.0%	6.9%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	785	166	90	23	41	23	1128
		% 69.6%	14.7%	8.0%	2.0%	3.6%	2.0%	100.0%
	その他	5	3	1	0	3	0	12
	% 41.7%	25.0%	8.3%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	366	74	37	11	14	8	510
		% 71.8%	14.5%	7.3%	2.2%	2.7%	1.6%	100.0%
	中南勢地域	202	51	29	3	14	7	306
		% 66.0%	16.7%	9.5%	1.0%	4.6%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	88	18	10	1	3	1	121
	% 72.7%	14.9%	8.3%	0.8%	2.5%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	63	12	10	4	4	2	95
	% 66.3%	12.6%	10.5%	4.2%	4.2%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	48	5	2	3	4	2	64
	% 75.0%	7.8%	3.1%	4.7%	6.3%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	631	130	74	19	38	18	910
		% 69.3%	14.3%	8.1%	2.1%	4.2%	2.0%	100.0%
	三重県外	159	39	17	5	5	6	231
	% 68.8%	16.9%	7.4%	2.2%	2.2%	2.6%	100.0%	

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Eについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問6 A. 同和問題(部落差別)

		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなるならない	差別はない	わからない	無回答	合計
総数		(人) 362	326	118	315	25	1146
		% 31.6%	28.4%	10.3%	27.5%	2.2%	100.0%
性別	男性	164	158	59	118	12	511
		% 32.1%	30.9%	11.5%	23.1%	2.3%	100.0%
	女性	197	166	57	195	13	628
	% 31.4%	26.4%	9.1%	31.1%	2.1%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	30	24	4	31	1	90
		% 33.3%	26.7%	4.4%	34.4%	1.1%	100.0%
	30歳代	45	39	6	38	1	129
		% 34.9%	30.2%	4.7%	29.5%	0.8%	100.0%
	40歳代	47	62	14	59	1	183
		% 25.7%	33.9%	7.7%	32.2%	0.5%	100.0%
	50歳代	60	60	10	39	3	172
	% 34.9%	34.9%	5.8%	22.7%	1.7%	100.0%	
	60歳代	74	80	16	50	1	221
	% 33.5%	36.2%	7.2%	22.6%	0.5%	100.0%	
	70歳代	73	38	47	73	11	242
	% 30.2%	15.7%	19.4%	30.2%	4.5%	100.0%	
	80歳代以上	31	21	19	23	7	101
	% 30.7%	20.8%	18.8%	22.8%	6.9%	100.0%	
国籍	日本	359	323	114	307	25	1128
		% 31.8%	28.6%	10.1%	27.2%	2.2%	100.0%
	その他	2	2	2	6	0	12
	% 16.7%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	151	152	45	152	10	510
		% 29.6%	29.8%	8.8%	29.8%	2.0%	100.0%
	中南勢地域	100	78	31	92	5	306
		% 32.7%	25.5%	10.1%	30.1%	1.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	41	41	12	26	1	121
	% 33.9%	33.9%	9.9%	21.5%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	30	31	9	22	3	95
	% 31.6%	32.6%	9.5%	23.2%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	26	11	10	14	3	64
	% 40.6%	17.2%	15.6%	21.9%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	305	254	95	236	20	910
		% 33.5%	27.9%	10.4%	25.9%	2.2%	100.0%
	三重県外	57	71	21	77	5	231
	% 24.7%	30.7%	9.1%	33.3%	2.2%	100.0%	

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Eについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問6 B. 女性差別

		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなるならない	差別はない	わからない	無回答	合計
総数		(人) 396	393	176	154	27	1146
		% 34.6%	34.3%	15.4%	13.4%	2.4%	100.0%
性別	男性	198	120	111	69	13	511
		% 38.7%	23.5%	21.7%	13.5%	2.5%	100.0%
	女性	197	270	64	83	14	628
	% 31.4%	43.0%	10.2%	13.2%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	39	35	5	11	0	90
		% 43.3%	38.9%	5.6%	12.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	51	60	6	11	1	129
		% 39.5%	46.5%	4.7%	8.5%	0.8%	100.0%
	40歳代	54	89	20	19	1	183
		% 29.5%	48.6%	10.9%	10.4%	0.5%	100.0%
	50歳代	59	70	18	22	3	172
	% 34.3%	40.7%	10.5%	12.8%	1.7%	100.0%	
	60歳代	84	78	36	21	2	221
	% 38.0%	35.3%	16.3%	9.5%	0.9%	100.0%	
	70歳代	75	47	66	44	10	242
	% 31.0%	19.4%	27.3%	18.2%	4.1%	100.0%	
	80歳代以上	33	11	23	24	10	101
	% 32.7%	10.9%	22.8%	23.8%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	393	384	173	152	26	1128
		% 34.8%	34.0%	15.3%	13.5%	2.3%	100.0%
	その他	2	7	2	1	0	12
	% 16.7%	58.3%	16.7%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	169	194	70	69	8	510
		% 33.1%	38.0%	13.7%	13.5%	1.6%	100.0%
	中南勢地域	126	88	42	41	9	306
		% 41.2%	28.8%	13.7%	13.4%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	40	42	24	14	1	121
	% 33.1%	34.7%	19.8%	11.6%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	28	36	17	13	1	95
	% 29.5%	37.9%	17.9%	13.7%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	22	16	11	10	5	64
	% 34.4%	25.0%	17.2%	15.6%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	302	312	148	127	21	910
		% 33.2%	34.3%	16.3%	14.0%	2.3%	100.0%
	三重県外	93	79	27	26	6	231
	% 40.3%	34.2%	11.7%	11.3%	2.6%	100.0%	

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Eについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問6 C. 障がい者差別

		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなるならない	差別はない	わからない	無回答	合計
総数		(人) 382	452	133	151	28	1146
		% 33.3%	39.4%	11.6%	13.2%	2.4%	100.0%
性別	男性	198	162	74	64	13	511
		% 38.7%	31.7%	14.5%	12.5%	2.5%	100.0%
	女性	183	287	58	85	15	628
	% 29.1%	45.7%	9.2%	13.5%	2.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	25	54	2	9		90
		% 27.8%	60.0%	2.2%	10.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	43	68	6	11	1	129
		% 33.3%	52.7%	4.7%	8.5%	0.8%	100.0%
	40歳代	54	91	9	28	1	183
		% 29.5%	49.7%	4.9%	15.3%	0.5%	100.0%
	50歳代	56	80	11	22	3	172
	% 32.6%	46.5%	6.4%	12.8%	1.7%	100.0%	
	60歳代	85	86	25	23	2	221
	% 38.5%	38.9%	11.3%	10.4%	0.9%	100.0%	
	70歳代	93	48	53	38	10	242
	% 38.4%	19.8%	21.9%	15.7%	4.1%	100.0%	
	80歳代以上	25	22	25	18	11	101
	% 24.8%	21.8%	24.8%	17.8%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	379	444	129	149	27	1128
		% 33.6%	39.4%	11.4%	13.2%	2.4%	100.0%
	その他	2	6	3	1		12
	% 16.7%	50.0%	25.0%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	170	218	45	68	9	510
		% 33.3%	42.7%	8.8%	13.3%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	108	111	36	42	9	306
		% 35.3%	36.3%	11.8%	13.7%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	38	55	13	12	3	121
	% 31.4%	45.5%	10.7%	9.9%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	35	32	15	12	1	95
	% 36.8%	33.7%	15.8%	12.6%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	23	14	13	12	2	64
	% 35.9%	21.9%	20.3%	18.8%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	290	363	112	124	21	910
		% 31.9%	39.9%	12.3%	13.6%	2.3%	100.0%
	三重県外	91	87	20	26	7	231
	% 39.4%	37.7%	8.7%	11.3%	3.0%	100.0%	

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Eについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問6 D. 外国人差別

		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなるならない	差別はない	わからない	無回答	合計
総数		(人) 349	415	122	231	29	1146
		% 30.5%	36.2%	10.6%	20.2%	2.5%	100.0%
性別	男性	177	165	67	90	12	511
		% 34.6%	32.3%	13.1%	17.6%	2.3%	100.0%
	女性	172	247	54	138	17	628
	% 27.4%	39.3%	8.6%	22.0%	2.7%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	30	40	6	14	0	90
		% 33.3%	44.4%	6.7%	15.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	45	64	4	15	1	129
		% 34.9%	49.6%	3.1%	11.6%	0.8%	100.0%
	40歳代	59	83	9	31	1	183
		% 32.2%	45.4%	4.9%	16.9%	0.5%	100.0%
	50歳代	51	69	16	33	3	172
	% 29.7%	40.1%	9.3%	19.2%	1.7%	100.0%	
	60歳代	74	88	21	36	2	221
	% 33.5%	39.8%	9.5%	16.3%	0.9%	100.0%	
	70歳代	63	50	49	67	13	242
	% 26.0%	20.7%	20.2%	27.7%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	27	18	16	31	9	101
	% 26.7%	17.8%	15.8%	30.7%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	346	408	118	228	28	1128
		% 30.7%	36.2%	10.5%	20.2%	2.5%	100.0%
	その他	2	5	3	2	0	12
	% 16.7%	41.7%	25.0%	16.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	158	210	42	91	9	510
		% 31.0%	41.2%	8.2%	17.8%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	101	102	27	66	10	306
		% 33.0%	33.3%	8.8%	21.6%	3.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	29	45	14	31	2	121
	% 24.0%	37.2%	11.6%	25.6%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	31	28	14	21	1	95
	% 32.6%	29.5%	14.7%	22.1%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	18	14	16	14	2	64
	% 28.1%	21.9%	25.0%	21.9%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	266	335	104	183	22	910
		% 29.2%	36.8%	11.4%	20.1%	2.4%	100.0%
	三重県外	82	78	17	47	7	231
	% 35.5%	33.8%	7.4%	20.3%	3.0%	100.0%	

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Eについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問6 E. 刑を終えた人たちやその家族への差別

		差別はあるが、解決に向かう	差別があり、なくなるならない	差別はない	わからない	無回答	合計
総数		(人) 212	518	82	309	25	1146
		% 18.5%	45.2%	7.2%	27.0%	2.2%	100.0%
性別	男性	107	219	45	129	11	511
		% 20.9%	42.9%	8.8%	25.2%	2.2%	100.0%
	女性	104	295	37	178	14	628
	% 16.6%	47.0%	5.9%	28.3%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	16	52	2	20	0	90
		% 17.8%	57.8%	2.2%	22.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	20	74	4	30	1	129
		% 15.5%	57.4%	3.1%	23.3%	0.8%	100.0%
	40歳代	25	113	1	43	1	183
		% 13.7%	61.7%	0.5%	23.5%	0.5%	100.0%
	50歳代	28	89	7	46	2	172
	% 16.3%	51.7%	4.1%	26.7%	1.2%	100.0%	
	60歳代	50	102	15	52	2	221
	% 22.6%	46.2%	6.8%	23.5%	0.9%	100.0%	
	70歳代	50	59	39	86	8	242
	% 20.7%	24.4%	16.1%	35.5%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	22	25	14	29	11	101
	% 21.8%	24.8%	13.9%	28.7%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	210	508	79	307	24	1128
		% 18.6%	45.0%	7.0%	27.2%	2.1%	100.0%
	その他	1	6	3	2	0	12
	% 8.3%	50.0%	25.0%	16.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	88	250	24	141	7	510
		% 17.3%	49.0%	4.7%	27.6%	1.4%	100.0%
	中南勢地域	55	131	26	85	9	306
		% 18.0%	42.8%	8.5%	27.8%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	27	58	7	28	1	121
	% 22.3%	47.9%	5.8%	23.1%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	22	37	8	27	1	95
	% 23.2%	38.9%	8.4%	28.4%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	9	22	10	20	3	64
	% 14.1%	34.4%	15.6%	31.3%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	175	405	69	241	20	910
		% 19.2%	44.5%	7.6%	26.5%	2.2%	100.0%
	三重県外	37	109	13	67	5	231
	% 16.0%	47.2%	5.6%	29.0%	2.2%	100.0%	

問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問7 A. 相手の家族の病歴や障がいの有無

		調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	無回答	合計
総数		(人) 108	531	482	25	1146
		% 9.4%	46.3%	42.1%	2.2%	100.0%
性別	男性	52	236	214	9	511
		% 10.2%	46.2%	41.9%	1.8%	100.0%
	女性	54	292	266	16	628
	% 8.6%	46.5%	42.4%	2.5%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	8	42	40	0	90
		% 8.9%	46.7%	44.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	14	47	67	1	129
		% 10.9%	36.4%	51.9%	0.8%	100.0%
	40歳代	11	82	89	1	183
		% 6.0%	44.8%	48.6%	0.5%	100.0%
	50歳代	11	73	85	3	172
	% 6.4%	42.4%	49.4%	1.7%	100.0%	
	60歳代	18	100	103	0	221
	% 8.1%	45.2%	46.6%	0.0%	100.0%	
	70歳代	31	129	73	9	242
	% 12.8%	53.3%	30.2%	3.7%	100.0%	
	80歳代以上	13	54	23	11	101
	% 12.9%	53.5%	22.8%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	105	524	475	24	1128
		% 9.3%	46.5%	42.1%	2.1%	100.0%
	その他	1	5	6	0	12
	% 8.3%	41.7%	50.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	40	250	211	9	510
		% 7.8%	49.0%	41.4%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	32	137	129	8	306
		% 10.5%	44.8%	42.2%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	15	50	55	1	121
	% 12.4%	41.3%	45.5%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	9	43	42	1	95
	% 9.5%	45.3%	44.2%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	7	30	26	1	64
	% 10.9%	46.9%	40.6%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	87	415	387	21	910
		% 9.6%	45.6%	42.5%	2.3%	100.0%
	三重県外	19	114	94	4	231
	% 8.2%	49.4%	40.7%	1.7%	100.0%	

問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問7 B. 相手の家族の職業や学歴

		調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	無回答	合計
総数 (人)		97	429	591	29	1146
		8.5%	37.4%	51.6%	2.5%	100.0%
性別	男性	52	203	243	13	511
		10.2%	39.7%	47.6%	2.5%	100.0%
	女性	43	223	346	16	628
		6.8%	35.5%	55.1%	2.5%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	12	37	41	0	90
		13.3%	41.1%	45.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	11	48	68	2	129
		8.5%	37.2%	52.7%	1.6%	100.0%
	40歳代	17	69	96	1	183
		9.3%	37.7%	52.5%	0.5%	100.0%
	50歳代	9	72	87	4	172
	5.2%	41.9%	50.6%	2.3%	100.0%	
	60歳代	17	65	138	1	221
		7.7%	29.4%	62.4%	0.5%	100.0%
	70歳代	22	90	121	9	242
		9.1%	37.2%	50.0%	3.7%	100.0%
	80歳代以上	7	44	38	12	101
		6.9%	43.6%	37.6%	11.9%	100.0%
国籍	日本	94	425	581	28	1128
		8.3%	37.7%	51.5%	2.5%	100.0%
	その他	1	3	8	0	12
		8.3%	25.0%	66.7%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	43	201	255	11	510
		8.4%	39.4%	50.0%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	30	109	158	9	306
		9.8%	35.6%	51.6%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	8	45	66	2	121
	6.6%	37.2%	54.5%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	9	31	54	1	95
		9.5%	32.6%	56.8%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	4	24	34	2	64
		6.3%	37.5%	53.1%	3.1%	100.0%
生育歴	三重県内	79	325	482	24	910
		8.7%	35.7%	53.0%	2.6%	100.0%
	三重県外	16	103	107	5	231
		6.9%	44.6%	46.3%	2.2%	100.0%

問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問7 C. 相手の家族の収入、資産

		調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	無回答	合計	
総数 (人)		70	361	689	26	1146	
		%	6.1%	31.5%	60.1%	2.3%	100.0%
性別	男性	34	172	295	10	511	
		%	6.7%	33.7%	57.7%	2.0%	100.0%
	女性	34	188	390	16	628	
	%	5.4%	29.9%	62.1%	2.5%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	9	35	46	0	90	
		%	10.0%	38.9%	51.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	11	47	69	2	129	
		%	8.5%	36.4%	53.5%	1.6%	100.0%
	40歳代	9	66	107	1	183	
		%	4.9%	36.1%	58.5%	0.5%	100.0%
	50歳代	6	60	103	3	172	
	%	3.5%	34.9%	59.9%	1.7%	100.0%	
	60歳代	12	57	150	2	221	
	%	5.4%	25.8%	67.9%	0.9%	100.0%	
	70歳代	14	64	156	8	242	
	%	5.8%	26.4%	64.5%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	7	30	54	10	101	
	%	6.9%	29.7%	53.5%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	67	358	678	25	1128	
		%	5.9%	31.7%	60.1%	2.2%	100.0%
	その他	1	3	8	0	12	
	%	8.3%	25.0%	66.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	27	166	308	9	510	
		%	5.3%	32.5%	60.4%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	23	96	178	9	306	
		%	7.5%	31.4%	58.2%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	7	38	75	1	121	
	%	5.8%	31.4%	62.0%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	5	29	60	1	95	
	%	5.3%	30.5%	63.2%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	4	22	36	2	64	
	%	6.3%	34.4%	56.3%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	59	270	560	21	910	
		%	6.5%	29.7%	61.5%	2.3%	100.0%
	三重県外	9	91	126	5	231	
	%	3.9%	39.4%	54.5%	2.2%	100.0%	

問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問7 D. 相手や家族の国籍

		調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	無回答	合計	
総数 (人)		175	466	479	26	1146	
		%	15.3%	40.7%	41.8%	2.3%	100.0%
性別	男性	82	218	199	12	511	
		%	16.0%	42.7%	38.9%	2.3%	100.0%
	女性	91	244	279	14	628	
	%	14.5%	38.9%	44.4%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	16	28	46	0	90	
		%	17.8%	31.1%	51.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	20	44	64	1	129	
		%	15.5%	34.1%	49.6%	0.8%	100.0%
	40歳代	26	79	76	2	183	
		%	14.2%	43.2%	41.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	24	72	72	4	172	
	%	14.0%	41.9%	41.9%	2.3%	100.0%	
	60歳代	27	90	103	1	221	
	%	12.2%	40.7%	46.6%	0.5%	100.0%	
	70歳代	35	110	89	8	242	
	%	14.5%	45.5%	36.8%	3.3%	100.0%	
	80歳代以上	25	38	28	10	101	
	%	24.8%	37.6%	27.7%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	171	462	470	25	1128	
		%	15.2%	41.0%	41.7%	2.2%	100.0%
	その他	1	2	9	0	12	
	%	8.3%	16.7%	75.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	74	228	199	9	510	
		%	14.5%	44.7%	39.0%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	46	113	140	7	306	
		%	15.0%	36.9%	45.8%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	18	42	59	2	121	
	%	14.9%	34.7%	48.8%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	16	40	38	1	95	
	%	16.8%	42.1%	40.0%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	11	26	24	3	64	
	%	17.2%	40.6%	37.5%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	144	357	388	21	910	
		%	15.8%	39.2%	42.6%	2.3%	100.0%
	三重県外	29	107	90	5	231	
	%	12.6%	46.3%	39.0%	2.2%	100.0%	

問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問7 E. 同和地区の人であるかどうか

		調べるのは当然だ	感じはよくないが 必要だ	調べるべきではない	無回答	合計
総数 (人)		99	404	612	31	1146
		%	%	%	%	%
		8.6%	35.3%	53.4%	2.7%	100.0%
性別	男性	44	196	260	11	511
		%	%	%	%	%
		8.6%	38.4%	50.9%	2.2%	100.0%
性別	女性	53	205	350	20	628
		%	%	%	%	%
		8.4%	32.6%	55.7%	3.2%	100.0%
性別	その他	0	0	0	0	0
		%	%	%	%	%
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	17	69	1	90
		%	%	%	%	%
		3.3%	18.9%	76.7%	1.1%	100.0%
	30歳代	6	33	87	3	129
		%	%	%	%	%
		4.7%	25.6%	67.4%	2.3%	100.0%
	40歳代	16	68	97	2	183
	%	%	%	%	%	
	8.7%	37.2%	53.0%	1.1%	100.0%	
年齢	50歳代	14	67	88	3	172
		%	%	%	%	%
		8.1%	39.0%	51.2%	1.7%	100.0%
	60歳代	23	81	116	1	221
		%	%	%	%	%
		10.4%	36.7%	52.5%	0.5%	100.0%
	70歳代	24	96	112	10	242
	%	%	%	%	%	
	9.9%	39.7%	46.3%	4.1%	100.0%	
年齢	80歳代以上	11	38	41	11	101
		%	%	%	%	%
		10.9%	37.6%	40.6%	10.9%	100.0%
国籍	日本	97	401	601	29	1128
		%	%	%	%	%
		8.6%	35.5%	53.3%	2.6%	100.0%
国籍	その他	0	2	9	1	12
		%	%	%	%	%
		0.0%	16.7%	75.0%	8.3%	100.0%
居住地域	北勢地域	37	188	274	11	510
		%	%	%	%	%
		7.3%	36.9%	53.7%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	25	101	169	11	306
		%	%	%	%	%
	8.2%	33.0%	55.2%	3.6%	100.0%	
居住地域	伊勢志摩地域	9	43	68	1	121
		%	%	%	%	%
		7.4%	35.5%	56.2%	0.8%	100.0%
居住地域	伊賀地域	14	32	48	1	95
		%	%	%	%	%
		14.7%	33.7%	50.5%	1.1%	100.0%
居住地域	東紀州地域	8	21	33	2	64
		%	%	%	%	%
		12.5%	32.8%	51.6%	3.1%	100.0%
生育歴	三重県内	83	311	493	23	910
		%	%	%	%	%
		9.1%	34.2%	54.2%	2.5%	100.0%
生育歴	三重県外	14	92	117	8	231
		%	%	%	%	%
		6.1%	39.8%	50.6%	3.5%	100.0%

問8 もし仮に、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどのような態度をとると思いますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。(お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。)

問8 A. 同和地区出身者

		まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	無回答	合計
総数		(人) 332	487	216	87	24	1146
		% 29.0%	42.5%	18.8%	7.6%	2.1%	100.0%
性別	男性	149	207	105	40	10	511
		% 29.2%	40.5%	20.5%	7.8%	2.0%	100.0%
	女性	181	278	110	45	14	628
	% 28.8%	44.3%	17.5%	7.2%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	51	29	8	2	0	90
		% 56.7%	32.2%	8.9%	2.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	62	45	14	6	2	129
		% 48.1%	34.9%	10.9%	4.7%	1.6%	100.0%
	40歳代	50	84	35	11	3	183
		% 27.3%	45.9%	19.1%	6.0%	1.6%	100.0%
	50歳代	53	78	25	12	4	172
	% 30.8%	45.3%	14.5%	7.0%	2.3%	100.0%	
	60歳代	47	102	47	25	0	221
	% 21.3%	46.2%	21.3%	11.3%	0.0%	100.0%	
	70歳代	52	108	60	15	7	242
	% 21.5%	44.6%	24.8%	6.2%	2.9%	100.0%	
	80歳代以上	15	38	26	14	8	101
	% 14.9%	37.6%	25.7%	13.9%	7.9%	100.0%	
国籍	日本	322	484	214	85	23	1128
		% 28.5%	42.9%	19.0%	7.5%	2.0%	100.0%
	その他	8	2	1	1	0	12
	% 66.7%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	157	202	94	46	11	510
		% 30.8%	39.6%	18.4%	9.0%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	93	134	60	16	3	306
		% 30.4%	43.8%	19.6%	5.2%	1.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	30	58	25	7	1	121
	% 24.8%	47.9%	20.7%	5.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	20	47	16	10	2	95
	% 21.1%	49.5%	16.8%	10.5%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	22	26	12	3	1	64
	% 34.4%	40.6%	18.8%	4.7%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	268	385	168	73	16	910
		% 29.5%	42.3%	18.5%	8.0%	1.8%	100.0%
	三重県外	62	101	47	13	8	231
	% 26.8%	43.7%	20.3%	5.6%	3.5%	100.0%	

問8 もし仮に、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどのような態度をとると思いますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。(お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。)

問8 B. 障がい者

		まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	無回答	合計
総数		(人) 118	519	358	120	31	1146
		% 10.3%	45.3%	31.2%	10.5%	2.7%	100.0%
性別	男性	61	218	157	61	14	511
		% 11.9%	42.7%	30.7%	11.9%	2.7%	100.0%
	女性	57	298	199	57	17	628
	% 9.1%	47.5%	31.7%	9.1%	2.7%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	8	48	24	9	1	90
		% 8.9%	53.3%	26.7%	10.0%	1.1%	100.0%
	30歳代	16	66	32	11	4	129
		% 12.4%	51.2%	24.8%	8.5%	3.1%	100.0%
	40歳代	13	92	57	19	2	183
		% 7.1%	50.3%	31.1%	10.4%	1.1%	100.0%
	50歳代	26	76	50	16	4	172
	% 15.1%	44.2%	29.1%	9.3%	2.3%	100.0%	
	60歳代	23	105	70	21	2	221
	% 10.4%	47.5%	31.7%	9.5%	0.9%	100.0%	
	70歳代	24	96	86	27	9	242
	% 9.9%	39.7%	35.5%	11.2%	3.7%	100.0%	
	80歳代以上	8	32	37	15	9	101
	% 7.9%	31.7%	36.6%	14.9%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	112	515	353	118	30	1128
		% 9.9%	45.7%	31.3%	10.5%	2.7%	100.0%
	その他	5	3	3	1		12
	% 41.7%	25.0%	25.0%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	50	237	161	50	12	510
		% 9.8%	46.5%	31.6%	9.8%	2.4%	100.0%
	中南勢地域	36	144	96	23	7	306
		% 11.8%	47.1%	31.4%	7.5%	2.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	10	59	37	13	2	121
	% 8.3%	48.8%	30.6%	10.7%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	9	35	30	18	3	95
	% 9.5%	36.8%	31.6%	18.9%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	8	22	23	9	2	64
	% 12.5%	34.4%	35.9%	14.1%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	87	415	285	98	25	910
		% 9.6%	45.6%	31.3%	10.8%	2.7%	100.0%
	三重県外	30	103	71	21	6	231
	% 13.0%	44.6%	30.7%	9.1%	2.6%	100.0%	

問8 もし仮に、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどのような態度をとると思いますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。(お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。)

問8 C. 外国人

		まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	無回答	合計
総数		(人) 312	522	197	90	25	1146
		% 27.2%	45.5%	17.2%	7.9%	2.2%	100.0%
性別	男性	128	232	93	47	11	511
		% 25.0%	45.4%	18.2%	9.2%	2.2%	100.0%
	女性	182	288	103	41	14	628
	% 29.0%	45.9%	16.4%	6.5%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	34	41	10	5	0	90
		% 37.8%	45.6%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	52	60	6	9	2	129
		% 40.3%	46.5%	4.7%	7.0%	1.6%	100.0%
	40歳代	50	98	23	10	2	183
		% 27.3%	53.6%	12.6%	5.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	57	77	28	7	3	172
	% 33.1%	44.8%	16.3%	4.1%	1.7%	100.0%	
	60歳代	63	102	40	14	2	221
	% 28.5%	46.2%	18.1%	6.3%	0.9%	100.0%	
	70歳代	40	106	58	31	7	242
	% 16.5%	43.8%	24.0%	12.8%	2.9%	100.0%	
	80歳代以上	14	35	31	12	9	101
	% 13.9%	34.7%	30.7%	11.9%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	305	515	195	89	24	1128
		% 27.0%	45.7%	17.3%	7.9%	2.1%	100.0%
	その他	7	4	1	0	0	12
	% 58.3%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	137	239	85	38	11	510
		% 26.9%	46.9%	16.7%	7.5%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	92	138	52	18	6	306
		% 30.1%	45.1%	17.0%	5.9%	2.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	32	57	19	12	1	121
	% 26.4%	47.1%	15.7%	9.9%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	20	43	19	12	1	95
	% 21.1%	45.3%	20.0%	12.6%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	18	25	15	5	1	64
	% 28.1%	39.1%	23.4%	7.8%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	249	399	163	78	21	910
		% 27.4%	43.8%	17.9%	8.6%	2.3%	100.0%
	三重県外	62	121	33	11	4	231
	% 26.8%	52.4%	14.3%	4.8%	1.7%	100.0%	

問8 もし仮に、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどのような態度をとると思いますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。(お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。)

問8 D. HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者

		まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	無回答	合計
総数		(人) 54	291	481	291	29	1146
		% 4.7%	25.4%	42.0%	25.4%	2.5%	100.0%
性別	男性	24	137	198	140	12	511
		% 4.7%	26.8%	38.7%	27.4%	2.3%	100.0%
	女性	30	152	281	148	17	628
	% 4.8%	24.2%	44.7%	23.6%	2.7%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	7	36	27	19	1	90
		% 7.8%	40.0%	30.0%	21.1%	1.1%	100.0%
	30歳代	6	35	57	28	3	129
		% 4.7%	27.1%	44.2%	21.7%	2.3%	100.0%
	40歳代	8	50	82	41	2	183
		% 4.4%	27.3%	44.8%	22.4%	1.1%	100.0%
	50歳代	6	46	76	41	3	172
	% 3.5%	26.7%	44.2%	23.8%	1.7%	100.0%	
	60歳代	14	53	102	51	1	221
	% 6.3%	24.0%	46.2%	23.1%	0.5%	100.0%	
	70歳代	10	53	94	75	10	242
	% 4.1%	21.9%	38.8%	31.0%	4.1%	100.0%	
	80歳代以上	3	16	40	33	9	101
	% 3.0%	15.8%	39.6%	32.7%	8.9%	100.0%	
国籍	日本	50	288	475	287	28	1128
		% 4.4%	25.5%	42.1%	25.4%	2.5%	100.0%
	その他	3	3	4	2	0	12
	% 25.0%	25.0%	33.3%	16.7%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	23	135	214	127	11	510
		% 4.5%	26.5%	42.0%	24.9%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	14	79	129	76	8	306
		% 4.6%	25.8%	42.2%	24.8%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	4	38	50	27	2	121
	% 3.3%	31.4%	41.3%	22.3%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	7	11	46	30	1	95
	% 7.4%	11.6%	48.4%	31.6%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	4	15	23	21	1	64
	% 6.3%	23.4%	35.9%	32.8%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	40	238	375	235	22	910
		% 4.4%	26.2%	41.2%	25.8%	2.4%	100.0%
	三重県外	13	53	104	54	7	231
	% 5.6%	22.9%	45.0%	23.4%	3.0%	100.0%	

問9 ある市が、住宅地域の中心にA～Cのような施設の建設を計画したところ、地元の住民から反対運動が起こってきました。こうした住民の態度について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問9 A. 知的障がい、精神障がい児・者の生活施設

		反対運動は 人権を侵害 している	反対運動は 人権を侵害 していると いけない	どちらとも いけない	無回答	合計
総数		(人) 597	156	365	28	1146
		% 52.1%	13.6%	31.8%	2.4%	100.0%
性別	男性	257	81	157	16	511
		% 50.3%	15.9%	30.7%	3.1%	100.0%
	女性	337	73	206	12	628
	% 53.7%	11.6%	32.8%	1.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	46	14	29	1	90
		% 51.1%	15.6%	32.2%	1.1%	100.0%
	30歳代	73	15	41	0	129
		% 56.6%	11.6%	31.8%	0.0%	100.0%
	40歳代	112	21	49	1	183
		% 61.2%	11.5%	26.8%	0.5%	100.0%
	50歳代	90	24	55	3	172
		% 52.3%	14.0%	32.0%	1.7%	100.0%
	60歳代	131	22	65	3	221
	% 59.3%	10.0%	29.4%	1.4%	100.0%	
	70歳代	106	37	90	9	242
	% 43.8%	15.3%	37.2%	3.7%	100.0%	
	80歳代以上	36	20	34	11	101
	% 35.6%	19.8%	33.7%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	588	152	361	27	1128
		% 52.1%	13.5%	32.0%	2.4%	100.0%
	その他	7	2	3	0	12
	% 58.3%	16.7%	25.0%	0.0%	100.0%	
居住地	北勢地域	269	68	162	11	510
		% 52.7%	13.3%	31.8%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	155	47	96	8	306
		% 50.7%	15.4%	31.4%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	64	19	36	2	121
		% 52.9%	15.7%	29.8%	1.7%	100.0%
	伊賀地域	53	10	30	2	95
	% 55.8%	10.5%	31.6%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	36	5	21	2	64
	% 56.3%	7.8%	32.8%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	466	126	294	24	910
		% 51.2%	13.8%	32.3%	2.6%	100.0%
	三重県外	129	28	70	4	231
	% 55.8%	12.1%	30.3%	1.7%	100.0%	

問9 ある市が、住宅地域の中心にA～Cのような施設の建設を計画したところ、地元の住民から反対運動が起こってきました。こうした住民の態度について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問9 B. 児童養護施設

		反対運動は 人権を侵害 している	反対運動は 人権を侵害 していると いけない	どちらとも いけない	無回答	合計
総数		(人) 662	137	316	31	1146
		% 57.8%	12.0%	27.6%	2.7%	100.0%
性別	男性	289	72	131	19	511
		% 56.6%	14.1%	25.6%	3.7%	100.0%
	女性	370	63	183	12	628
	% 58.9%	10.0%	29.1%	1.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	54	15	20	1	90
		% 60.0%	16.7%	22.2%	1.1%	100.0%
	30歳代	80	13	36	0	129
		% 62.0%	10.1%	27.9%	0.0%	100.0%
	40歳代	126	14	42	1	183
		% 68.9%	7.7%	23.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	97	20	52	3	172
	% 56.4%	11.6%	30.2%	1.7%	100.0%	
	60歳代	138	23	56	4	221
	% 62.4%	10.4%	25.3%	1.8%	100.0%	
	70歳代	122	31	77	12	242
	% 50.4%	12.8%	31.8%	5.0%	100.0%	
	80歳代以上	42	18	31	10	101
	% 41.6%	17.8%	30.7%	9.9%	100.0%	
国籍	日本	653	134	311	30	1128
		% 57.9%	11.9%	27.6%	2.7%	100.0%
	その他	7	1	4	0	12
	% 58.3%	8.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	313	56	131	10	510
		% 61.4%	11.0%	25.7%	2.0%	100.0%
	中南勢地域	165	45	87	9	306
		% 53.9%	14.7%	28.4%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	68	17	34	2	121
	% 56.2%	14.0%	28.1%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	61	7	25	2	95
	% 64.2%	7.4%	26.3%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	33	5	22	4	64
	% 51.6%	7.8%	34.4%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	511	115	259	25	910
		% 56.2%	12.6%	28.5%	2.7%	100.0%
	三重県外	149	20	56	6	231
	% 64.5%	8.7%	24.2%	2.6%	100.0%	

問9 ある市が、住宅地域の中心にA～Cのような施設の建設を計画したところ、地元の住民から反対運動が起こってきました。こうした住民の態度について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問9 C. 外国人の研修施設

		反対運動は 人権を侵害 している	反対運動は 人権を侵害 していると いけない	どちらとも いけない	無回答	合計
総数		(人) 528	173	412	33	1146
		% 46.1%	15.1%	36.0%	2.9%	100.0%
性別	男性	229	95	168	19	511
		% 44.8%	18.6%	32.9%	3.7%	100.0%
	女性	296	76	242	14	628
	% 47.1%	12.1%	38.5%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	40	19	30	1	90
		% 44.4%	21.1%	33.3%	1.1%	100.0%
	30歳代	67	16	46	0	129
		% 51.9%	12.4%	35.7%	0.0%	100.0%
	40歳代	103	18	61	1	183
		% 56.3%	9.8%	33.3%	0.5%	100.0%
	50歳代	80	26	63	3	172
	% 46.5%	15.1%	36.6%	1.7%	100.0%	
	60歳代	110	32	75	4	221
	% 49.8%	14.5%	33.9%	1.8%	100.0%	
	70歳代	92	35	102	13	242
	% 38.0%	14.5%	42.1%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	33	24	33	11	101
	% 32.7%	23.8%	32.7%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	521	169	406	32	1128
		% 46.2%	15.0%	36.0%	2.8%	100.0%
	その他	5	2	5	0	12
	% 41.7%	16.7%	41.7%	0.0%	100.0%	
居住地	北勢地域	245	75	179	11	510
		% 48.0%	14.7%	35.1%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	137	51	108	10	306
		% 44.8%	16.7%	35.3%	3.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	51	19	49	2	121
	% 42.1%	15.7%	40.5%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	50	12	31	2	95
	% 52.6%	12.6%	32.6%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	27	7	26	4	64
	% 42.2%	10.9%	40.6%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	408	142	333	27	910
		% 44.8%	15.6%	36.6%	3.0%	100.0%
	三重県外	118	29	78	6	231
	% 51.1%	12.6%	33.8%	2.6%	100.0%	

問10 家主が賃貸マンションをA～Cの人であることを理由に貸すことを断ること(入居拒否)について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問10 A. 外国人

		入居拒否は 人権を侵害 している	入居拒否は 人権を侵害 していない	どちらとも いえない	無回答	合計
総数 (人)		509	224	381	32	1146
		44.4%	19.5%	33.2%	2.8%	100.0%
性別	男性	219	112	163	17	511
		42.9%	21.9%	31.9%	3.3%	100.0%
	女性	289	109	215	15	628
		46.0%	17.4%	34.2%	2.4%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	56	8	25	1	90
		62.2%	8.9%	27.8%	1.1%	100.0%
	30歳代	73	25	31	0	129
		56.6%	19.4%	24.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	92	36	54	1	183
		50.3%	19.7%	29.5%	0.5%	100.0%
	50歳代	75	41	54	2	172
	43.6%	23.8%	31.4%	1.2%	100.0%	
	60歳代	91	41	83	6	221
		41.2%	18.6%	37.6%	2.7%	100.0%
	70歳代	89	46	96	11	242
		36.8%	19.0%	39.7%	4.5%	100.0%
	80歳代以上	32	24	34	11	101
		31.7%	23.8%	33.7%	10.9%	100.0%
国籍	日本	501	221	374	32	1128
		44.4%	19.6%	33.2%	2.8%	100.0%
	その他	7	1	4	0	12
		58.3%	8.3%	33.3%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	234	90	175	11	510
		45.9%	17.6%	34.3%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	134	69	94	9	306
		43.8%	22.5%	30.7%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	52	24	42	3	121
	43.0%	19.8%	34.7%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	45	21	28	1	95
		47.4%	22.1%	29.5%	1.1%	100.0%
	東紀州地域	25	13	22	4	64
		39.1%	20.3%	34.4%	6.3%	100.0%
生育歴	三重県内	389	177	318	26	910
		42.7%	19.5%	34.9%	2.9%	100.0%
	三重県外	119	45	61	6	231
		51.5%	19.5%	26.4%	2.6%	100.0%

問10 家主が賃貸マンションをA～Cの人であることを理由に貸すことを断ること(入居拒否)について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問10 B. 障がい者

		入居拒否は 人権を侵害 している	入居拒否は 人権を侵害 していない	どちらとも いえない	無回答	合計
総数 (人)		581	190	342	33	1146
		50.7%	16.6%	29.8%	2.9%	100.0%
性別	男性	244	101	149	17	511
		47.7%	19.8%	29.2%	3.3%	100.0%
	女性	336	86	190	16	628
		53.5%	13.7%	30.3%	2.5%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	56	10	23	1	90
		62.2%	11.1%	25.6%	1.1%	100.0%
	30歳代	81	19	29	0	129
		62.8%	14.7%	22.5%	0.0%	100.0%
	40歳代	103	29	50	1	183
		56.3%	15.8%	27.3%	0.5%	100.0%
	50歳代	86	35	49	2	172
	50.0%	20.3%	28.5%	1.2%	100.0%	
	60歳代	107	34	75	5	221
		48.4%	15.4%	33.9%	2.3%	100.0%
	70歳代	111	39	81	11	242
		45.9%	16.1%	33.5%	4.5%	100.0%
	80歳代以上	36	21	31	13	101
		35.6%	20.8%	30.7%	12.9%	100.0%
国籍	日本	573	185	338	32	1128
		50.8%	16.4%	30.0%	2.8%	100.0%
	その他	7	3	2	0	12
		58.3%	25.0%	16.7%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	265	81	153	11	510
		52.0%	15.9%	30.0%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	157	58	82	9	306
		51.3%	19.0%	26.8%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	63	16	39	3	121
	52.1%	13.2%	32.2%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	48	19	26	2	95
		50.5%	20.0%	27.4%	2.1%	100.0%
	東紀州地域	30	10	20	4	64
		46.9%	15.6%	31.3%	6.3%	100.0%
生育歴	三重県内	444	150	288	28	910
		48.8%	16.5%	31.6%	3.1%	100.0%
	三重県外	136	38	52	5	231
		58.9%	16.5%	22.5%	2.2%	100.0%

問10 家主が賃貸マンションをA～Cの人であることを理由に貸すことを断ること(入居拒否)について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問10 C. 高齢者

		入居拒否は 人権を侵害 している	入居拒否は 人権を侵害 していない	どちらとも いえない	無回答	合計
総数 (人)		578	183	353	32	1146
%		50.4%	16.0%	30.8%	2.8%	100.0%
性別	男性	245	100	148	18	511
	%	47.9%	19.6%	29.0%	3.5%	100.0%
	女性	332	80	202	14	628
%	52.9%	12.7%	32.2%	2.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	52	12	25	1	90
	%	57.8%	13.3%	27.8%	1.1%	100.0%
	30歳代	69	23	37	0	129
	%	53.5%	17.8%	28.7%	0.0%	100.0%
	40歳代	108	25	49	1	183
	%	59.0%	13.7%	26.8%	0.5%	100.0%
	50歳代	85	34	51	2	172
%	49.4%	19.8%	29.7%	1.2%	100.0%	
60歳代	109	33	73	6	221	
%	49.3%	14.9%	33.0%	2.7%	100.0%	
70歳代	111	35	85	11	242	
%	45.9%	14.5%	35.1%	4.5%	100.0%	
80歳代以上	43	18	29	11	101	
%	42.6%	17.8%	28.7%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	569	180	348	31	1128
	%	50.4%	16.0%	30.9%	2.7%	100.0%
	その他	7	1	4	0	12
%	58.3%	8.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	266	81	153	10	510
	%	52.2%	15.9%	30.0%	2.0%	100.0%
	中南勢地域	150	57	90	9	306
	%	49.0%	18.6%	29.4%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	64	11	43	3	121
%	52.9%	9.1%	35.5%	2.5%	100.0%	
伊賀地域	47	18	28	2	95	
%	49.5%	18.9%	29.5%	2.1%	100.0%	
東紀州地域	30	10	20	4	64	
%	46.9%	15.6%	31.3%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	446	137	300	27	910
	%	49.0%	15.1%	33.0%	3.0%	100.0%
	三重県外	130	44	52	5	231
%	56.3%	19.0%	22.5%	2.2%	100.0%	

問11 もし仮に、あなたが、住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くに次のような条件があることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問11 A. 同じ小学校区内に同和地区がある

		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	無回答	合計
総数		(人) 501	451	162	32	1146
		% 43.7%	39.4%	14.1%	2.8%	100.0%
性別	男性	218	205	68	20	511
		% 42.7%	40.1%	13.3%	3.9%	100.0%
	女性	282	245	89	12	628
	% 44.9%	39.0%	14.2%	1.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	52	32	6	0	90
		% 57.8%	35.6%	6.7%	0.0%	100.0%
	30歳代	65	49	15	0	129
		% 50.4%	38.0%	11.6%	0.0%	100.0%
	40歳代	79	80	23	1	183
		% 43.2%	43.7%	12.6%	0.5%	100.0%
	50歳代	87	55	26	4	172
	% 50.6%	32.0%	15.1%	2.3%	100.0%	
	60歳代	86	93	36	6	221
	% 38.9%	42.1%	16.3%	2.7%	100.0%	
	70歳代	94	103	32	13	242
	% 38.8%	42.6%	13.2%	5.4%	100.0%	
	80歳代以上	37	37	19	8	101
	% 36.6%	36.6%	18.8%	7.9%	100.0%	
国籍	日本	493	446	158	31	1128
		% 43.7%	39.5%	14.0%	2.7%	100.0%
	その他	7	4	1	0	12
	% 58.3%	33.3%	8.3%	0.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	220	203	79	8	510
		% 43.1%	39.8%	15.5%	1.6%	100.0%
	中南勢地域	139	115	40	12	306
		% 45.4%	37.6%	13.1%	3.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	54	52	12	3	121
	% 44.6%	43.0%	9.9%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	41	39	13	2	95
	% 43.2%	41.1%	13.7%	2.1%	100.0%	
	東紀州地域	28	25	8	3	64
	% 43.8%	39.1%	12.5%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	401	357	125	27	910
		% 44.1%	39.2%	13.7%	3.0%	100.0%
	三重県外	98	94	34	5	231
	% 42.4%	40.7%	14.7%	2.2%	100.0%	

問11 もし仮に、あなたが、住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くに次のような条件があることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問11 B. 物件(住宅)が同和地区内にある

		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	無回答	合計
総数 (人)		302	464	342	38	1146
		26.4%	40.5%	29.8%	3.3%	100.0%
性別	男性	140	209	143	19	511
		27.4%	40.9%	28.0%	3.7%	100.0%
	女性	161	254	194	19	628
	25.6%	40.4%	30.9%	3.0%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	45	32	13	0	90
		50.0%	35.6%	14.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	42	54	32	1	129
		32.6%	41.9%	24.8%	0.8%	100.0%
	40歳代	45	76	60	2	183
		24.6%	41.5%	32.8%	1.1%	100.0%
	50歳代	50	58	60	4	172
	29.1%	33.7%	34.9%	2.3%	100.0%	
	60歳代	49	91	75	6	221
		22.2%	41.2%	33.9%	2.7%	100.0%
	70歳代	55	105	68	14	242
		22.7%	43.4%	28.1%	5.8%	100.0%
	80歳代以上	15	47	28	11	101
		14.9%	46.5%	27.7%	10.9%	100.0%
国籍	日本	296	457	338	37	1128
		26.2%	40.5%	30.0%	3.3%	100.0%
	その他	5	6	1	0	12
		41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	145	195	155	15	510
		28.4%	38.2%	30.4%	2.9%	100.0%
	中南勢地域	84	125	86	11	306
		27.5%	40.8%	28.1%	3.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	24	59	35	3	121
	19.8%	48.8%	28.9%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	19	41	33	2	95
		20.0%	43.2%	34.7%	2.1%	100.0%
	東紀州地域	18	25	19	2	64
		28.1%	39.1%	29.7%	3.1%	100.0%
生育歴	三重県内	233	374	273	30	910
		25.6%	41.1%	30.0%	3.3%	100.0%
	三重県外	67	90	66	8	231
		29.0%	39.0%	28.6%	3.5%	100.0%

問11 もし仮に、あなたが、住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くに次のような条件があることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問11 C. 外国人の集住地域が近くにある

		まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	無回答	合計
総数 (人)		242	535	332	37	1146
		21.1%	46.7%	29.0%	3.2%	100.0%
性別	男性	114	239	136	22	511
		22.3%	46.8%	26.6%	4.3%	100.0%
	女性	128	292	193	15	628
	20.4%	46.5%	30.7%	2.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	25	43	22	0	90
		27.8%	47.8%	24.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	28	64	37	0	129
		21.7%	49.6%	28.7%	0.0%	100.0%
	40歳代	28	90	64	1	183
		15.3%	49.2%	35.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	46	68	55	3	172
	26.7%	39.5%	32.0%	1.7%	100.0%	
	60歳代	43	110	63	5	221
		19.5%	49.8%	28.5%	2.3%	100.0%
	70歳代	56	106	63	17	242
		23.1%	43.8%	26.0%	7.0%	100.0%
	80歳代以上	16	50	24	11	101
		15.8%	49.5%	23.8%	10.9%	100.0%
国籍	日本	237	527	328	36	1128
		21.0%	46.7%	29.1%	3.2%	100.0%
	その他	5	5	2	0	12
		41.7%	41.7%	16.7%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	103	243	153	11	510
		20.2%	47.6%	30.0%	2.2%	100.0%
	中南勢地域	66	136	91	13	306
		21.6%	44.4%	29.7%	4.2%	100.0%
	伊勢志摩地域	27	59	32	3	121
	22.3%	48.8%	26.4%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	21	46	26	2	95
		22.1%	48.4%	27.4%	2.1%	100.0%
	東紀州地域	15	29	17	3	64
		23.4%	45.3%	26.6%	4.7%	100.0%
生育歴	三重県内	186	421	274	29	910
		20.4%	46.3%	30.1%	3.2%	100.0%
	三重県外	55	112	56	8	231
		23.8%	48.5%	24.2%	3.5%	100.0%

問12 世間では、どのようなことで「同和地区出身者」を判断していると思いますか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		本人が現在、同和地区に住んでいる	本人が過去に同和地区に住んだことがある	本人の本籍地が同和地区にある	本人が出生地の同和地区である	父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる	父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区にある
総数 (人)		567	243	459	457	420	366
%		49.5%	21.2%	40.1%	39.9%	36.6%	31.9%
性別	男性	275	125	223	219	203	166
	%	53.8%	24.5%	43.6%	42.9%	39.7%	32.5%
	女性	291	118	235	238	216	199
%	46.3%	18.8%	37.4%	37.9%	34.4%	31.7%	
	その他	0	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	40	17	30	43	28	25
	%	44.4%	18.9%	33.3%	47.8%	31.1%	27.8%
	30歳代	65	24	51	50	45	38
	%	50.4%	18.6%	39.5%	38.8%	34.9%	29.5%
	40歳代	102	39	85	81	72	58
	%	55.7%	21.3%	46.4%	44.3%	39.3%	31.7%
	50歳代	100	54	80	80	79	69
%	58.1%	31.4%	46.5%	46.5%	45.9%	40.1%	
60歳代	112	49	101	102	86	82	
%	50.7%	22.2%	45.7%	46.2%	38.9%	37.1%	
70歳代	99	38	75	67	77	66	
%	40.9%	15.7%	31.0%	27.7%	31.8%	27.3%	
80歳代以上	47	22	36	34	31	27	
%	46.5%	21.8%	35.6%	33.7%	30.7%	26.7%	
国籍	日本	564	241	457	454	417	365
	%	50.0%	21.4%	40.5%	40.2%	37.0%	32.4%
	その他	3	2	1	3	2	1
%	25.0%	16.7%	8.3%	25.0%	16.7%	8.3%	
居住地	北勢地域	260	110	193	204	188	155
	%	51.0%	21.6%	37.8%	40.0%	36.9%	30.4%
	中南勢地域	138	68	133	127	112	111
	%	45.1%	22.2%	43.5%	41.5%	36.6%	36.3%
	伊勢志摩地域	71	31	48	48	53	38
%	58.7%	25.6%	39.7%	39.7%	43.8%	31.4%	
伊賀地域	51	14	42	39	35	30	
%	53.7%	14.7%	44.2%	41.1%	36.8%	31.6%	
東紀州地域	27	14	26	25	21	21	
%	42.2%	21.9%	40.6%	39.1%	32.8%	32.8%	
生育歴	三重県内	457	199	366	368	330	289
	%	50.2%	21.9%	40.2%	40.4%	36.3%	31.8%
	三重県外	110	44	93	89	89	77
%	47.6%	19.0%	40.3%	38.5%	38.5%	33.3%	

問12 世間では、どのようなことで「同和地区出身者」を判断していると思いますか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		父母あるいは祖父母の出生地が同和地区である	職業によって判断している	わからない	その他	無回答	合計
総数		(人) 365	75	353	34	50	1146
		% 31.8%	6.5%	30.8%	3.0%	4.4%	100.0%
性別	男性	174	34	146	10	25	511
		% 34.1%	6.7%	28.6%	2.0%	4.9%	100.0%
	女性	191	40	203	22	24	628
	% 30.4%	6.4%	32.3%	3.5%	3.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	28	3	29	2	1	90
		% 31.1%	3.3%	32.2%	2.2%	1.1%	100.0%
	30歳代	36	8	40	1	2	129
		% 27.9%	6.2%	31.0%	0.8%	1.6%	100.0%
	40歳代	56	14	50	4	3	183
		% 30.6%	7.7%	27.3%	2.2%	1.6%	100.0%
	50歳代	68	16	39	6	2	172
	% 39.5%	9.3%	22.7%	3.5%	1.2%	100.0%	
	60歳代	80	15	61	5	9	221
	% 36.2%	6.8%	27.6%	2.3%	4.1%	100.0%	
	70歳代	69	10	94	9	19	242
	% 28.5%	4.1%	38.8%	3.7%	7.9%	100.0%	
	80歳代以上	28	8	36	5	13	101
	% 27.7%	7.9%	35.6%	5.0%	12.9%	100.0%	
国籍	日本	364	74	344	31	48	1128
	% 32.3%	6.6%	30.5%	2.7%	4.3%	100.0%	
	その他	1	0	6	1	1	12
	% 8.3%	0.0%	50.0%	8.3%	8.3%	100.0%	
居住地	北勢地域	150	36	162	9	17	510
		% 29.4%	7.1%	31.8%	1.8%	3.3%	100.0%
	中南勢地域	111	25	93	10	16	306
		% 36.3%	8.2%	30.4%	3.3%	5.2%	100.0%
	伊勢志摩地域	43	5	33	5	2	121
	% 35.5%	4.1%	27.3%	4.1%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	29	2	24	4	3	95
	% 30.5%	2.1%	25.3%	4.2%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	21	3	24	4	4	64
	% 32.8%	4.7%	37.5%	6.3%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	300	62	270	26	41	910
	% 33.0%	6.8%	29.7%	2.9%	4.5%	100.0%	
	三重県外	65	12	79	6	9	231
	% 28.1%	5.2%	34.2%	2.6%	3.9%	100.0%	

問13-1 最近5年間で、あなたは同和問題(部落差別)について次のようなことを聞いたことがありますか。そのときに、あなたはどのように思いましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問13-1 A. 同和問題にはかかわらない方がよい

		聞いたことがない	聞いたことがあり、その通りだと思った	聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った	聞いたことがあり、疑問に思った	聞いたことがあり、反発を感じた	無回答	合計
総数		(人) 669	58	212	135	36	36	1146
		% 58.4%	5.1%	18.5%	11.8%	3.1%	3.1%	100.0%
性別	男性	287	34	102	58	17	13	511
		% 56.2%	6.7%	20.0%	11.4%	3.3%	2.5%	100.0%
	女性	377	23	109	77	19	23	628
	% 60.0%	3.7%	17.4%	12.3%	3.0%	3.7%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	64	3	8	10	5	0	90
		% 71.1%	3.3%	8.9%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	94	3	20	9	2	1	129
		% 72.9%	2.3%	15.5%	7.0%	1.6%	0.8%	100.0%
	40歳代	125	7	33	15	3	0	183
		% 68.3%	3.8%	18.0%	8.2%	1.6%	0.0%	100.0%
	50歳代	98	16	31	19	5	3	172
	% 57.0%	9.3%	18.0%	11.0%	2.9%	1.7%	100.0%	
60歳代	124	10	40	30	13	4	221	
	% 56.1%	4.5%	18.1%	13.6%	5.9%	1.8%	100.0%	
70歳代	112	14	54	40	7	15	242	
	% 46.3%	5.8%	22.3%	16.5%	2.9%	6.2%	100.0%	
80歳代以上	47	4	24	12	1	13	101	
	% 46.5%	4.0%	23.8%	11.9%	1.0%	12.9%	100.0%	
国籍	日本	656	57	210	135	36	34	1128
		% 58.2%	5.1%	18.6%	12.0%	3.2%	3.0%	100.0%
	その他	10	0	1	0	0	1	12
	% 83.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%	
居住地	北勢地域	308	21	95	56	16	14	510
		% 60.4%	4.1%	18.6%	11.0%	3.1%	2.7%	100.0%
	中南勢地域	178	15	56	37	12	8	306
		% 58.2%	4.9%	18.3%	12.1%	3.9%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	73	10	22	11	3	2	121
	% 60.3%	8.3%	18.2%	9.1%	2.5%	1.7%	100.0%	
伊賀地域	50	6	16	15	4	4	95	
	% 52.6%	6.3%	16.8%	15.8%	4.2%	4.2%	100.0%	
東紀州地域	41	3	12	3	1	4	64	
	% 64.1%	4.7%	18.8%	4.7%	1.6%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	528	51	165	107	31	28	910
		% 58.0%	5.6%	18.1%	11.8%	3.4%	3.1%	100.0%
	三重県外	137	6	47	28	5	8	231
	% 59.3%	2.6%	20.3%	12.1%	2.2%	3.5%	100.0%	

問13-1 最近5年間で、あなたは同和問題(部落差別)について次のようなことを聞いたことがありますか。そのときに、あなたはどのように思いましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問13-1 B. 同和地区の人はこわい

		聞いたことがない	聞いたことがあり、その通りだと思った	聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った	聞いたことがあり、疑問に思った	聞いたことがあり、反発を感じた	無回答	合計	
総数 (人)		608	75	249	130	42	42	1146	
		%	53.1%	6.5%	21.7%	11.3%	3.7%	100.0%	
性別	男性	254	37	120	62	20	18	511	
		%	49.7%	7.2%	23.5%	12.1%	3.9%	3.5%	100.0%
	女性	349	37	129	67	22	24	628	
	%	55.6%	5.9%	20.5%	10.7%	3.5%	3.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	68	1	11	5	5	0	90	
		%	75.6%	1.1%	12.2%	5.6%	5.6%	0.0%	100.0%
	30歳代	90	3	24	8	2	2	129	
		%	69.8%	2.3%	18.6%	6.2%	1.6%	1.6%	100.0%
	40歳代	113	13	41	12	4	0	183	
		%	61.7%	7.1%	22.4%	6.6%	2.2%	0.0%	100.0%
	50歳代	85	15	43	21	5	3	172	
	%	49.4%	8.7%	25.0%	12.2%	2.9%	1.7%	100.0%	
	60歳代	96	22	51	36	11	5	221	
	%	43.4%	10.0%	23.1%	16.3%	5.0%	2.3%	100.0%	
	70歳代	104	13	62	39	9	15	242	
	%	43.0%	5.4%	25.6%	16.1%	3.7%	6.2%	100.0%	
	80歳代以上	47	7	16	8	6	17	101	
	%	46.5%	6.9%	15.8%	7.9%	5.9%	16.8%	100.0%	
国籍	日本	596	74	248	129	42	39	1128	
	%	52.8%	6.6%	22.0%	11.4%	3.7%	3.5%	100.0%	
	その他	9	0	1	0	0	2	12	
	%	75.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	16.7%	100.0%	
居住地域	北勢地域	282	33	108	55	17	15	510	
		%	55.3%	6.5%	21.2%	10.8%	3.3%	2.9%	100.0%
	中南勢地域	170	21	63	27	14	11	306	
		%	55.6%	6.9%	20.6%	8.8%	4.6%	3.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	58	10	29	22	1	1	121	
	%	47.9%	8.3%	24.0%	18.2%	0.8%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	39	5	27	13	6	5	95	
	%	41.1%	5.3%	28.4%	13.7%	6.3%	5.3%	100.0%	
	東紀州地域	36	2	14	4	2	6	64	
	%	56.3%	3.1%	21.9%	6.3%	3.1%	9.4%	100.0%	
生育歴	三重県内	477	64	194	108	35	32	910	
	%	52.4%	7.0%	21.3%	11.9%	3.8%	3.5%	100.0%	
	三重県外	127	10	55	22	7	10	231	
	%	55.0%	4.3%	23.8%	9.5%	3.0%	4.3%	100.0%	

問13-1 最近5年間で、あなたは同和問題(部落差別)について次のようなことを聞いたことがありますか。そのときに、あなたはどのように思いましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問13-1 C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

		聞いたことがない	聞いたことがあり、その通りだと思った	聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った	聞いたことがあり、疑問に思った	聞いたことがあり、反発を感じた	無回答	合計	
総数 (人)		584	183	134	158	46	41	1146	
		%	51.0%	16.0%	11.7%	13.8%	4.0%	3.6%	100.0%
性別	男性	248	91	64	70	21	17	511	
		%	48.5%	17.8%	12.5%	13.7%	4.1%	3.3%	100.0%
	女性	331	91	69	88	25	24	628	
	%	52.7%	14.5%	11.0%	14.0%	4.0%	3.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	73	3	6	6	2	0	90	
		%	81.1%	3.3%	6.7%	6.7%	2.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	90	11	15	7	3	3	129	
		%	69.8%	8.5%	11.6%	5.4%	2.3%	2.3%	100.0%
	40歳代	113	31	18	18	1	2	183	
		%	61.7%	16.9%	9.8%	9.8%	0.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	80	42	20	24	6	0	172	
	%	46.5%	24.4%	11.6%	14.0%	3.5%	0.0%	100.0%	
	60歳代	93	41	32	37	14	4	221	
	%	42.1%	18.6%	14.5%	16.7%	6.3%	1.8%	100.0%	
	70歳代	91	36	34	51	16	14	242	
	%	37.6%	14.9%	14.0%	21.1%	6.6%	5.8%	100.0%	
	80歳代以上	39	18	7	15	4	18	101	
	%	38.6%	17.8%	6.9%	14.9%	4.0%	17.8%	100.0%	
国籍	日本	574	182	132	156	46	38	1128	
		%	50.9%	16.1%	11.7%	13.8%	4.1%	3.4%	100.0%
	その他	7	0	1	2	0	2	12	
	%	58.3%	0.0%	8.3%	16.7%	0.0%	16.7%	100.0%	
居住地	北勢地域	280	70	59	66	17	18	510	
		%	54.9%	13.7%	11.6%	12.9%	3.3%	3.5%	100.0%
	中南勢地域	159	56	33	32	17	9	306	
		%	52.0%	18.3%	10.8%	10.5%	5.6%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	56	26	15	20	1	3	121	
	%	46.3%	21.5%	12.4%	16.5%	0.8%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	36	16	11	21	6	5	95	
	%	37.9%	16.8%	11.6%	22.1%	6.3%	5.3%	100.0%	
	東紀州地域	32	9	9	9	2	3	64	
	%	50.0%	14.1%	14.1%	14.1%	3.1%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	456	152	107	129	36	30	910	
		%	50.1%	16.7%	11.8%	14.2%	4.0%	3.3%	100.0%
	三重県外	124	30	27	29	10	11	231	
	%	53.7%	13.0%	11.7%	12.6%	4.3%	4.8%	100.0%	

問13-2 問13-1で2～5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問13-2 A. 同和問題にはかかわらない方がよい

		家族から聞いた	親戚から聞いた	近所の人から聞いた	友だちから聞いた	職場の人から聞いた
総数	(人)	138	55	66	96	74
	%	31.3%	12.5%	15.0%	21.8%	16.8%
性別	男性	56	26	32	52	49
	%	26.5%	12.3%	15.2%	24.6%	23.2%
	女性	82	29	34	43	25
	%	36.0%	12.7%	14.9%	18.9%	11.0%
	その他	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	8	0	1	1	1
	%	30.8%	0.0%	3.8%	3.8%	3.8%
	30歳代	16	5	5	2	4
	%	47.1%	14.7%	14.7%	5.9%	11.8%
	40歳代	20	7	2	8	12
	%	34.5%	12.1%	3.4%	13.8%	20.7%
	50歳代	26	10	14	24	19
%	36.6%	14.1%	19.7%	33.8%	26.8%	
60歳代	27	17	14	22	19	
%	29.0%	18.3%	15.1%	23.7%	20.4%	
70歳代	32	9	24	29	14	
%	27.8%	7.8%	20.9%	25.2%	12.2%	
80歳代以上	9	7	6	9	4	
%	22.0%	17.1%	14.6%	22.0%	9.8%	
国籍	日本	138	55	66	95	73
	%	31.5%	12.6%	15.1%	21.7%	16.7%
	その他	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	55	29	28	39	38
	%	29.3%	15.4%	14.9%	20.7%	20.2%
	中南勢地域	44	15	17	26	16
	%	36.7%	12.5%	14.2%	21.7%	13.3%
	伊勢志摩地域	19	6	8	17	8
%	41.3%	13.0%	17.4%	37.0%	17.4%	
伊賀地域	10	2	9	5	5	
%	24.4%	4.9%	22.0%	12.2%	12.2%	
東紀州地域	5	2	3	4	3	
%	26.3%	10.5%	15.8%	21.1%	15.8%	
生育歴	三重県内	119	45	50	78	55
	%	33.6%	12.7%	14.1%	22.0%	15.5%
	三重県外	19	10	16	18	19
%	22.1%	11.6%	18.6%	20.9%	22.1%	

問13-2 問13-1で2~5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A~Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問13-2 A. 同和問題にはかかわらない方がよい

		テレビ・ラ ジオ・新 聞・本など で知った	インター ネット上の 情報で知っ た	覚えていな い	その他	無回答	合計
総数 (人)		41	19	65	18	31	441
		9.3%	4.3%	14.7%	4.1%	7.0%	100.0%
性別	男性	20	9	35	5	15	211
		9.5%	4.3%	16.6%	2.4%	7.1%	100.0%
	女性	21	10	30	12	16	228
		9.2%	4.4%	13.2%	5.3%	7.0%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	4	4	6	3	2	26
		15.4%	15.4%	23.1%	11.5%	7.7%	100.0%
	30歳代	1	5	10	0	1	34
		2.9%	14.7%	29.4%	0.0%	2.9%	100.0%
	40歳代	4	4	10	5	2	58
		6.9%	6.9%	17.2%	8.6%	3.4%	100.0%
	50歳代	10	3	10	3	2	71
	14.1%	4.2%	14.1%	4.2%	2.8%	100.0%	
	60歳代	8	2	9	2	5	93
		8.6%	2.2%	9.7%	2.2%	5.4%	100.0%
	70歳代	10	0	13	3	13	115
		8.7%	0.0%	11.3%	2.6%	11.3%	100.0%
	80歳代以上	4	1	7	1	6	41
		9.8%	2.4%	17.1%	2.4%	14.6%	100.0%
国籍	日本	40	19	65	17	31	438
		9.1%	4.3%	14.8%	3.9%	7.1%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
居住地	北勢地域	23	8	28	6	13	188
		12.2%	4.3%	14.9%	3.2%	6.9%	100.0%
	中南勢地域	10	8	20	4	8	120
		8.3%	6.7%	16.7%	3.3%	6.7%	100.0%
	伊勢志摩地域	4	3	3	0	2	46
	8.7%	6.5%	6.5%	0.0%	4.3%	100.0%	
	伊賀地域	1	0	7	5	3	41
		2.4%	0.0%	17.1%	12.2%	7.3%	100.0%
	東紀州地域	0	0	4	0	2	19
		0.0%	0.0%	21.1%	0.0%	10.5%	100.0%
生育歴	三重県内	32	18	50	14	29	354
		9.0%	5.1%	14.1%	4.0%	8.2%	100.0%
	三重県外	9	1	15	3	2	86
		10.5%	1.2%	17.4%	3.5%	2.3%	100.0%

問13-2 問13-1で2~5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A~Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問13-2 B. 同和地区の人はこわい

		家族から聞いた	親戚から聞いた	近所の人から聞いた	友だちから聞いた	職場の人から聞いた
総数	(人)	123	71	89	111	93
	%	24.8%	14.3%	17.9%	22.4%	18.8%
性別	男性	45	29	38	65	58
	%	18.8%	12.1%	15.9%	27.2%	24.3%
	女性	78	42	50	46	35
	%	30.6%	16.5%	19.6%	18.0%	13.7%
	その他	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	7	0	0	2	1
	%	31.8%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%
	30歳代	11	6	5	2	4
	%	29.7%	16.2%	13.5%	5.4%	10.8%
	40歳代	27	11	5	16	16
	%	38.6%	15.7%	7.1%	22.9%	22.9%
	50歳代	24	14	15	24	30
%	28.6%	16.7%	17.9%	28.6%	35.7%	
60歳代	31	21	27	26	25	
%	25.8%	17.5%	22.5%	21.7%	20.8%	
70歳代	19	12	27	31	13	
%	15.4%	9.8%	22.0%	25.2%	10.6%	
80歳代以上	4	7	9	10	3	
%	10.8%	18.9%	24.3%	27.0%	8.1%	
国籍	日本	123	71	89	110	92
	%	24.9%	14.4%	18.1%	22.3%	18.7%
	その他	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	46	37	30	52	51
	%	21.6%	17.4%	14.1%	24.4%	23.9%
	中南勢地域	38	17	27	22	18
	%	30.4%	13.6%	21.6%	17.6%	14.4%
	伊勢志摩地域	20	10	11	25	12
%	32.3%	16.1%	17.7%	40.3%	19.4%	
伊賀地域	12	4	14	5	5	
%	23.5%	7.8%	27.5%	9.8%	9.8%	
東紀州地域	6	1	5	4	2	
%	27.3%	4.5%	22.7%	18.2%	9.1%	
生育歴	三重県内	103	58	69	91	76
	%	25.7%	14.5%	17.2%	22.7%	19.0%
	三重県外	20	13	20	20	17
	%	21.3%	13.8%	21.3%	21.3%	18.1%

問13-2 問13-1で2~5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A~Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問13-2 B. 同和地区の人はこわい

		テレビ・ラ ジオ・新 聞・本など で知った	インター ネット上の 情報で知っ た	覚えていな い	その他	無回答	合計
総数 (人)		37	25	65	24	32	496
		7.5%	5.0%	13.1%	4.8%	6.5%	100.0%
性別	男性	22	13	31	7	16	239
		9.2%	5.4%	13.0%	2.9%	6.7%	100.0%
	女性	15	12	34	16	16	255
	5.9%	4.7%	13.3%	6.3%	6.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	4	5	2	1	22
		13.6%	18.2%	22.7%	9.1%	4.5%	100.0%
	30歳代	1	8	11	0	1	37
		2.7%	21.6%	29.7%	0.0%	2.7%	100.0%
	40歳代	4	6	9	6	2	70
		5.7%	8.6%	12.9%	8.6%	2.9%	100.0%
	50歳代	9	3	10	4	3	84
	10.7%	3.6%	11.9%	4.8%	3.6%	100.0%	
	60歳代	7	1	11	3	6	120
		5.8%	0.8%	9.2%	2.5%	5.0%	100.0%
	70歳代	8	2	16	8	14	123
		6.5%	1.6%	13.0%	6.5%	11.4%	100.0%
	80歳代以上	5	1	3	0	5	37
		13.5%	2.7%	8.1%	0.0%	13.5%	100.0%
国籍	日本	37	25	64	23	32	493
		7.5%	5.1%	13.0%	4.7%	6.5%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	19	16	23	10	14	213
		8.9%	7.5%	10.8%	4.7%	6.6%	100.0%
	中南勢地域	7	7	21	3	8	125
		5.6%	5.6%	16.8%	2.4%	6.4%	100.0%
	伊勢志摩地域	4	1	3	3	3	62
	6.5%	1.6%	4.8%	4.8%	4.8%	100.0%	
	伊賀地域	2	1	9	5	2	51
		3.9%	2.0%	17.6%	9.8%	3.9%	100.0%
	東紀州地域	2	0	4	1	4	22
		9.1%	0.0%	18.2%	4.5%	18.2%	100.0%
生育歴	三重県内	27	20	55	21	30	401
		6.7%	5.0%	13.7%	5.2%	7.5%	100.0%
	三重県外	10	5	10	2	2	94
		10.6%	5.3%	10.6%	2.1%	2.1%	100.0%

問13-2 問13-1で2～5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問13-2 C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

		家族から聞いた	親戚から聞いた	近所の人から聞いた	友だちから聞いた	職場の人から聞いた
総数		(人) 82	41	62	103	99
		% 15.8%	7.9%	11.9%	19.8%	19.0%
性別	男性	29	15	33	52	60
		% 11.8%	6.1%	13.5%	21.2%	24.5%
	女性	53	25	29	51	39
	% 19.4%	9.2%	10.6%	18.7%	14.3%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	1	0	0	2	4
		% 5.9%	0.0%	0.0%	11.8%	23.5%
	30歳代	11	1	4	2	8
		% 30.6%	2.8%	11.1%	5.6%	22.2%
	40歳代	18	10	2	8	9
		% 26.5%	14.7%	2.9%	11.8%	13.2%
	50歳代	20	7	10	23	27
	% 21.7%	7.6%	10.9%	25.0%	29.3%	
60歳代	19	10	19	21	29	
	% 15.3%	8.1%	15.3%	16.9%	23.4%	
70歳代	9	7	21	41	15	
	% 6.6%	5.1%	15.4%	30.1%	11.0%	
80歳代以上	4	5	6	6	6	
	% 9.1%	11.4%	13.6%	13.6%	13.6%	
国籍	日本	81	41	62	101	97
		% 15.7%	8.0%	12.0%	19.6%	18.8%
	その他	1	0	0	2	1
	% 33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	
居住地域	北勢地域	33	21	22	35	36
		% 15.6%	9.9%	10.4%	16.5%	17.0%
	中南勢地域	23	11	24	24	28
		% 16.7%	8.0%	17.4%	17.4%	20.3%
	伊勢志摩地域	11	5	6	21	21
	% 17.7%	8.1%	9.7%	33.9%	33.9%	
伊賀地域	8	1	9	13	7	
	% 14.8%	1.9%	16.7%	24.1%	13.0%	
東紀州地域	5	1	1	8	2	
	% 17.2%	3.4%	3.4%	27.6%	6.9%	
生育歴	三重県内	70	34	50	87	80
		% 16.5%	8.0%	11.8%	20.6%	18.9%
	三重県外	12	7	12	16	19
	% 12.5%	7.3%	12.5%	16.7%	19.8%	

問13-2 問13-1で2~5と回答した人におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A~Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問13-2 C. 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ

		テレビ・ラジ オ・新聞・本 などで知った	インター ネット上の 情報で知っ た	覚えていな い	その他	無回答	合計
総数 (人)		90	36	89	33	32	520
%		17.3%	6.9%	17.1%	6.3%	6.2%	100.0%
性別	男性	54	22	38	15	15	245
	%	22.0%	9.0%	15.5%	6.1%	6.1%	100.0%
	女性	36	14	51	17	17	273
%	13.2%	5.1%	18.7%	6.2%	6.2%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	2	6	1	0	17
	%	17.6%	11.8%	35.3%	5.9%	0.0%	100.0%
	30歳代	5	10	10	1	0	36
	%	13.9%	27.8%	27.8%	2.8%	0.0%	100.0%
	40歳代	7	9	13	6	3	68
	%	10.3%	13.2%	19.1%	8.8%	4.4%	100.0%
	50歳代	8	9	17	5	3	92
%	8.7%	9.8%	18.5%	5.4%	3.3%	100.0%	
60歳代	29	5	15	7	9	124	
%	23.4%	4.0%	12.1%	5.6%	7.3%	100.0%	
70歳代	30	0	20	7	13	136	
%	22.1%	0.0%	14.7%	5.1%	9.6%	100.0%	
80歳代以上	8	1	8	5	4	44	
%	18.2%	2.3%	18.2%	11.4%	9.1%	100.0%	
国籍	日本	90	36	89	32	31	515
	%	17.5%	7.0%	17.3%	6.2%	6.0%	100.0%
	その他	0	0	0	0	1	3
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
居住地	北勢地域	42	21	34	10	12	212
	%	19.8%	9.9%	16.0%	4.7%	5.7%	100.0%
	中南勢地域	21	12	29	9	8	138
	%	15.2%	8.7%	21.0%	6.5%	5.8%	100.0%
	伊勢志摩地域	11	2	4	5	2	62
%	17.7%	3.2%	6.5%	8.1%	3.2%	100.0%	
伊賀地域	6	1	11	3	4	54	
%	11.1%	1.9%	20.4%	5.6%	7.4%	100.0%	
東紀州地域	2	0	8	1	5	29	
%	6.9%	0.0%	27.6%	3.4%	17.2%	100.0%	
生育歴	三重県内	69	25	78	24	28	423
	%	16.3%	5.9%	18.4%	5.7%	6.6%	100.0%
	三重県外	21	11	11	8	4	96
%	21.9%	11.5%	11.5%	8.3%	4.2%	100.0%	

問14 あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか。当てはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問14 A. 他人を誹謗中傷する表現

		見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 い、関係 機関に通 報した	見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 ったがその まま放置 した	見たこと があり、 とりたて て騒ぐほ どの問題 ではない と思っ た	そのよう な表現を 見たこと はない	無回答	合計
総数 (人)		21	313	214	489	109	1146
		%	%	%	%	%	%
性別	男性	5	142	113	205	46	511
		%	%	%	%	%	%
	女性	16	169	99	283	61	628
	%	%	%	%	%	%	%
	その他	0	0	0	0	0	0
	%	%	%	%	%	%	%
年齢	20歳代	8	40	28	14	0	90
		%	%	%	%	%	%
	30歳代	4	67	32	25	1	129
		%	%	%	%	%	%
	40歳代	1	70	42	66	4	183
		%	%	%	%	%	%
	50歳代	2	54	34	79	3	172
	%	%	%	%	%	%	
	60歳代	2	41	33	120	25	221
	%	%	%	%	%	%	%
	70歳代	3	31	32	129	47	242
	%	%	%	%	%	%	%
	80歳代以上	1	8	11	54	27	101
	%	%	%	%	%	%	%
国籍	日本	20	309	211	483	105	1128
		%	%	%	%	%	%
	その他	1	4	1	6	0	12
	%	%	%	%	%	%	%
居住地	北勢地域	13	156	113	191	37	510
		%	%	%	%	%	%
	中南勢地域	4	73	54	146	29	306
		%	%	%	%	%	%
	伊勢志摩地域	2	33	19	54	13	121
	%	%	%	%	%	%	
	伊賀地域	1	28	17	42	7	95
	%	%	%	%	%	%	%
	東紀州地域	1	13	4	36	10	64
	%	%	%	%	%	%	%
生育歴	三重県内	18	247	166	397	82	910
		%	%	%	%	%	%
	三重県外	3	66	46	91	25	231
	%	%	%	%	%	%	%

問14 あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか。当てはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問14 B. 同和問題についての差別的な表現

		見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 い、関係 機関に通 報した	見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 ったがその まま放置 した	見たこと があり、 とりたて て騒ぐほ どの問題 ではない と思っ た	そのよう な表現を 見たこと はない	無回答	合計
総数 (人)		11	136	116	775	108	1146
		%	%	%	%	%	%
性別	男性	4	83	69	310	45	511
		%	%	%	%	%	%
	女性	7	53	47	460	61	628
	%	%	%	%	%	%	%
	その他	0	0	0	0	0	0
	%	%	%	%	%	%	%
年齢	20歳代	3	9	9	69	0	90
		%	%	%	%	%	%
	30歳代	1	23	11	93	1	129
		%	%	%	%	%	%
	40歳代	0	18	18	142	5	183
		%	%	%	%	%	%
	50歳代	1	31	18	120	2	172
	%	%	%	%	%	%	
	60歳代	1	25	25	146	24	221
	%	%	%	%	%	%	%
	70歳代	4	26	26	138	48	242
	%	%	%	%	%	%	%
	80歳代以上	1	4	9	61	26	101
	%	%	%	%	%	%	%
国籍	日本	10	134	116	763	105	1128
		%	%	%	%	%	%
	その他	0	2	0	10	0	12
	%	%	%	%	%	%	%
居住地	北勢地域	5	65	47	353	40	510
		%	%	%	%	%	%
	中南勢地域	3	39	28	209	27	306
		%	%	%	%	%	%
	伊勢志摩地域	2	15	15	78	11	121
	%	%	%	%	%	%	
	伊賀地域	0	12	14	62	7	95
	%	%	%	%	%	%	%
	東紀州地域	0	2	6	45	11	64
	%	%	%	%	%	%	%
生育歴	三重県内	10	113	88	618	81	910
		%	%	%	%	%	%
	三重県外	1	23	28	154	25	231
	%	%	%	%	%	%	%

問14 あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか。当てはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問14 C. 障がい者への差別的な表現

		見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 い、関係 機関に通 報した	見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 ったがその まま放置 した	見たこと があり、 とりたて て騒ぐほ どの問題 ではない と思っ た	そのよう な表現を 見たこと はない	無回答	合計
総数 (人)		15	263	122	638	108	1146
		%	%	%	%	%	%
男性		7	128	66	264	46	511
		%	%	%	%	%	%
女性		8	135	56	369	60	628
		%	%	%	%	%	%
その他		0	0	0	0	0	0
		%	%	%	%	%	%
年齢	20歳代	3	35	13	39	0	90
		%	%	%	%	%	%
	30歳代	2	56	16	54	1	129
		%	%	%	%	%	%
	40歳代	1	54	19	104	5	183
		%	%	%	%	%	%
	50歳代	1	42	19	108	2	172
	%	%	%	%	%	%	
60歳代	2	39	24	132	24	221	
	%	%	%	%	%	%	
	70歳代	5	30	21	137	49	242
	%	%	%	%	%	%	
80歳代以上	1	7	10	58	25	101	
	%	%	%	%	%	%	
国籍	日本	15	260	120	628	105	1128
		%	%	%	%	%	%
その他	0	3	2	7	0	12	
	%	%	%	%	%	%	
居住地	北勢地域	7	134	55	275	39	510
		%	%	%	%	%	%
	中南勢地域	6	63	27	183	27	306
		%	%	%	%	%	%
	伊勢志摩地域	1	27	16	65	12	121
	%	%	%	%	%	%	
伊賀地域	0	21	12	56	6	95	
	%	%	%	%	%	%	
東紀州地域	1	10	7	34	12	64	
	%	%	%	%	%	%	
生育歴	三重県内	14	207	97	511	81	910
		%	%	%	%	%	%
三重県外	1	56	25	124	25	231	
	%	%	%	%	%	%	

問14 あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか。当てはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問14 D. 外国人への差別的な表現

		見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 い、関係 機関に通 報した	見たこと があり、 許せない 人権侵害 だと思 ったがその まま放置 した	見たこと があり、 とりたて て騒ぐほ どの問題 ではない と思っ た	そのよう な表現を 見たこと はない	無回答	合計
総数		(人) 14	247	165	613	107	1146
		% 1.2%	21.6%	14.4%	53.5%	9.3%	100.0%
性別	男性	5	124	90	248	44	511
		% 1.0%	24.3%	17.6%	48.5%	8.6%	100.0%
	女性	9	122	74	362	61	628
	% 1.4%	19.4%	11.8%	57.6%	9.7%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	3	31	16	40	0	90
		% 3.3%	34.4%	17.8%	44.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	4	50	25	48	2	129
		% 3.1%	38.8%	19.4%	37.2%	1.6%	100.0%
	40歳代	1	53	28	96	5	183
		% 0.5%	29.0%	15.3%	52.5%	2.7%	100.0%
	50歳代	1	45	23	101	2	172
	% 0.6%	26.2%	13.4%	58.7%	1.2%	100.0%	
	60歳代	1	32	34	129	25	221
	% 0.5%	14.5%	15.4%	58.4%	11.3%	100.0%	
	70歳代	3	26	30	134	49	242
	% 1.2%	10.7%	12.4%	55.4%	20.2%	100.0%	
	80歳代以上	1	9	8	61	22	101
	% 1.0%	8.9%	7.9%	60.4%	21.8%	100.0%	
国籍	日本	14	239	163	608	104	1128
		% 1.2%	21.2%	14.5%	53.9%	9.2%	100.0%
	その他	0	7	1	4	0	12
	% 0.0%	58.3%	8.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
居住地	北勢地域	7	124	87	253	39	510
		% 1.4%	24.3%	17.1%	49.6%	7.6%	100.0%
	中南勢地域	5	65	33	177	26	306
		% 1.6%	21.2%	10.8%	57.8%	8.5%	100.0%
	伊勢志摩地域	1	24	20	65	11	121
	% 0.8%	19.8%	16.5%	53.7%	9.1%	100.0%	
	伊賀地域	0	16	13	58	8	95
	% 0.0%	16.8%	13.7%	61.1%	8.4%	100.0%	
	東紀州地域	1	10	9	33	11	64
	% 1.6%	15.6%	14.1%	51.6%	17.2%	100.0%	
生育歴	三重県内	13	193	130	495	79	910
		% 1.4%	21.2%	14.3%	54.4%	8.7%	100.0%
	三重県外	1	53	34	117	26	231
	% 0.4%	22.9%	14.7%	50.6%	11.3%	100.0%	

問15 性的指向や性自認に関わるLGBTなどの性的マイノリティの人びとについて、現在、どのような問題が起きていると思いますか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	アパートなどへの入居を拒否されること	宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること
総数		(人) 537	466	540	185	139	429
		% 46.9%	40.7%	47.1%	16.1%	12.1%	37.4%
性別	男性	234	215	232	83	66	179
		% 45.8%	42.1%	45.4%	16.2%	12.9%	35.0%
	女性	301	248	305	102	73	248
	% 47.9%	39.5%	48.6%	16.2%	11.6%	39.5%	
	その他	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	64	35	69	11	11	56
		% 71.1%	38.9%	76.7%	12.2%	12.2%	62.2%
	30歳代	87	73	91	25	26	71
		% 67.4%	56.6%	70.5%	19.4%	20.2%	55.0%
	40歳代	98	79	100	33	25	83
		% 53.6%	43.2%	54.6%	18.0%	13.7%	45.4%
	50歳代	91	82	89	32	25	77
	% 52.9%	47.7%	51.7%	18.6%	14.5%	44.8%	
	60歳代	98	96	93	36	25	74
	% 44.3%	43.4%	42.1%	16.3%	11.3%	33.5%	
	70歳代	72	77	71	36	19	47
	% 29.8%	31.8%	29.3%	14.9%	7.9%	19.4%	
	80歳代以上	25	21	24	12	8	18
	% 24.8%	20.8%	23.8%	11.9%	7.9%	17.8%	
国籍	日本	533	460	533	182	136	423
		% 47.3%	40.8%	47.3%	16.1%	12.1%	37.5%
	その他	4	5	6	3	3	4
	% 33.3%	41.7%	50.0%	25.0%	25.0%	33.3%	
居住地	北勢地域	252	211	247	84	66	186
		% 49.4%	41.4%	48.4%	16.5%	12.9%	36.5%
	中南勢地域	144	128	145	51	33	112
		% 47.1%	41.8%	47.4%	16.7%	10.8%	36.6%
	伊勢志摩地域	60	55	60	17	14	60
	% 49.6%	45.5%	49.6%	14.0%	11.6%	49.6%	
	伊賀地域	41	37	43	19	13	39
	% 43.2%	38.9%	45.3%	20.0%	13.7%	41.1%	
	東紀州地域	27	26	29	10	9	22
	% 42.2%	40.6%	45.3%	15.6%	14.1%	34.4%	
生育歴	三重県内	420	359	415	144	102	342
		% 46.2%	39.5%	45.6%	15.8%	11.2%	37.6%
	三重県外	116	105	123	40	36	86
	% 50.2%	45.5%	53.2%	17.3%	15.6%	37.2%	

問15 性的指向や性自認に関わるLGBTなどの性的マイノリティの人びとについて、現在、どのような問題が起きていると思いますか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー関係が法的に認められていないこと	特にない	わからない	その他	無回答	合計
総数	(人)	527	133	272	9	35	1146
	%	46.0%	11.6%	23.7%	0.8%	3.1%	100.0%
性別	男性	199	77	121	3	16	511
	%	38.9%	15.1%	23.7%	0.6%	3.1%	100.0%
	女性	325	55	150	5	18	628
%	51.8%	8.8%	23.9%	0.8%	2.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	64	3	8	0	1	90
	%	71.1%	3.3%	8.9%	0.0%	1.1%	100.0%
	30歳代	86	4	18	1	0	129
	%	66.7%	3.1%	14.0%	0.8%	0.0%	100.0%
	40歳代	110	14	25	0	0	183
	%	60.1%	7.7%	13.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	50歳代	96	15	25	0	1	172
%	55.8%	8.7%	14.5%	0.0%	0.6%	100.0%	
60歳代	91	26	59	0	4	221	
%	41.2%	11.8%	26.7%	0.0%	1.8%	100.0%	
70歳代	57	49	94	5	15	242	
%	23.6%	20.2%	38.8%	2.1%	6.2%	100.0%	
80歳代以上	20	21	42	2	13	101	
%	19.8%	20.8%	41.6%	2.0%	12.9%	100.0%	
国籍	日本	520	130	267	8	33	1128
	%	46.1%	11.5%	23.7%	0.7%	2.9%	100.0%
	その他	6	3	4	0	0	12
%	50.0%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地	北勢地域	242	58	117	2	9	510
	%	47.5%	11.4%	22.9%	0.4%	1.8%	100.0%
	中南勢地域	140	38	67	4	12	306
	%	45.8%	12.4%	21.9%	1.3%	3.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	63	9	28	0	1	121
%	52.1%	7.4%	23.1%	0.0%	0.8%	100.0%	
伊賀地域	41	7	22	1	5	95	
%	43.2%	7.4%	23.2%	1.1%	5.3%	100.0%	
東紀州地域	26	13	17	0	4	64	
%	40.6%	20.3%	26.6%	0.0%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	415	112	222	5	30	910
	%	45.6%	12.3%	24.4%	0.5%	3.3%	100.0%
	三重県外	110	21	49	3	4	231
%	47.6%	9.1%	21.2%	1.3%	1.7%	100.0%	

問16 特定の国の出身であること、または、その子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとするなどの言動(ヘイトスピーチ)について、次のような意見があります。あなたは、A～Cのどの意見に近いですか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

Aの意見「人権を侵害しており、許されないことだ。」

Bの意見「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ。」

Cの意見「ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ。」

		どちらかという と、Aの 意見に 近い	どちらか という と、Bの 意見に 近い	どちらか という と、C の意見 に近い	無回答	合計
総数 (人)		795	208	76	67	1146
		%	%	%	%	%
		69.4%	18.2%	6.6%	5.8%	100.0%
性別	男性	328	103	49	31	511
		%	%	%	%	%
		64.2%	20.2%	9.6%	6.1%	100.0%
性別	女性	465	104	25	34	628
		%	%	%	%	%
		74.0%	16.6%	4.0%	5.4%	100.0%
性別	その他	0	0	0	0	0
		%	%	%	%	%
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	63	24	3	0	90
		%	%	%	%	%
		70.0%	26.7%	3.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	89	33	5	2	129
		%	%	%	%	%
		69.0%	25.6%	3.9%	1.6%	100.0%
	40歳代	147	27	8	1	183
		%	%	%	%	%
	80.3%	14.8%	4.4%	0.5%	100.0%	
年齢	50歳代	137	22	10	3	172
		%	%	%	%	%
		79.7%	12.8%	5.8%	1.7%	100.0%
	60歳代	152	43	17	9	221
		%	%	%	%	%
		68.8%	19.5%	7.7%	4.1%	100.0%
	70歳代	156	40	18	28	242
	%	%	%	%	%	
	64.5%	16.5%	7.4%	11.6%	100.0%	
年齢	80歳代以上	48	18	13	22	101
		%	%	%	%	%
		47.5%	17.8%	12.9%	21.8%	100.0%
国籍	日本	786	205	74	63	1128
		%	%	%	%	%
		69.7%	18.2%	6.6%	5.6%	100.0%
国籍	その他	9	1	1	1	12
		%	%	%	%	%
		75.0%	8.3%	8.3%	8.3%	100.0%
居住地	北勢地域	362	92	31	25	510
		%	%	%	%	%
		71.0%	18.0%	6.1%	4.9%	100.0%
	中南勢地域	217	48	23	18	306
		%	%	%	%	%
	70.9%	15.7%	7.5%	5.9%	100.0%	
居住地	伊勢志摩地域	84	25	6	6	121
		%	%	%	%	%
		69.4%	20.7%	5.0%	5.0%	100.0%
居住地	伊賀地域	66	15	8	6	95
		%	%	%	%	%
		69.5%	15.8%	8.4%	6.3%	100.0%
居住地	東紀州地域	43	16	2	3	64
		%	%	%	%	%
		67.2%	25.0%	3.1%	4.7%	100.0%
生育歴	三重県内	635	162	55	58	910
		%	%	%	%	%
		69.8%	17.8%	6.0%	6.4%	100.0%
生育歴	三重県外	159	45	20	7	231
		%	%	%	%	%
		68.8%	19.5%	8.7%	3.0%	100.0%

問17 これまで、学校、職場、地域などで、次のような人権問題の解決に熱心にとりくんでいる人に出会ったり話を聞いたりしたことがありますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問17 A. 同和問題(部落差別)

		ある	ない	無回答	合計
総数 (人)		342	754	50	1146
%		29.8%	65.8%	4.4%	100.0%
性別	男性	161	331	19	511
	%	31.5%	64.8%	3.7%	100.0%
	女性	180	418	30	628
%	28.7%	66.6%	4.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	31	58	1	90
	%	34.4%	64.4%	1.1%	100.0%
	30歳代	41	86	0	129
	%	31.8%	66.7%	0.0%	98.4%
	40歳代	58	125	0	183
	%	31.7%	68.3%	0.0%	100.0%
	50歳代	57	112	3	172
%	33.1%	65.1%	1.7%	100.0%	
	60歳代	63	150	8	221
%	28.5%	67.9%	3.6%	100.0%	
	70歳代	69	154	19	242
%	28.5%	63.6%	7.9%	100.0%	
	80歳代以上	21	64	16	101
%	20.8%	63.4%	15.8%	100.0%	
国籍	日本	341	740	47	1128
	%	30.2%	65.6%	4.2%	100.0%
	その他	1	10	1	12
%	8.3%	83.3%	8.3%	100.0%	
居住地	北勢地域	140	354	16	510
	%	27.5%	69.4%	3.1%	100.0%
	中南勢地域	100	190	16	306
	%	32.7%	62.1%	5.2%	100.0%
	伊勢志摩地域	32	87	2	121
%	26.4%	71.9%	1.7%	100.0%	
	伊賀地域	46	44	5	95
%	48.4%	46.3%	5.3%	100.0%	
	東紀州地域	16	43	5	64
%	25.0%	67.2%	7.8%	100.0%	
生育歴	三重県内	285	585	40	910
	%	31.3%	64.3%	4.4%	100.0%
	三重県外	57	165	9	231
%	24.7%	71.4%	3.9%	100.0%	

問17 これまで、学校、職場、地域などで、次のような人権問題の解決に熱心にとりくんでいる人に出会ったり話を聞いたりしたことがありますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問17 B. 障がい者の人権問題

		ある	ない	無回答	合計
総数 (人)		337	754	55	1146
%		29.4%	65.8%	4.8%	100.0%
性別	男性	137	350	24	511
	女性	199	400	29	628
	その他	0	0	0	0
%		26.8%	68.5%	4.7%	100.0%
%		31.7%	63.7%	4.6%	100.0%
%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	43	47	0	90
	30歳代	42	86	1	129
	40歳代	53	127	3	183
	50歳代	63	107	2	172
	60歳代	58	153	10	221
	70歳代	53	169	20	242
	80歳代以上	23	61	17	101
%		47.8%	52.2%	0.0%	100.0%
%		32.6%	66.7%	0.8%	100.0%
%		29.0%	69.4%	1.6%	100.0%
%		36.6%	62.2%	1.2%	100.0%
%		26.2%	69.2%	4.5%	100.0%
%		21.9%	69.8%	8.3%	100.0%
%		22.8%	60.4%	16.8%	100.0%
国籍	日本	332	744	52	1128
	その他	4	7	1	12
%		29.4%	66.0%	4.6%	100.0%
%		33.3%	58.3%	8.3%	100.0%
居住地	北勢地域	152	338	20	510
	中南勢地域	93	196	17	306
	伊勢志摩地域	37	83	1	121
	伊賀地域	30	60	5	95
	東紀州地域	17	41	6	64
%		29.8%	66.3%	3.9%	100.0%
%		30.4%	64.1%	5.6%	100.0%
%		30.6%	68.6%	0.8%	100.0%
%		31.6%	63.2%	5.3%	100.0%
%		26.6%	64.1%	9.4%	100.0%
生育歴	三重県内	278	586	46	910
	三重県外	59	164	8	231
%		30.5%	64.4%	5.1%	100.0%
%		25.5%	71.0%	3.5%	100.0%

問17 これまで、学校、職場、地域などで、次のような人権問題の解決に熱心にとりくんでいる人に出会ったり話を聞いたりしたことがありますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

問17 C. 外国人の人権問題

		ある	ない	無回答	合計
総数 (人)		148	922	76	1146
%		12.9%	80.5%	6.6%	100.0%
性別	男性	71	409	31	511
	%	13.9%	80.0%	6.1%	100.0%
	女性	77	508	43	628
女性	%	12.3%	80.9%	6.8%	100.0%
その他	0	0	0	0	
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	20	69	1	90
	20歳代	22.2%	76.7%	1.1%	100.0%
	30歳代	23	104	2	129
	30歳代	17.8%	80.6%	1.6%	100.0%
	40歳代	24	155	4	183
	40歳代	13.1%	84.7%	2.2%	100.0%
	50歳代	24	143	5	172
50歳代	14.0%	83.1%	2.9%	100.0%	
60歳代	28	180	13	221	
60歳代	12.7%	81.4%	5.9%	100.0%	
70歳代	19	195	28	242	
70歳代	7.9%	80.6%	11.6%	100.0%	
80歳代以上	10	70	21	101	
80歳代以上	9.9%	69.3%	20.8%	100.0%	
国籍	日本	147	908	73	1128
	日本	13.0%	80.5%	6.5%	100.0%
その他	1	10	1	12	
その他	8.3%	83.3%	8.3%	100.0%	
居住地	北勢地域	72	413	25	510
	北勢地域	14.1%	81.0%	4.9%	100.0%
	中南勢地域	46	238	22	306
	中南勢地域	15.0%	77.8%	7.2%	100.0%
	伊勢志摩地域	11	106	4	121
伊勢志摩地域	9.1%	87.6%	3.3%	100.0%	
伊賀地域	9	77	9	95	
伊賀地域	9.5%	81.1%	9.5%	100.0%	
東紀州地域	4	50	10	64	
東紀州地域	6.3%	78.1%	15.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	117	729	64	910
	三重県内	12.9%	80.1%	7.0%	100.0%
三重県外	31	189	11	231	
三重県外	13.4%	81.8%	4.8%	100.0%	

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問18 A. 同和問題(部落差別)

		小学校で受 けた	中学校で受 けた	高校で受 けた	大学、短 大、専門学 校で受けた	住民対象の 講座などで 受けた
総数	(人)	280	222	86	29	76
	%	24.4%	19.4%	7.5%	2.5%	6.6%
性別	男性	106	94	37	9	44
	%	20.7%	18.4%	7.2%	1.8%	8.6%
	女性	172	127	49	20	32
	%	27.4%	20.2%	7.8%	3.2%	5.1%
	その他	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	51	34	9	4	1
	%	56.7%	37.8%	10.0%	4.4%	1.1%
	30歳代	70	46	15	5	1
	%	54.3%	35.7%	11.6%	3.9%	0.8%
	40歳代	80	50	21	6	2
	%	43.7%	27.3%	11.5%	3.3%	1.1%
	50歳代	41	32	14	6	10
%	23.8%	18.6%	8.1%	3.5%	5.8%	
60歳代	18	30	14	5	20	
%	8.1%	13.6%	6.3%	2.3%	9.0%	
70歳代	14	20	11	3	35	
%	5.8%	8.3%	4.5%	1.2%	14.5%	
80歳代以上	4	9	2	0	7	
%	4.0%	8.9%	2.0%	0.0%	6.9%	
国籍	日本	278	220	86	29	76
	%	24.6%	19.5%	7.6%	2.6%	6.7%
	その他	1	1	0	0	0
	%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地域	北勢地域	146	105	39	11	29
	%	28.6%	20.6%	7.6%	2.2%	5.7%
	中南勢地域	71	50	20	12	16
	%	23.2%	16.3%	6.5%	3.9%	5.2%
	伊勢志摩地域	19	21	11	1	9
%	15.7%	17.4%	9.1%	0.8%	7.4%	
伊賀地域	29	27	9	2	18	
%	30.5%	28.4%	9.5%	2.1%	18.9%	
東紀州地域	9	13	3	3	2	
%	14.1%	20.3%	4.7%	4.7%	3.1%	
生育歴	三重県内	230	182	68	24	63
	%	25.3%	20.0%	7.5%	2.6%	6.9%
	三重県外	49	39	18	5	13
	%	21.2%	16.9%	7.8%	2.2%	5.6%

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問18 A. 同和問題(部落差別)

		職場の研修 で受けた	はっきりと おぼえてい ない	受けたこと がない	無回答	合計
総数	(人)	143	221	360	34	1146
	%	12.5%	19.3%	31.4%	3.0%	100.0%
性別	男性	86	88	169	13	511
	%	16.8%	17.2%	33.1%	2.5%	100.0%
	女性	57	132	190	18	628
%	9.1%	21.0%	30.3%	2.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	7	16	13	0	90
	%	7.8%	17.8%	14.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	14	16	25	2	129
	%	10.9%	12.4%	19.4%	1.6%	100.0%
	40歳代	23	42	33	1	183
	%	12.6%	23.0%	18.0%	0.5%	100.0%
	50歳代	27	40	50	2	172
%	15.7%	23.3%	29.1%	1.2%	100.0%	
60歳代	33	46	87	1	221	
%	14.9%	20.8%	39.4%	0.5%	100.0%	
70歳代	25	41	107	9	242	
%	10.3%	16.9%	44.2%	3.7%	100.0%	
80歳代以上	13	19	44	16	101	
%	12.9%	18.8%	43.6%	15.8%	100.0%	
国籍	日本	143	218	353	29	1128
	%	12.7%	19.3%	31.3%	2.6%	100.0%
	その他	0	1	7	2	12
%	0.0%	8.3%	58.3%	16.7%	100.0%	
居住地域	北勢地域	66	100	161	7	510
	%	12.9%	19.6%	31.6%	1.4%	100.0%
	中南勢地域	38	57	101	12	306
	%	12.4%	18.6%	33.0%	3.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	15	33	34	1	121
%	12.4%	27.3%	28.1%	0.8%	100.0%	
伊賀地域	12	13	18	3	95	
%	12.6%	13.7%	18.9%	3.2%	100.0%	
東紀州地域	7	8	29	1	64	
%	10.9%	12.5%	45.3%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	112	181	275	26	910
	%	12.3%	19.9%	30.2%	2.9%	100.0%
	三重県外	31	39	84	6	231
%	13.4%	16.9%	36.4%	2.6%	100.0%	

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問18 B. 障がい者の人権

		小学校で受 けた	中学校で受 けた	高校で受 けた	大学、短 大、専門学 校で受けた	住民対象の 講座などで 受けた
総数		(人) 142	142	74	57	49
		% 12.4%	12.4%	6.5%	5.0%	4.3%
性別	男性	49	56	33	21	24
		% 9.6%	11.0%	6.5%	4.1%	4.7%
	女性	93	86	41	36	25
	% 14.8%	13.7%	6.5%	5.7%	4.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	45	40	19	11	2
		% 50.0%	44.4%	21.1%	12.2%	2.2%
	30歳代	46	33	17	11	1
		% 35.7%	25.6%	13.2%	8.5%	0.8%
	40歳代	31	32	15	11	1
		% 16.9%	17.5%	8.2%	6.0%	0.5%
	50歳代	13	16	8	8	13
	% 7.6%	9.3%	4.7%	4.7%	7.6%	
	60歳代	5	12	8	9	8
	% 2.3%	5.4%	3.6%	4.1%	3.6%	
	70歳代	1	5	6	3	18
	% 0.4%	2.1%	2.5%	1.2%	7.4%	
	80歳代以上	1	4	1	4	6
	% 1.0%	4.0%	1.0%	4.0%	5.9%	
国籍	日本	142	142	74	56	49
	% 12.6%	12.6%	6.6%	5.0%	4.3%	
	その他	0	0	0	1	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	
居住地	北勢地域	84	78	45	24	18
		% 16.5%	15.3%	8.8%	4.7%	3.5%
	中南勢地域	31	32	13	18	10
		% 10.1%	10.5%	4.2%	5.9%	3.3%
	伊勢志摩地域	9	12	7	6	7
	% 7.4%	9.9%	5.8%	5.0%	5.8%	
	伊賀地域	11	12	7	5	9
	% 11.6%	12.6%	7.4%	5.3%	9.5%	
	東紀州地域	4	6	1	2	4
	% 6.3%	9.4%	1.6%	3.1%	6.3%	
生育歴	三重県内	118	121	55	41	40
	% 13.0%	13.3%	6.0%	4.5%	4.4%	
	三重県外	24	21	19	15	9
	% 10.4%	9.1%	8.2%	6.5%	3.9%	

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問18 B. 障がい者の人権

		職場の研修 で受けた	はっきりと おぼえてい ない	受けたこと がない	無回答	合計
総数		(人) 148	295	428	49	1146
		% 12.9%	25.7%	37.3%	4.3%	100.0%
性別	男性	77	120	206	22	511
		% 15.1%	23.5%	40.3%	4.3%	100.0%
	女性	71	172	221	24	628
	% 11.3%	27.4%	35.2%	3.8%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	11	19	9	0	90
		% 12.2%	21.1%	10.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	20	40	18	3	129
		% 15.5%	31.0%	14.0%	2.3%	100.0%
	40歳代	26	65	52	1	183
		% 14.2%	35.5%	28.4%	0.5%	100.0%
	50歳代	37	45	56	4	172
	% 21.5%	26.2%	32.6%	2.3%	100.0%	
	60歳代	33	56	107	3	221
	% 14.9%	25.3%	48.4%	1.4%	100.0%	
	70歳代	15	47	135	17	242
	% 6.2%	19.4%	55.8%	7.0%	100.0%	
	80歳代以上	5	20	50	18	101
	% 5.0%	19.8%	49.5%	17.8%	100.0%	
国籍	日本	146	291	422	43	1128
		% 12.9%	25.8%	37.4%	3.8%	100.0%
	その他	2	2	6	2	12
	% 16.7%	16.7%	50.0%	16.7%	100.0%	
居住地域	北勢地域	63	128	186	16	510
		% 12.4%	25.1%	36.5%	3.1%	100.0%
	中南勢地域	44	79	110	16	306
		% 14.4%	25.8%	35.9%	5.2%	100.0%
	伊勢志摩地域	20	38	43	1	121
	% 16.5%	31.4%	35.5%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	10	22	39	3	95
	% 10.5%	23.2%	41.1%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	8	15	30	3	64
	% 12.5%	23.4%	46.9%	4.7%	100.0%	
生育歴	三重県内	118	235	336	38	910
		% 13.0%	25.8%	36.9%	4.2%	100.0%
	三重県外	29	58	92	9	231
	% 12.6%	25.1%	39.8%	3.9%	100.0%	

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問18 C. 外国人の人権

		小学校で受 けた	中学校で受 けた	高校で受 けた	大学、短 大、専門学 校で受けた	住民対象の 講座などで 受けた
総数		(人) 70	70	49	28	32
		% 6.1%	6.1%	4.3%	2.4%	2.8%
性別	男性	23	24	20	11	21
		% 4.5%	4.7%	3.9%	2.2%	4.1%
	女性	47	46	29	17	11
	% 7.5%	7.3%	4.6%	2.7%	1.8%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	32	20	13	7	2
		% 35.6%	22.2%	14.4%	7.8%	2.2%
	30歳代	23	20	11	6	1
		% 17.8%	15.5%	8.5%	4.7%	0.8%
	40歳代	10	13	10	4	2
		% 5.5%	7.1%	5.5%	2.2%	1.1%
	50歳代	2	10	5	6	8
	% 1.2%	5.8%	2.9%	3.5%	4.7%	
	60歳代	1	4	2	4	7
	% 0.5%	1.8%	0.9%	1.8%	3.2%	
	70歳代	2	3	5	0	8
	% 0.8%	1.2%	2.1%	0.0%	3.3%	
	80歳代以上	0	0	3	1	4
	% 0.0%	0.0%	3.0%	1.0%	4.0%	
国籍	日本	70	70	49	27	32
	% 6.2%	6.2%	4.3%	2.4%	2.8%	
	その他	0	0	0	1	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	
居住地域	北勢地域	47	43	31	10	16
		% 9.2%	8.4%	6.1%	2.0%	3.1%
	中南勢地域	14	18	8	10	3
		% 4.6%	5.9%	2.6%	3.3%	1.0%
	伊勢志摩地域	3	4	4	2	6
	% 2.5%	3.3%	3.3%	1.7%	5.0%	
	伊賀地域	4	2	2	2	4
	% 4.2%	2.1%	2.1%	2.1%	4.2%	
	東紀州地域	1	2	3	2	2
	% 1.6%	3.1%	4.7%	3.1%	3.1%	
生育歴	三重県内	67	60	38	19	26
	% 7.4%	6.6%	4.2%	2.1%	2.9%	
	三重県外	3	10	11	8	6
	% 1.3%	4.3%	4.8%	3.5%	2.6%	

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

問18 C. 外国人の人権

		職場の研修 で受けた	はっきりと おぼえてい ない	受けたこと がない	無回答	合計
総数		(人) 84	291	576	59	1146
		% 7.3%	25.4%	50.3%	5.1%	100.0%
性別	男性	47	114	269	27	511
		% 9.2%	22.3%	52.6%	5.3%	100.0%
	女性	37	175	305	29	628
	% 5.9%	27.9%	48.6%	4.6%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	6	27	20	0	90
		% 6.7%	30.0%	22.2%	0.0%	100.0%
	30歳代	12	42	35	4	129
		% 9.3%	32.6%	27.1%	3.1%	100.0%
	40歳代	16	67	83	0	183
		% 8.7%	36.6%	45.4%	0.0%	100.0%
	50歳代	22	44	82	5	172
	% 12.8%	25.6%	47.7%	2.9%	100.0%	
	60歳代	16	57	134	3	221
	% 7.2%	25.8%	60.6%	1.4%	100.0%	
	70歳代	9	37	161	22	242
	% 3.7%	15.3%	66.5%	9.1%	100.0%	
	80歳代以上	3	15	58	22	101
	% 3.0%	14.9%	57.4%	21.8%	100.0%	
国籍	日本	81	287	571	53	1128
		% 7.2%	25.4%	50.6%	4.7%	100.0%
	その他	3	3	4	2	12
	% 25.0%	25.0%	33.3%	16.7%	100.0%	
居住地域	北勢地域	39	126	252	17	510
		% 7.6%	24.7%	49.4%	3.3%	100.0%
	中南勢地域	25	84	148	17	306
		% 8.2%	27.5%	48.4%	5.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	6	36	62	3	121
	% 5.0%	29.8%	51.2%	2.5%	100.0%	
	伊賀地域	5	20	57	6	95
	% 5.3%	21.1%	60.0%	6.3%	100.0%	
	東紀州地域	7	15	34	4	64
	% 10.9%	23.4%	53.1%	6.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	65	232	451	48	910
		% 7.1%	25.5%	49.6%	5.3%	100.0%
	三重県外	18	58	124	9	231
	% 7.8%	25.1%	53.7%	3.9%	100.0%	

問19-1 あなたは最近5年間で、県や市町などが主催する人権に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

		1～2回参加した	3回以上参加した	一度も参加したことがない	無回答	合計
総数		(人) 111	58	956	21	1146
		% 9.7%	5.1%	83.4%	1.8%	100.0%
性別	男性	39	31	431	10	511
		% 7.6%	6.1%	84.3%	2.0%	100.0%
	女性	71	27	521	9	628
	% 11.3%	4.3%	83.0%	1.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	4	5	81	0	90
		% 4.4%	5.6%	90.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	11	4	113	1	129
		% 8.5%	3.1%	87.6%	0.8%	100.0%
	40歳代	24	6	153	0	183
		% 13.1%	3.3%	83.6%	0.0%	100.0%
	50歳代	13	20	138	1	172
	% 7.6%	11.6%	80.2%	0.6%	100.0%	
	60歳代	21	12	187	1	221
	% 9.5%	5.4%	84.6%	0.5%	100.0%	
	70歳代	30	8	195	9	242
	% 12.4%	3.3%	80.6%	3.7%	100.0%	
	80歳代以上	7	3	84	7	101
	% 6.9%	3.0%	83.2%	6.9%	100.0%	
国籍	日本	110	58	943	17	1128
		% 9.8%	5.1%	83.6%	1.5%	100.0%
	その他	1	0	10	1	12
	% 8.3%	0.0%	83.3%	8.3%	100.0%	
居住地	北勢地域	47	19	443	1	510
		% 9.2%	3.7%	86.9%	0.2%	100.0%
	中南勢地域	24	20	253	9	306
		% 7.8%	6.5%	82.7%	2.9%	100.0%
	伊勢志摩地域	8	8	104	1	121
	% 6.6%	6.6%	86.0%	0.8%	100.0%	
	伊賀地域	23	8	61	3	95
	% 24.2%	8.4%	64.2%	3.2%	100.0%	
	東紀州地域	6	1	56	1	64
	% 9.4%	1.6%	87.5%	1.6%	100.0%	
生育歴	三重県内	86	50	759	15	910
		% 9.5%	5.5%	83.4%	1.6%	100.0%
	三重県外	25	8	194	4	231
	% 10.8%	3.5%	84.0%	1.7%	100.0%	

問19-2 19-1で3の回答を選択した方におたずねします。その理由としてあてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

		講演会 や研修 会が開 催され ている ことを 知らな かった	時間や 場所の 問題で 参加で きな かった	関心が ない	人権に ついて は十分 に理解 してい るの で、参 加しな かった	その他	無回答	合計
総数		(人) 359	136	316	82	32	31	956
		% 37.6%	14.2%	33.1%	8.6%	3.3%	3.2%	100.0%
性別	男性	157	50	156	45	9	14	431
		% 36.4%	11.6%	36.2%	10.4%	2.1%	3.2%	100.0%
	女性	201	86	158	37	22	17	521
	% 38.6%	16.5%	30.3%	7.1%	4.2%	3.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	40	7	31	1	2	0	81
		% 49.4%	8.6%	38.3%	1.2%	2.5%	0.0%	100.0%
	30歳代	53	9	40	6	3	2	113
		% 46.9%	8.0%	35.4%	5.3%	2.7%	1.8%	100.0%
	40歳代	73	17	48	3	8	4	153
		% 47.7%	11.1%	31.4%	2.0%	5.2%	2.6%	100.0%
	50歳代	45	23	50	10	9	1	138
	% 32.6%	16.7%	36.2%	7.2%	6.5%	0.7%	100.0%	
	60歳代	60	39	56	21	4	7	187
	% 32.1%	20.9%	29.9%	11.2%	2.1%	3.7%	100.0%	
	70歳代	61	32	65	24	2	11	195
	% 31.3%	16.4%	33.3%	12.3%	1.0%	5.6%	100.0%	
	80歳代以上	25	9	24	17	3	6	84
	% 29.8%	10.7%	28.6%	20.2%	3.6%	7.1%	100.0%	
国籍	日本	356	134	313	79	31	30	943
		% 37.8%	14.2%	33.2%	8.4%	3.3%	3.2%	100.0%
	その他	3	2	1	3	0	1	10
	% 30.0%	20.0%	10.0%	30.0%	0.0%	10.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	172	58	155	33	13	12	443
		% 38.8%	13.1%	35.0%	7.4%	2.9%	2.7%	100.0%
	中南勢地域	94	35	80	24	11	9	253
		% 37.2%	13.8%	31.6%	9.5%	4.3%	3.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	33	20	37	8	3	3	104
	% 31.7%	19.2%	35.6%	7.7%	2.9%	2.9%	100.0%	
	伊賀地域	21	11	17	7	2	3	61
	% 34.4%	18.0%	27.9%	11.5%	3.3%	4.9%	100.0%	
	東紀州地域	24	10	12	5	2	3	56
	% 42.9%	17.9%	21.4%	8.9%	3.6%	5.4%	100.0%	
生育歴	三重県内	286	107	257	62	23	24	759
		% 37.7%	14.1%	33.9%	8.2%	3.0%	3.2%	100.0%
	三重県外	72	29	58	20	8	7	194
	% 37.1%	14.9%	29.9%	10.3%	4.1%	3.6%	100.0%	

問20 人権についての相談を受け付けている以下の機関についてご存知ですか。ご存知の機関・相談窓口について、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		国の機関(法務局、人権擁護委員、労働局など)の相談窓口	県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口	市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)	NPOなどの民間の相談窓口
総数		(人) 344	505	629	229
		% 30.0%	44.1%	54.9%	20.0%
性別	男性	167	223	282	85
		% 32.7%	43.6%	55.2%	16.6%
	女性	176	281	346	143
	% 28.0%	44.7%	55.1%	22.8%	
	その他	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	21	38	40	31
		% 23.3%	42.2%	44.4%	34.4%
	30歳代	39	66	59	40
		% 30.2%	51.2%	45.7%	31.0%
	40歳代	44	79	84	42
		% 24.0%	43.2%	45.9%	23.0%
	50歳代	59	86	103	38
	% 34.3%	50.0%	59.9%	22.1%	
	60歳代	77	106	145	42
	% 34.8%	48.0%	65.6%	19.0%	
	70歳代	71	97	146	27
	% 29.3%	40.1%	60.3%	11.2%	
	80歳代以上	32	32	50	8
	% 31.7%	31.7%	49.5%	7.9%	
国籍	日本	338	500	625	227
		% 30.0%	44.3%	55.4%	20.1%
	その他	4	4	2	1
	% 33.3%	33.3%	16.7%	8.3%	
居住地	北勢地域	154	217	277	116
		% 30.2%	42.5%	54.3%	22.7%
	中南勢地域	99	153	154	61
		% 32.4%	50.0%	50.3%	19.9%
	伊勢志摩地域	36	50	73	25
	% 29.8%	41.3%	60.3%	20.7%	
	伊賀地域	29	44	68	16
	% 30.5%	46.3%	71.6%	16.8%	
	東紀州地域	21	25	37	9
	% 32.8%	39.1%	57.8%	14.1%	
生育歴	三重県内	275	415	495	183
		% 30.2%	45.6%	54.4%	20.1%
	三重県外	68	90	133	45
	% 29.4%	39.0%	57.6%	19.5%	

問20 人権についての相談を受け付けている以下の機関についてご存知ですか。ご存知の機関・相談窓口について、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		法テラス・弁護士	警察	その他	無回答	合計
総数 (人)		277	215	22	223	1146
%		24.2%	18.8%	1.9%	19.5%	100.0%
性別	男性	124	106	6	97	511
	%	24.3%	20.7%	1.2%	19.0%	100.0%
	女性	152	109	16	121	628
女性	%	24.2%	17.4%	2.5%	19.3%	100.0%
その他	0	0	0	0	0	
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	16	14	3	16	90
	20歳代	17.8%	15.6%	3.3%	17.8%	100.0%
	30歳代	47	22	4	20	129
	30歳代	36.4%	17.1%	3.1%	15.5%	100.0%
	40歳代	53	25	5	40	183
	40歳代	29.0%	13.7%	2.7%	21.9%	100.0%
	50歳代	54	39	3	29	172
50歳代	31.4%	22.7%	1.7%	16.9%	100.0%	
60歳代	61	51	2	31	221	
60歳代	27.6%	23.1%	0.9%	14.0%	100.0%	
70歳代	35	47	3	53	242	
70歳代	14.5%	19.4%	1.2%	21.9%	100.0%	
80歳代以上	10	17	2	29	101	
80歳代以上	9.9%	16.8%	2.0%	28.7%	100.0%	
国籍	日本	274	212	21	213	1128
	日本	24.3%	18.8%	1.9%	18.9%	100.0%
その他	2	2	1	6	12	
その他	16.7%	16.7%	8.3%	50.0%	100.0%	
居住地	北勢地域	117	87	9	104	510
	北勢地域	22.9%	17.1%	1.8%	20.4%	100.0%
	中南勢地域	85	68	8	49	306
	中南勢地域	27.8%	22.2%	2.6%	16.0%	100.0%
	伊勢志摩地域	31	25	1	26	121
伊勢志摩地域	25.6%	20.7%	0.8%	21.5%	100.0%	
伊賀地域	22	16	4	11	95	
伊賀地域	23.2%	16.8%	4.2%	11.6%	100.0%	
東紀州地域	13	13	0	13	64	
東紀州地域	20.3%	20.3%	0.0%	20.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	224	177	14	178	910
	三重県内	24.6%	19.5%	1.5%	19.6%	100.0%
三重県外	53	38	8	41	231	
三重県外	22.9%	16.5%	3.5%	17.7%	100.0%	

問21-1 あなたは、最近5年間で自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。
 あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

		ある	ない	無回答	合計
総数	(人)	128	989	29	1146
	%	11.2%	86.3%	2.5%	100.0%
性別	男性	40	457	14	511
	%	7.8%	89.4%	2.7%	100.0%
	女性	87	529	12	628
%	13.9%	84.2%	1.9%	100.0%	
	その他	0	0	0	0
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	14	76	0	90
	%	15.6%	84.4%	0.0%	100.0%
	30歳代	20	108	1	129
	%	15.5%	83.7%	0.8%	100.0%
	40歳代	23	158	2	183
	%	12.6%	86.3%	1.1%	100.0%
	50歳代	26	144	2	172
%	15.1%	83.7%	1.2%	100.0%	
	60歳代	19	199	3	221
%	8.6%	90.0%	1.4%	100.0%	
	70歳代	14	221	7	242
%	5.8%	91.3%	2.9%	100.0%	
	80歳代以上	11	79	11	101
%	10.9%	78.2%	10.9%	100.0%	
国籍	日本	122	981	25	1128
	%	10.8%	87.0%	2.2%	100.0%
	その他	6	5	1	12
%	50.0%	41.7%	8.3%	100.0%	
居住地	北勢地域	53	449	8	510
	%	10.4%	88.0%	1.6%	100.0%
	中南勢地域	39	257	10	306
	%	12.7%	84.0%	3.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	15	106	0	121
%	12.4%	87.6%	0.0%	100.0%	
	伊賀地域	8	86	1	95
%	8.4%	90.5%	1.1%	100.0%	
	東紀州地域	7	55	2	64
%	10.9%	85.9%	3.1%	100.0%	
生育歴	三重県内	107	777	26	910
	%	11.8%	85.4%	2.9%	100.0%
	三重県外	21	209	1	231
%	9.1%	90.5%	0.4%	100.0%	

問21-2 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。どのような理由で人権を侵害されたとお考えですか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		アイヌの人 びと	外見	学歴	経済的困 難、貧困	刑を終えた 人であるこ と
総数		(人) 3	21	23	15	6
		% 2.3%	16.4%	18.0%	11.7%	4.7%
性別	男性	2	8	11	6	3
		% 5.0%	20.0%	27.5%	15.0%	7.5%
	女性	1	13	12	9	3
	% 1.1%	14.9%	13.8%	10.3%	3.4%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	0	4	2	2	0
		% 0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%
	30歳代	0	3	6	1	1
		% 0.0%	15.0%	30.0%	5.0%	5.0%
	40歳代	0	4	4	2	1
		% 0.0%	17.4%	17.4%	8.7%	4.3%
	50歳代	0	5	4	3	1
	% 0.0%	19.2%	15.4%	11.5%	3.8%	
60歳代	1	3	2	1	0	
	% 5.3%	15.8%	10.5%	5.3%	0.0%	
70歳代	2	1	1	3	2	
	% 14.3%	7.1%	7.1%	21.4%	14.3%	
80歳代以上	0	1	4	3	1	
	% 0.0%	9.1%	36.4%	27.3%	9.1%	
国籍	日本	3	21	23	15	5
		% 2.5%	17.2%	18.9%	12.3%	4.1%
	その他	0	0	0	0	1
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
居住地	北勢地域	1	9	14	6	2
		% 1.9%	17.0%	26.4%	11.3%	3.8%
	中南勢地域	2	5	8	5	3
		% 5.1%	12.8%	20.5%	12.8%	7.7%
	伊勢志摩地域	0	3	1	1	0
	% 0.0%	20.0%	6.7%	6.7%	0.0%	
	伊賀地域	0	3	0	1	0
	% 0.0%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%	
	東紀州地域	0	0	0	2	1
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%
生育歴	三重県内	3	18	21	12	4
		% 2.8%	16.8%	19.6%	11.2%	3.7%
	三重県外	0	3	2	3	2
	% 0.0%	14.3%	9.5%	14.3%	9.5%	

問21-2 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。どのような理由で人権を侵害されたとお考えですか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		国籍、人種、民族	災害避難者	障がい者	職業	女性または男性であること
総数		(人) 11	2	16	23	27
		% 8.6%	1.6%	12.5%	18.0%	21.1%
性別	男性	2	1	6	9	3
		% 5.0%	2.5%	15.0%	22.5%	7.5%
	女性	9	1	10	14	24
	% 10.3%	1.1%	11.5%	16.1%	27.6%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	0	0	2	1	4
		% 0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	28.6%
	30歳代	3	0	2	4	5
		% 15.0%	0.0%	10.0%	20.0%	25.0%
	40歳代	3	1	4	4	7
		% 13.0%	4.3%	17.4%	17.4%	30.4%
	50歳代	2	0	3	9	8
	% 7.7%	0.0%	11.5%	34.6%	30.8%	
	60歳代	0	0	0	3	1
	% 0.0%	0.0%	0.0%	15.8%	5.3%	
	70歳代	3	1	4	2	2
	% 21.4%	7.1%	28.6%	14.3%	14.3%	
	80歳代以上	0	0	1	0	0
	% 0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	
国籍	日本	6	2	16	23	26
	% 4.9%	1.6%	13.1%	18.9%	21.3%	
	その他	5	0	0	0	1
	% 83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	
居住地域	北勢地域	5	1	6	9	9
		% 9.4%	1.9%	11.3%	17.0%	17.0%
	中南勢地域	4	1	8	4	10
		% 10.3%	2.6%	20.5%	10.3%	25.6%
	伊勢志摩地域	0	0	2	6	5
	% 0.0%	0.0%	13.3%	40.0%	33.3%	
	伊賀地域	0	0	0	2	1
	% 0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	
	東紀州地域	2	0	0	1	1
	% 28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	
生育歴	三重県内	6	1	12	19	21
	% 5.6%	0.9%	11.2%	17.8%	19.6%	
	三重県外	5	1	4	4	6
	% 23.8%	4.8%	19.0%	19.0%	28.6%	

問21-2 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。どのような理由で人権を侵害されたとお考えですか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		性的マイノリティであること(性的指向・性自認)	同和問題(部落差別)	年齢	犯罪被害者	病気
総数		(人) 5	7	24	6	14
		% 3.9%	5.5%	18.8%	4.7%	10.9%
性別	男性	2	5	8	3	5
		% 5.0%	12.5%	20.0%	7.5%	12.5%
	女性	3	2	16	3	9
	% 3.4%	2.3%	18.4%	3.4%	10.3%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	1	0	2	0	0
		% 7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	0	0	4	1	1
		% 0.0%	0.0%	20.0%	5.0%	5.0%
	40歳代	1	0	3	2	4
		% 4.3%	0.0%	13.0%	8.7%	17.4%
	50歳代	1	3	5	2	4
	% 3.8%	11.5%	19.2%	7.7%	15.4%	
60歳代	1	0	5	0	4	
	% 5.3%	0.0%	26.3%	0.0%	21.1%	
70歳代	1	2	3	1	1	
	% 7.1%	14.3%	21.4%	7.1%	7.1%	
80歳代以上	0	2	2	0	0	
	% 0.0%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%	
国籍	日本	5	7	24	5	14
		% 4.1%	5.7%	19.7%	4.1%	11.5%
	その他	0	0	0	1	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
居住地域	北勢地域	2	1	9	2	8
		% 3.8%	1.9%	17.0%	3.8%	15.1%
	中南勢地域	3	5	7	2	4
		% 7.7%	12.8%	17.9%	5.1%	10.3%
	伊勢志摩地域	0	0	4	0	0
	% 0.0%	0.0%	26.7%	0.0%	0.0%	
伊賀地域	0	1	1	0	1	
	% 0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	
東紀州地域	0	0	1	2	1	
	% 0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%	
生育歴	三重県内	3	5	22	4	9
		% 2.8%	4.7%	20.6%	3.7%	8.4%
	三重県外	2	2	2	2	5
	% 9.5%	9.5%	9.5%	9.5%	23.8%	

問21-2 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。どのような理由で人権を侵害されたとお考えですか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		ホームレス	答えたくない	その他	無回答	合計
総数 (人)		5	14	21	4	128
		3.9%	10.9%	16.4%	3.1%	100.0%
性別	男性	2	7	7	1	40
		5.0%	17.5%	17.5%	2.5%	100.0%
	女性	3	6	14	3	87
	3.4%	6.9%	16.1%	3.4%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	1	1	2	0	14
		7.1%	7.1%	14.3%	0.0%	100.0%
	30歳代	0	2	4	0	20
		0.0%	10.0%	20.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	1	1	3	0	23
		4.3%	4.3%	13.0%	0.0%	100.0%
	50歳代	1	1	5	0	26
	3.8%	3.8%	19.2%	0.0%	100.0%	
	60歳代	0	3	4	1	19
		0.0%	15.8%	21.1%	5.3%	100.0%
	70歳代	1	4	1	2	14
		7.1%	28.6%	7.1%	14.3%	100.0%
	80歳代以上	1	1	2	1	11
		9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	100.0%
国籍	日本	5	14	21	4	122
		4.1%	11.5%	17.2%	3.3%	100.0%
	その他	0	0	0	0	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
居住地域	北勢地域	3	4	10	2	53
		5.7%	7.5%	18.9%	3.8%	100.0%
	中南勢地域	2	6	4	1	39
		5.1%	15.4%	10.3%	2.6%	100.0%
	伊勢志摩地域	0	0	4	1	15
	0.0%	0.0%	26.7%	6.7%	100.0%	
	伊賀地域	0	2	1	0	8
		0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	100.0%
	東紀州地域	0	0	2	0	7
		0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	100.0%
生育歴	三重県内	3	11	20	4	107
		2.8%	10.3%	18.7%	3.7%	100.0%
	三重県外	2	3	1	0	21
		9.5%	14.3%	4.8%	0.0%	100.0%

問21-3 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。人権侵害を受けたとき、あなたはどのような対応をしましたか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		相手に抗議した	家族や友人など身近な人に相談した	会社の上司や学校の先生などに相談した	国の機関(法務局、労働局など)の相談窓口	県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口
総数	(人)	20	47	15	6	8
	%	15.6%	36.7%	11.7%	4.7%	6.3%
性別	男性	8	13	4	2	4
	%	20.0%	32.5%	10.0%	5.0%	10.0%
	女性	12	33	11	4	4
%	13.8%	37.9%	12.6%	4.6%	4.6%	
その他	0	0	0	0	0	
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢	20歳代	1	6	1	0	0
	%	7.1%	42.9%	7.1%	0.0%	0.0%
	30歳代	4	7	4	0	0
	%	20.0%	35.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	5	9	1	1	0
	%	21.7%	39.1%	4.3%	4.3%	0.0%
	50歳代	4	8	3	3	4
%	15.4%	30.8%	11.5%	11.5%	15.4%	
60歳代	4	8	4	1	1	
%	21.1%	42.1%	21.1%	5.3%	5.3%	
70歳代	1	3	2	1	1	
%	7.1%	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%	
80歳代以上	1	5	0	0	2	
%	9.1%	45.5%	0.0%	0.0%	18.2%	
国籍	日本	20	47	15	6	8
	%	16.4%	38.5%	12.3%	4.9%	6.6%
その他	0	0	0	0	0	
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
居住地域	北勢地域	13	22	5	0	2
	%	24.5%	41.5%	9.4%	0.0%	3.8%
	中南勢地域	5	14	6	4	5
	%	12.8%	35.9%	15.4%	10.3%	12.8%
	伊勢志摩地域	0	5	3	1	0
%	0.0%	33.3%	20.0%	6.7%	0.0%	
伊賀地域	2	3	0	0	0	
%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
東紀州地域	0	2	1	1	1	
%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	
生育歴	三重県内	18	39	13	4	6
	%	16.8%	36.4%	12.1%	3.7%	5.6%
三重県外	2	8	2	2	2	
%	9.5%	38.1%	9.5%	9.5%	9.5%	

問21-3 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。人権侵害を受けたとき、あなたはどのような対応をしましたか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)	NPOなどの民間の相談窓口に相談した	人権擁護委員に相談した	法テラス・弁護士に相談した	警察に相談した
総数		(人) 9	5	4	8	3
		% 7.0%	3.9%	3.1%	6.3%	2.3%
性別	男性	2	1	3	5	1
		% 5.0%	2.5%	7.5%	12.5%	2.5%
	女性	7	4	1	3	2
	% 8.0%	4.6%	1.1%	3.4%	2.3%	
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	0	0	0	0	0
		% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	0	0	0	2	0
		% 0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	40歳代	2	1	0	3	0
		% 8.7%	4.3%	0.0%	13.0%	0.0%
	50歳代	4	3	1	2	0
	% 15.4%	11.5%	3.8%	7.7%	0.0%	
60歳代	2	0	1	0	0	
	% 10.5%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	
70歳代	1	1	1	1	3	
	% 7.1%	7.1%	7.1%	7.1%	21.4%	
80歳代以上	0	0	1	0	0	
	% 0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	
国籍	日本	9	5	4	8	3
		% 7.4%	4.1%	3.3%	6.6%	2.5%
	その他	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地域	北勢地域	4	0	2	1	2
		% 7.5%	0.0%	3.8%	1.9%	3.8%
	中南勢地域	4	4	2	5	1
		% 10.3%	10.3%	5.1%	12.8%	2.6%
	伊勢志摩地域	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
伊賀地域	1	1	0	1	0	
	% 12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	
東紀州地域	0	0	0	1	0	
	% 0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	
生育歴	三重県内	5	2	3	7	3
		% 4.7%	1.9%	2.8%	6.5%	2.8%
	三重県外	4	3	1	1	0
	% 19.0%	14.3%	4.8%	4.8%	0.0%	

問21-3 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。人権侵害を受けたとき、あなたはどのような対応をしましたか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

		何もせず、か ましました	その他	無回答	合計
総数	(人)	60	13	8	128
	%	46.9%	10.2%	6.3%	100.0%
性別	男性	20	4	2	40
	%	50.0%	10.0%	5.0%	100.0%
	女性	39	9	6	87
	%	44.8%	10.3%	6.9%	100.0%
	その他	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	8	1	0	14
	%	57.1%	7.1%	0.0%	100.0%
	30歳代	10	3	1	20
	%	50.0%	15.0%	5.0%	100.0%
	40歳代	10	2	1	23
	%	43.5%	8.7%	4.3%	100.0%
	50歳代	14	4	1	26
%	53.8%	15.4%	3.8%	100.0%	
	60歳代	10	2	0	19
	%	52.6%	10.5%	0.0%	100.0%
	70歳代	5	1	3	14
	%	35.7%	7.1%	21.4%	100.0%
	80歳代以上	2	0	2	11
	%	18.2%	0.0%	18.2%	100.0%
国籍	日本	55	13	7	122
	%	45.1%	10.7%	5.7%	100.0%
	その他	5	0	1	6
	%	83.3%	0.0%	16.7%	100.0%
居住地域	北勢地域	21	7	2	53
	%	39.6%	13.2%	3.8%	100.0%
	中南勢地域	19	2	3	39
	%	48.7%	5.1%	7.7%	100.0%
	伊勢志摩地域	9	1	1	15
%	60.0%	6.7%	6.7%	100.0%	
	伊賀地域	4	1	0	8
	%	50.0%	12.5%	0.0%	100.0%
	東紀州地域	3	1	1	7
	%	42.9%	14.3%	14.3%	100.0%
生育歴	三重県内	48	11	7	107
	%	44.9%	10.3%	6.5%	100.0%
	三重県外	12	2	1	21
	%	57.1%	9.5%	4.8%	100.0%

問22 最後に、あなたご自身のことについて、おたずねします。

A. あなたの性別は

		男性	女性	その他	無回答	合計
総数	(人)	511	628	0	7	1146
	%	44.6%	54.8%	0.0%	0.6%	100.0%
年齢	20歳代	36	54	0	0	90
	%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	54	75	0	0	129
	%	41.9%	58.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	68	115	0	0	183
	%	37.2%	62.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	50歳代	76	96	0	0	172
	%	44.2%	55.8%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	107	114	0	0	221	
%	48.4%	51.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
70歳代	113	129	0	0	242	
%	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
80歳代以上	56	45	0	0	101	
%	55.4%	44.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
国籍	日本	508	617	0	3	1128
	%	45.0%	54.7%	0.0%	0.3%	100.0%
その他	3	9	0	0	12	
%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
居住地	北勢地域	231	279	0	0	510
	%	45.3%	54.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	中南勢地域	140	165	0	1	306
	%	45.8%	53.9%	0.0%	0.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	57	64	0	0	121
%	47.1%	52.9%	0.0%	0.0%	100.0%	
伊賀地域	33	62	0	0	95	
%	34.7%	65.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
東紀州地域	27	37	0	0	64	
%	42.2%	57.8%	0.0%	0.0%	100.0%	
生育歴	三重県内	406	502	0	2	910
	%	44.6%	55.2%	0.0%	0.2%	100.0%
三重県外	104	126	0	1	231	
%	45.0%	54.5%	0.0%	0.4%	100.0%	

問22 最後に、あなたご自身のことについて、おたずねします。
B. あなたの年齢は

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	無回答	合計
総数		(人) 90	129	183	172	221	242	101	8	1146
		% 7.9%	11.3%	16.0%	15.0%	19.3%	21.1%	8.8%	0.7%	100.0%
性別	男性	36	54	68	76	107	113	56	1	511
		% 7.0%	10.6%	13.3%	14.9%	20.9%	22.1%	11.0%	0.2%	100.0%
	女性	54	75	115	96	114	129	45	0	628
		% 8.6%	11.9%	18.3%	15.3%	18.2%	20.5%	7.2%	0.0%	100.0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
国籍	日本	90	124	181	168	220	241	100	4	1128
		% 8.0%	11.0%	16.0%	14.9%	19.5%	21.4%	8.9%	0.4%	100.0%
	その他	0	5	2	4	1	0	0	0	12
		% 0.0%	41.7%	16.7%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
居住地	北勢地域	49	73	102	75	87	92	31	1	510
		% 9.6%	14.3%	20.0%	14.7%	17.1%	18.0%	6.1%	0.2%	100.0%
	中南勢地域	20	35	47	51	51	69	32	1	306
		% 6.5%	11.4%	15.4%	16.7%	16.7%	22.5%	10.5%	0.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	12	6	9	28	41	20	5	0	121
	% 9.9%	5.0%	7.4%	23.1%	33.9%	16.5%	4.1%	0.0%	100.0%	
	伊賀地域	4	7	13	11	16	33	11	0	95
		% 4.2%	7.4%	13.7%	11.6%	16.8%	34.7%	11.6%	0.0%	100.0%
	東紀州地域	1	5	10	6	17	18	7	0	64
		% 1.6%	7.8%	15.6%	9.4%	26.6%	28.1%	10.9%	0.0%	100.0%
生育歴	三重県内	84	95	141	140	169	198	80	3	910
		% 9.2%	10.4%	15.5%	15.4%	18.6%	21.8%	8.8%	0.3%	100.0%
	三重県外	6	34	42	32	51	44	21	1	231
		% 2.6%	14.7%	18.2%	13.9%	22.1%	19.0%	9.1%	0.4%	100.0%

問22 最後に、あなたご自身のことについて、おたずねします。

C. あなたの国籍は

		日本	その他	無回答	合計
総数		(人) 1128	12	6	1146
		% 98.4%	1.0%	0.5%	100.0%
性別	男性	508	3	0	511
		% 99.4%	0.6%	0.0%	100.0%
	女性	617	9	2	628
	% 98.2%	1.4%	0.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	90	0	0	90
		% 100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	124	5	0	129
		% 96.1%	3.9%	0.0%	100.0%
	40歳代	181	2	0	183
		% 98.9%	1.1%	0.0%	100.0%
	50歳代	168	4	0	172
	% 97.7%	2.3%	0.0%	100.0%	
	60歳代	220	1	0	221
	% 99.5%	0.5%	0.0%	100.0%	
	70歳代	241	0	1	242
	% 99.6%	0.0%	0.4%	100.0%	
	80歳代以上	100	0	1	101
	% 99.0%	0.0%	1.0%	100.0%	
居住地域	北勢地域	506	4	0	510
		% 99.2%	0.8%	0.0%	100.0%
	中南勢地域	303	2	1	306
		% 99.0%	0.7%	0.3%	100.0%
	伊勢志摩地域	121	0	0	121
	% 100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	伊賀地域	94	1	0	95
	% 98.9%	1.1%	0.0%	100.0%	
	東紀州地域	60	4	0	64
	% 93.8%	6.3%	0.0%	100.0%	
生育歴	三重県内	903	5	2	910
		% 99.2%	0.5%	0.2%	100.0%
	三重県外	225	6	0	231
	% 97.4%	2.6%	0.0%	100.0%	

問22 最後に、あなたご自身のことについて、おたずねします。
D. 現在、あなたがお住まいの市町は

		北勢地 域	中南勢 地域	伊勢志 摩地域	伊賀地 域	東紀州 地域	無回答	合計
総数		(人) 510	306	121	95	64	50	1146
		% 44.5%	26.7%	10.6%	8.3%	5.6%	4.4%	100.0%
性別	男性	231	140	57	33	27	23	511
		% 45.2%	27.4%	11.2%	6.5%	5.3%	4.5%	100.0%
	女性	279	165	64	62	37	21	628
	% 44.4%	26.3%	10.2%	9.9%	5.9%	3.3%	100.0%	
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	% 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
性別	20歳代	49	20	12	4	1	4	90
		% 54.4%	22.2%	13.3%	4.4%	1.1%	4.4%	100.0%
	30歳代	73	35	6	7	5	3	129
		% 56.6%	27.1%	4.7%	5.4%	3.9%	2.3%	100.0%
	40歳代	102	47	9	13	10	2	183
		% 55.7%	25.7%	4.9%	7.1%	5.5%	1.1%	100.0%
	50歳代	75	51	28	11	6	1	172
	% 43.6%	29.7%	16.3%	6.4%	3.5%	0.6%	100.0%	
	60歳代	87	51	41	16	17	9	221
	% 39.4%	23.1%	18.6%	7.2%	7.7%	4.1%	100.0%	
	70歳代	92	69	20	33	18	10	242
	% 38.0%	28.5%	8.3%	13.6%	7.4%	4.1%	100.0%	
	80歳代以上	31	32	5	11	7	15	101
	% 30.7%	31.7%	5.0%	10.9%	6.9%	14.9%	100.0%	
国籍	日本	506	303	121	94	60	44	1128
	% 44.9%	26.9%	10.7%	8.3%	5.3%	3.9%	100.0%	
	その他	4	2	0	1	4	1	12
	% 33.3%	16.7%	0.0%	8.3%	33.3%	8.3%	100.0%	
生育歴	三重県内	387	256	112	65	54	36	910
	% 42.5%	28.1%	12.3%	7.1%	5.9%	4.0%	100.0%	
	三重県外	123	49	9	30	10	10	231
	% 53.2%	21.2%	3.9%	13.0%	4.3%	4.3%	100.0%	

問2 2 最後に、あなたご自身のことについて、おたずねします。
 E. あなたが小中学生のときに一番長く過ごしたのは、県内、県外のどちらですか。あてはまるものについて、一つだけ○をつけてください。

		三重県内	三重県外	無回答	合計
総数		910	231	5	1146
(人)					
%		79.4%	20.2%	0.4%	100.0%
性別	男性	406	104	1	511
	女性	502	126	0	628
	その他	0	0	0	0
%		79.5%	20.4%	0.2%	100.0%
%		79.9%	20.1%	0.0%	100.0%
%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	20歳代	84	6	0	90
	30歳代	95	34	0	129
	40歳代	141	42	0	183
	50歳代	140	32	0	172
	60歳代	169	51	1	221
	70歳代	198	44	0	242
	80歳代以上	80	21	0	101
%		93.3%	6.7%	0.0%	100.0%
%		73.6%	26.4%	0.0%	100.0%
%		77.0%	23.0%	0.0%	100.0%
%		81.4%	18.6%	0.0%	100.0%
%		76.5%	23.1%	0.5%	100.0%
%		81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
%		79.2%	20.8%	0.0%	100.0%
国籍	日本	903	225	0	1128
	その他	5	6	1	12
%		80.1%	19.9%	0.0%	100.0%
%		41.7%	50.0%	8.3%	100.0%
居住地域	北勢地域	387	123	0	510
	中南勢地域	256	49	1	306
	伊勢志摩地域	112	9	0	121
	伊賀地域	65	30	0	95
	東紀州地域	54	10	0	64
%		75.9%	24.1%	0.0%	100.0%
%		83.7%	16.0%	0.3%	100.0%
%		92.6%	7.4%	0.0%	100.0%
%		68.4%	31.6%	0.0%	100.0%
%		84.4%	15.6%	0.0%	100.0%

じんけんもんだい かん み え けんみん い し き ち ょ う さ 人権問題に関する三重県民意識調査

2019 (れいわがん ねん がつ
三 重 県
み え けん)

きょうりょく ねが ご協力のお願い

ひ 日ごろから、けんぎょうせい すいしん かくべつ り かい きょうりょく
県行政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

この調査は、ちようさ たようか じんけんもんだい とりくみ すす き そ し り ょ う
多様化する人権問題への取組を進めるための基礎資料とするため、けんみん
みなさんのお考えをお聞きするものです。けん この調査結果を、さべつ けんけん そんちよう
異なる、明らかな住みよい社会をつくるために生かしていきたいと考えています。

この調査票は、ちようさひよう けんみん なか むさく くい にん えら ゆうそう
県民のみなさまの中から無作為に3,000人を選び、郵送させていただきました。
かいとう むきめい どうけいてき しより ちようさ もくてき いが い しょう
回答は無記名で、すべて統計的に処理し、調査の目的以外には使用いたしません。

ちようさ しゅし り かい じんけん ちしき かんが かつ せつもん
調査の趣旨をご理解いただき、人権についてのさまざまな知識や考え方などの設問に、
そちちよく かいとう
率直にご回答いただきますよう、お願い申し上げます。

かいとう 回答にあたって

- ふうとう な ほんにん かいとう ほんにん きにゆう こんなん ばあい かぞく
封筒のあて名のご本人がご回答ください。ご本人による記入が困難な場合は、ご家族などがご
ほんにん き と だいひつ ねが ちようきふざい ほんにん こた
本人から聞き取って代筆をお願いします。なお、長期不在などにより、ご本人がお答えいただけ
ない場合はご回答・ご返送いただく必要はありません。
- かいとう しつもん
回答は質問ごとに、あてはまる回答の数字に○をつけてください。
- 「その他 ()」を選ばれた場合は、() にその内容をご記入ください。
- まちがえた数字に○をつけた場合は、×で消して、正しい数字に○をつけてください。
- きにゆう ちようさひよう むきめい へんしんようふうとう い がつ にち ちか
ご記入いただいた調査票は、無記名のまま返信用封筒に入れて、9月15日(日)までにお近くの
ゆうびんきょく だ きて は ひつよう
ポストか郵便局へお出しください。切手を貼っていただく必要はありません。
- けん じんけんし さく ちようさ いけん いけんらん か
県の人権施策やこの調査についてのご意見は、14ページの意見欄にお書きください。
- わからないことがありましたら、か き と あ
わからないことがありましたら、下記へお問い合わせください。

み え けん かんきょうせい かつぶ じんけんか
三重県環境生活部 人権課

でんわ
電話 059-224-2278 / FAX 059-224-3069 / E-mail jinken@pref.mie.ig.jp

【本調査で使用している用語について】

■ HIV/エイズ

HIVは、ヒト免疫不全ウイルスのことです。このウイルスに感染することで病気に対する抵抗力(免疫)が低下し、本来なら自分の力で抑えることができるはずの病気を発症してしまいます。代表的な23の疾患を発症した時点でエイズ(後天性免疫不全症候群)発症とされます。現在はHIVに感染していても、服薬によりエイズ発症を予防することができます。

■ 性的マイノリティ、LGBT

マイノリティは少数派という意味です。LGBTは、人の性愛がどういう対象に向かうのかを示す性的指向や性自認についての性的マイノリティを限定的にさす言葉です。性的指向には、女性同性愛者(Lesbian)、男性同性愛者(Gay)、両性愛者(Bisexual)があります。また、性自認として、身体と心の性が一致する人もいれば、違和を感じる人もいます。心の性にそって生きたいと望む人たちを「トランスジェンダー(Transgender)」といいます。

■ 同和地区

我が国では同和問題の解決に向け、2002(平成14)年3月に「地域改善対策特定事業にかかる国の財政上の特別措置に関する法律」が失効するまでの間、同和地区の環境改善や教育・啓発などの取り組みが進められてきました。その際、取り組みを進める対象地域として、法に基づき一定の地域が指定されており、この調査の中で「同和地区」という用語を使う場合、この法律によって指定されていた対象地域を示しています。なお、県は同法の失効以後、地域を限定した施策を行っていません。

■ NPO

特定非営利活動促進法で法人格を得た団体を、特定非営利活動法人(NPO法人)と呼びます。

■ 法テラス

正式名称は「日本司法支援センター」。法的トラブルの解決のための情報提供や相談窓口の案内、無料法律相談などを行う国が設立した公的な法人です。

■ 児童養護施設

保護者のない児童や虐待されている児童、環境上養護を要する児童などを入所させ、養護するとともに、退所した人に対して相談や自立のための援助を行う施設です。

問 1 あなたは、次のような人権に関する宣言や条約・法律・条例を知っていますか。

A～Q のそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答
A 世界人権宣言	18.0	64.1	15.5	2.4
B 水平社宣言	8.7	22.7	65.7	2.9
C 人種差別撤廃条約	14.0	52.9	29.8	3.4
D 子どもの権利条約	15.7	47.3	34.0	3.0
E 同和対策審議会答申	8.7	36.6	51.3	3.4
F 男女共同参画社会基本法	22.9	48.7	25.2	3.1
G 犯罪被害者等基本法	9.2	45.8	41.3	3.7
H 拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律	6.8	45.8	44.6	2.8
I ハンセン病問題の解決の促進に関する法律	10.5	47.3	39.4	2.8
J 障害者差別解消法	11.3	46.0	39.3	3.5
K ヘイトスピーチ解消法	7.0	34.2	55.4	3.4
L 部落差別解消推進法	9.2	43.8	43.7	3.3
M アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律	4.4	29.0	64.0	2.7
N 日本語教育推進法	2.4	22.2	72.1	3.4
O 人権が尊重される三重をつくる条例	3.1	22.2	71.1	3.7
P 三重県子ども条例	5.2	30.5	61.4	2.9
Q 障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例	4.8	24.9	67.9	2.4

問2 三重県では、「性別、出身地、障がいの有無などによる差別がなく、一人ひとりの人権が尊重され、個性や能力を発揮できる機会が誰にでも与えられる社会」の実現をめざしています。あなたは、「三重県は人権が尊重されている社会になっている」と感じますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

感じている	どちらかといえば感じている	どちらともいえない	どちらかといえば感じない	感じない	わからない	無回答
2.5	20.9	37.5	13.9	9.1	14.3	1.7

問3 人権や差別をめぐって、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Gのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
A 人権は、侵すことのできない永久の権利である	64.4	24.3	7.5	0.8	1.0	2.0
B 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	59.4	29.4	7.2	1.0	1.3	1.6
C 差別は法律で禁止する必要がある	36.1	32.1	24.5	3.1	2.8	1.4
D 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	53.5	33.1	9.8	1.1	0.9	1.7
E 人権問題とは、差別を受ける人の問題であって自分には関係がない	2.6	4.4	17.1	20.3	53.8	1.7
F 競争社会だから、能力による差別が生じるのは仕方がない	10.5	26.4	29.6	12.0	19.9	1.7
G 社会的弱者が優遇されるのは、一般の人のがんばりが認められないので問題がある	5.4	12.3	39.5	16.2	24.3	2.3

問4 あなたは、差別や人権問題について、家族や友人と話すことがありますか。

あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

よくある	4.6
ときどきある	49.6
ない	44.6
無回答	1.2

問5 人権に関する問題をめぐって、いろいろな意見があります。あなたはどのように思いますか。

A～Mのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
A 同和問題(部落差別)は早急に 解決されなければならない	30.0	36.1	24.3	3.7	3.9	1.9
B 同和地区の人には、引っ越し してもらい、跡地を公園などに すればよい	2.8	3.4	28.2	18.1	45.5	2.1
C そっとしておけば、部落差別 は自然になくなっていくので、 人権教育や人権啓発はしない方 がよい	9.1	11.8	30.6	19.2	27.9	1.4
D 子どものしつけのためには、 体罰はやむをえない	4.0	11.9	26.5	18.2	38.0	1.5
E 子育ての期間は、母親だけが 育児に専念すべきだ	1.3	2.6	9.8	13.5	71.0	1.7
F 議会で女性議員の割合が低い のは問題だ	22.6	24.3	33.7	8.5	9.6	1.4
G 障がい児・者に対する虐待は 許されない	84.0	8.8	2.5	0.6	2.8	1.2
H 外国人が仕事をする上で、 少々待遇が悪くても仕方がない	3.8	9.2	25.0	24.1	36.1	1.9

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
I 私は友人がH I Vに感染していることがわかった場合、これまでと同じようにつき合っている	25.1	27.1	36.2	5.3	4.1	2.1
J 家族、友人などが性的マイノリティであることがわかった場合、これまでと同じように接することができる	30.1	28.6	29.4	5.8	3.1	3.0
K 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむをえない	4.5	15.1	29.1	21.6	27.6	2.2
L 災害時の避難所では、障がい者や高齢者、外国人など支援が必要な人に特別な配慮ができなくてもやむをえない	3.4	7.6	18.8	26.4	41.6	2.2
M 原発事故の被災者を避けようとするのはおかしい	69.2	14.7	7.9	2.1	3.9	2.1

問6 差別に対する現状や、なくなる見通しについてはさまざまな見方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。A～Eについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	差別はあるが、 解決に向かう	差別があり、 なくなる	差別はない	わからない	無回答
A 同和問題(部落差別)	31.6	28.4	10.3	27.5	2.2
B 女性差別	34.6	34.3	15.4	13.4	2.4
C 障がい者差別	33.3	39.4	11.6	13.2	2.4
D 外国人差別	30.5	36.2	10.6	20.2	2.5
E 刑を終えた人たちや その家族への差別	18.5	45.2	7.2	27.0	2.2

問7 あなたの身内の方に、結婚(縁談)の話があったときに、あなたの家族が相手に気づかれないように次のようなことを調べようとしたとすると、あなたはどのように感じますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	調べるのは当然だ	感じはよくな いが必要だ	調べるべきで はない	無回答
A 相手の家族の病歴や障がいの有無	9.4	46.3	42.1	2.2
B 相手の家族の職業や学歴	8.5	37.4	51.6	2.5
C 相手の家族の収入、資産	6.1	31.5	60.1	2.3
D 相手や家族の国籍	15.3	40.7	41.8	2.3
E 同和地区の人であるかどうか	8.6	35.3	53.4	2.7

問8 もし仮に、あなたのお子さんが恋愛し、結婚したいといっている相手がA～Dの人であれば、あなたはどのような態度をとると思いますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。(お子さんがいない場合は、いと仮定してお答えください。)

	まったく問題にしない	迷いながらも結局は問題にしない	迷いながらも結局は考えなおすように言う	考えなおすように言う	無回答
A 同和地区出身者	29.0	42.5	18.8	7.6	2.1
B 障がい者	10.3	45.3	31.2	10.5	2.7
C 外国人	27.2	45.5	17.2	7.9	2.2
D HIV陽性者、ハンセン病回復者の家族、難病患者	4.7	25.4	42.0	25.4	2.5

問9 ある市が、住宅地域の中心にA～Cのような施設の建設を計画したところ、地元の住民から反対運動が起こってきました。こうした住民の態度について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	反対運動は人権を侵害している	反対運動は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	無回答
A 知的障がい、精神障がい児・者の生活施設	52.1	13.6	31.8	2.4
B 児童養護施設	57.8	12.0	27.6	2.7
C 外国人の研修施設	46.1	15.1	36.0	2.9

問10 家主が賃貸マンションをA～Cの人であることを理由に貸すことを断ること(入居拒否)について、あなたはどのように思いますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	入居拒否は人権を侵害している	入居拒否は人権を侵害しているとはいえない	どちらともいえない	無回答
A 外国人	44.4	19.5	33.2	2.8
B 障がい者	50.7	16.6	29.8	2.9
C 高齢者	50.4	16.0	30.8	2.8

問11 もし仮に、あなたが、住宅を探しているとした場合に、間取り、交通の便、環境、値段など、自分の目で確かめ、気に入ったとします。その後、その家のすぐ近くに次のような条件があることがわかった場合、あなたはどうしますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	まったくこだわらないのでその家を買う(借りる)	こだわりはあるが条件がよければ買う(借りる)	どれだけ条件がよくても買い(借り)たくない	無回答
A 同じ小学校区内に同和地区がある	43.7	39.4	14.1	2.8
B 物件(住宅)が同和地区内にある	26.4	40.5	29.8	3.3
C 外国人の集住地域が近くにある	21.1	46.7	29.0	3.2

問12 世間では、どのようなことで「同和地区出身者」を判断していると思いますか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

本人が現在、同和地区に住んでいる	49.5
本人が過去に同和地区に住んだことがある	21.2
本人の本籍地が同和地区にある	40.1
本人の出生地が同和地区である	39.9
父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる	36.6
父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区にある	31.9
父母あるいは祖父母の出生地が同和地区である	31.8
職業によって判断している	6.5
その他	3.0
わからない	30.8
無回答	4.4

問13-1 最近5年間で、あなたは同和問題(部落差別)について次のようなことを聞いたことがありますか。そのときに、あなたはどのように思いましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	聞いたことがない	聞いたことがあり、その通りだと思った	聞いたことがあり、そういう見方もあるのかと思った	聞いたことがあり、疑問に思った	聞いたことがあり、反感を感じた	無回答
A 同和問題にはかかわらない方がよい	58.4	5.1	18.5	11.8	3.1	3.1
B 同和地区の人はこわい	53.1	6.5	21.7	11.3	3.7	3.7
C 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ	51.0	16.0	11.7	13.8	4.0	3.6

↓
問14へ

↓
問13-2へ

問13-2 問13-1で2～5と回答した方におたずねします。そのことを誰から聞きましたか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

	家族から聞いた	親戚から聞いた	近所の人から聞いた	友だちから聞いた	職場の人から聞いた	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	インターネット上の情報で知った	覚えていない	その他	無回答
A 同和問題にはかかわらない方がよい N=441	31.3	12.5	15.0	21.8	16.8	9.3	4.3	14.7	4.1	7.0
B 同和地区の人はこわい N=496	24.8	14.3	17.9	22.4	18.8	7.5	5.0	13.1	4.8	6.5
C 同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ N=520	15.8	7.9	11.9	19.8	19.0	17.3	6.9	17.1	6.3	6.2

問14 あなたはインターネット上で、A～Dのような表現を見たことがありますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	見たこと があり、許 せない人 権侵害だ と思い、関 係機関に 通報した	見たこと があり、許 せない人 権侵害だ と思った がそのま ま放置し た	見たこと があり、と りたてて 騒ぐほど の問題で はないと 思った	そのよう な表現を 見たこと はない	無回答
A 他人を誹謗中傷する表現	1.8	27.3	18.7	42.7	9.5
B 同和問題についての差別的な表現	1.0	11.9	10.1	67.6	9.4
C 障がい者への差別的な表現	1.3	22.9	10.6	55.7	9.4
D 外国人への差別的な表現	1.2	21.6	14.4	53.5	9.3

問15 性的指向や性自認に関わるLGBTなどの性的マイノリティの人びとについて、現在、どのような問題が起きていると思いますか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	46.9
就職・職場で不利な扱いを受けること	40.7
差別的な言動をされること	47.1
アパートなどへの入居を拒否されること	16.1
宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	12.1
じろじろ見られたり、避けられたりすること	37.4
同性カップルの結婚や、それと同等のパートナー関係が法的に認められていないこと	46.0
特にない	11.6
わからない	23.7
その他	0.8
無回答	3.1

問16 特定の国の出身者であること、または、その子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとするなどの言動(ヘイトスピーチ)について、次のような意見があります。

Aの意見 「人権を侵害しており、許されないことだ。」

Bの意見 「表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ。」

Cの意見 「ヘイトスピーチをされる側に問題があり、仕方のないことだ。」

あなたはA～Cのどの意見に近いですか。 あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

どちらかという、Aの意見に近い	69.4
どちらかという、Bの意見に近い	18.2
どちらかという、Cの意見に近い	6.6
無回答	5.8

問17 これまで、学校、職場、地域などで、次のような人権問題の解決に熱心にとりくんでいる人に出会ったり話を聞いたりしたことがありますか。A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

	ある	ない	無回答
A 同和問題(部落差別)	29.8	65.8	4.4
B 障がい者の人権問題	29.4	65.8	4.8
C 外国人の人権問題	12.9	80.5	6.6

問18 あなたは、学校や職場、地域で、次のような人権学習を受けたことがありますか。
A～Cのそれぞれについて、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	住民対象の講座などで受けた	職場の研修で受けた	はっきりとおぼえていない	受けたことがない	無回答
A 同和問題(部落差別)	24.4	19.4	7.5	2.5	6.6	12.5	19.3	31.4	3.0
B 障がい者の人権	12.4	12.4	6.5	5.0	4.3	12.9	25.7	37.3	4.3
C 外国人の人権	6.1	6.1	4.3	2.4	2.8	7.3	25.4	50.3	5.1

問19-1 あなたは最近5年間で、県や市町などが主催する人権に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

1～2回参加した	9.7	→ 問20 へ
3回以上参加した	5.1	→ 問20 へ
一度も参加したことがない	83.4	→ 問19-2 へ

問19-2 問19-1で3の回答を選択した方におたずねします。その理由としてあてはまる回答の一つだけ○をつけてください。 N=956

講演会や研修会が開催されていることを知らなかった	37.6
時間や場所の問題で参加できなかった	14.2
関心がない	33.1
人権については十分に理解しているので、参加しなかった	8.6
その他	3.3
無回答	3.2

問20 人権についての相談を受け付けている以下の機関についてご存知ですか。

ご存知の機関・相談窓口について、あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

国の機関(法務局、人権擁護委員、労働局など)の相談窓口	30.0
県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口	44.1
市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)	54.9
NPOなどの民間の相談窓口	20.0
法テラス・弁護士	24.2
警察	18.8
その他	1.9
無回答	19.5

問21-1 あなたは、最近5年間で自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。

あてはまる回答の数字に一つだけ○をつけてください。

ある	11.2	→ 問21-2 、 問21-3 へ
ない	86.3	→ 問22 へ
無回答	2.5	

問21-2 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。どのような理由で人権を侵害されたとお考えですか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。 N=128

アイヌの人びと	2.3	災害避難者	1.6	年齢	18.8
外見	16.4	障がい者	12.5	犯罪被害者	4.7
学歴	18.0	職業	18.0	病気	10.9
経済的困難、貧困	11.7	女性または男性であること	21.1	ホームレス	3.9
刑を終えた人であること	4.7	性的マイノリティであること	3.9	答えたくない	10.9
国籍、人種、民族	8.6	同和問題(部落差別)	5.5	その他	16.4
				無回答	3.1

問21-3 問21-1で1の回答を選択した方におたずねします。人権侵害を受けたとき、あなたはどのような対応をしましたか。あてはまる回答の数字すべてに○をつけてください。

相手に抗議した	15.6
家族や友人など身近な人に相談した	36.7
会社の上司や学校の先生などに相談した	11.7
国の機関(法務局、労働局など)の相談窓口	4.7
県の機関(県人権センター、県女性相談所、県障がい福祉課など)の相談窓口	6.3
市町の相談窓口(市役所、町役場、隣保館など)	7.0
NPOなどの民間の相談窓口相談した	3.9
人権擁護委員に相談した	3.1
法テラス・弁護士に相談した	6.3
警察に相談した	2.3
何もせず、がまんした	46.9
その他	10.2
無回答	6.3

人権問題に関する三重県民意識調査

令和2年3月発行

三重県環境生活部人権課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

TEL 059-224-2278 FAX 059-224-3069

e-mail jinken@pref.mie.jp